

## 基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部の学科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホクリク 北陸大学 学校法人 北陸大学									
フリガナ大学の名称	ホクリク大学 (Hokuriku University)									
大学本部の位置	石川県金沢市太陽が丘1丁目1番地									
大学の目的	<p>本学は教育基本法及び学校教育法による大学として、建学の精神「自然を愛し、生命を尊び、真理を究める人間の形成」に基づき、広く知識を授けるとともに、深く専門の知識と技能とを教授研究し、人格の陶冶を図り、文化の創造発展と公共福祉の増進に貢献し得る人物を育成することを目的とする。</p>									
新設学部等の目的	<p>社会全体を俯瞰できる広い視野、人間の心理を深く理解する力とコミュニケーション力を身につけ、「人と人」「人と社会」をつなぎ、健康社会の実現に貢献できる人材を養成することを目的とする。</p>									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	国際コミュニケーション学部 [Faculty of International Communication] 心理社会学科 [Department of Psychology and Social Studies]	年	人	年次人	人	学士(心理学) 【Bachelor of Psychology】	令和3年4月 第1年次	石川県金沢市太陽が丘1丁目1番地		
	計	4	45	—	180					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p>薬学部薬学科〔定員減〕（△35）（令和3年4月）                  経済経営学部マネジメント学科〔定員減〕（3年次編入学定員）（△15）（令和5年4月）                  国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科〔定員増〕（3年次編入学定員）（20）（令和5年4月）                  医療保健学部医療技術学科〔定員増〕（5）（令和3年4月）</p>									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	国際コミュニケーション学部 心理社会学科	講義	演習	実験・実習	計	124 単位				
		89 科目	16 科目	17 科目	122 科目					
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
		教授	准教授	講師	助教	計	助手			
	新設	人	人	人	人	人	人	人		
	国際コミュニケーション学部 心理社会学科	3 (2)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	7 (5)	0 (0)	28 (19)		
	計	3 (2)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	7 (5)	0 (0)	— (—)		
既設	薬学部 薬学科			21 (21)	17 (17)	12 (12)	4 (4)	54 (54)	3 (3)	9 (9)
	経済経営学部 マネジメント学科			15 (15)	4 (4)	4 (4)	5 (5)	28 (28)	0 (0)	75 (75)
区分	国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科			6 (6)	4 (4)	7 (7)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	46 (45)

教員組織の概要	既設	医療保健学部 医療技術学科	7 (7)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	15 (15)	2 (2)	19 (19)
		国際交流センター	1 (1)	3 (3)	4 (4)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
		留学生別科	0 (0)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	5 (5)
		計	50 (50)	35 (35)	31 (31)	10 (10)	126 (126)	5 (5)	— (—)
	合計	53 (52)	37 (36)	32 (32)	11 (11)	133 (131)	5 (5)	— (—)	
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		78 (78)		12 (12)		90 (90)		
	技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図 書 館 専 門 職 員		4 (4)		1 (1)		5 (5)		
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		2 (2)		2 (2)		
	計		82 (82)		15 (15)		97 (97)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	91,775.85 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		91,775.85 m <sup>2</sup>		
	運 動 場 用 地	43,500.49 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		43,500.49 m <sup>2</sup>		
	小 計	135,276.34 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		135,276.34 m <sup>2</sup>		
	そ の 他	337,786.99 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		337,786.99 m <sup>2</sup>		
	合 計	473,063.33 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		473,063.33 m <sup>2</sup>		
校 舎	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計			
	58,305.62 m <sup>2</sup> (58,305.62 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )		0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )		58,305.62 m <sup>2</sup> (58,305.62 m <sup>2</sup> )			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	40 室	62 室	129 室	5 室 (補助職員 0人)	0 室 (補助職員 0人)				
専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	国際コミュニケーション学部 心理社会学科			7 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	国際コミュニケーション学部 心理社会学科	1392 [33] (1356 [1])	3 [3] (1 [1])	0 [0] (0 [0])	0 (0)	98 (71)	0 (0)		
	計	1392 [33] (1356 [1])	3 [3] (1 [1])	0 [0] (0 [0])	0 (0)	98 (71)	0 (0)		
図書館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
	3,689.34 m <sup>2</sup>	635		162,000					
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	6,456.86 m <sup>2</sup>	テニスコート3面 (人工芝)		サッカー場2面 (人工芝)					

経費の見積り 及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	教員1人当り研究費等		180千円	180千円	180千円	180千円	—千円	—千円		
	共同研究費等		15,000千円	15,000千円	15,000千円	15,000千円	—千円	—千円		
	図書購入費	4,496千円	600千円	600千円	600千円	600千円	—千円	—千円		
	設備購入費	10,093千円	1,566千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,300千円	1,100千円	1,100千円	1,100千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金, 資産運用収入, 雑収入等								
既設大学の状況	大学の名称	北陸大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	薬学部 薬学科	6	160	—	1,412	学士(薬学)	0.53 0.53	平成18年度	石川県金沢市 金川町ホ3番地	令和2年度入学 定員減(△40人)
	経済経営学部 マネジメント学科	4	290	3年次 123	1,166	学士(マネジメント学)	1.16 1.16	平成20年度	石川県金沢市 太陽が丘1丁目1番	令和2年度入学 定員増(60人)
国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科	4	80	3年次 20	360	学士(文学)	1.10 1.10	平成29年度	同上		
医療保健学部 医療技術学科	4	60	—	240	学士(医療技術学)	1.09 1.09	平成29年度	同上		
附属施設の概要	名称: 北陸大学薬学部附属薬用植物園 目的: 薬学教育の基礎としての薬草の生態・研究施設, 研究材料の栽培 所在地: 石川県金沢市金川町ホ3番地 設置年月: 昭和51年5月 規模等: 土地 15,912.16㎡, 建物 136.71㎡									

## 学校法人 北陸大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
北陸大学				北陸大学				
薬学部				薬学部				
薬学科(6年制)	160	-	960	薬学科(6年制)	<u>125</u>	-	<u>750</u>	定員変更(△35)
経済経営学部		3年次		経済経営学部		3年次		
マネジメント学科	290	123	1,406	マネジメント学科	290	<u>108</u>	<u>1,376</u>	定員変更(△15)
国際コミュニケーション学部		3年次		国際コミュニケーション学部		3年次		
国際コミュニケーション学科	80	20	360	国際コミュニケーション学科	80	<u>40</u>	<u>400</u>	定員変更(20)
				心理社会学科	<u>45</u>	-	<u>180</u>	学科の設置(届出)
医療保健学部				医療保健学部				
医療技術学科	60	-	240	医療技術学科	<u>65</u>	-	<u>260</u>	定員変更(5)
計	590	143	2,966	計	<u>605</u>	<u>148</u>	2,966	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(国際コミュニケーション学部 心理社会学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
総合 教育 科目	教養科目	北陸大学の学び	1前	1			○								兼2	オムニバス・ 共同(一部)
		自然科学概論	1後		2		○								兼1	
		哲学	1前		2		○								兼1	
		社会学	1前		2		○					1				
		芸術学	1後		2		○								兼1	
		経済学	2前		2		○								兼1	
		ジェンダー論	2前		2		○								兼1	
		日本史	1前		2		○								兼1	
		日本国憲法	2前		2		○								兼1	
		スポーツⅠ	1前		1				○						兼1	
		スポーツⅡ	1後		1				○						兼1	
		スポーツ科学	2前		2		○								兼1	
		情報処理入門	1前	1				○			1		1			
		情報処理応用	1後		1			○			1		1			
総合 教育 科目	外国 語 科 目	English CommunicationⅠ	1前	1				○							兼2	
		English CommunicationⅡ	1後	1				○							兼2	
		総合英語Ⅰ	2前		2		○								兼1	
		総合英語Ⅱ	2後		2		○								兼1	
		総合英語Ⅲ	3前		2		○								兼1	
		総合英語Ⅳ	3後		2		○								兼1	
		中国語会話	2前		1			○							兼1	
総合 教育 科目	キャ リ ア 科 目	PBL入門	1後		2		○					1	1		兼1	共同  共同 集中 集中 共同※実習 集中
		現代社会と職業	2後		2		○								兼1	
		コミュニケーション技法Ⅰ	2前		2		○					1			兼1	
		コミュニケーション技法Ⅱ	3後		2		○								兼2	
		体験学習Ⅰ	1後		1				○						兼1	
		体験学習Ⅱ	2前		1				○						兼1	
		職業理解とインターンシップ	3前		2		○								兼2	
		海外インターンシップ	2前		1				○						兼1	
	小計(29科目)	—	4	43	0		—		0	2	1	1	0	兼18	—	
専 門 教 育 科 目	共 通 領 域	心理学概論Ⅰ	1前	2			○					1				共同 共同
		心理学概論Ⅱ	1後	2			○				2					
		心理学統計法	1後		2		○				1					
		心理学研究法	1後		2		○					1				
		心理学実験Ⅰ	2前		2				○		1	1	1	1		
		心理学実験Ⅱ	2後		2				○		1	1	1	1		
		心理社会データ解析	3前		2		○						1			
		心理調査概論	2前		2		○				1					
		心理学英文講読	3後		2		○					1				
		心理学特殊講義Ⅰ	3後		2		○				1					
		心理学特殊講義Ⅱ	4前		2		○				1					
		心理学基礎演習Ⅰ	1前	2					○		3	2	1	1		
		心理学基礎演習Ⅱ	1後	2					○		3	2	1	1		
		心理学ゼミナールⅠ	2前	2					○		3	2	1	1		
		心理学ゼミナールⅡ	2後	2					○		3	2	1	1		
		心理学ゼミナールⅢ	3前	2					○		3	2	1	1		
		心理学ゼミナールⅣ	3後	2					○		3	2	1	1		
		卒業研究Ⅰ	4前	2					○		3	2	1	1		
		卒業研究Ⅱ	4後	2					○		3	2	1	1		
	小計(19科目)	—	20	18	0		—		3	2	1	1	0	兼0	—	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	社会・産業心理学領域	社会心理学概論	1後	2			○			1						兼1            共同 共同
		コミュニケーション心理学	1前		2			○		1						
		社会・集団・家族心理学	2前		2			○		1						
		産業・組織心理学	3前		2			○		1						
		消費者行動論	2前		2			○								
		広告と消費の心理学	3後		2			○		1						
		グループダイナミクス	2後		2			○		1						
		社会調査論	1前		2			○					1			
		社会調査法Ⅰ(データ解析Ⅰ)	2前		2			○					1			
		社会調査法Ⅱ(データ解析Ⅱ)	2後		2			○					1			
		質的研究法	2後		2			○					1			
		キャリアの心理学	3前		2			○			1					
		社会心理学調査演習Ⅰ	3前		2				○		1		1			
	社会心理学調査演習Ⅱ	3後		2				○		1		1				
	展開応用科目	臨床心理学領域	臨床心理学概論	1後	2			○			1	1				兼1           共同 共同
			障害者・障害児心理学	2後		2			○		1					
			心理的アセスメント	2後		2				○			1			
			健康・医療心理学	3前		2				○			1			
			心理学的支援法	2前		2				○			1			
			福祉心理学	3後		2				○		1				
			司法・犯罪心理学	3後		2				○			1			
			人体の構造と機能及び疾病	1前		2				○						
			精神疾患とその治療	3前		2				○						
			関係行政論	3前		2				○		1				
	心理演習	3後		2					○	1	1	1				
	心理実習	4通		2						2	1	1				
	公認心理師の職責	2前		2				○		1						
	教育・発達心理学領域	教育・発達心理学領域	発達心理学	1後		2			○		1					
			児童心理学	2前		2			○		1					
			青年心理学	2後		2			○		1					
			教育・学校心理学	3前		2			○		1					
			生涯発達心理学	2後		2			○		1					
	認知・神経科学領域	認知・神経科学領域	感情・人格心理学	2前		2			○			1			兼1	
			知覚・認知心理学	2前		2			○			1				
			学習・言語心理学	2後		2			○		1					
			神経・生理心理学	2後		2			○							
小計(36科目)		—	4	68	0	—			3	2	1	1	0	兼2	—	
現代社会科目	現代社会科目	北陸の文化と社会	1前		2			○							兼1	
		国際関係学入門	1前		2			○							兼1	
		異文化間コミュニケーション	1後		2			○							兼1	
		文化資源学入門	1後		2			○							兼1	
		ことばと文化	1後		2			○							兼4	
		宗教学	1後		2			○							兼1	
		言語学入門	2前		2			○							兼3	
		国際関係史	2前		2			○							兼1	
		現代日本論	2前		2			○							兼1	
		経営組織論	2前		2			○							兼1	
		教育社会学	2前		2			○							兼1	
		家族社会学	2後		2			○			1					
		環境社会学	2後		2			○			1					
		国際社会論	2後		2			○							兼1	
		中国の文化と社会	2後		2			○							兼1	
		文化資源学(歴史・民俗)	2前		2			○							兼1	
		文化資源学(美術・工芸)	2後		2			○							兼1	
文化資源学(史跡・名勝地)	3前		2			○							兼1			
文化資源学(世界遺産)	3後		2			○							兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	現代社会科目	観光ビジネス論	3後	2		○									兼1	共同	
		現代アジア論Ⅰ	3前	2		○									兼1		
		現代アジア論Ⅱ	3後	2		○									兼1		
		現代アメリカ論	3前	2		○									兼1		
		現代ヨーロッパ論	3後	2		○									兼1		
		国際協力論	3前	2		○									兼2		
		英語圏の文化と社会	3後	2		○									兼1		
		マーケティング論	3前	2		○									兼1		
		マーケットリサーチ論	4前	2		○									兼1		
		英米文学史	4前	2		○									兼1		
		海外研修A	2前・後	1				○							兼1		集中
		海外研修B	2前・後	1				○							兼1		集中
		短期海外研修	1・2・3前・後	1				○							兼1		集中
		海外語学研修A	1・2・3前・後	2				○							兼1		集中
		海外語学研修B	1・2・3前・後	2				○							兼1		集中
		海外留学A	1・2・3前・後	6				○							兼1		集中
		海外留学B	1・2・3前・後	6				○							兼1		集中
		海外留学C	1・2・3前・後	6				○							兼1		集中
		海外留学D	1・2・3前・後	6				○							兼1		集中
小計 ( 38 科目)		—	0	89	0	—			2	0	0	0	0	兼15	—		
合計 ( 122 科目)		—	28	218	0	—			3	2	1	1	0	兼28	—		
学位又は称号		学士 (心理学)			学位又は学科の分野			文学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
総合教育科目【必修】 4単位 【選択】 16単位 計 20単位以上 専門教育科目【必修】 24単位 【選択】 共通領域及び展開応用科目から58単位以上 現代社会科目から22単位以上 計124単位以上 (履修科目の登録の上限：42単位 (年間))							1学年の学期区分			2学期							
							1学期の授業期間			15週							
							1時限の授業時間			90分							

授 業 科 目 の 概 要				
(国際コミュニケーション学部 心理社会学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合教育科目	教養科目	北陸大学の学び	<p>北陸大学の一員としての自覚と本学での学生生活への意欲向上のために北陸大学の建学の精神・理念を周知し、自校史や現況を理解する。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全8回)</p> <p>(8 小倉 勤・13 光本泰秀 / 1回) (共同)</p> <p>本学の建学の精神・教育理念・大学の使命・ビジョン・ミッション・全学DPを学ぶ。</p> <p>(13 光本泰秀 / 7回)</p> <p>大学の使命「健康社会の実現」と薬学部及び経済経営学部の学び、ビジョン、ミッションを学ぶ。</p> <p>大学の使命「健康社会の実現」と国際コミュニケーション学部及び医療保健学部の学び、ビジョン、ミッションを学ぶ。</p> <p>大学における学びとはどのような意味があるかを知り、学修及び研究を進めるためにはどのような方法があるのかを具体的に理解する。</p> <p>北陸大学に対する理解を深め、その中で自分たちがどのように学生生活をおくるかについて、これまでの学修を活用して検討する。また、卒業生等をゲストスピーカーとして招聘し、本学で学んだことが社会人・職業人・市民としてどのように生きているか、また活かしているかを語ってもらう。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
		自然科学概論	<p>我々が生活している様々な環境は、社会的な要件に制約される環境に従う人間としての活動と、これとは別に、科学という言葉で説明される自然法則に従った環境が存在する。自然科学は大別すれば、物理学、科学などのいわゆる理学系の学問体系を基礎とするものと、生命現象を説明する生物学的分野を基礎とするものに分類できる。本科目では自然科学の意味について、これらの2つの分野を概説し、自然科学を学ぶ意義を理解して賢く生きて充実した生活を送るために参考にすることを目的とする。</p>	
		哲学	<p>古代ギリシアに端を発する「哲学」という学問、その本質は自ら問いを立てて、それについて自ら考えることに立脚する。哲学者のカントは、「人は哲学を学ぶのではなく、哲学することを学べるだけである」と述べている。哲学は客観的な知識として学べるものでなく、学べるものは一人ひとりが哲学する主体的な行為のみである。一人ひとりが思索しながら人生の真理を明らかにすることが大切となる。先人の思索の跡をたどりながら、自らの人生について真実の姿を明らかにしていきたい。</p>	
		社会学	<p>社会学とは、自分が当たり前だと思っていることが、いかに周りの人間や環境に影響されているかを知るための学問である。自分が担っている役割、あるいはこれから担うであろう役割は多重的であり、社会の中で位置付けられている。この授業では、社会の構造や社会問題の成り立ち、また社会の中の家族の構造や役割について、「近代」という時代の歴史的・特殊性に関連付けながら学ぶことを目的とする。</p>	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 教養科目	芸術学	私たちが生きている文化的な社会においては、多くの場合、「美」が、良い・悪いの規範となっている。芸術は、個人的な「好き」「嫌い」といった感覚的なものではなく、普遍的で非常に奥深いものである。本授業では、「美」の本質はどのようなものとして捉えられてきたのか、哲学や思想と結びつきつつ建築・絵画・彫刻・工芸などの形で表現された各時代・様式の傑作を見ながら、深く思惟し、理解し、グローバル社会で通用する教養と豊かな感性を持つ人間性を形成することを目指す。	
	経済学	経済学と聞いて描くイメージは、「経済の仕組みを理解する学問」というものである。しかし、経済学の守備範囲は意外と広く、「経済の仕組みを理解する」という枠を超えて、様々な問題に経済学的手法が適用される。本科目は、経済学の基礎概念を学び経済学の思考法を身につけることを目的としている。この科目を通じて身につけた経済学の思考法から出発して、社会に広く関心を持つきっかけとなることを目指す。	
	ジェンダー論	社会的・文化的に構成された性という意味合いで用いられるジェンダーの概念は、私たちが自明視している「男性」「女性」という性の二分法と、それに基づく異性愛主義を相対化し、人間一人ひとりの多様な生き方を尊重するために必要な知識・教養の一つである。この授業では、ジェンダー概念を日常的な実践と結びつけながら学習する。家族、労働、教育、体育・スポーツ、身体の各領域における様々なジェンダー問題を理解し、人々の多様な生き方を認め合うジェンダー平等社会の構築に向けて、自らの日常をとらえ直すことを目的とする。	
	日本史	今日、日本及び日本をとり巻く国際社会では、様々な出来事がおこっているが、それらは良くも悪くも歴史に根ざした長い間の人間の所産であり、歴史、とりわけ日本史が理解できていないと、近年日本が直面している問題を理解できないことが多々ある。本科目では、政治・経済・文化などの面で、現代社会の基盤をなす事例が多く見られる近世から近代の日本の歴史を、近年の研究成果も織り込みながら概説する。それによって学生は、重要な歴史的事件・事象・人物についての知識を身につける。	
	日本国憲法	憲法とは、国家を基礎づけるための基本法である。しかし、それは、「日本国憲法」という法典そのものを意味するとは限らない。この授業の目的は、立憲主義の考え方を理解し、個人の人権を尊重することで国家権力を制限することの意義と限界を理解することである。この授業を通じて、「なぜそのような憲法上の制度ができたのか」を考察する。まず、日本国憲法の基本原理を理解する。次に、統治機構（国会・内閣・裁判所）の憲法上の位置づけを理解する。そして、立憲主義（人権を尊重し、国家権力を制限すること）を理解する。最後に、平和主義を扱う。	
	スポーツ I	科学的トレーニング理論に基づいたスポーツ・運動実践を通して、体力を増進させ運動技能の修得と向上を図る。スポーツのもつ深い楽しさに触れ、運動の意義やトレーニング方法を理解することによって、自らの生活にスポーツ・運動実践を継続的に取り入れる能力を身につける。技能修得のプロセスにおいて、協同、克己、チャレンジ精神、思いやり、探究心等望ましい社会的態度を養い、安全に運動を実施する能力を身につける。	
	スポーツ II	現在の日本は、生活様式の省力化による運動不足及び栄養摂取過多から肥満や生活習慣病に罹る危険にさらされており、それらの予防や解消のために運動やスポーツを日常生活に取り入れる必要がある。本科目は、社会人として国際社会でたくましく活躍することが期待される青年の健康資産となるべき知識と思考を構築することを目的とする。様々なスポーツ科学の成果のほか、健康管理から体力づくり、余暇のスポーツ及び競技スポーツに至るまで、これからの人生を積極的に活動し続けるための心身に関する知識を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	スポーツ科学	これからの社会を身体的・精神的の両面から健康に生き抜くための科学的知識・思考力の基礎を修得することと、余暇のスポーツから競技スポーツに至るまで様々な場面で活用可能な知識や思考力の基礎を修得することを目的とする。健康やスポーツ（運動）にかかわる幅広い学問領域の中から具体的事例や研究データを取り上げて講義する。今後、スポーツを専門的に学ぶ学生だけでなく、自身の健康づくりを目指す全ての学生を対象とする。	
	情報処理入門	本科目では、学生生活の多方面にわたり活用することになるコンピュータ（パソコン）の使い方について学ぶ。パソコンに関する知識の他に、情報収集、発信における安全、注意事項の理解を目的とする。さらに、インターネット、メール、文書作成ソフト（Microsoft Word）について学び、インターネットを用いて情報を収集し、その内容に基づいたレポートを作成し、メールに添付して提出することができるようになることを目指す。	
	情報処理応用	「情報処理入門」に引き続き、学生生活の多方面にわたり活用することになるコンピュータ（パソコン）の使い方について学ぶ。代表的表計算ソフトである『Microsoft Excel』を用いて、任意のデータを集計、分析、図表化できるようになることを目指す。また、プレゼンテーション作成ソフトである『Microsoft PowerPoint』を用いて、投影用スライド、印刷用スライドを作成できるようになることを目指す。	
総合教育科目  外国語科目	English Communication I	高校までに学んできた英語の知識を活用しながら、英語力の確認を行うと同時に深化させる。本科目ではプレゼンテーションとディスカッションに特化し、英語でまとめた意見を述べる基本について学ぶ。協同学習の要素を取り入れ、学生同士の学び合いを促し、英語で発表する場面を多く設定し、プレゼンテーションとディスカッション力の基礎的な力を身につける。	
	English Communication II	English Communication I に続き、プレゼンテーションとディスカッションに特化し、英語でまとめた意見を述べる基本について学ぶ。また、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの要素も取り入れながら、総合的なプレゼンテーションとディスカッション力の基礎的な力を身につける。	
	総合英語 I	英語力を伸ばしていくためには、自分が理解している点や理解していない点を正しく認識することが重要となる。遠回りに見えるかもしれないが、理解度の低い点について、一つずつ確認をしていくことが、総合的な英語力の向上につながる。授業では、Grammarを中心にVocabulary・Expression・Listening・Speakingに関連する基礎力を固め、高めていくことを目指す。	
	総合英語 II	総合英語 I において確認した、自分が理解している点や理解していない点について更に正しく認識していく。前期で認識した理解度の低い点を一つずつ再確認し、更に理解が不足している点への認識を高めていくことで、総合的な英語力の向上を図る。前期に続き、Grammarを中心にVocabulary・Expression・Listening・Speakingに関連する基礎力を固め、高めていくことを目指す。	
	総合英語 III	これまでの英語学修を基礎として、他者とコミュニケーションを図るうえで必要となる『言葉』としての英語に焦点をあて、文法、語彙力の向上を目指す。4技能（聞く、話す、読む、書く）を統合的に扱う活動も取り入れ、文法、語彙に関する知識を整理し、さらに増やすことを目指す。また客観的な指標として、TOEICを中心とした資格試験への目標を設定し、その到達の実現を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	総合英語Ⅳ	総合英語Ⅲに続き、他者とコミュニケーションを図るうえで必要となる『言葉』としての英語に焦点をあて、文法、語彙力の向上を目指す。4技能（聞く、話す、読む、書く）を統合的に扱う活動も取り入れ、文法、語彙に関する知識を整理し、さらに増やすことを目指す。総合英語Ⅲで設定したTOEICを中心とする資格試験への目標の到達を継続するとともに、更に上の目標に向けて挑戦することを目指す。	
	中国語会話	初めて中国語を学ぶ学生を対象として、基本的な表現を無理なく学修できるよう、語彙やポイントは最小限に絞り、場面を設定し、簡単な会話と初歩的な文法事項を段階的に学びながら、読む、書く、聞く、話すといった能力を身につけてゆく。この授業では特に発音練習、リスニングを重視し、週一回の授業で、楽々と中国語の運用能力を伸ばしてゆくことを目的とする。	
総合教育科目  キャリア科目	PBL入門	大学4年間で体験する様々な課題解決型学修（PBL: Problem Based Learning）の導入として、地域社会のリアルな課題（Problem）に取り組むことを通じて、社会人として求められる、「正解のない問題に対して考え抜く意識と能力」を身につけることが、本科目の目的である。最終的には、これからの社会人として必要な意識と能力について理解し、大学生活を通じてその意識と能力を伸ばすにはどうすればよいかを具体的に考える。	共同
	現代社会と職業	現代社会において働くとはどのような意味を持つのだろうか。働くことは「生計の維持」のために欠かすことが出来ないが、同時に個性や能力の発揮といった「自己実現」、社会貢献などから感じる「やりがい」など多面的な意味を持つ。第一に現代社会に存在する様々な職業・職種を学ぶとともに、そこで働く人びとの働き方を学ぶ。第二に現代社会の変容とそれに伴う仕事や働き方の変化を捉える。最終的には多様な仕事や多様な働き方を踏まえた上で、自らの職業観を形成することを目的とする。	
	コミュニケーション技法Ⅰ	大学での学びの質的深化及び社会人の基本的な技能として必要なコミュニケーション能力について、その技法を学ぶものである。コミュニケーションは対人関係を構築するためや社会・組織を円滑に運営するために必要であるが、反面でその圧力が「個」の生きにくさにも繋がる。そこで本科目ではコミュニケーションに関する基本的な理解とともに、その技法を向上させることを目的とする。	共同
	コミュニケーション技法Ⅱ	社会において問題を発見するときも解決を図るときも、コミュニケーション能力が求められる。なぜなら多様なアクターとの折衝が欠かせないからだ。本科目は社会人の基本的な技能として必要なコミュニケーション能力について、その技法を学ぶものである。本科目では、コミュニケーション能力の中でも、①質問を通じて対象を理解する、②情報を整理し、過不足なく説明する、③効果的に相手に魅力を伝えるプレゼンテーション能力、の3点を身につけることを目的とする。	共同
	体験学習Ⅰ	学生のキャリア形成の一環として、ボランティア活動に参加する。学生は事前学修として社会人としてのマナーや研修先の研究などを行った上で、ボランティア先で合計8日以上（もしくは40時間以上）の活動を行う。テーマとしては地域活性化を主題とする課題解決型の活動を行い、大学で学んだ知識の活用と、今後の学びの意欲を喚起する。	
	体験学習Ⅱ	学生のキャリア形成の一環として、早期のインターンシップに参加する。学生は事前学修として社会人としてのマナーや研修先の企業研究などを行った上で、インターンシップ先で合計8日以上（もしくは40時間以上）の活動を行う。テーマとしては地域活性化を主題とする課題解決型の活動を行い、大学で学んだ知識の活用と、今後の学びの意欲を喚起する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	キャリア科目 職業理解とインターンシップ	本科目は、夏期に学生がインターンシップに参加するための準備を行う科目である。授業では、①地場産業・地元企業（特に優良な中小企業）の特を理解し、②社会人として求められる能力を理解した上でそれをいかに身に付けるかを考え、③その上でインターンシップに参加し、自らのキャリアビジョンを描く。また、プレゼンテーション作成に必要となる、データベースの活用方法、情報整理法、プレゼンテーション技法などの修得も目指す。	共同 講義30時間 実習30時間
	海外インターンシップ	海外の企業でインターンシップに参加することで、グローバルな社会で活躍するための意識と能力を高めることを目的とする。学生は本学でインターンシップに関する事前学修を行い、社会人としてのマナーや企業研究、また海外で活動する上での安全情報・危機管理などを学ぶ。現地企業では1週間程度の実習を行い、帰国後に日報及び活動成果に関するレポートを提出し、プレゼンテーションなどにより成果発表を行う。	
専門教育科目	共通領域 心理学概論Ⅰ	心理学は「こころの科学」と通称されるように、心の仕組みと働きを科学的手法を用いて検討する研究領域であり、その知見は人間生活の幅広い領域で応用されている。本科目では、①心理学の成り立ち②人の心の基本的な仕組み及び働きの基礎について学修することを目標とする。具体的には、心理学とは何か、それはどのように科学として発展してきたかという心理学の歴史について学ぶ。そして、知覚、学習、記憶、認知、感情、動機づけなどのいわゆる基礎心理学領域の基礎的な事柄を中心に学び、心の基本的な仕組みや働きを理解する。	
	心理学概論Ⅱ	心理学概論Ⅰで学んだ知見をベースとして、パーソナリティ、社会行動、心理臨床に関する基礎的な事柄を学ぶ。人間は集団生活を営む動物であり、生まれ育った社会・文化の影響を強く受ける。したがって、心理学の関連分野である文化人類学的な視点も取り入れて、胎児期から老年期に至る成長・発達に対する理解を深める。	
	心理学統計法	心理学や社会調査で用いられている統計に関する基礎的な知識の習得と、データの性質をふまえた適切な統計手法の選択ができることを授業の目標とする。まず、確率論の基礎、母集団の推定、統計的仮説検定の考え方について解説する。次に、具体的な検定として、平均値の差の検定（t検定）を取り上げる。また、2変数の関連として、相関係数の算出とカイ二乗検定についても説明する。最後に、検定結果の解釈のしかたについて説明する。これら基本的事項の解説に加え、Microsoft Excelや統計パッケージを用いたデータ操作も取り入れて授業を進める。	
	心理学研究法	心理学は実証的な方法論をとる学問領域であり、実験・観察・調査など各種の手法が用いられる。また、ヒトを対象とした研究領域であり、研究の実施にあたっては高度の倫理的配慮が求められる。そこで本授業では、このような心理学の研究法を理解することを目的に、①心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）、②データを用いた実証的な思考方法、③データの公表方法④研究における倫理、について説明する。	
	心理学実験Ⅰ	心理学の実証的方法論である実験法の入門科目である。心理学における各種実験手法を体験し、心理学の研究方法を理解することを目的とする演習科目である。実験者及び参加者、さらに実験結果について報告する報告者を体験することを通じて、①実験デザインの読解、②基礎的な統計手法の修得、③研究報告の標準的構成（IMRAD形式）、に従った実験レポートの作成能力の修得を目指す。	共同
	心理学実験Ⅱ	心理学実験Ⅰに引き続き、①実験の計画立案、②統計に関する基礎的な知識、について説明するとともに、心理学領域の実験実習を行う。そして研究報告の標準的構成（IMRAD形式）に従った実験レポートの作成を通して、論理的で説得力のある論考技能を修得することを目標とする。後半では、履修者自らが選択したテーマに関する実験を計画、立案し、それらを実施して結果を報告する。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 共通領域	心理社会データ解析	多変量解析と呼ばれるさまざまなデータ分析の手法を知り、どのような分析を行うとどのような結果が得られるかについて理解することを授業の目標とする。分析方法の解説に加えて、Microsoft Excelや統計パッケージを適宜用いて実際のデータを分析しながら授業を進める。具体的には、分散分析（1要因、2要因混合計画）、重回帰分析、階層的重回帰分析、パス解析、因子分析等について説明する。また、これらの検定結果の解釈のしかたや文章での記述方法についても説明する。	
	心理調査概論	心理調査とは、心理学研究法（調査法、実験法、観察法、面接法、尺度構成法、検査法）を用いて、社会生活上において探究すべき問題に関して調べ、その結果を読み解き、また結果を社会で活用することを指す。よって、本科目では心理学研究法の既履修者を対象に、探究すべき問題によって適した研究法が異なることを理解し、問題へのアプローチに適した研究法の選択ができるようになることを目指す。また、心理調査実施にあたっての倫理的な配慮について、アクティブラーニングを活用しながら実践的に学ぶ。	
	心理学英文講読	心理学及びその関連分野の英語文献を読む。心理学の分野では英語がいわば「共通語」になっており、内外の多くの研究が英語による学術論文の形で発表される。したがって、心理学界の先端的な研究や動向を知るためには、英語論文を読むことが不可欠である。また、4年次に取り組むこととなる卒業研究に向け、参考文献等で取り扱うこととなる英語論文を読み、理解する基礎的な力を身につける。	
	心理学特殊講義Ⅰ	心理学は人間の心理や行動全般に関わる学問のため、非常に研究領域が幅広い。本科目では、基礎心理学領域から1つのテーマを選び、そのテーマに関する基礎的な事柄から最新の研究までを紹介する。「心理学英文講読」と同様に4年次に取り組むこととなる卒業研究において必要となる問題発見能力の基礎を身につける。	
	心理学特殊講義Ⅱ	心理学特殊講義Ⅰに引き続き、心理学における幅広い研究領域の1つである応用心理学領域からテーマを1つ選び、そのテーマに関する基礎的な事柄から最新の研究までを紹介する。「心理学英文講読」「心理学特殊講義Ⅰ」と同様に4年次に取り組むこととなる卒業研究において必要となる問題発見能力の基礎を身につける。	
	心理学基礎演習Ⅰ	大学での学び、大学生活を円滑に送るスキルを身につけることを目標に、アクティブラーニングを中心とした授業を行う。具体的には、基本的な学習態度と技能、図書館の効率的な利用法（OPACやCiNiiの利用法を含む）、心理学的なストレスマネジメント技能の修得を目指す。	
	心理学基礎演習Ⅱ	心理学基礎演習Ⅰにおいて修得するスキル（学習スキル、図書館利用スキル）をベースとして、グループワークやアクティブラーニングを通して心理学の文献（主に書籍）を講読し、その内容についてわかりやすいプレゼンテーションを行うことで、グループ内・グループ間で学んだ知識を共有することを目標とする。	
	心理学ゼミナールⅠ	心理学及びその関連分野の文献を読み、その概要をまとめて発表し、それに関するディスカッションを行うという演習形式で行う。講読する文献は科目担当教員の専門分野を中心として選択するが、受講者の希望や意見も参考にする。研究文献の講読を通して、心理学各分野の研究手法、データ収集方法、データ解析方法、研究結果の整理考察方法について学ぶ。Ⅰでは、各分野の基礎的な文献を読み、また論文の読み方の修得を目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通領域	心理学ゼミナールⅡ	心理学ゼミナールⅠに続き、心理学及びその関連分野の文献を読み、その概要をまとめて発表し、それに関するディスカッションを行うという演習形式で行う。講読する文献は科目担当教員の専門分野を中心として選択するが、受講者の希望や意見も参考にする。研究文献の講読を通して、心理学各分野の研究手法、データ収集方法、データ解析方法、研究結果の整理考察方法について学ぶ。Ⅱでは、主として研究論文を読む。		
	心理学ゼミナールⅢ	心理学ゼミナールⅠ・Ⅱを履修する過程で各自が興味・関心を持った研究分野について学ぶ。講読する文献については学生が主体的に選択する。各自が選択、講読した文献の内容をまとめ、発表し、ディスカッションを行う。また、研究の問題点や残された研究課題についての理解を深める。		
	心理学ゼミナールⅣ	心理学ゼミナールⅢに引き続き、各自が興味・関心を持った研究分野について、さらに深く学ぶ。特に、4年次に行う卒業研究を意識しながら「問題の背景」を深く考え、「先行研究」をレビューし、「具体的な研究計画を立てる」という一連のプロセスを理解し、身に付けることを目指す。		
	卒業研究Ⅰ	指導担当教員の指導に従って、心理学ゼミナールⅠ～Ⅳで養った知識・技術を生かしながら、大学4年間の学びの集大成として「卒業論文」を作成する。卒業研究Ⅰでは、各自の問題意識を出発点として研究テーマを明確化し、先行研究を調べてまとめ、具体的な研究方法を考え、テーマに即した実験・観察・調査を計画する。		
	卒業研究Ⅱ	指導担当教員の指導に従って、心理学ゼミナールⅠ～Ⅳで養った知識・技術を生かしながら、大学4年間の学びの集大成として「卒業論文」を作成する。卒業研究Ⅱでは、卒業研究Ⅰにおいて各自が設定した研究テーマ、具体的な研究方法及び研究計画に基づき、得られたデータを適切な方法で分析し、結果を出して考察する。なお、研究倫理を十分意識しながら研究を遂行することも求められる。		
	専門教育科目	社会・産業心理学領域	社会心理学概論	人間は他者とともに社会を構成して生きる存在であり、人間と社会を切り離すことはできない。社会心理学は、社会の中で生きる人間の心理（思考や感情や行為）を追究する社会科学の一領域である。本科目では、社会的存在としての自己、援助・攻撃・説得などの対人行動や対人コミュニケーション、流言などの心理社会現象、さらには文化の影響を受けた心理過程といった、社会心理学の全体像を説明する。
コミュニケーション心理学			コミュニケーションとは、人間が互いに意思・感情・思考を伝達し合うことを意味しており、言語・文字その他視覚・聴覚に訴える身振り・表情・声などの手段によって行う。コミュニケーションの形態は1対1（対面）から1対不特定多数（マスコミュニケーションなど）までさまざまである。本科目ではコミュニケーションに関する心理学各領域の知見を概説するとともに、アクティブラーニングをとおして心理学的な配慮を伴ったコミュニケーションスキルを身につけることを目的とする。	
社会・集団・家族心理学			人間の社会行動について、①対人関係及び集団における人間の意識と行動についての心理過程、②人間の社会的態度と行動、③家族や集団あるいは文化が個人に及ぼす影響過程、の3つの視点から説明する。人間は社会生活を行う動物であり、社会文化的な要因の影響を強く受ける。通常、誕生後に最初に接する社会集団である家族、その周辺にある小集団や学級集団、さらには社会について幅広く学び、より深く人間を理解する姿勢を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開応用科目 社会・産業心理学領域	産業・組織心理学	産業・組織心理学は、組織行動、人事、安全衛生、消費者行動の4つの分野から成り立つ心理学の応用的な学問である。本科目では産業・組織心理学とその周辺領域について、①組織における人間の行動、②職場に関わる諸問題と心理的な支援のあり方、の2つの視点から説明する。19世紀以降に組織に属して労働に従事する人が急増した社会的背景が20世紀半ばの産業・組織心理学の誕生につながっているが、21世紀に入り、情報化社会とグローバル化の影響を受け、個人と組織の関係にまつわる課題は多様になっている。本科目ではそれら課題に関する心理学的知見について説明する。	
	消費者行動論	消費者行動とは、商品・サービスの購入や消費にかかわる行動を指す。効率的な経済運営や企業のマーケティング活動においては、人々の一連の消費活動の実態やこれを支える欲求、意識、動因、態度を体系的に把握し、さらに市場の需要構造や消費構造を理解し、状況に応じて適切な対応を図らねばならない。本科目では、このような消費者行動の全体像を理解するために、各学問領域の知見を説明する。	
	広告と消費の心理学	何を好み、何を欲しがるか、消費者の需要には多様性がある一方で、消費者行動の背景には共通する心理的メカニズムが存在する。そして、商品やサービスの売り手側はこれらのメカニズムを利用して自社の商品・サービスの広告を考える。つまり、商業活動や消費者行動の背景には心理学的側面が多く関与している。本科目では広告と消費に関する心理学的知見を説明し、アクティブラーニングを通して売り手側と買い手側双方の心理的メカニズムに関する理解を深めることを目指す。	
	グループダイナミクス	グループダイナミクスとは、集団生活や集団活動において、その集団ならびに集団内メンバーの行動特性を規定している諸法則や諸要因を科学的に分析、研究する分野であり、産業や教育分野で広く実践的に応用されている。本科目では、グループダイナミクスの基本的知識（集団内でのメンバーの動機づけ、コミュニケーション、対人関係、集団構造、リーダーシップ、集団規範、集団の雰囲気など）を説明する。	
	社会調査論	社会調査に関する基礎的な事項の理解を授業の目標とする。主に講義形式で授業を進める。具体的には、社会調査の目的と意義、社会調査史、調査倫理、社会調査の種類・分類（量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究等）について解説する。また、実際に実施されている社会調査の例を複数取り上げ、解説した基礎的事項がどのように踏まえられているかについて確認する。さらに、新聞、雑誌、インターネット等で発表されている社会調査を調べ、授業内容に沿ってその概要をまとめるワークを行う。	
	社会調査法Ⅰ (データ解析Ⅰ)	社会調査の設計、企画のしかた、及びデータの収集方法と扱いについて理解することを授業の目標とする。かんたんなワークを交えた講義形式で授業を進める。具体的には、調査目的の立て方、調査方法の選定、対象者の選定とサンプリング、調査票の設計（質問文のワーディングや回答方法の選定時の注意事項）、実査の方法、調査データの整理（入力方法、コーディング、クリーニング）について解説する。また、簡単なサンプリングや質問文の作成などのワークを取り入れ、実際の体験から、調査の設計における注意事項などを学ぶ。	
	社会調査法Ⅱ (データ解析Ⅱ)	既存の統計資料の収集方法と読み方、及びデータの基礎的な分析に関する知識を修得することを目標とする。ワークを中心とした講義形式で授業を進める。具体的には、統計資料の検索方法とデータの読み取り方を説明し、実際に自分でを行い、かんたんなレポートを作成する。また、実際の、もしくはダミーのデータを用いて、記述統計量（平均、分散、標準偏差）の算出やクロス集計表の作成を行う。さらに、統計的な分析の基礎となる因果関係や相関関係といった考え方についても説明する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開応用科目 社会・産業心理学領域 臨床心理学領域	質的研究法	質的データの収集方法や分析方法について理解することを授業の目標とする。かんたんなワークを交えた講義形式で授業を進める。まず、質的データの収集方法（インタビュー、参与観察、自由記述の回答、など）と分析方法（KJ法、グラウンデッドセオリー、複雑経路等至性モデル、など）について解説する。次に、質的データの分析ソフトについても紹介し、かんたんな分析とその解釈を試みる。また、質的データを用いて研究した論文等を取り上げて解説し、実際の質的な分析についての理解を深める。	
	キャリアの心理学	キャリア発達及びキャリア支援の研究・実践活動の基盤となる、さまざまな理論的背景について説明する。その上で受講生が自らのキャリア発達について考えるアクティブラーニングを実施する。キャリアの定義である「個人の人生・生き方・働き方とその自己表現方法」をふまえ、受講生が大学卒業後の人生設計や職業観について考えることができ、自らの能力や適性、価値観を基に主体的に卒業後のキャリア形成が行えることを目指す。	
	社会心理学調査演習 I	社会調査に関する他の科目の学習内容を活用して実際に社会調査を行うことで、自らのもつ問題意識に対しデータに裏づけられた知見を生み出すことを実践する。年度ごとに具体的な主テーマ（例、対人関係の円滑化）を設定し、受講生をグループに分け、グループごとに下位テーマを設定して社会調査を行う。社会心理学調査演習 I では、問題意識の確立、先行研究の探索、仮説設定、対象者選定、調査内容の吟味と決定まで行う。調査内容の吟味と決定に際し予備調査を行い、予備調査の結果の分析と議論を通して気づいた点を受講生間で共有する。	共同
	社会心理学調査演習 II	社会心理学調査演習 I に続き、自らのもつ問題意識に対し、社会調査によって得られたデータに基づいて知見を生み出すことを実践する。社会心理学調査演習 I で実施した予備調査の結果の分析と議論を基に、社会心理学調査演習 II では本調査を実施する。そして、データの入力、コーディングとクリーニング、データの集計、分析、結果の解釈を行う。また、調査の目的から、方法、結果、考察の一連の流れを、PowerPointを用いてグループごとに発表する。さらに、発表内容を踏まえて報告書を作成する。報告書は心理学の研究論文の書式であるIMRAD形式での作成する。	共同
	臨床心理学概論	臨床心理学は、心理臨床実践における2つの活動：①心理学的なアセスメントと②心理学的な支援法（介入法）、のバックグラウンドとなる学問領域である。本科目では、臨床心理学に関する基本的な知識の修得を目標に、①臨床心理学の成り立ち、②臨床心理学の代表的な理論、を中心に説明する。	
	障害者・障害児心理学	障害の概要と障害児者に対する心理的支援の方法について学ぶ。重複している事例も少なくないが、障害は、身体的障害、知的障害、精神障害に大別することができる。まず、それぞれの障害の概要についての知見を整理する。次に、障害者・障害児に対する支援のための法律についての理解や合理的配慮に対する認識を深める。さらに障害のアセスメント、リハビリテーション、特別支援教育、就労支援などについて学修する。	
心理的アセスメント	心理的アセスメントは、よりよい心理学的支援のための情報収集のために行われるプロセスである。本授業では、心理面接や各種心理検査（知能検査・発達検査・パーソナリティ検査など）を通じた心理アセスメント技法の基本的知識を習得することを目標に、①心理的アセスメントの目的及び倫理、②心理的アセスメントの観点及び展開、③心理的アセスメントの方法（種類、成り立ち、特徴、意義及び限界）を説明する。		



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 展開応用科目 臨床心理学領域	健康・医療心理学	健康と医療に対する心理学的アプローチについての知識と理解を深めることを目的とする。具体的には、①ストレスと心身の疾患との関係、②医療現場における心理社会的な問題とそれに関連する支援、③患者の家族に対する支援、④災害時に必要な心理的支援、⑤心身の健康の維持と増進、を中心に取り上げる。	
	心理学的支援法	心理学的支援は、心理的アセスメントなどに基づいたクライアントのニーズのもとに行われる。本科目では心理療法・カウンセリングを代表とする心理学的な支援法に関する基本的な知識・技能を習得することを目標に、①代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界、②訪問による支援や地域支援の意義、③良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、④プライバシーへの配慮、⑤心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、⑥心の健康教育、について説明する。	
	福祉心理学	現代日本の社会福祉制度と福祉政策についての理解する。また、その対象となる人々に関する知見を深めるとともに、具体的支援の方法について学ぶ。福祉の対象となるのは人間であり、またその担い手も人間である。人が人を支援するためにはどうしたらよいか、相手のニーズを的確に把握最適な支援を行うための方法について考察する。	
	司法・犯罪心理学	犯罪は人間の行動のひとつであり、司法領域では犯罪行為の理解に心理学的知識・技能が幅広く用いられている。本科目では、司法領域及び犯罪・非行・被害者支援に関連する心理学の基本的知識を修得することを目標に、①犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識、②司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援、について説明する。	
	人体の構造と機能及び疾病	人体は組織・臓器・器官系の各階層が協調し生体内の恒常性維持に働いている。本科目では、人体の正常な構造と機能に関連づけながらその恒常性維持のしくみを学び、次にその破綻により生じる疾病の病態、特に心理学に関連する疾患の病態生理を理解するための基礎知識を修得し、人間心理や行動を理解するために必要な人体の統合的理解に至ることを目的としている。具体的には、①細胞機能と内部環境維持機構、②細胞・組織から器官系に至る人体の階層性③器官系の有機的連関による人体機能の恒常性維持機構、④器官系の固有の機能を理解し、その破綻により生じる疾病理解の基礎、⑤心理現象と人体機能、について説明する。	
	精神疾患とその治療	精神機能の障害としての精神症状とその症状をもたらす疾患の成因、診断と治療についての基本的理解を得ることを目的とする。そのために、小児から高齢者までの広い年齢層に及ぶ精神科の代表的な疾患とその特徴を学ぶ。具体的には、①精神医学の全体像、②DSM-VやICD-10などの精神医学における代表的疾患の分類と症状の特徴の理解③薬物療法や精神療法をはじめとする主要な精神疾患の治療を概観し、医療機関の役割と機能の理解、④精神疾患を持つ人々の社会的支援方法の理解、について説明する。	
	関係行政論	公認心理師として働くために必要な法律、つまり医療福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働などの諸分野に関連する法律や制度について学ぶ。国家資格である公認心理師は、公認心理師法に基づいて業務が定められており、法的根拠や責任が明記されている。そのため、まず公認心理師法について学び、続いて医療保健、福祉、教育などの諸領域における法制度、関連する諸機関の機能や役割について学修する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
臨床心理学領域  専門教育科目 展開応用科目  教育・発達心理学領域	心理演習	臨床心理学に関する知識及び技能の基本的な知識・スキルの体験的修得を目的とし、次の(ア)～(オ)に掲げる事項について、具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイ）を行い、事例検討で取り上げる。(ア)心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能の修得、(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、(ウ)心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、(エ)多職種連携及び地域連携、(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について事例検討を行う。	共同
	心理実習	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者又は教員による指導をとおして、(ア)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、(イ)多職種連携及び地域連携、(ウ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務、への理解を深める。	共同
	公認心理師の職責	心理職の国家資格である公認心理師法について、この法律が成立し施行されるまでの過程を含めて説明する。内容は、①こころの専門家としての公認心理師の役割、②公認心理師に求められる法的義務と倫理、③心理に関する支援を必要とする者などの安全の確保、④得られた情報の取り扱いと守秘義務、⑤業務を行う各分野の主要な法律と制度、⑥業務に関する課題発見能力の向上と生涯学習、などであり、公認心理師として働くために必要な知識・技術を身につけることを目的とする。	
	発達心理学	生物としての人間の発達全般について講義する。他のほ乳類の発達と比較すると人間の発達のな特徴がわかりやすいので、まず、比較発達の視点から、人間の発達について考える。次に、心身の発達が、人間の心理や行動にどのような影響を与えるかについて詳しく見ていく。さらに、社会化などの社会・文化的な要因が人間の発達にどのように関わっているかについて考察する。	
	児童心理学	児童期の心身の発達について講義する。児童期は、学校種別では小学校段階に相当する。最近の幼児は、保育所や幼稚園で集団生活を体験してから小学校に入学することが多くなっている。しかし、児童にとって、本格的な学校教育と学級集団への適応は必ずしも容易ではなく、登校渋りや不登校、いじめなどの対人関係の問題が生じることも少なくない。児童の認知発達、社会性の発達、パーソナリティの発達などを軸に、児童の心理についての認識を深める。	
	青年心理学	青年期の心身の発達、認知発達、自己と社会性の発達などを中心に講義する。青年は、既に子どもではないが、かといって大人でもない。アイデンティティの確立がこの時期の発達課題と考えられているが、それは必ずしも容易ではない。親からの心理的自立も同様である。青年期後期にある大学生にとっては、自らの生き方や価値観についても考察する。	
	教育・学校心理学	学校教育を中心として、その教授・学習過程に関連する心理学的な諸問題について講義する。また、公認心理師の活動する主な分野の一つが「教育」分野であり、学校という組織に対する知識と理解は不可欠になる。発達・学習・パーソナリティ・評価という教育心理学の主要なテーマについての理解を深めるとともに、学校とは何か、よりよい学校を作るためにはどうしたらよいかについても考察する。	
生涯発達心理学	受精から死に至るまでの人間の生涯全体にわたる心身の発達について講義する。発達段階についての諸理論、胎児期・乳幼児期・児童期・青年期・成人期・老年期と続く各発達段階の特徴、生物としての人間の発達の特徴の概要を理解し、整理して説明できることを目標としている。初期の発達心理学は児童心理学の別名のように見なされていたが、それがなぜ老年期を含む人間の生涯全体を研究対象にするようになったのかについても説明する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開応用科目	感情・人格心理学	感情とは、広義には、精神の働きを知・情・意と三分したときの情的過程全般を指し、情動、気分、情操、興味などが含まれる。一方、人格（パーソナリティ）とは、時間的・空間的に比較的安定した、認知・感情・行動のパターンを意味する。本科目では、感情と人格について、心理学的観点から①感情に関する理論及び感情喚起の機序、②感情が行動に及ぼす影響、③人格の概念及び形成過程、④人格の類型、特性等について説明する。	
	知覚・認知心理学	知覚とは、眼（視覚）、耳（聴覚）、鼻（嗅覚）、皮膚（触覚）、舌（味覚）などの感覚器官を通して、外界の事物や事象、あるいはそれらの変化を把握することを意味する。一方、認知とは、知覚・理解・記憶・思考・学習・推論・問題解決など人間の高度認知機能を意味する。本科目では、心理学の立場から①人の感覚・知覚等の機序及びその障害、②人の認知・思考等の機序及びその障害、について説明する。	
	学習・言語心理学	経験による行動の変容である学習と、コミュニケーションに必要な要因である言語の習得について講義する。学習の領域では、古典的条件付け・オペラント条件付けに関する現象と理論、社会的学習に関する理論とその元になった実験を紹介する。言語の領域では言語の習得に関する理論、語彙の獲得、言語と脳機能、言語障害などについての理解を深める。	
	神経・生理心理学	諸々の心理的能力、現象の物理的な基盤は脳であると考えられている。脳が受け取る情報は全身に張り巡らされた神経によってもたらされるものであり、心理状態に対する身体的反応も神経を介して生じるものである。本科目では、脳神経系の構造と機能とその研究史、研究手法について学修する。さらに、脳内メカニズムと心理的能力の関係、脳の病変と心理過程の障害の関係、高次脳機能障害や精神疾患についても学修する。	
専門教育科目	北陸の文化と社会	北陸地域には、さまざまな芸術のほか、藩政期以来培われてきた伝統的な芸能・工芸、民俗など、多彩な文化があふれている。また、それらは現在も北陸地方の社会に大きな意味を持ち続けている。本科目では、これらを題材に受講生が、北陸地域の文化や、それを背景にもつ社会に関する知識を養うことができる。さらに、地域の文化の継承と発展、文化の活用による地域社会の活性化や振興などの諸課題について考える力を身につける。	
	国際関係学入門	日本は、世界の国際関係に大きな影響を与える二大国、アメリカと中国に挟まれるという地政学的位置にあり、そして世界的な取引の中で経済的活路を見いださなくては行けないという経済的位置に置かれているため、現代の国際関係を理解する必要性は非常に高い。本科目では、入門科目として1年次生に現代の国際関係に興味関心を持たせることを目的に、国際関係理論に関する基本的な概念と現代の国際問題について取り上げる。	
	異文化間コミュニケーション	今日のグローバル社会において、異文化に対する感受性と他者への共感性を高め、バランスの取れた異文化間コミュニケーション能力を身につけることを目標とする。授業では、異文化間コミュニケーションに関する諸問題を多面的に認識し、解決のための方法について考える。これらの学修を通して、異文化に対する適応、非言語メッセージの諸相、異文化間交渉における紛争解決及び共生、コミュニケーション能力、異文化間における言語技能の役割について理解を深める。	
	文化資源学入門	「文化資源」とは、ある時代の社会と文化を知るための手がかりとなる資料の総体である。文化資源には古文書や美術作品、建物や都市の景観、伝統的な芸能や祭礼など、有形無形のものが含まれる。文化資源学は、世界各国・各地域の文化を、従来の「文化財」「文化遺産」といった価値評価の枠組みから解き放ち、新たな価値を創造するために「文化資源」と捉え直すことで、文化を今一度総合的に検討していこうとする学問である。本科目では、文化資源学の基本概念について、調査・研究、保護、継承、活用などの視点から学ぶ。	
現代社会科目			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 現代社会科学目	ことばと文化	言語学（英語・中国語分野）入門への導入科目として、ことばと文化を考える。ことばについては、言語学、第1言語・第2言語習得に焦点を当て、基礎的な知識の獲得を目的とする。また、文化については、文学を中心として、英米文学、中国文学に焦点を当てる。更に、ことばを背景とした、英米文化、中国文化についても扱い、ことばと文化が密接な関係にあることについて理解を深める。	
	宗教学	宗教は、人類の誕生とともに生まれ、以後どの時代、どの地域、どの民族、どの社会においても消滅することなく存在してきた。時には建国の理念になり、時には国家分裂の原因にもなった。こうした世界の宗教事情に適応していける人材を育成するため、世界三大宗教のキリスト教、イスラム教、仏教、そしてユダヤ教を題材に、その崇拜対象、聖地、創始者、教義、経典、思想、生活習慣、死生観などの知識や教養を身につける。	
	言語学入門	外国語学習を通じて言語の規則をより深く正確に理解し、高度な運用能力を高めることができるように、言語学の知見から言語の規則等を分析する方法またそのスキルを培うことを目的とするものである。本科目では、その最初のステップとして、言語学の諸領域の中でもより汎用性の高い部門を集中的に取り上げ、言語学の知見の基礎を学ぶ。	
	国際関係史	高校までの近現代史を学び直しながら、第1次世界大戦から冷戦終結までの国際関係史について講義する。国際関係学や地域研究の理論的フレームワークから現代史を捉えなおすことにより、国際関係学における歴史的視座を得ることを目的とする。本科目は、3年次開講の現代アメリカ論、現代アジア論Ⅰ・Ⅱ、現代ヨーロッパ論という三大地域に関する地域研究を歴史的文脈の中でより深く理解するための基礎科目となる。	
	現代日本論	現代の日本や日本人にとって重要なトピックスについて学び、「外国人に現在の日本の姿を説明する」ときに求められる基本的な知識を身につけることを目的とする。現代日本を理解する重要性について考え、日本社会について考える。少子高齢化や女性の社会参画、若者の姿等、現在日本で様々に議論されている日本社会の論点について十分に理解した上で、自らの見解を確立する。また、日本経済について考え、世界の経済的な動向を踏まえた上で、現在の日本経済がどのような状態にあるのかを理解し、現代日本経済の特徴と課題について考える。	
	経営組織論	組織の中の個人が他者との協働からどのように目的を達成していくのか、また組織にはどのような機能や役割があるのかを理解するために、「組織とは何か？」その定義や意義について理解したうえで、経営組織論の潮流を「組織構造」や「意思決定」「知識創造」「リーダーシップ」「ネットワーク」といったテーマから理解を深めながら、身近で役に立つ問題として一人ひとりが日常の中で考えていくことができる基礎的な能力を養う。	
	教育社会学	教育は社会の産物である。社会の特性、社会が求める人間像に基づいて教育制度が生まれる。時代や社会が変化すれば教育も変わる。本科目では、様々な国・地域と時間軸の中を移動し、多様な教育の姿、教育の社会的機能、そして教育の社会変革力について学ぶ。「社会」というマクロなフィルターを通して教育や教育制度を認識し、教育のさらなる可能性について斬新なアイデアを構築する資質を身につけることを目的とする。	
	家族社会学	社会変動の中で、家族の形態と社会的機能、及び個人にとっての家族の意味は大きく変わってきた。過去及び現在における日本の家族に関する様々な現象を取り上げ、その実態とメカニズムを解説する。さらに、家族社会学の基本的な概念や理論をふまえながら、現代社会における家族の諸相について考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 現代社会科学目	環境社会学	環境社会学は人間を取り巻く自然的環境、物理的環境、及び科学的環境と、人間集団や人間社会の諸々の相互関係に関する研究を行う、社会学の中でも比較的新しい学問領域である。その特徴である、居住者・生活者あるいは被害者の視点から環境問題にアプローチすることを特色としたこの分野について、国際コミュニケーション学部で学ぶ学生を対象に、国内の研究知見や事例だけではなく、諸外国の研究知見や事例も含めて説明する。	
	国際社会論	国際社会を学ぶことで、固定化してとらえられがちな国家や社会やエスニシティなどに関してダイナミックな視点を獲得することをめざす。現代のグローバルな交流の発展に伴って発展してきた「国際社会」とはどのようなものか、主にネーション（民族・国民）・エスニック集団がどのような役割を果たしてきたのかを、歴史的な背景にも目を向けながら理解することを目的とする。	
	中国の文化と社会	中国社会は、春秋・戦国時代から哲学・思想及び言論活動を活発に行い続けてきた。それは、社会と人間のあり方を探求する儒家思想や、自然と人間のあり方を思索する道家思想として具現化され、あるいは本来は外来思想・宗教であった仏教思想の中国への取り込みなどを生みだし、接触と吸収と昇華・展開させてきた。本科目では、中国古典思想哲学の文献を読解し、人間と社会や自然との関係の基本的な考え方、そこに記されている人間観や社会規範の普遍性を理解し、また中国文化的なものの考え方について考察し、自身の無意識化された社会と文化への見方を客観視して、改めて自らに問いかけることを目的とする。	
	文化資源学（歴史・民俗）	北陸地方は、古代には渤海などの東アジアとの交流、中世には白山・立山の山岳信仰と浄土真宗の一向一揆、近世には加賀藩前田家の政治と文化など、日本の歴史や文化において、意義のある研究課題やその関係資料が数多く存在する。またこの地方には様々な祭礼・行事が見られ、民俗資料の宝庫でもある。本科目で学生は、これらのうち多様な研究課題を有する富山県の立山の文化資源を題材として、まずはその内容を検証・検討し、さらに今後の保存のあり方や観光への利活用も考えながら、地域はもちろん、日本の歴史や文化、民俗、文化財等に関する知識や教養を深める。	
	文化資源学（美術・工芸）	北陸地方は伝統工芸品産業が盛んで、いずれも長い歴史を持ち、地域に密着した生活用品を提供する産業として育まれ、現在に至っている。石川県では加賀友禅や九谷焼、輪島塗、金沢箔等々、富山県では高岡銅器や井波彫刻、福井県では越前和紙等が知られている。一方、美術の分野では長谷川等伯らが有名である。本科目では一般的な美術・工芸史はもとより、こうした北陸の優れた文化資源たる美術・工芸品に関する知識や教養を深め、その価値を情報発信できる人材を育成し、さらに今後の研究、保存、観光への利活用についても考える。	
	文化資源学（史跡・名勝地）	北陸地方には、石川県の金沢城跡や兼六園、真脇遺跡、富山県の五箇山合掌造り集落、増山城跡、福井県の一乗谷朝倉氏遺跡など、数多くの史跡や名勝が存在する。本科目は、これらの史跡・名勝を、地域の観光の基盤を支える有益な文化資源として位置づけ、それらに関する歴史や文化などの知識や教養を深め、その価値を情報として発信できる人材を育成し、さらに今後の保護・保全、継承などについての取り組み方や、新たな観光客受け入れのための取り組み方などについても考える。	
	文化資源学（世界遺産）	ユネスコが選定する世界遺産は、今日生きる全ての人々が共有し、そして未来の世代に引き継いでいくべき貴重な遺産である。2019年7月現在、世界遺産登録リストには、1,121件を数える資産が登録されている。本科目では世界遺産に関わる基本情報を学ぶ。さらに、国内外の世界遺産の実態を紹介し、文化資源学の観点から、それらの価値・評価を改めて考察する。自然遺産を生んだ地形のメカニズムや歴史遺産が果たした文明史的な意義を考えながら、現代人として知っておくべき教養を深め、世界の見方や考え方を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 現代社会科学目	観光ビジネス論	ホスピタリティ・マインド（おもてなしの心）を培い、観光産業の中核的存在であるホテル・旅行・航空ビジネスについて学修する。多様な業種に適応できるビジネススキルを高めるため、観光分野における企業研究を行うとともに、観光ビジネスの現場で実際に求められるマネジメント能力、立ち振る舞いや言葉遣いなどの理解を深め、観光業界で活躍できるための基礎的な能力を養う。	
	現代アジア論Ⅰ	朝鮮半島を中心とした東アジアに関する理解を目的とする。授業はアクティブ・ラーニング形式で展開し、①東アジア情勢理解、②日韓関係の構造に関する理解、③北朝鮮情勢の理解、の3点を焦点とする。授業は教員による講義の後に学生が議論を行い、それに関するワークシートを作成することを課題とし、その課題を次回授業の冒頭に議論を行うことを繰り返す。これを通じて、朝鮮半島及び東アジアに関する基本的な知識の定着と、それらに関する自らの意見の確立を目指す。	
	現代アジア論Ⅱ	中国及び東アジアに関する理解を目的とする。授業はアクティブ・ラーニング形式で展開し、①中国をめぐる国際情勢理解、②日中関係の構造に関する理解、③中国の台頭に関する理解を焦点とする。授業は教員による講義の後に学生が議論を行い、それに関するワークシートを作成することを課題とし、その課題を次回授業の冒頭に議論を行うことを繰り返す。これを通じて中国及び東アジアに関する基本的な知識の定着と、それらに関する自らの意見の確立を目指す。	
	現代アメリカ論	現代アメリカの諸問題を構造的に理解することを目的とする。建国からの歴史が浅いと言われるアメリカだが、他方で建国以来の歴史的な問題や社会構造が色濃くアメリカ社会に投影されている問題が多数存在する。本科目では、こうした問題として、二極化する政治問題、黒人差別問題、移民問題、銃規制問題などを取り上げる。いずれの問題も、アメリカという国の成り立ちに大きくかかわり、アメリカ人としてのアイデンティティに基づく価値観が、アメリカ人の中で大きく割れている問題であることを理解し、自らの意見の確立を目指す。	
	現代ヨーロッパ論	ヨーロッパで生起している現代的な問題について理解することを目的とする。ヨーロッパは、もともと地域統合が進んだ地域である。しかし、ここに至るまでにはヨーロッパ内での対立を克服していくことが必要であった。そこで、EUの下での地域統合ができるまでの過程を学ぶ。他方で、金融危機問題をきっかけに地域統合にほころびを見せ始めている。また、人の自由な移動は移民問題を生起させ、アイデンティティを揺るがす問題も生起させている。こうした現代的問題についても学ぶ。	
	国際協力論	本科目の第一の目的は、世界や日本の国際協力のあゆみを学ぶ。第二の目的は、アクティブラーニング型の授業において、今後の国際協力のあるべき姿を考察する。第三の目的は、ケーススタディとして、日本とカンボジアの国際協力の歴史と現状を学ぶ。またカンボジアの関係については、その一課題である貧困に対する解決策としての国際協力にfocusをあて、その現状についてより深く理解する。	共同
	英語圏の文化と社会	英語圏としてイギリスとアメリカを中心にその文化と歴史について取り上げる。イギリスでは、通史を概観するとともに、「国教会制度」「アーサー王伝説」「紅茶」等、様々なトピックを取り上げる。また、現代の文化にそれらが及ぼす影響を、映画を多く参照し、論ずる。アメリカでは「多人種・多民族社会」としてのアメリカの歴史と文化を、階級、ジェンダー、ナショナリティ、世代など様々な角度から理解することを目指す。映画、音楽など多岐に渡る史料に触れ、これらの史料を読解する力と、歴史的に考える力を修得する。	
	マーケティング論	多様なマーケティングの現象を紐解く切り口を自ら見つけるために、マーケティング論における初歩的な概念を理解し、学んだことを活用して現象を理解できるようになることである。STP、マーケティング・ミックス、ブランドといったマーケティング論の初歩的な概念を学ぶ。そして、学修した内容を事例に適用して理解する能力を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 現代社会科学目	マーケットリサーチ論	マーケットリサーチの方法論をテーマとし、マーケティング活動と消費者行動の分析や研究、マーケティング活動における戦略の有効性の質を向上させるための方法論に関する考察を行う。また、マーケットリサーチが個別戦略にどのように投影され、活用されるかという問題に関する理解を深め、理論的知識が実際のマーケティング戦略において顕在化される諸プロセスを、ケーススタディを通じて、戦略的思考能力の向上を図る。	
	英米文学史	イギリス文学、アメリカ文学を概観する。イギリス文学史、アメリカ文学史の大きな流れを学びながら、詩や小説、戯曲など様々なジャンルにおける各時代を代表する作家、作品について知識を深める。時代思潮を学び、それがその時代の作品にどのように反映されているかを考察する。そして、ジャンルごとに、代表的な作品を原文で鑑賞する。講義を基本としながら、協同学習の要素を取り入れ、グループ活動を通して、主体的に学ぶ場面をとおして、作品をより深く理解する力の修得を目指す。	
	海外研修A	中国にある本学協定校で実施する中国研修に関する科目である。本科目の目的は、中国での活動や生活を通じて、多様な文化的社会的背景を持つ人々との共生の在り方について考えることである。研修は夏季休業期間の2～3週間程度実施する。この研修をより良いものとするために、事前に準備学修を実施する。また研修の成果を明確なものとするために、事後に振り返り学修を行う。事前、現地、事後の各学修を通じて、「グローバル社会に必要な意識と能力は何か」、「グローバル社会で多様な人々と共生するために必要な意識と能力は何か」を考える。	
	海外研修B	本学協定校であるカリフォルニア大学リバーサイド校において2～3週間程度の研修を実施する。現地大学において同系学部の施設見学、現地学生との交流をとおして、様々な人々との共生の在り方について考える。また、現地での研修に加え、準備学修として事前学修を行う。また研修終了後には振り返り学修を行い、多文化共生社会に必要な意識・能力について理解する。	
	短期海外研修	短期海外研修を通して、本学協定校の学生との交流、企業やNGO、NPOへの訪問、文化体験などを通じてその国・地域の文化や社会に対する理解を深め、国際感覚を養うことを目的とする。参加者は事前学修として、現地の社会・文化について学び、また現地学生との交流の際に日本や金沢を紹介できるよう準備を行う。研修後は学修成果についてポスタープレゼンテーションで報告する。	
	海外語学研修A	英語圏にある本学協定校へ1ヶ月程度の英語研修に参加し、現地で英語を学ぶとともに、国際感覚を養うことを目的とする。事前学修として、①英語力チェックを行うとともに、生活に必要な英語表現を確認する、②現地の文化、社会について理解し、生活環境変化への対応力を養う、③安全情報・危機管理、についての学修する。研修後には、①英語力チェック②現地での活動成果に関する報告(英語)、によって現地の活動成果を検証する。	
	海外語学研修B	中国の本学協定校へ1ヶ月程度の語学研修に参加し、現地で中国語を学ぶとともに、国際感覚を養うことを目的とする。事前学修として①中国語力チェックを行うとともに、生活に必要な中国語表現を確認する、②現地の文化、社会について理解し、生活環境変化への対応力を養う、③安全情報・危機管理、についての学修する。研修後には、①中国語力チェック②現地での活動成果に関する報告、によって現地の活動成果を検証する。	
	海外留学A	海外にある本学協定校(英語圏及び中国)へ、1セメスター留学するために開講するものである。受講者は事前学修として現地の社会や文化及び安全情報・危機管理について学修する。留学中は現地での諸活動についての週報と、毎月一回のテーマレポートを提出する。帰国後には学修成果について、レポート提出と成果報告プレゼンテーションを行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 現代社会科学目	海外留学B	海外にある本学協定校（英語圏及び中国）へ、2セメスター目の留学をするために開講するものである。受講者は、レポート作成により1セメスター目の活動を振り返った上で、2セメスター目の現地での活動計画書と到達目標を設定し、より具体的な学修成果を挙げることを意識する。留学中は、週報の提出と毎月一回のテーマレポートを提出する。帰国後はレポートの提出と、英語または中国語で成果報告プレゼンテーションを行う。	
	海外留学C	海外にある本学協定校（英語圏及び中国）へ、3セメスター目の留学をするために開講するものである。受講者は語学学修に加えて、学科教育課程に関連する講義科目を受講し、活動成果を週報で報告するとともに、講義科目の学修についてレポートを提出する。帰国後は、英語または中国語によって、講義内容及びこれまでの活動の振り返り等に関する成果報告プレゼンテーションを行う。	
	海外留学D	海外にある本学協定校（英語圏及び中国）へ、4セメスター目の留学をするために開講するものである。受講者は語学学修に加えて、学科教育課程に関連する講義科目を受講し、活動成果を週報で報告するとともに、講義科目の学修についてレポートを提出する。帰国後は、英語または中国語によって、これまでの学修活動、留学経験（4セメスター分）によって身につけた力などを取りまとめ、成果報告プレゼンテーションを行う。	

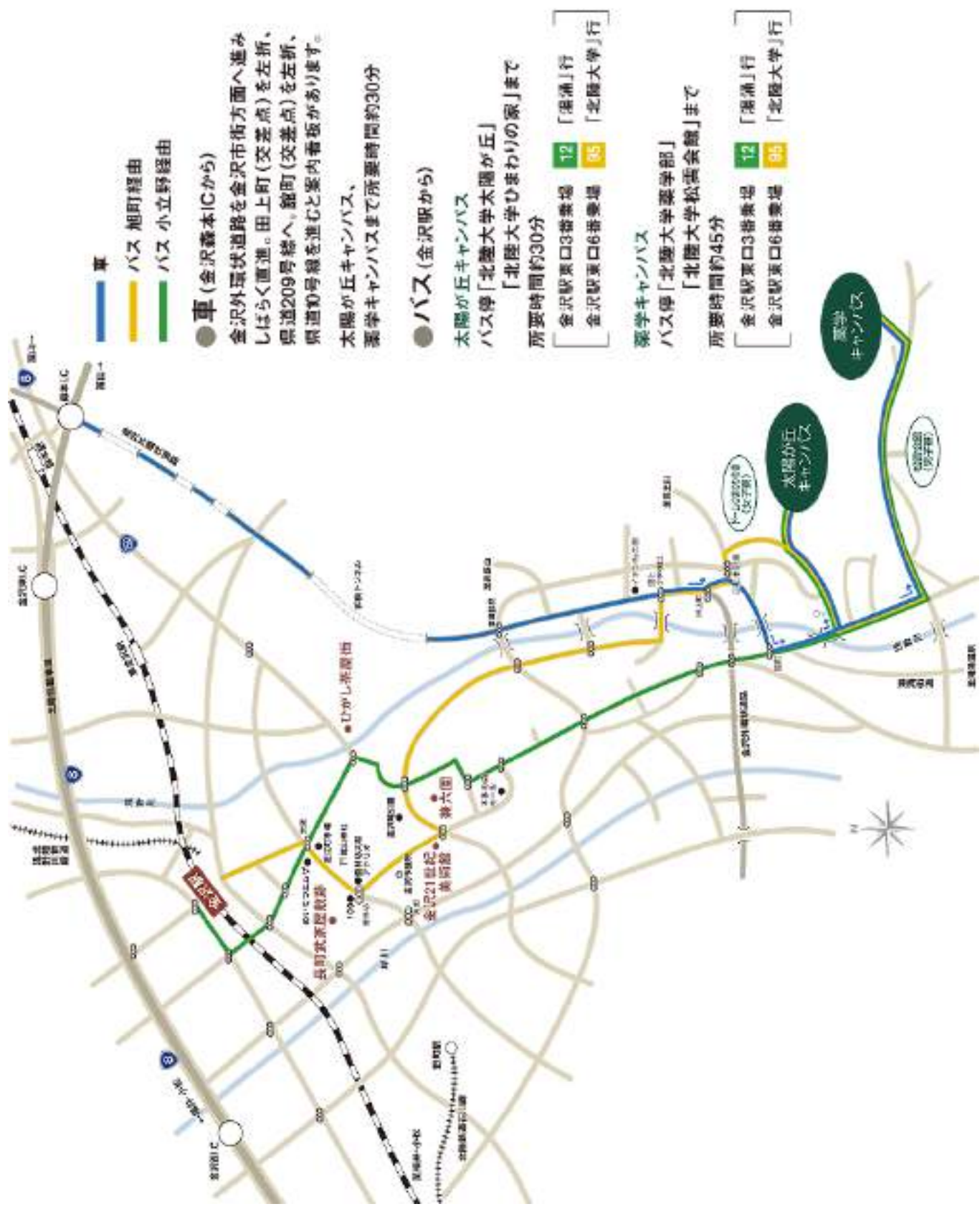




北陸大学太陽が丘キャンパス

金沢市

北陸大学薬学キャンパス



- 車
- バス 旭町経由
- バス 小立野経由

● 車 (金沢森本ICから)  
 金沢外環状道路を金沢市街方面へ進み、しばらく直進。田上町(交差点)を左折、県道209号線へ。館町(交差点)を左折、県道10号線を進むと案内看板があります。太陽が丘キャンパス、薬学キャンパスまで所要時間約30分

● バス (金沢駅から)  
 太陽が丘キャンパス  
 バス停「北陸大学太陽が丘」  
 「北陸大学ひまわりの家」まで  
 所要時間約30分

金沢駅東口3番乗場	12	「湯涌」行
金沢駅東口6番乗場	35	「北陸大学」行

薬学キャンパス  
 バス停「北陸大学薬学部」  
 「北陸大学松雲会館」まで  
 所要時間約45分

金沢駅東口3番乗場	12	「湯涌」行
金沢駅東口6番乗場	35	「北陸大学」行

# 校舎、運動場等の配置図



No.	施設名	面積
1	本館が丘1号棟	1,000.02 ㎡
2	本館が丘2号棟	16,103.08 ㎡
3	図書館	3,846.03 ㎡
4	4号館(学生ホール、学生)	1,733.04 ㎡
5	5号館(学生ホール、学生)	193.47 ㎡
6	6号館(学生ホール、学生)	247.49 ㎡
7	7号館(学生ホール、学生)	680.61 ㎡
8	8号館(学生ホール、学生)	88.18 ㎡
9	9号館(学生ホール、学生)	52.23 ㎡
10	10号館(学生ホール、学生)	4,000.04 ㎡
11	11号館(学生ホール、学生)	4,380.70 ㎡
12	12号館(学生ホール、学生)	22,640.04 ㎡
13	13号館(学生ホール、学生)	3,381.18 ㎡
14	14号館(学生ホール、学生)	1,322.76 ㎡
15	15号館(学生ホール、学生)	16,870.18 ㎡
16	16号館(学生ホール、学生)	420.00 ㎡

校地算入面積 75,306.98 ㎡

心理社会学科使用校舎

校地算入敷地

校地不算入敷地

# 北陸大学学則2021

## 第 1 章 目 的

(目的)

第1条 本学は、教育基本法及び学校教育法に則り広く知識を授けるとともに、深く専門の知識と技能とを教授研究し、人格の陶冶を図り、文化の創造発展と公共福祉の増進に貢献し得る人物を育成することを目的とする。

第1条の2 本学は学校教育法に基づき、本学における教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行いその結果を公表する。

2 前項に関する事項は、北陸大学自己点検・評価規程に定める。

## 第 2 章 組 織

(組織)

第2条 本学に次の学部、学科を置き、その定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員
薬学部	薬学科	125人		750人
経済経営学部	マネジメント学科	290人	3年次108人	1,376人
国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学科	80人	3年次 40人	400人
	心理社会学科	45人		180人
医療保健学部	医療技術学科	65人		260人

2 本学に、留学生別科を置く。

(1) 留学生別科の入学定員及び収容定員は150人とする。

(2) 留学生別科に関し必要な事項は、北陸大学留学生別科規程に定める。

(養成する人材)

第2条の2 前条の学部、学科の人材養成の目的は、次のとおりとする。

(1) 薬学部 薬学科

医療人としての倫理観、使命感、責任感及び高度な薬学の知識・技能を身につけ、臨床の現場で実践的な能力を発揮できる薬剤師を養成する。

(2) 経済経営学部 マネジメント学科

健康な地域社会、企業や組織及び自己の形成と発展に寄与するために、「マネジメント力」を持った人材を養成する。すなわち、社会・組織・自己のマネジメントに関連する知識と技能を身につけ、グローバルな視野と責任感をもって、自ら進んで他者と協働し課題を解決する力と、生涯学び成長し続けられる力を持つ人材を養成する。

(3) 国際コミュニケーション学部

コミュニケーション力をもって、社会の課題解決に取り組み、グローバル化する現代社会に貢献できる人材を養成する。

・国際コミュニケーション学科

地域社会及び地域産業のグローバル化に貢献し、世界と地域をつなぐことのできる語学力と国際感覚を持ったグローバル人材を養成する。

・心理社会学科

社会全体を俯瞰できる広い視野、人間の心理を深く理解する力とコミュニケーション力を身につけ、「人と人」「人と社会」をつなぎ、健康社会の実現に貢献できる人材を養成する。

(4) 医療保健学部 医療技術学科

医療人としての倫理観、使命感、責任感及び臨床検査学、臨床工学の知識・技能を身につけ、日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応し、チーム医療に積極的に関わることのできる医療技術者を養成する。

### 第 3 章 教 職 員 組 織

(教職員組織)

第3条 本学に、学長、教授、准教授、助教、助手及び職員を置く。ただし、教育・研究上の組織編制として適切と認められる場合には、准教授、助教、又は助手を置かないことができる。必要に応じて、講師のほか非常勤教員を置くことができる。

2 教員は、人格及び学識に優れ、明確な成果を挙げる教育力・指導力を有するものとする。その資格及び職務は、次のとおりとする。

(1) 教授は、専攻分野について教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

(2) 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

(3) 講師は、専攻分野について、教授又は准教授に準ずる、教育上、研究上又は実務上の知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

(4) 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識、能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

(5) 助手は、専攻分野について、知識及び能力を有する者であって、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。

3 職員の職務等については、学校法人北陸大学事務組織規程に定める。

4 本学には第1項に定めるほか、副学長、学部長、学生部長、教務部長、図書館長、教務委員長、学科長、留学生別科長、学長補佐その他必要な教職員を置くことができる。なお、任務及び任用等については、学校法人北陸大学大学運営規程に定める。

### 第 4 章 運 営 組 織

(教学運営協議会)

第4条 本学が組織的・体系的に取り組む教育施策について審議するために、北陸大学教学運営協議会（以下、この規程において「教学運営協議会」という。）を置く。

2 教学運営協議会の任務等必要な事項は、北陸大学教学運営協議会規程に定める。

(教授会)

第5条 本学の教育研究に関し、専門的な審議を行う機関として、教授会を置く。

2 教授会は、常勤の教授をもって構成する。

第6条 前条の教授会は、全学教授会及び学部教授会をいう。

(任務等)

第7条 教授会に関し必要な事項は、北陸大学教授会規程に定める。

第 5 章 学科課程及び履修方法

(学科課程、学科目の名称及び単位)

第8条 本学の学科課程、学科目の名称及び単位数は、別表1のとおりとする。

(単位計算の基準)

第9条 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲をもって1単位とする。

2 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲をもって1単位とする。

3 単位計算の基準に関する規程は、別に定める。

(修得すべき単位)

第10条 在学中に修得しなければならない学科目及び単位数は、次のとおりとする。

薬学部			
I 群	【必修科目】 総合教養教育科目 薬学準備教育、実習系科目	5単位 12.5単位	計17.5単位
	【必修科目】 薬学専門教育科目 実習系科目	113.5単位 40単位	計153.5単位
I・II 群	【選択科目】 総合教養教育科目 薬学専門教育科目	10単位以上 9単位以上	計19単位以上
	合計	190単位以上	

経済経営学部 マネジメント学科			
一般教育科目群	教養科目	必修	1単位
		選択	9単位以上
	外国語科目 (※1)	必修	4単位
		選択	6単位以上
汎用的技能科目群	リテラシー科目	必修	2単位
		選択	10単位以上
	キャリア科目	6単位	
専門教育科目群	演習科目 (※2)	必修	22単位
	マネジメント科目及び マネジメント実践科目	必修	8単位
		選択 (※3)	40単位以上

自由科目群を除く全ての科目群	16単位以上
合 計	124単位以上

※1 外国人留学生の修得した留学生特例科目の単位は、必修科目を含む外国語科目の単位とすることができる。※2 卒業論文を作成しない場合、卒業研究の単位は6単位とし、演習科目における卒業に必要な単位数は18単位とする。※3 卒業論文を作成しない場合、マネジメント科目及びマネジメント実践科目（選択）における卒業に必要な単位数は44単位とする。※4 自由科目群科目は、卒業要件単位に含まない。

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科		
専門教育科目	基礎科目	8単位
	語学科目	40単位以上（必修20単位含む）
	言語理解科目	40単位以上
	日本・国際理解科目	※言語理解科目から4単位以上かつ、日本・国際理解科目から必修2単位を除く4単位以上修得する。
	専門演習科目	12単位 ※海外留学A～Dを修得した当該期間中の専門演習科目の単位修得は免除する。
	海外留学科目	※海外留学A～Dを修得した場合は当該学期中の専門演習科目の単位修得を免除し、修得した単位を卒業要件修得単位とする。
	計100単位以上	
一般教育科目	8単位以上（必修4単位含む）	
キャリア科目	4単位以上（必修2単位含む）	
合計	124単位以上 ※教職に関する科目に開講される「英語科教育法Ⅰ～Ⅳ」8単位を上限に含めることができる。	

国際コミュニケーション学部 心理社会学科		
総合教育科目	必修科目	4単位
	選択科目	16単位以上 計20単位以上
専門教育科目	必修科目	24単位
	選択科目	
	共通領域及び展開応用科目	58単位以上
	現代社会科目	22単位以上
合計	124単位以上	

医療保健学部 医療技術学科			
一般教養科目	必修科目	12単位	計20単位以上
	選択科目	8単位以上	
専門基礎科目	必修科目	45単位	計45単位
専門科目	必修科目	63単位	計65単位以上
	選択科目	2単位以上	
合計	130単位以上		

(履修の認定)

第11条 履修科目修了の認定は、各種試験の評価を含む平素の成績によるものとする。

- 2 成績評価に合格した者には、所定の単位を与える。
- 3 平素の成績評価及び試験に関する規程は、別に定める。

(他大学での履修及び単位認定の特例)

第12条 学長が教育上特に有益と認めるときは、学生にほかの大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む）の授業科目を履修させることができる。

- 2 学長が教育上特に有益と認めるときは、前項の大学又は短期大学以外の文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなすことができる。
- 3 前2項の規定により学生が修得した授業科目の単位は、60単位をこえない範囲において、本学で修得したものとみなすことができる。
- 4 編入学及び転入学により本学入学前に修得した授業科目の単位は、本学で取得したものとみなすことができる。

(成績評価)

第13条 成績評価は、原則として100点を満点とした点数によって表示し、60点以上を合格とする。

(修業年限及び在学期間)

第14条 本学の修業年限は、次のとおりとする。

- (1) 薬学部 6年
  - (2) 経済経営学部 4年
  - (3) 国際コミュニケーション学部 4年
  - (4) 医療保健学部 4年
- 2 在学期間は、薬学部にあつては12年、経済経営学部、国際コミュニケーション学部、医療保健学部にあつては8年をこえることができない。

(卒業)

第15条 学長は前条第1項各号に定める修業年限以上在学し、所定の単位を修得した者に、卒業を認定する。

(学位)



第16条 学長は、前条により卒業を認定した者に、以下に定める学士の学位を授与する。

薬学部

薬学科 学士（薬学）

経済経営学部

マネジメント学科 学士（マネジメント学）

国際コミュニケーション学部

国際コミュニケーション学科 学士（文学）

心理社会学科 学士（心理学）

医療保健学部

医療技術学科 学士（医療技術学）

2 学長は、学位授与の証明として、卒業証書・学位記を授与する。

## 第 6 章 入学、休学、復学、退学、編入学、転入学及び再入学

（入学の時期）

第17条 入学の時期は、第31条に定める学年の始めとする。ただし、学長は必要に応じて第32条の定める学期の始めとすることができる。

（入学志願者の資格）

第18条 本学に入学を志願することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

（1）高等学校又は中等教育学校を卒業した者

（2）通常の課程により12年の学校教育を修了した者、又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者

（3）外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

（4）文部科学大臣が、高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の当該課程を修了した者

（5）文部科学大臣の指定した者

（6）高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（廃止前の大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む）

（7）本学において、相当の年齢に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

2 第2条第1項に掲げる3年次に編入学することのできる者の資格は、別に定める。

（入学志願の手続）

第19条 入学志願者は、所定の書類に入学検定料を添えて、指定の期日までに願出しなければならない。

2 入学志願の受付期間及び入学検定料は、別に定める。

（入学選考）

第20条 学長は、入学志願者に対して、学力、健康その他について選考のうえ、入学を許可する。

2 選考の方法及び期日は、別に定める。

（休学）

第21条 疾病その他やむを得ない事由により、3ヵ月以上修学することができない者は、その事由を詳記した保証人連署の願書を提出して、学長の許可を得なければならない。ただし、疾病のため休学しようとするときは、医師の診断書を添えなければならない。

2 学長は、特別の事由があると認められた者には、休学を命ずることがある。

3 休学の期間は、1年をこえることはできない。ただし、特別の事由がある場合に限り1年を限度として休学期間の延長を認めることがある。

4 休学の期間は、通算して4年をこえることはできない。

5 休学の期間は、第14条に定める修業年限及び在学期間に算入しない。

(復学)

第22条 休学中の者が復学しようとするときは、保証人連署のうえ、学長に願い出て、その許可を受けなければならない。ただし、疾病による休学者は医師の診断書を添えなければならない。

2 休学の期間が満了し、復学しようとするときも、前項と同様とする。

(退学)

第23条 疾病その他やむを得ない事由により退学しようとする者は、その事由を詳記した保証人連署の願書を提出して、学長の許可を得なければならない。

2 次の各号の一に該当する者について、学長はこれを退学に処する。

(1) 第14条第2項に定める在学期間をこえた者

(2) 学部に第14条第2項に定める在学期間以外の定めがある場合、その在学期間をこえた者

(3) 第21条第3項又は同条第4項に定める休学期間をこえてなお修学できない者

(4) 授業料を納入せず、催告を受けても納付しない者

(5) 長期間にわたり行方不明の者

(6) 死亡した者

(転学部・転学科)

第24条 本学の他の学部・学科へ転学部及び転学科を志願する者は、審査のうえ、学長がこれを許可することがある。

(転学)

第25条 他の大学を受験し、転学しようとする者は、その旨を記した保証人連署の願書を提出して、学長の許可を得なければならない。

(編入学)

第26条 第2条第1項に定める編入学者のほか、本学に編入学を志願する者がいるときは、欠員のある場合に限り、審査のうえ、学長が相当年次に編入学を許可することがある。

(転入学)

第27条 他の大学から、本学へ転入学を志願する者は、欠員のある場合に限り、審査のうえ、学長が相当年次に入学を許可することがある。

(再入学)

第28条 退学者が再入学を出願したときは、審議のうえ、学長が相当年次に入学を許可することがある。

2 前項の再入学は、第23条第1項又は第2項第3号乃至第5号により退学した者で、かつ退学の理由となった事情が解消されたと認められる場合に限るものとする。

3 退学者の再入学は、退学後3年以内の者に限る。

(入学手続)

第29条 入学を許可された者は、指定の期日までに保証人を定めて、所定の手続をとらなければならない。

2 前項の手続をしないときは、入学の許可を取り消すことがある。

(保証人)

第30条 保証人は、学生の学資支出の責任者である父母若しくは縁故者に限る。

## 第 7 章 学年、学期及び休業日

(学年)

第31条 学年は、4月1日から翌年3月31日までとする。

(学期)

第32条 学年を2期に分け、前期は4月1日から9月30日まで、後期は10月1日から翌年3月31日までとする。ただし、学長は、必要に応じて前期の終期及び後期の始期を変更することができる。

(授業を行わない日)

第33条 授業を行わない日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

(3) 創立記念日 6月1日

(4) 夏休み、冬休み及び春休みは、学年ごとに定める

(5) 臨時に授業を行わない日が必要な場合は、その都度定める

2 授業を行わない日といえども、学長は、必要に応じて授業を命ずることができる。

## 第 8 章 学 費

(納付金)

第34条 入学金、授業料及びその他の学費は、別表2のとおりとする。

2 前項の納付金の納付方法及び期限は、別に定める。

(退学者等の納付金)

第35条 退学及び転学の場合には、その学期分の授業料等を納付しなければならない。ただし、第23条第2項第5号及び同条同項第6号の退学の場合は、この限りでない。

2 休学を許可したときは、休学期間中の授業料等を免除し、これに代えて在籍料を徴収する。

(科目等履修生等の納付金)

第36条 科目等履修生・聴講生、委託生、研修生及び専攻生の諸納付金の金額ならびに納付方法及び期限については、別に定める。

(納付金の還付)

第37条 既納の学費は、事由の如何にかかわらず還付しない。ただし、第35条第1項ただし書及び同条第2項の場合を除く。

(登学の停止等)

第38条 学費の納入を怠った者の処置については、第23条第2項第4号の場合を除き、別に定める。

## 第 9 章 科目等履修生・聴講生、委託生、研修生及び専攻生

(科目等履修生・聴講生)

第39条 本学の学生以外の者で、一又は複数の授業科目の履修を志願する者は、審査のうえ、学長が科目等履修生として入学を許可することがある。

2 科目等履修生は、その履修科目について試験を受けることができる。試験に合格した者には、所定の単位を認定する。

第40条 本学の学生以外の者で、一又は複数の授業科目の聴講を志願する者は、審査のうえ、学長が聴講生として入学を許可することがある。

第41条 科目等履修生・聴講生の在学期間は、1年以内とする。

(委託生)

第42条 公共団体その他の機関から、特定科目について修学を委託された者は、審査のうえ、学長が委託生として入学を許可することがある。

2 委託生の在学期間は、原則として1年以内とする。

(研修生)

第43条 大学を卒業した者で、特殊の事項について研修を志願する者は、審査のうえ、学長が研修生として入学を許可することがある。

第44条 研修生の在学期間は、2年以内とする。

(専攻生)

第45条 特殊の事項につき精密な研究を志願する者は、審査のうえ、学長が専攻生として入学を許可することがある。

2 専攻生を志願することができる者については、別に定める。

第46条 専攻生の修業年限は、1年とする。ただし、研究を継続しようとする者は、指導教員を経て、延期を学長に願い出ることができる。

第47条 < 削除 >

第48条 < 削除 >

(学則の準用)

第49条 科目等履修生・聴講生、委託生、研修生及び専攻生に対しても、特に定める場合を除いては、この学則を準用する。

## 第 10 章 賞 罰

(表彰)

第50条 学長は、学業成績が特に優秀な者又は学生の模範となる行為のあった者に対して、これを表彰することがある。

(懲戒)

第51条 学長は、学則、諸規程及び法令等を守らず、学生の本分に悖る行為のあった者に、次の懲戒を行う。なお、懲戒に当たっては、北陸大学学生懲戒規程に従い行うものとする。

(1) 訓告

(2) 謹慎

(3) 停学

(4) 退学

2 退学は、次の各号の一に該当する場合に行う。

(1) 学力劣等で、成業の見込みがないと認められた者

- (2) 性行不良で、改善の見込みがないと認められた者
  - (3) 正当の理由がなく引続き1年以上欠席した者
  - (4) 本学の秩序を乱し、学生としての本分に反した者
- 3 停学の期間は、第14条に規定する修業年限及び在学期間に算入する。ただし、停学の期間が3カ月をこえるときは、修業年限に算入しない。

## 第 11 章 公 開 講 座

(公開講座)

第52条 本学は、随時公開講座を開設する。

- 2 公開講座に関する規程は、別に定める。

## 第 12 章 図 書 館

(図書館)

第53条 本学に、附属図書館を置く。

- 2 附属図書館に関する規程は、別に定める。

## 第 13 章 薬用植物園

(薬用植物園)

第54条 本学薬学部に、附属薬用植物園を置く。

- 2 附属薬用植物園に関する規程は、別に定める。

## 第 14 章 研究所及び附属研究施設

(研究所及び附属研究施設)

第55条 本学に研究所を置く。学部に、教育研究に必要な附属研究施設を置くことができる。

- 2 研究所及び附属研究施設に関し、必要な事項は別に定める。

## 第 15 章 厚生保健施設

(厚生保健施設)

第56条 本学は、学生の福利をはかるため厚生保健の施設を設ける。

- 2 この施設についての規程は、別に定める。

## 第 16 章 教育職員免許状を得るための課程

(教職課程)

第57条 教育職員免許状を得ようとする者は、教育職員免許法その他の関係法規に定める所定の単位を修得しなければならない。

- 2 教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数は別表3のとおりとし、その履修方法について必要な事項は別に定める。

(教育職員免許資格)

第58条 本学において取得できる教育職員免許状は、次に掲げるものとする。

学部	学科	免許状の種類	免許教科
経済経営学部	マネジメント学科	中学校教諭 1種免許状	保健体育
		高等学校教諭 1種免許状	公民、保健体育

国際コミュニケー ション学部	国際コミュニケー ション学科	中学校教諭 1種免許状	英語
		高等学校教諭 1種免許状	

(履修方法)

第59条 単位の修得は、第5章学科課程及び履修方法の規程を適用する。

## 第 17 章 特別の課程

(特別の課程)

第60条 本学の学生以外の者を対象に、学校教育法第105条に規定する特別の課程を編成し、これを修了した者に対し、修了の事実を証する証明書を発行することができる。

2 特別の課程に関する規程は、別に定める。

## 第 18 章 学則の変更

(学則の変更)

第61条 学則の変更は、全学教授会の議を経て、理事会が決定する。

附 則

この学則は、昭和50年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和51年4月1日から施行する。

附 則 (昭和53年10月30日 第18回理事会)

この学則は、昭和54年4月1日から施行する。

附 則 (昭和56年10月5日 第34回理事会)

この学則は、昭和56年10月5日から施行し、昭和55年4月1日より適用する。

なお、第10条別表2は昭和58年3月末日をもって廃止する。また、昭和54年度以前の入学生は第12条の適用を除外し、別途移行措置を定める。

附 則 (昭和57年3月30日 第36回理事会)

1. この学則は、昭和57年4月1日から施行する。

2. 第15条第2項後段の規定は、昭和57年度入学生から適用する。

附 則 (昭和58年5月30日 第42回理事会)

この学則は、昭和58年5月30日から施行し、昭和58年4月1日より適用する。

附 則 (昭和60年6月27日 第50回理事会)

(昭和61年9月29日 第56回理事会)

この学則は、昭和62年4月1日から施行する。

附 則 (昭和62年12月22日 第64回理事会)

この学則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則（昭和63年12月22日 第68回理事会）

1. この学則は、平成元年4月1日から施行する。
2. 第10条別表1は、昭和63年度薬学部入学生から適用する。ただし、昭和62年度以前の薬学部入学生が昭和63年度以降の入学生と同一学年に在籍する場合も、第10条別表1を適用する。
3. 平成元年度薬学部2年次生の、在学中に修得しなければならない学科目及び単位数は、別に定める。
4. 第2項を適用しない薬学部学生の学科科目名称及び単位数は、別表1-(2)のとおりとし、在学中に修得しなければならない学科目及び単位数は、次のとおりとする。

〈省略表1〉

5. 第3項及び第4項は、当該学生の在学しなくなった年次をもって廃止する。

附 則（平成元年9月18日 第74回理事会）

1. この学則は、平成2年4月1日から施行する。
2. 第2条第1項の規定にかかわらず、平成2年4月1日から平成11年3月31日までの間、外国語学部の入学定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員
外国語学部	英米語学科	165人
	中国語学科	55人

3. 第34条別表2及び第63条別表3は、平成2年度入学生から適用する。
4. 第3項を適用しない平成元年度以前入学生の学費は、別表2-(2)のとおりとする。
5. 第3項を適用しない平成元年度以前外国語学部入学生の教科及び教職に関する科目及び単位数は、別表3-(2)のとおりとする。
6. 第4項及び第5項は、当該学生の在学しなくなった年次をもって廃止する。

附 則（平成3年3月25日 第82回理事会）

1. この学則は、平成3年4月1日から施行する。
2. 第10条別表1は、平成3年度入学生から適用する。
3. 前項を適用しない平成2年度以前の入学生の学科目の名称及び単位数は、別表1-(1)のとおりとする。ただし、専門教育科目は別表1の専門教育科目を適用する。
4. 前項は、当該学生の在学しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成4年3月30日 第88回理事会）

1. この学則は、平成4年4月1日から施行する。
2. 第2条第1項の規定にかかわらず、平成4年4月1日から平成12年3月31日までの間、法学部の入学定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
法学部	政治学科	150人	600人
	法律学科	150人	600人

3. 第9条、第34条及び第57条別表の適用については次のとおりとする。

〈省略表2〉

4. 第11条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、平成4年度入学生から適用する。
5. 前項を適用しない平成3年度以前の入学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表3〉

6. 第3項に定める別表及び第5項は、当該学生の在学しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成5年9月10日 第99回理事会）

この学則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成6年3月28日 第101回理事会）

1. この学則は、平成6年4月1日から施行する。
2. 第9条、第35条及び第58条別表の適用については次のとおりとする。

〈省略表4〉

3. 第11条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、別表1の適用対象学生に適用する。
4. 別表1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表5〉

5. 別表1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表6〉

6. 別表1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表7〉

7. 別表1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表8〉

8. 別表1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表9〉

9. 第2項に定める別表及び前5項は、当該学生の在学しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成6年5月25日 第103回理事会）

この学則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則（平成7年3月29日 第109回理事会）

1. この学則は、平成7年4月1日から施行する。
2. 第9条、第35条及び第58条別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表10〉



3. 第11条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は別表1の適用対象学生に適用する。
4. 別表1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
〈省略表11〉
5. 別表1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
〈省略表12〉
6. 別表1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
〈省略表13〉
7. 別表1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
〈省略表14〉
8. 別表1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
〈省略表15〉
9. 別表1-(6)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
〈省略表16〉
10. 第2項に定める別表及び前6項は、当該学生の在学しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成8年3月26日 第121回理事会）

1. この学則は、平成8年4月1日から施行する。
2. 第9条別表の適用については、次のとおりとする。  
〈省略表17〉
3. 第11条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、別表1の適用対象学生に適用する。
4. 別表1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
〈省略表18〉
5. 別表1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
〈省略表19〉
6. 別表1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
〈省略表20〉
7. 別表1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
〈省略表21〉

8. 別表1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表22〉

9. 別表1-(6)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表23〉

10. 第2項に定める別表及び前6項は、当該学生が在学しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成9年3月27日 第130回理事会）

1. この学則は、平成9年4月1日から施行する。

2. 第9条別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表24〉

3. 第11条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、別表1の適用対象学生に適用する。

4. 別表1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表25〉

5. 別表1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表26〉

6. 別表1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表27〉

7. 別表1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表28〉

8. 別表1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表29〉

9. 別表1-(6)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表30〉

10. 別表1-(7)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表31〉

11. 第2項に定める別表及び前7項は、当該学生が存在しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成9年3月27日 第130回理事会）

1. この学則は、平成9年4月1日から施行する。

2. 第58条別表3の適用については、次のとおりとする。

〈省略表32〉

附 則（平成9年9月27日 第137回理事会）

1. この学則は、平成9年9月27日から施行し、平成9年4月1日から適用する。
2. 第9条別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表33〉

3. 第11条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、別表1の適用の対象学生に適用する。
4. 別表1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表34〉

5. 別表1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表35〉

6. 別表1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表36〉

7. 別表1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表37〉

8. 別表1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表38〉

9. 別表1-(6)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表39〉

10. 別表1-(7)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表40〉

11. 第2項に定める別表及び前7項は、当該学生が存在しなくなった年度をもって廃止する。
12. 第58条別表3の適用については、次のとおりとする。

〈省略表41〉

附 則（平成10年3月27日 第139回理事会）

1. この学則は、平成10年4月1日から施行する。
2. 第9条、第35条及び第58条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表42〉

3. 第11条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、別表1の適用の対象学生に適用する。

4. 別表1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表43〉

5. 別表1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表44〉

6. 別表1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表45〉

7. 別表1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表46〉

8. 別表1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表47〉

9. 別表1-(6)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表48〉

10. 別表1-(7)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表49〉

11. 別表1-(8)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表50〉

12. 第2項に定める別表及び前8項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成10年8月7日 第142回理事会）

1. この学則は、平成11年4月1日から施行する。

2. 第2条第1項の規定にかかわらず、平成11年4月1日から平成12年3月31日までの間、外国語学部の入学定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員
外国語学部	英米語学科	165人
	中国語学科	55人

附 則（平成11年1月21日 第146回理事会）

1. この学則は、平成11年4月1日から施行する。

2. 第9条、第35条及び第58条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表51〉

3. 第11条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、別表1の適用の対象学生に適用する。

4. 別表1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表52〉

5. 別表1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表53〉

6. 別表1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表54〉

7. 別表1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表55〉

8. 別表1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表56〉

9. 別表1-(6)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表57〉

10. 別表1-(7)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表58〉

11. 別表1-(8)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表59〉

12. 別表1-(9)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表60〉

13. 第2項に定める別表及び前9項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成11年5月25日 第152回理事会）

1. この学則は、平成12年4月1日から施行する。

2. 第2条第1項の規定にかかわらず、平成12年4月1日から平成16年3月31日までの間、外国語学部・法学部の各年度の入学定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入 学 定 員（収容定員）						
		平成12年 度	平成13年 度	平成14年 度	平成15年 度	平成16年 度	平成17年 度	平成18年 度
外国語学 部	英米語学 科	165人 (730人)	165人 (730人)	160人 (725人)	155人 (715人)	150人 (700人)	150人 (685人)	150人 (675人)

法 学 部	中国語学 科	55人 (220人)	55人 (220人)	55人 (220人)	55人 (220人)	55人 (220人)	55人 (220人)	55人 (220人)
	政治学科	135人 (585人)	125人 (560人)	120人 (530人)	115人 (495人)	110人 (470人)	110人 (455人)	110人 (445人)
	法律学科	145人 (595人)	140人 (585人)	135人 (570人)	130人 (550人)	125人 (530人)	125人 (515人)	125人 (505人)

附 則（平成11年10月26日 第154回理事会）

1. この学則は、平成12年4月1日から施行する。
2. 第9条、第35条及び第58条の別表の適用については、次のとおりとする。  
〈省略表61〉
3. 第11条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、別表1の適用の対象学生に適用する。
4. 別表1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
〈省略表62〉
5. 別表1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
〈省略表63〉
6. 別表1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
〈省略表64〉
7. 別表1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
〈省略表65〉
8. 別表1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
〈省略表66〉
9. 別表1-(6)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
〈省略表67〉
10. 別表1-(7)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
〈省略表68〉
11. 第2項に定める別表及び前7項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成12年7月21日 第161回理事会）

1. この学則は、平成13年4月1日から施行する。
2. この学則の施行により、平成11年5月25日（第152回理事会）改正の附則を廃止する。
3. 第2条第1項の規定にかかわらず、平成13年4月1日から平成16年3月31日までの間の各年度の入学定員及び平成13年4月1日から平成19年3月31日までの間の各年度の収容定員は次のとおりとする。

学 部 学 科	入 学 定 員（収容定員）					
	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
薬 学 部 薬 学 科	140人	140人	140人	140人	140人	140人
	(500人)	(520人)	(540人)	(560人)	(560人)	(560人)
衛生薬学科	140人	140人	140人	140人	140人	140人
	(440人)	(480人)	(520人)	(560人)	(560人)	(560人)
外国語学部 英米語学科	135人	130人	125人	120人	120人	120人
	(700人)	(665人)	(625人)	(580人)	(565人)	(555人)
中国語学科	40人	40人	40人	40人	40人	40人
	(215人)	(210人)	(195人)	(180人)	(180人)	(180人)
法 学 部 政治学科	115人	110人	105人	100人	100人	100人
	(550人)	(510人)	(465人)	(430人)	(415人)	(405人)
法律学科	135人	130人	125人	120人	120人	120人
	(580人)	(560人)	(535人)	(510人)	(495人)	(485人)

附 則（平成13年3月27日 第166回理事会）

1. この学則は、平成13年4月1日から施行する。
2. 第9条、第35条及び第58条の別表の適用については、次のとおりとする。  
〈省略表69〉
3. 第11条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、別表1の適用の対象学生に適用する。
4. 別表1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
〈省略表70〉  
〈省略表71〉  
〈省略表72〉
5. 別表1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
〈省略表73〉
6. 別表1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
〈省略表74〉
7. 別表1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表75〉

8. 別表1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表76〉

9. 第2項に定める別表及び前5項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成14年1月23日 第174回理事会）

1. この学則は、平成15年4月1日から施行する。
2. この学則の施行により、平成12年7月21日（第161回理事会）改正の附則を廃止する。
3. 第2条第1項の規定にかかわらず、平成15年度の入学定員及び平成15年4月1日から平成19年3月31日までの間の各年度の収容定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入 学 定 員（収容定員）			
		平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
薬 学 部	薬 学 科	140人 (540人)	140人 (560人)	140人 (560人)	140人 (560人)
	衛生薬学科	140人 (520人)	140人 (560人)	140人 (560人)	140人 (560人)
外国語学部	英米語学科	125人 (625人)	120人 (580人)	120人 (565人)	120人 (555人)
	中国語学科	40人 (195人)	40人 (180人)	40人 (180人)	40人 (180人)
法 学 部	政治学科	105人 (505人)	100人 (510人)	100人 (495人)	100人 (485人)
	法律学科	125人 (615人)	120人 (670人)	120人 (655人)	120人 (645人)

附 則（平成14年3月27日 第177回理事会）

1. この学則は、平成14年4月1日から施行する。
2. 第9条、第35条及び第58条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表77〉

3. 第11条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、別表1の適用の対象学生に適用する。
4. 別表1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表78〉

〈省略表79〉

〈省略表80〉



5. 別表1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表81〉

〈省略表82〉

〈省略表83〉

6. 別表1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表84〉

7. 別表1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表85〉

8. 別表1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表86〉

9. 別表1-(6)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表87〉

10. 第2項に定める別表及び前6項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成15年6月9日一部改正 第187回理事会）

1. この学則は、平成15年6月9日から施行し、平成15年4月1日から適用する。
2. 第2条第2項及び第4項に定める大学院法務研究科に関する規定は、平成16年4月1日から適用する。

附 則（平成15年9月11日 第188回理事会）

1. この学則は、平成16年4月1日から施行する。
2. 外国語学部及び法学部は、在学生の卒業をもって廃止する。
3. 第17条の規定にかかわらず、外国語学部卒業者には学士（文学）、法学部卒業者には学士（法学）の学位を授与する。
4. 第2条第1項に定める編入学定員は、平成18年4月1日から適用する。
5. この学則の施行により、平成14年1月23日（第174回理事会）改正の附則を廃止する。
6. 第2条第1項の規定にかかわらず、平成16年度及び平成17年度の編入学定員ならびに平成16年度乃至平成18年度の収容定員は次のとおりとする。

○編入学定員

学 部	学 科	平成16年度	平成17年度
外国語学部	英米語学科	35人	35人
	中国語学科	10人	10人
法 学 部	政治学科	40人	40人
	法律学科	80人	80人

○収容定員

学 部	学 科	平成16年度	平成17年度	平成18年度
薬 学 部	薬 学 科	650人	740人	830人
	衛生薬学科	650人	740人	830人
外国語学部	英米語学科	460人	325人	160人
	中国語学科	140人	100人	50人
法 学 部	政治学科	410人	295人	145人
	法律学科	550人	415人	205人
未来創造学部	未来文化創造学科	100人	200人	345人
	未来社会創造学科	100人	200人	420人

7. 第9条及び第35条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表88〉

8. 第11条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、別表1の適用の対象学生に適用する。

9. 別表1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表89〉

〈省略表90〉

10. 別表1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表91〉

11. 別表1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表92〉

12. 別表1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表93〉

13. 別表1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表94〉

14. 別表1-(6)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表95〉

15. 第7項に定める別表及び前6項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

16. 外国語学部及び法学部の学生の教育職員免許状を得るための課程は次のとおりとする。

教育職員免許状を得ようとする者は、教育職員免許法その他の関係法規に定める所定の単位を修得しなければならない。

教育職員免許状の取得に必要な授業科目及び単位数は下表のとおりとし、その履修方法について必要な事項は、別に定める。

本学において取得できる教育職員免許状は、次に掲げるものとする。

〈省略表127〉

[平成12年度以降入学生の適用表]

教育職員免許状取得に関する修得単位数

〈省略表128〉

教職に関する学科目の名称及び単位数

〈省略表129〉

教科に関する学科目の名称及び単位数（英米語学科）

〈省略表130〉

教科に関する学科目の名称及び単位数（中国語学科）

〈省略表131〉

教科に関する学科目の名称及び単位数（政治学科）

〈省略表132〉

〈省略表133〉

〈省略表134〉

教科に関する学科目の名称及び単位数（法律学科）

〈省略表135〉

〈省略表136〉

〈省略表137〉

教育職員免許法施行規則第66条の5に定める科目

〈省略表138〉

[平成11年度以前入学生の適用表（中国語学科）]

教科及び教職に関する学科目の名称ならびに単位数

〈省略表139〉

教科に関する科目及び単位数

〈省略表140〉

[平成11年度以前入学生の適用表（英米語学科、政治学科及び法律学科）]

教科及び教職に関する学科目の名称並びに単位数

〈省略表141〉

教科に関する科目及び単位数（英米語学科）

〈省略表142〉

教科に関する科目及び単位数（政治学科）

〈省略表143〉

教科に関する科目及び単位数（法律学科）

〈省略表144〉

附 則（平成15年12月15日 第190回理事会）

1. この学則は、平成16年4月1日から施行する。
2. この学則の施行により、平成15年6月9日（第187回理事会）改正の附則を廃止する。

附 則（平成16年2月24日 第192回理事会）

1. この学則は、平成16年4月1日から施行する。

2. 第9条の別表の適用については、次のとおりとする。  
 〈省略表96〉
3. 第11条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、別表1の適用の対象学生に適用する。
4. 別表1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
 〈省略表97〉
5. 別表1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
 〈省略表98〉  
 〈省略表99〉
6. 別表1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
 〈省略表100〉
7. 別表1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
 〈省略表101〉
8. 別表1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
 〈省略表102〉
9. 別表1-(6)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。  
 〈省略表103〉
10. 第2項に定める別表及び前6項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成17年3月28日 第200回理事会）

1. この学則は、平成18年4月1日から施行する。
2. 学校教育法改正（平成16年5月21日）に伴い、旧学則に定める修業年限4年の薬学部は平成17年度をもって募集を停止し、在学生の卒業をもってこれを廃止する。
3. この学則の施行により、平成15年9月11日（第188回理事会）改正の附則第6項のうち、平成18年度以降の収容定員につき、次のとおり改訂する。

○収容定員

学 部	学 科	平成18年 度	平成19年 度	平成20年 度	平成21年 度	平成22年 度	平成23年 度
薬学部(新課程)	薬 学 科	306人	612人	918人	1224人	1530人	1836人
薬学部(旧課程)	薬 学 科	600人	460人	230人	—	—	—
	衛生薬学科	600人	460人	230人	—	—	—

未来創造学部	未来文化創造学 科	345人	490人	490人	490人	490人	490人
	未来社会創造学 科	420人	640人	640人	640人	640人	640人
外国語学部	英米語学科	160人	—	—	—	—	—
	中国語学科	50人	—	—	—	—	—
法 学 部	政治学科	145人	—	—	—	—	—
	法律学科	205人	—	—	—	—	—

4. 第9条及び第34条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表104〉

5. 第11条に定める「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、別表1の適用の対象学生に適用する。

6. 別表1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表105〉

〈省略表106〉

7. 別表1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表107〉

8. 別表1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表108〉

〈省略表109〉

9. 別表1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表110〉

10. 別表1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表111〉

11. 別表1-(6)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表112〉

12. 別表1-(7)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表113〉

13. 第4項に定める別表及び前7項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成18年3月24日 第206回理事会）

1. この学則は、平成18年4月1日から施行する。

2. 第34条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表114〉

附 則（平成18年12月13日 第208回理事会）

1. この学則は、平成19年4月1日から施行する。

2. 第8条及び第34条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表115〉

3. 第10条に定める「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は別表1の適用の対象学生に適用する。

4. 別表1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表116〉

5. 別表1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表117〉

〈省略表118〉

6. 別表1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表119〉

7. 別表1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表120〉

〈省略表121〉

8. 第2項に定める別表及び前4項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成19年3月28日 第210回理事会）

1. この学則は、平成19年4月1日から施行する。

2. 第8条及び第34条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表122〉

3. 第10条に定める「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は別表1の適用の対象学生に適用する。

4. 別表1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表123〉

5. 別表1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表124〉

〈省略表125〉

6. 別表1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表126〉

7. 第2項に定める別表及び前4項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成19年7月27日 第213回理事会）

1. この学則は、平成20年4月1日から施行する。
2. 未来文化創造学科及び未来社会創造学科は、在学生の卒業をもって廃止する。
3. 第16条の規定にかかわらず、未来文化創造学科卒業生には学士（文学）、未来社会創造学科卒業生には学士（法学）の学位を授与する。
4. 第2条第1項に定める編入学定員は、平成22年4月1日から適用する。
5. この学則の施行により、平成17年3月28日（第200回理事会）改正の附則第3項を廃止する。
6. 第2条第1項の規定にかかわらず、平成20年度及び平成21年度の編入学定員ならびに平成20年度乃至平成23年度の収容定員は次のとおりとする。

○編入学定員

学 部	学 科	平成20年度	平成21年度
未来創造学部	未来文化創造学科	45人	45人
	未来社会創造学科	120人	120人

○収容定員

学 部	学 科	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
薬学部(新課程)	薬 学 科	918人	1224人	1530人	1836人
薬学部(旧課程)	薬 学 科	230人	—	—	—
	衛 生 薬 学 科	230人	—	—	—
未来創造学部	未来文化創造学科	390人	290人	145人	—
	未来社会創造学科	540人	440人	220人	—
	国 際 教 養 学 科	100人	200人	345人	490人
	国際マネジメント学科	100人	200人	420人	640人

7. 第8条及び第34条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表145〉

8. 第10条に定める「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は別表1の適用の対象学生に適用する。
9. 別表1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表146〉

10. 別表1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表147〉

11. 別表1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表148〉

〈省略表149〉

12. 別表1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表150〉

13. 第7項に定める別表及び前4項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成20年3月27日 第216回理事会）

1. この学則は、平成20年4月1日から施行する。
2. 第8条及び第34条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表151〉

3. 第10条に定める「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は別表1の適用の対象学生に適用する。
4. 別表1-(1)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表152〉

5. 別表1-(2)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表153〉

6. 別表1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表154〉

〈省略表155〉

7. 第2項に定める別表及び前4項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成21年3月25日 第221回理事会）

1. この学則は、平成21年4月1日から施行する。
2. 第8条及び第34条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表156〉

3. 第10条に定める「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は別表1及び別表1-(1)の対象学生に適用する。
4. 別表1-(2)を適用する学生の「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表157〉

5. 別表1-(3)を適用する学生の「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表158〉

6. 別表1-(4)を適用する学生の「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表159〉

〈省略表160〉



7. 第2項に定める別表及び前3項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成22年5月27日 第227回理事会）

1. この学則は、平成22年5月27日から施行し、平成22年4月1日から適用する。
2. 大学院薬学研究科博士前期課程は、在学生の修了をもって廃止し、博士後期課程は、平成23年度入学生が在籍しなくなった年度をもって廃止する。
3. 第2条第3項の規定にかかわらず、大学院薬学研究科の平成22年度から平成25年度までの収容定員は次のとおりとする。

課 程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
博士前期課程	20人	—	—	—
博士後期課程	15人	15人	10人	5人

4. 第8条、第57条及び第34条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表161〉

5. 第10条に定める「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は別表1及び別表1-(1)、別表1-(2)の対象学生に適用する。

6. 別表1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表157〉

7. 別表1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表158〉

8. 別表1-(5)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表159〉

〈省略表160〉

9. 第4項に定める別表及び前3項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成23年3月29日 第230回理事会）

1. この学則は、平成23年4月1日から施行する。
2. 第8条、第34条及び第57条の別表の適用については、次のとおりとする。

〈省略表162〉

3. 第10条に定める「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は別表1及び別表1-(1)、別表1-(2)の対象学生に適用する。

4. 別表1-(3)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表157〉

5. 別表1-(4)を適用する学生の「在学中に修得しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表158〉

6. 別表1-(5)を適用する学生の「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

〈省略表160〉

7. 第2項に定める別表及び前3項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成23年4月22日 第231回理事会）

1. この学則は、平成23年4月22日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

附 則（平成24年3月30日 第235回理事会）

1. この学則は、平成24年4月1日から施行する。

2. 第8条、第34条及び第57条の別表の適用については、次のとおりとする。

		対 象	備 考
第 8 条	別表1	・平成20年度以降の薬学部入学生 ・平成22年度以降の未来創造学部入学生	平成20年4月1日施行 平成22年4月1日適用
	別表1-(1)	・平成21年度以降の未来創造学部入学生	平成21年4月1日施行
	別表1-(2)	・平成20年度以降の未来創造学部入学生	平成20年4月1日施行
	別表1-(3)	・平成18年度以降の薬学部入学生	平成18年4月1日施行
第 34 条	別表2	・平成18年度薬学部入学生以降 ・平成18年度未来創造学部入学生以降	平成18年4月1日施行
第 57 条	別表3	・平成22年度以降の未来創造学部入学生	平成22年4月1日適用
	別表3-(1)	・平成21年度の未来創造学部入学生	平成21年4月1日施行

3. 第10条に定める「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は別表1及び別表1-(1)、別表1-(2)の対象学生に適用する。

4. 別表1-(3)を適用する学生の「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

薬学部			
I 群	必修科目	英 語	8単位
		教養演習科目	2単位
	選択科目	基礎科目	┌   10単位以上 └
		教養演習科目	└
合計20単位以上			
II 群	必修科目	専門科目	112単位
		実習系科目	43単位
	選択科目	専門科目	8単位以上 ┌   13単位以上 └

	コース科目 5単位 ——— 合計168単位以上
合計	188単位以上

5. 第2項に定める別表及び前項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成25年3月15日 第240回理事会）

1. この学則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成26年3月26日 第248回理事会）

1. この学則は、平成26年6月30日から施行する。

2. 第8条、第34条及び第57条の別表の適用については、次のとおりとする。

		対 象	備 考
第8条	別表1	・平成20年度以降の薬学部入学生 ・平成22年度以降の未来創造学部入学生	平成20年4月1日施行 平成22年4月1日適用
	別表1-(1)	・平成21年度以降の未来創造学部入学生	平成21年4月1日施行
	別表1-(2)	・平成18年度以降の薬学部入学生	平成18年4月1日施行
第34条	別表2	・平成18年度薬学部入学生以降 ・平成18年度未来創造学部入学生以降	平成18年4月1日施行
第57条	別表3	・平成22年度以降の未来創造学部入学生	平成22年4月1日適用

3. 第2項に定める別表は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成27年3月18日改正平成26年度第17回全学教授会、平成27年3月25日第252回理事会）

1. この学則は、平成27年4月1日から施行する。

2. 第8条、第34条及び第57条の別表の適用については、次のとおりとする。

		対 象	備 考
第8条	<a href="#">別表1</a>	・平成27年度以降の薬学部入学生	平成27年4月1日施行
		・平成27年度以降の未来創造学部入学生	
	<a href="#">別表1-(1)</a>	・平成20年度以降の薬学部入学生	平成20年4月1日施行
		・平成22年度以降の未来創造学部入学生	平成22年4月1日適用
		・平成27年度以降入学の未来創造学部編入留学生	平成27年4月1日施行
<a href="#">別表1-(2)</a>	・平成18年度以降の薬学部入学生	平成18年4月1日施行	

第34条	別表2	・平成18年度以降の薬学部入学生	平成18年4月1日施行
		・平成18年度以降の未来創造学部入学生	
第57条	別表3	・平成27年度以降の未来創造学部入学生	平成27年4月1日施行
	別表3-(1)	・平成22年度以降の未来創造学部入学生	平成22年4月1日適用

3. 第10条に定める「在学中に履修しなかなければならない学科目及び単位数」は別表1の対象学生に適用する。

4. 別表1-(1)及び別表1-(2)を適用する学生の「在学中に履修しなかなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

薬学部			
I 群	必修科目	英 語	8単位
		教養演習科目	2単位
	選択科目	基礎科目	┌   10単位以上 └
		教養演習科目	└
合計20単位以上			
II 群	必修科目	専門科目	112単位
		実習系科目	43単位
	選択科目	専門科目	8単位以上 ┌   13単位以上
		コース科目	5単位 ───┐
合計168単位以上			
合計	188単位以上		
未来創造学部			
国際教養学科		国際マネジメント学科	
外国語科目	(※28単位まで語学専修科目群に含めることができる。)	外国語科目	英語 28単位 中国語 22単位 日本語 28単位
基礎教育科目群	健康科目 4単位以上 未来創造科目 4単位 演習科目 16単位 合計24単位以上	基礎教育科目	健康科目 4単位以上 演習科目 16単位 未来創造科目 4単位 情報科目 2単位 合計26単位以上

語学専修科目群	専修英語科目又は専修中国語科目から50単位以上 (ただし、28単位までは外国語科目で替えることができる。)	群	
国際教養科目群	40単位以上	国際マネジメント科目群	必修 10単位 選択 50単位以上 合計 60単位以上
国際マネジメント科目群	14単位以上	国際教養科目群	14単位以上
合計	128単位以上	合計	128単位以上

5. 第2項に定める別表及び第4項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則（平成28年2月26日 第258回理事会）

1. この学則は、平成29年4月1日から施行する。
2. 未来創造学部国際教養学科は、学生募集を停止し、在学生の卒業を持って廃止する。
3. 未来創造学部国際マネジメント学科は、平成29年4月1日から経済経営学部マネジメント学科に名称を変更する。未来創造学部国際マネジメント学科は、変更後の学則の規定にかかわらず、当

該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間、存続するものとする。

4. 第2条第1項に定める国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科及び経済経営学部マネジメント学科の編入学定員は平成31年4月1日から適用する。

5. 第2条第1項の規定にかかわらず、平成29年度及び平成30年度の未来創造学部の編入学定員並びに平成29年度からの平成34年度までの収容定員は次のとおりとする。

編入学定員	学部	学科	平成29年度	平成30年度
120人	未来創造学部	国際教養学科	45人	45人
		国際マネジメント学科		120人

○収容定員

学部	学科	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
薬学部	薬学科	1750人	1664人	1578人	1492人	1406人	1320人
未来創造学部	国際教養学科	390人	290人	145人	—	—	—
	国際マネジメント学科	540人	440人	220人	—	—	—
経済経営学部	マネジメント学科	200人	400人	723人	1046人	1046人	1046人
国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学科	80人	160人	260人	360人	360人	360人
医療保健学部	医療技術学科	60人	120人	180人	240人	240人	240人

6. 第2条の2の規定にかかわらず、未来創造学部国際教養学科、国際マネジメント学科の人材養成の目的はつぎのとおりとする。

未来創造学部	グローバルな視野と異文化への深い理解、高いコミュニケーション力により、世界の人々と自由闊達に意見交換し、現代社会に生起するさまざまな課題に的確に対応し、あるべき未来を自ら創造できる人間力あふれる人材を養成する。
国際教養学科	英語又は中国語のコミュニケーション力を身につけ、国際感覚と豊かな教養を備えた、地域社会と国際社会で活躍できる人材を養成する。
国際マネジメント学科	国際的な視野での実務的マネジメント力を身につけ、かつ幅広い知識と教養及び外国語コミュニケーション力を備えた、地域社会と国際社会で活躍できる人材を養成する。

7. 第14条第1項及び第2項の規定にかかわらず、未来創造学部の修業年限は4年とし、在学期間は8年をこえないものとする。

8. 第16条の規定にかかわらず、未来創造学部国際教養学科卒業生には学士（文学）、未来創造学部国際マネジメント学科の卒業生には学士（マネジメント学）の学位を授与する。

9. 第58条の規定にかかわらず、未来創造学部国際教養学科及び国際マネジメント学科において取得できる教育職員免許状は次のとおりとする。

学部	学科	免許状の種類	免許教科

未来創造学部	国際教養学科	中学校教諭 1種免許状	英 語
		高等学校教諭 1種免許状	
	国際マネジメント学科	中学校教諭 1種免許状	社会、保健体育
		高等学校教諭 1種免許状	地理歴史、公民、保健体育

10. 第8条、第34条及び第57条の別表の適用について、次のとおりとする。

		対 象	備 考
第 8 条	別表 1	・平成27年度以降の薬学部入学生	平成27年4月1日施行
		・平成27年度以降の未来創造学入学生	
		・平成29年度以降の経済経営学部入学生	平成29年4月1日施行
		・平成29年度以降の国際コミュニケーション学部入学生	
		・平成29年度以降の医療保健学部入学生	
	別表 1-(1)	・平成20年度以降の薬学部入学生	平成20年4月1日施行
		・平成22年度以降の未来創造学部入学生	平成22年4月1日適用
		・平成27年度以降入学の未来創造学部編入留学生	平成27年4月1日施行
別表1-(2)	・平成18年度以降の薬学部入学生	平成18年4月1日施行	
第 38 条	別表2	・平成29年度以降の薬学部入学生	平成29年4月1日施行
		・平成29年度以降の経済経営学部入学生	
		・平成29年度以降の国際コミュニケーション学部入学生	
		・平成29年度以降の医療保健学部入学生	
	別表2-(1)	・平成18年度以降の薬学部入学生	平成18年4月1日施行
		・平成18年度以降の未来創造学部入学生	
第 57 条	別表3	・平成27年度以降の未来創造学部入学生	平成27年4月1日施行
		・平成29年度以降の国際コミュニケーション学部入学生	平成29年4月1日施行
		・平成29年度以降の経済経営学部入学生	平成29年4月1日施行
	別表3-(1)	・平成22年度以降の未来創造学部入学生	平成22年4月1日適用

11. 第10条に定める「在籍中に履修しなければならない学科目及び単位数」は別表1の対象学生に適用する。

12. 別表1-(1)及び別表1-(2)を適用する学生の「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

薬学部			
I 群	必修科目	英 語	8単位
		教養演習科目	2単位

	選択科目 基礎科目 教養演習科目	10単位以上 合計20単位以上
Ⅱ群	必修科目 専門科目 実習系科目 選択科目 専門科目 コース科目	112単位 43単位 8単位以上 13単位以上 5単位 合計168単位以上
合計		188単位以上

未来創造学部			
国際教養学科		国際マネジメント学科	
外国語科目	(※28単位まで語学専修科目群に含めることができる。)	外国語科目	英語 28単位 中国語 22単位 日本語 28単位
基礎教育科目群	健康科目 4単位以上 未来創造科目 4単位 演習科目 16単位 合計24単位以上	基礎教育科目群	健康科目 4単位以上 演習科目 16単位 未来創造科目 4単位 情報科目 2単位 合計26単位以上
語学専修科目群	専修英語科目又は専修中国語科目から50単位以上 (ただし、28単位までは外国語科目で替えることができる。)		
国際教養科目群	40単位以上	国際マネジメント科目群	必修 10単位 選択 50単位以上 合計 60単位以上
国際マネジメント科目群	14単位以上	国際教養科目群	14単位以上
合計	128単位以上	合計	128単位以上

13. 第10項に定める別表及び第12項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則 (改正 平成29年2月22日 第13回全学教授会 平成28年3月22日 第264回理事会決定)

1. この学則は、平成29年4月1日から施行する。



2. 第8条、第34条及び第57条の別表の適用については、次のとおりとする。

	対 象	備 考	
第 8 条	別表1	・平成27年度以降の薬学部入学生	平成29年4月1日施行
		・平成29年度以降の経済経営学部入学生	
		・平成29年度以降の国際コミュニケーション学部入学生	
		・平成29年度以降の医療保健学部入学生	
		・平成29年度及び平成30年度の未来創造学部編入学生	
	別表1-(1)	・平成20年度から平成26年度の薬学部入学生	平成20年4月1日施行
		・平成27年度及び平成28年度の未来創造学部入学生	平成27年4月1日施行
・平成27年度及び平成28年度の未来創造学部編入留学生			
別表1-(2)	・平成18年度及び平成19年度の薬学部入学生	平成18年4月1日施行	
	・平成22年度から平成26年度の未来創造学部入学生	平成22年4月1日適用	
第 34 条	別表2	・平成29年度以降の薬学部入学生	平成29年4月1日施行
		・平成29年度以降の経済経営学部入学生	
		・平成29年度以降の国際コミュニケーション学部入学生	
		・平成29年度以降の医療保健学部入学生	
	別表2-(1)	・平成18年度から平成28年度の薬学部入学生	平成18年4月1日施行
・平成18年度から平成28年度の未来創造学部入学生			
第 57 条	別表3	・平成29年度以降の経済経営学部入学生	平成29年4月1日施行
		・平成29年度以降の国際コミュニケーション学部入学生	平成29年4月1日施行
	別表3-(1)	・平成27年度及び平成28年度の未来創造学部入学生	平成27年4月1日施行
	別表3-(2)	・平成22年度から平成26年度の未来創造学部入学生	平成22年4月1日適用

3. 第10条に定める「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は別表1の対象学生に適用する。

4. 別表1-(1)に適用する学生の「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

薬学部			
I 群	必修科目	英 語	8単位
		教養演習科目	2単位
	選択科目	基 礎 科 目	┌ 10単位以上 └
		教養演習科目	
合計20単位以上			
II 群	必修科目	専 門 科 目	112単位
		実習系科目	43単位

	選択科目	専門科目	8単位以上		
					13単位以上
		コース科目	5単位		
					合計168単位以上
合計					188単位以上

未来創造学部					
国際教養学科			国際マネジメント学科		
外国語科目	英語	22単位以上	外国語科目	英語	12単位以上
※いずれかの	日本語	22単位以上	※いずれかの	日本語	12単位以上
言語を選択	中国語	22単位以上	言語を選択	中国語	12単位以上
基礎教育 科目群	健康科目	2単位以上	基礎教育 科目群	健康科目	2単位以上
	未来創造科目	4単位		未来創造科目	4単位
	演習科目	16単位		演習科目	16単位
	情報科目	2単位以上		情報科目	2単位以上
	一般教養科目	4単位以上		一般教養科目	4単位以上
	合計	28単位以上		合計	28単位以上
	※キャリア科目の一部、シティカレッジ科目、留学科目は卒業要件修得単位数に算入する。			※キャリア科目の一部、シティカレッジ科目、留学科目は卒業要件修得単位数に算入する。	
国際教養 科目群	必修	10単位	国際マネジメ ント科目群	必修	10単位
	選択	40単位以上		選択	50単位以上
	合計	50単位以上		合計	60単位以上
国際マネジメ ント科目群	卒業要件修得単位数に算入する。		国際教養 科 目群	卒業要件修得単位数に算入する。	
—	—		スポーツ専門 実技科目群	教職科目	9単位
				サッカー指定科目	14単位
				※卒業要件修得単位数に算入する	
合計	128単位以上		合計	128単位以上	

5. 別表1-(2)に適用する学生の「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

薬学部					
I 群	必修科目	英語	8単位		
		教養演習科目	2単位		
	選択科目	基礎科目、教養演習科目	10単位以上		
		合計	20単位以上		

Ⅱ群	必修科目	専 門 科 目	112単位
		実習系科目	43単位
	選択科目	専 門 科 目	8単位以上
		コ ー ス 科 目	5単位
			合計168単位以上
合計	188単位以上		

未来創造学部			
国際マネジメント学科		国際教養学科	
外国語科目	英 語	28単位	外国語科目 (※28単位まで語学専修科目群に含めることができる。)
	中国語	22単位	
	日本語	28単位	
基礎教育科目群	健康科目	4単位以上	基礎教育科目群 健康科目 4単位上 未来創造科目 4単位 演習科目 16単位 合計 24単位以上
	演習科目	16単位	
	未来創造科目	4単位	
	情報科目	2単位以上	語学専修科目群 専修英語科目又は専修中国語科目から50単位以上(ただし、28単位までは外国語科目で替えることができる)
	合計	26単位以上	
国際マネジメント科目群	必修	10単位	国際教養科目群 40単位以上
	選択	50単位以上	
	合計	60単位以上	
国際教養科目群		14単位以上	国際マネジメント科目群 14単位以上
合計		128単位以上	合計 128単位以上

6. 第2項に定める別表及び第4項及び第5項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則 (改正 平成30年2月21日平成29年度第13回全学教授会 平成30年3月23日第271回理事会 平成30年3月28日理事長決定)

1. この学則は、平成30年4月1日から施行する。
2. 第35条第2項は、平成29年4月1日以降に在籍する全学生に適用する。

附 則 (改正 平成30年2月21日第13回全学教授会 平成30年3月23日第271回理事会 決定)

- この学則は、平成31年4月1日から施行する。
- 第2条第1項の規定にかかわらず、平成31年度から平成36年度までの収容定員は次のとおりとする。

○収容定員

学部	学科	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	平成 36 年度
薬学部	薬学科	1558 人	1452 人	1346 人	1240 人	1220 人	1200 人
未来創造学部	国際教養学科	145人	—	—	—	—	—
	国際マネジメント学科	220人	—	—	—	—	—
経済経営学部	マネジメント学科	753人	1106 人	1136 人	1166 人	1166 人	1166 人
国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学科	260人	360人	360人	360人	360人	360人
医療保健学部	医療技術学科	180人	240人	240人	240人	240人	240人

- 第2条の2の規定にかかわらず、平成29年度及び平成30年度の経済経営学部マネジメント学科入学生の人材養成の目的は次のとおりとする。

経済経営学部

グローバルな視野と異文化への深い理解、高いコミュニケーション力により、世界の人々と自由闊達に意見交換し、現代社会に生起するさまざまな課題に的確に対応し、あるべき未来を自ら創造できる人間力あふれる人材を養成する。

マネジメント学科

国際的な視野での実務的マネジメント力を身につけ、かつ幅広い知識と教養及び外国語コミュニケーション力を備えた、地域社会と国際社会で活躍できる人材を養成する。

- 第58条の規定にかかわらず、平成29年度及び平成30年度の経済経営学部マネジメント学科入学生が取得できる教育職員免許状は次のとおりとする。

学部	学科	免許状の種類	免許教科
経済経営学部	マネジメント学科	中学校教諭1種免許状	社会、保健体育
		高等学校教諭1種免許状	地理歴史、公民、保健体育

- 第8条、第34条及び第57条の別表の適用については、次のとおりとする。

	対 象	備 考
第別表1	・2019年度以降の経済経営学部入学生	2019年4月1日施行

8 条		・2019年度以降の国際コミュニケーション学部入学生	
		・平成27年度以降の薬学部入学生	平成27年4月1日施行
		・平成29年度以降の医療保健学部入学生	平成29年4月1日施行
		・平成29年度及び平成30年度の未来創造学部編入留学生	
	別表1- (1)	・平成29年度及び平成30年度の経済経営学部入学生	平成29年4月1日施行
		・平成29年度及び平成30年度の国際コミュニケーション学部入学生	
		・平成20年度から平成26年度の薬学部入学生	平成20年4月1日施行
		・平成27年度及び平成28年度の未来創造学部入学生	平成27年4月1日施行
		・平成27年度及び平成28年度の未来創造学部編入留学生	
	別表1- (2)	・平成18年度及び平成19年度の薬学部入学生	平成18年4月1日施行
・平成22年度から平成26年度の未来創造学部入学生		平成22年4月1日施行	
第 34 条	別表2	・平成29年度以降の薬学部入学生	平成29年4月1日施行
		・平成29年度以降の経済経営学部入学生	
		・平成29年度以降の国際コミュニケーション学部入学生	
		・平成29年度以降の医療保健学部入学生	
別表2- (1)	・平成18年度から平成28年度の薬学部入学生	平成18年4月1日施行	
	・平成18年度から平成28年度の未来創造学部入学生		
第 57 条	別表3	・2019年度以降の経済経営学部入学生	2019年4月1日施行
		・2019年度以降の国際コミュニケーション学部入学生	
	別表3- (1)	・平成29年度及び平成30年度の経済経営学部入学生	平成29年4月1日施行
		・平成29年度及び平成30年度の国際コミュニケーション学部入学生	
別表3- (2)	・平成27年度及び平成28年度の未来創造学部入学生	平成27年4月1日施行	

6. 第10条に定める「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は別表1の対象学生に適用する。

7. 別表1- (1) を適用する学生の「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

経済経営学部 マネジメント学科		
外国語科目	英語	12単位以上

※いずれかの言語を選択	日本語	12単位以上
	中国語	12単位以上
基礎教育科目群	健康科目	2単位以上
	未来創造科目	4単位
	演習科目	16単位
	情報科目	2単位以上
	一般教養科目	4単位以上
	合計 28単位以上	
	※キャリア科目の一部、シティカレッジ科目、留学科目は卒業単要件修得単位数に算入する。	
国際マネジメント 科目群	必修	10単位
	選択	50単位以上
	合計 60単位以上	
国際教養科目群	卒業要件修得単位数に算入する。	
スポーツ専門実技 科目群	教職科目	9単位
	サッカー指定科目	14単位
	※卒業要件修得単位数に算入する	
合計	128単位以上	

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科		
専門教育科目	基礎科目	8単位
	語学科目	40単位以上（必修20単位含む）
	言語理解科目	40単位以上
	日本・国際理解科目	※言語理解科目から4単位以上かつ、日本・国際理解科目から必修2単位を除く4単位以上修得する。
	専門演習科目	12単位 ※海外留学A～Dを修得した当該期間中の専門演習科目の単位修得は免除する。
	海外留学科目	※海外留学A～Dを修得した場合は当該学期中の専門演習科目の単位修得を免除し、修得した単位を卒業要件修得単位とする。
		計100単位以上
一般教育科目		8単位以上（必修4単位含む）
キャリア科目		4単位以上（必修2単位含む）
合計		124単位以上

※教職に関する科目に開講される「英語科教育法Ⅰ～Ⅳ」8単位を上限に含めることができる。

薬学部	
Ⅰ群	必修科目 英語 8単位 教養演習科目 2単位
	選択科目 基礎科目 7 教養演習科目 3   10単位以上 合計20単位以上
Ⅱ群	必修科目 専門科目 112単位 実習系科目 43単位
	選択科目 専門科目 8単位以上 7 13単位以上 コース科目 5単位 1 合計168単位以上
合計	188単位以上

未来創造学部			
国際教養学科		国際マネジメント学科	
外国語科目	英語 22単位以上	外国語科目	英語 12単位以上
※いずれかの 言語を選択	日本語 22単位以上 中国語 22単位以上	※いずれかの 言語を選択	日本語 12単位以上 中国語 12単位以上
基礎教育 科目群	健康科目 2単位以上 未来創造科目 4単位 演習科目 16単位 情報科目 2単位以上 一般教養科目 4単位以上 合計 28単位以上 ※キャリア科目の一部、シティカ レッジ科目、留学科目は卒業要件 修得単位数に算入する。	基礎教育 科目群	健康科目 2単位以上 未来創造科目 4単位 演習科目 16単位 情報科目 2単位以上 一般教養科目 4単位以上 合計 28単位以上 ※キャリア科目の一部、シティカ レッジ科目、留学科目は卒業要件 修得単位数に算入する。
	国際教養 科目群		必修 10単位 選択 40単位以上 合計 50単位以上
国際マネジメ ント科目群	卒業要件修得単位数に算入する。	国際教養 科 目群	卒業要件修得単位数に算入する。
—	—	スポーツ専門 実技科目群	教職科目 9単位 サッカー指定科目 14単位

			※卒業要件修得単位数に算入する
合計	128単位以上	合計	128単位以上

8. 別表1-(2)を適用する学生の「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

薬学部	
I群	必修科目 英語 8単位 教養演習科目 2単位 選択科目 基礎科目 7   10単位以上 教養演習科目 1  合計20単位以上
II群	必修科目 専門科目 112単位 実習系科目 43単位 選択科目 専門科目 8単位以上 7   13単位以上 コース科目 5単位 1  合計168単位以上
合計	188単位以上

未来創造学部					
国際教養学科			国際マネジメント学科		
外国語科目 ※いずれかの言語を選択	英語	22単位以上	外国語科目 ※いずれかの言語を選択	英語	12単位以上
	日本語	22単位以上		日本語	12単位以上
	中国語	22単位以上		中国語	12単位以上
基礎教育 科目群	健康科目	2単位以上	基礎教育 科目群	健康科目	2単位以上
	未来創造科目	4単位		未来創造科目	4単位
	演習科目	16単位		演習科目	16単位
	情報科目	2単位以上		情報科目	2単位以上
	一般教養科目	4単位以上		一般教養科目	4単位以上
	合計 28単位以上			合計 28単位以上	
	※キャリア科目の一部、シティカレッジ科目、留学科目は卒業単要件修得単位数に算入する。			※キャリア科目の一部、シティカレッジ科目、留学科目は卒業単要件修得単位数に算入する。	
国際教養科目群	必修	10単位	国際マネジメント科目群	必修	10単位
	選択	40単位以上		選択	50単位以上



	合計 50単位以上		合計 60単位以上	
国際マネジメント科目群	卒業要件修得単位数に算入する。	国際教養科目群	卒業要件修得単位数に算入する。	
—	—	スポーツ専門実技科目群	教職科目 サッカー指定科目	9単位 14単位
			※卒業要件修得単位数に算入する。	
合計	128単位以上	合計	128単位以上	

9. 第4項に定める別表及び第7項乃至第8項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則 (改正 2018 (平成30) 年7月31日第5回全学教授会 2018年9月19日第273回理事会決定)

- この学則は、2019年4月1日から施行する。
- 第8条、第34条及び第57条の別表の適用については、次のとおりとする。

	対 象	備 考	
第8条	別表1	・2019年度以降の薬学部入学生	2019年4月1日施行
		・2019年度以降の経済経営学部入学生	
		・2019年度以降の国際コミュニケーション学部入学生	
	別表1-	・平成29年度以降の医療保健学部入学生	平成29年4月1日施行
		・平成29年度及び平成30年度の未来創造学部編入留学生	
	別表1-(1)	・平成27年度以降の薬学部入学生	平成27年4月1日施行
		・平成29年度及び平成30年度の経済経営学部入学生	平成29年4月1日施行
		・平成29年度及び平成30年度の国際コミュニケーション学部入学生	
		・平成27年度及び平成28年度の未来創造学部入学生	平成27年4月1日施行
		・平成27年度及び平成28年度の未来創造学部編入留学生	
	別表1-(2)	・平成20年度から平成26年度の薬学部入学生	平成20年4月1日施行
		・平成22年度から平成26年度の未来創造学部入学生	平成22年4月1日施行
別表1-(3)	・平成18年度及び平成19年度の薬学部入学生	平成18年4月1日施行	

第 34 条	別表2	・平成29年度以降の薬学部入学生	平成29年4月1日施行
		・平成29年度以降の経済経営学部入学生	
		・平成29年度以降の国際コミュニケーション学部入学生	
		・平成29年度以降の医療保健学部入学生	
別表2- (1)	・平成18年度から平成28年度の薬学部入学生	平成18年4月1日施行	
	・平成18年度から平成28年度の未来創造学部入学生		
別表3	・2019年度以降の経済経営学部入学生	2019年4月1日施行	
	・2019年度以降の国際コミュニケーション学部入学生		
第 57 条	別表3- (1)	・平成29年度及び平成30年度の経済経営学部入学生	平成29年4月1日施行
		・平成29年度及び平成30年度の国際コミュニケーション学部入学生	
	別表3- (2)	・平成27年度及び平成28年度の未来創造学部入学生	平成27年4月1日施行

3. 第10条に定める「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は別表1の対象学生に適用する。

4. 別表1- (1) を適用する学生の「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

薬学部		
I 群	【必修科目】 総合教養教育科目（語学・運動）	5単位
	薬学準備教育、実習系科目	10単位
		計15単位
II 群	【必修科目】 薬学専門教育科目	113単位
	実習系科目	44.5単位
	アドバンスト教育専門コース演習科目	5単位
		計162.5単位
I・II 群	【選択科目】 総合教養教育科目・1～3年次薬学専門教育科目	8単位以上
	4年次薬学専門教育科目	4単位以上
		計12単位以上
合計	189.5単位以上	

経済経営学部 マネジメント学科		
外国語科目	英語	12単位以上

※いずれかの言語を選択	日本語	12単位以上
	中国語	12単位以上
基礎教育科目群	健康科目	2単位以上
	未来創造科目	4単位
	演習科目	16単位
	情報科目	2単位以上
	一般教養科目	4単位以上
	合計 28単位以上	
	※キャリア科目の一部、シティカレッジ科目、留学科目は卒業単要件修得単位数に算入する。	
国際マネジメント 科目群	必修	10単位
	選択	50単位以上
	合計 60単位以上	
国際教養科目群	卒業要件修得単位数に算入する。	
スポーツ専門実技 科目群	教職科目	9単位
	サッカー指定科目	14単位
	※卒業要件修得単位数に算入する	
合計	128単位以上	

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科		
専門教育科目	基礎科目	8単位
	語学科目	40単位以上（必修20単位含む）
	言語理解科目	40単位以上
	日本・国際理解科目	※言語理解科目から4単位以上かつ、日本・国際理解科目から必修2単位を除く4単位以上修得する。
	専門演習科目	12単位 ※海外留学A～Dを修得した当該期間中の専門演習科目の単位修得は免除する。
	海外留学科目	※海外留学A～Dを修得した場合は当該学期中の専門演習科目の単位修得を免除し、修得した単位を卒業要件修得単位とする。
	計100単位以上	
一般教育科目	8単位以上（必修4単位含む）	
キャリア科目	4単位以上（必修2単位含む）	
合計	124単位以上	

※教職に関する科目に開講される「英語科教育法Ⅰ～Ⅳ」8単位を上限に含めることができる。

未来創造学部			
国際教養学科		国際マネジメント学科	
外国語科目 ※いずれかの 言語を選択	英語 22単位以上 日本語 22単位以上 中国語 22単位以上	外国語科目 ※いずれかの 言語を選択	英語 12単位以上 日本語 12単位以上 中国語 12単位以上
基礎教育 科目群	健康科目 2単位以上 未来創造科目 4単位 演習科目 16単位 情報科目 2単位以上 一般教養科目 4単位以上 合計 28単位以上 ※キャリア科目の一部、シティカ レッジ科目、留学科目は卒業要件 修得単位数に算入する。	基礎教育 科目群	健康科目 2単位以上 未来創造科目 4単位 演習科目 16単位 情報科目 2単位以上 一般教養科目 4単位以上 合計 28単位以上 ※キャリア科目の一部、シティカ レッジ科目、留学科目は卒業要件 修得単位数に算入する。
国際教養 科目群	必修 10単位 選択 40単位以上 合計 50単位以上	国際マネジメ ント科目群	必修 10単位 選択 50単位以上 合計 60単位以上
国際マネジメ ント科目群	卒業要件修得単位数に算入する。	国際教養 科 目群	卒業要件修得単位数に算入する。
—	—	スポーツ専門 実技科目群	教職科目 9単位 サッカー指定科目 14単位 ※卒業要件修得単位数に算入する
合計	128単位以上	合計	128単位以上

5. 別表1- (2) を適用する学生の「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

薬学部			
I 群	必修科目	英 語	8単位
		教養演習科目	2単位
I 群	選択科目	基礎科目 ㄱ	10単位以上
		教養演習科目 ㄴ	
			合計20単位以上
II 群	必修科目	専門科目	112単位
		実習系科目	43単位

	選択科目 13単位以上 専門科目 8単位以上 コース科目 5単位以上 合計168単位以上
合計	188単位以上

未来創造学部			
国際マネジメント学科		国際教養学科	
外国語科目	英語 28単位 中国語 22単位 日本語 28単位	外国語科目	(※28単位まで語学専修科目群に含めることができる。)
基礎教育科目群	健康科目 4単位以上 演習科目 16単位 未来創造科目 4単位 情報科目 2単位以上 合計 26単位以上	基礎教育科目群	健康科目 4単位上 未来創造科目 4単位 演習科目 16単位 合計 24単位以上
		語学専修科目群	専修英語科目又は専修中国語科目から50単位以上（ただし、28単位までは外国語科目で替えることができる）
国際マネジメント科目群	必修 10単位 選択 50単位以上 合計 60単位以上	国際教養科目群	40単位以上
国際教養科目群	14単位以上	国際マネジメント科目群	14単位以上
合計	128単位以上	合計	128単位以上

6. 別表1-(3)を適用する学生の「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

薬学部			
I 群	必修科目	英語	8単位
	教養演習科目		2単位
	選択科目	基礎科目、教養演習科目	10単位以上
			合計20単位以上
II 群	必修科目	専門科目	112単位

	実習系科目 43単位 選択科目 専門科目 8単位以上 コース科目 5単位  合計168単位以上
合計	188単位以上

7. 第2項に定める別表及び第4項乃至第6項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則 (改正 2019(平成31)年2月8日第10回全学教授会 2019年3月26日第276回理事会決定)

- この学則は、2019年4月1日から施行する。
- 第8条、第34条及び第57条の別表の適用については、次のとおりとする。

	対 象	備 考	
第 8 条	別表1	・2019年度以降の薬学部入学生	2019年4月1日施行
		・2019年度以降の経済経営学部入学生	
		・2019年度以降の国際コミュニケーション学部入学生	
		・2019年度及び2020年度の経済経営学部マネジメント学科編入学生	
		・平成29年度以降の医療保健学部入学生	平成29年4月1日施行
	別表1- (1)	・平成27年度以降の薬学部入学生	平成27年4月1日施行
		・平成29年度及び平成30年度の経済経営学部入学生	平成29年4月1日施行
		・平成29年度及び平成30年度の国際コミュニケーション学部入学生	
		・平成29年度及び平成30年度の未来創造学部編入留学生	
		・平成27年度及び平成28年度の未来創造学部入学生	平成27年4月1日施行
別表1- (2)	・平成20年度から平成26年度の薬学部入学生	平成20年4月1日施行	
	・平成22年度から平成26年度の未来創造学部入学生	平成22年4月1日施行	
	・平成27年度及び平成28年度の未来創造学部編入留学生	平成27年4月1日施行	
第 34	別表2	・平成29年度以降の薬学部入学生	平成29年4月1日施行
	・平成29年度以降の経済経営学部入学生		

条		・平成29年度以降の国際コミュニケーション学部入学生	
		・平成29年度以降の医療保健学部入学生	
別表2-	(1)	・平成18年度から平成28年度の薬学部入学生	平成18年4月1日施行
		・平成18年度から平成28年度の未来創造学部入学生	
別表3		・2019年度以降の経済経営学部入学生	2019年4月1日施行
		・2019年度以降の国際コミュニケーション学部入学生	
第57条	別表3-(1)	・平成29年度及び平成30年度の経済経営学部入学生	平成29年4月1日施行
		・平成29年度及び平成30年度の国際コミュニケーション学部入学生	
別表3-(2)		・平成27年度及び平成28年度の未来創造学部入学生	平成27年4月1日施行

3. 第10条に定める「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は別表1の対象学生に適用する。

4. 別表1-(1)を適用する学生の「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

薬学部		
I 群	【必修科目】	
	総合教養教育科目（語学・運動）	5単位
	薬学準備教育、実習系科目	10単位
		計15単位
II 群	【必修科目】	
	薬学専門教育科目	113単位
	実習系科目	44.5単位
	アドバンスト教育専門コース演習科目	5単位
		計162.5単位
I・II 群	【選択科目】	
	総合教養教育科目・1～3年次薬学専門教育科目	8単位以上
	4年次薬学専門教育科目	4単位以上
		計12単位以上
合計		189.5単位以上

経済経営学部 マネジメント学科		
外国語科目 ※いずれかの言語を選択	英語	12単位以上
	日本語	12単位以上
	中国語	12単位以上

基礎教育科目群	健康科目	2単位以上
	未来創造科目	4単位
	演習科目	16単位
	情報科目	2単位以上
	一般教養科目	4単位以上
		合計 28単位以上
※キャリア科目の一部、シティカレッジ科目、留学科目は卒業単要件修得単位数に算入する。		
国際マネジメント 科目群	必修	10単位
	選択	50単位以上
		合計 60単位以上
国際教養科目群	卒業単要件修得単位数に算入する。	
スポーツ専門実技 科目群	教職科目	9単位
	サッカー指定科目	14単位
		※卒業単要件修得単位数に算入する
合計	128単位以上	

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科		
専門教育科目	基礎科目	8単位
	語学科目	40単位以上 (必修20単位含む)
	言語理解科目	40単位以上
	日本・国際理解科目	※言語理解科目から4単位以上かつ、日本・国際理解科目から必修2単位を除く4単位以上修得する。
	専門演習科目	12単位 ※海外留学A～Dを修得した当該期間中の専門演習科目の単位修得は免除する。
	海外留学科目	※海外留学A～Dを修得した場合は当該学期中の専門演習科目の単位修得を免除し、修得した単位を卒業単要件修得単位とする。
		計100単位以上
一般教育科目		8単位以上 (必修4単位含む)
キャリア科目		4単位以上 (必修2単位含む)
合計		124単位以上 ※教職に関する科目に開講される「英語科教育法Ⅰ～Ⅳ」8単位を上限に含めることができる。



未来創造学部			
国際教養学科		国際マネジメント学科	
外国語科目 ※いずれかの 言語を選択	英語 22単位以上 日本語 22単位以上 中国語 22単位以上	外国語科目 ※いずれかの 言語を選択	英語 12単位以上 日本語 12単位以上 中国語 12単位以上
基礎教育 科目群	健康科目 2単位以上 未来創造科目 4単位 演習科目 16単位 情報科目 2単位以上 一般教養科目 4単位以上 合計 28単位以上 ※キャリア科目の一部、シティカ レッジ科目、留学科目は卒業要件 修得単位数に算入する。	基礎教育 科目群	健康科目 2単位以上 未来創造科目 4単位 演習科目 16単位 情報科目 2単位以上 一般教養科目 4単位以上 合計 28単位以上 ※キャリア科目の一部、シティカ レッジ科目、留学科目は卒業要件 修得単位数に算入する。
国際教養 科目群	必修 10単位 選択 40単位以上 合計 50単位以上	国際マネジメ ント科目群	必修 10単位 選択 50単位以上 合計 60単位以上
国際マネジメ ント科目群	卒業要件修得単位数に算入する。	国際教養 科 目群	卒業要件修得単位数に算入する。
—	—	スポーツ専門 実技科目群	教職科目 9単位 サッカー指定科目 14単位 ※卒業要件修得単位数に算入する
合計	128単位以上	合計	128単位以上

5. 別表1-(2)を適用する学生の「在学中に履修しなければならない学科目及び単位数」は、次のとおりとする。

薬学部			
I 群	必修科目	英 語	8単位
		教養演習科目	2単位
	選択科目	基礎科目 ㄱ	10単位以上
		教養演習科目 ㄴ	
			合計20単位以上
II 群	必修科目	専門科目	112単位
		実習系科目	43単位
	選択科目	専門科目	8単位以上 ㄱ
		13単位以上	
		コース科目	5単位 ㄴ
			合計168単位以上

合計	188単位以上
----	---------

未来創造学部			
国際マネジメント学科		国際教養学科	
外国語科目	英 語 28単位 中国語 22単位 日本語 28単位	外国語科目	(※28単位まで語学専修科目群に含めることができる。)
基礎教育科目群	健康科目 4単位以上 演習科目 16単位 未来創造科目 4単位 情報科目 2単位以上 合計 26単位以上	基礎教育科目群	健康科目 4単位上 未来創造科目 4単位 演習科目 16単位 合計 24単位以上
		語学専修科目群	専修英語科目又は専修中国語科目から50単位以上（ただし、28単位までは外国語科目で替えることができる）
国際マネジメント科目群	必修 10単位 選択 50単位以上 合計 60単位以上	国際教養科目群	40単位以上
国際教養科目群	14単位以上	国際マネジメント科目群	14単位以上
合計	128単位以上	合計	128単位以上

6. 第2項に定める別表及び第4項乃至第5項は、当該学生の在籍しなくなった年度をもって廃止する。

附 則 (改正 2019(平成31)年2月8日第10回全学教授会 2019年3月26日第276回理事会決定)

1. この学則は、2020年4月1日から施行する。

2. 第2条第1項の規定にかかわらず、2020年度から2025年度の収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
薬学部	薬学科	1412人	1266人	1120人	1060人	1000人	960人
経済経営学部	マネジメント学科	1166人	1256人	1346人	1406人	1406人	1406人

国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学科	360人	360人	360人	360人	360人	360人
医療保健学部	医療技術学科	240人	240人	240人	240人	240人	240人

附 則 （改正 2020（令和2）年3月4日第11回全学教授会 2020年3月17日第280回理事会決定）

1. この学則は、2020年4月1日から施行する。

附 則 （改正 2020（令和2）年3月4日第11回全学教授会 2020年3月17日第280回理事会決定）

1. この学則は、2021年4月1日から施行する。

2. 第2条第1項の規定にかかわらず、2021年度から2026年度の収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
薬学部	薬学科	1231人	1050人	955人	860人	785人	750人
経済経営学部	マネジメント学科	1256人	1346人	1391人	1376人	1376人	1376人
国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学科	360人	360人	380人	400人	400人	400人
医療保健学部	医療技術学科	245人	250人	255人	260人	260人	260人

3. 第2条の2の規定にかかわらず、2017年度から2020年度の国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科入学生の人材養成の目的は次のとおりとする。

<p>国際コミュニケーション学部</p> <p>地域社会及び地域産業のグローバル化に貢献し、世界と地域をつなぐことのできる語学力と国際感覚を持ったグローバル人材を養成する。</p> <p>・国際コミュニケーション学科</p> <p>実践的な語学運用能力・コミュニケーション能力を基盤とし、世界の多様な価値観、及び日本そして地域の魅力と強みを理解し、世界と地域をつなぐことのできる語学力と国際感覚を持ったグローバル人材を養成する。</p>
--

4. 第8条、第34条及び第57条の別表の適用については、次のとおりとする。

	対 象	備 考
第8条	・2021年度以降の国際コミュニケーション学部心理社会学科生	2021年4月1日施行
	・2019年度以降の薬学部入学生	2019年4月1日施行
	・2019年度以降の経済経営学入学生	

		・2019年度以降の国際コミュニケーション学部入学生		
		・2019年度及び2020年度の経済経営学部マネジメント学科編入学生		
		・平成29年度以降の医療保健学部入学生	平成29年4月1日施行	
別表1-(1)		・平成27年度以降の薬学部入学生	平成27年4月1日施行	
		・平成29年度及び平成30年度の経済経営学部入学生	平成29年4月1日施行	
		・平成29年度及び平成30年度の国際コミュニケーション学部入学生		
		・平成29年度及び平成30年度の未来創造学部編入留学生		
		・平成27年度及び平成28年度の未来創造学部入学生	平成27年4月1日施行	
別表1-(2)		・平成20年度及び平成26年度の薬学部入学生	平成20年4月1日施行	
		・平成22年度から平成26年度の未来創造学部入学生	平成22年4月1日施行	
		・平成27年度から平成28年度の未来創造学部編入留学生	平成27年4月1日施行	
第34条	別表2	・平成29年度以降の薬学部入学生	平成29年4月1日施行	
		・平成29年度以降の経済経営学部入学生		
		・平成29年度以降の国際コミュニケーション学部入学生		
		・平成29年度以降の医療保健学部入学生		
別表2-(1)	(1)	・平成18年度から平成28年度の薬学部入学生	平成18年4月1日施行	
		・平成18年度から平成28年度の未来創造学部入学生		
第57条	別表3	・2019年度以降の経済経営学部入学生	2019年4月1日施行	
		・2019年度以降の国際コミュニケーション学部入学生		
	別表3-(1)	(1)	・平成29年度及び平成30年度の経済経営学部入学生	平成29年4月1日施行
			・平成29年度及び平成30年度の国際コミュニケーション学部入学生	
別表3-(2)	(2)	・平成27年度及び平成28年度の未来創造学部入学生	平成27年4月1日施行	

## 1 設置の趣旨及び必要性

### (1) 建学の経緯と理念

北陸大学は、石川県金沢市東南部に位置し、薬学部、経済経営学部、国際コミュニケーション学部、医療保健学部の4学部及び留学生別科を設置している。

本学の創設者は、吉田茂内閣の国務大臣であった林屋亀次郎である。林屋は戦後日本の復興と発展に力を尽くすとともに、経済復興を為し得た我が国に真に必要なものは、報恩感謝の念に基づき、真理と正義を愛する個性豊かな人間の育成であるとの信念から、北陸大学の創設に力を注いだ。林屋のこの信念は、「自然を愛し 生命を尊び 心理を究める人間の形成」という本学の建学の精神にも反映されており、本学の教育、研究の場に根付いている。

国内外を問わず、異なる分野を学ぶ学生たちが出会い、互いに切磋琢磨することによって、この建学の精神が深化し、地域社会をはじめ日本並びに世界の発展に貢献し得るとの考えのもと、本学では学園の基本構想に総合大学化、国際化を据えた。そのため、昭和50(1975)年に薬学部の単科大学として開学した当初より、この基本構想に沿った将来の発展に鑑み、学問系統などの呼称を用いることはせず、「北陸大学」と命名している。

総合大学化の第一歩として、昭和62(1987)年に外国語学部(英米語学科、中国語学科)を設置した。さらに平成4(1992)年に法学部(政治学科、法律学科)を本学の第3の学部として設置した。その後、平成16(2004)年、外国語学部、法学部を発展的に統合・改組し、未来創造学部を設置した。未来創造学部では、外国語学部を前身とする未来文化創造学科、法学部を前身とする未来社会創造学科でスタートしたが、さらに次代を担う国際人を養成するため、平成20(2008)年、この2学科を文化的側面から学ぶ国際教養学科と経済・法的側面から学ぶ国際マネジメント学科に発展的に改組・設置した。

未来創造学部の設置から10年、地域社会を含めてグローバル化は急速に進展し、さまざまな人々が互いに理解し多様性を尊重しながら共生することが現代社会において重視されるようになった。そこで、地域と世界をつなぐことができる語学力と国際感覚を持ったグローバル人材を養成するため、平成29(2017)年、未来創造学部国際教養学科を改組し、国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学部を設置した。また、この改組に伴い、未来創造学部国際マネジメント学科についても、包含する教育内容をより明確にするため、「経済経営学部マネジメント学科」に名称変更した。さらに同年、総合大学としての組織強化を図るため、臨床検査学及び臨床工学の知識と技能を身につけ、チーム医療に積極的に関わることができる医療技術者の養成を目的として、医療保健学部医療技術学部を設置した。

## (2) 国際コミュニケーション学部心理社会学科設置の社会的背景・必要性

先述のとおり、本学では、グローバル化によって変化が著しい現代社会に貢献できる人材を養成するため、平成 29 (2017) 年度に国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科を開設した。国際コミュニケーション学科においては、世界と地域をつなぎ、グローバル化によって直面する地域の課題解決に寄与できる人材を、多様な人々とのコミュニケーションを図るために求められる特に優れた語学運用能力の修得と、多文化共生社会に適用するために求められる他国の文化や歴史的背景を理解できる豊かな国際感覚を育成している。

現代社会の変化や技術の進展はその速度を緩めることなく、経済的、文化的なグローバル化は地域社会・地域産業をのみ込みながら急速に進行したことにより、社会は複雑化し多様な文化的社会的背景を持つ人々が共存している。加えて AI (人工知能) をはじめとする情報技術の進展には目覚ましいものがあり、時間や場所を問わず誰とでもつながることができ、欲しい情報やモノにすぐにアクセスできる非常に便利な社会となった。その反面、人と人とのコミュニケーションは薄れ、日常生活や労働環境におけるストレス、家庭環境においては核家族化による家族の孤立や密室の子育て、さらには虐待などが深刻な社会問題となっている。さまざまな場面で人と人、人と社会が深く交わり協調することで社会全体が円滑に機能することは、時代の変化や情報技術の著しい発展などの社会変動によって変化することのない人間社会の本質である。

グローバル化と高度情報技術によって、社会的課題が複雑化、重層化する中、人間の心理と行動を科学的手法で解き明かし、現代社会に生きる人間を総合的に理解することは、現代社会の課題を解決へと導く重要な要素となっている。心理学は、人間に関わる学問分野の中でも特に人間社会の核となる「こころ」と行動を探究する学問である。実験法、調査法、統計的データ解析などを用いて人間の心理と行動を科学的にとらえる心理学は、これからの社会のさまざまな場面で貢献することができる学問分野である。

現代社会の変化は、人間の心と行動を総合的に理解できる人材養成の必要性を高めた。これに呼応する形で、平成 27 (2015) 年 9 月に心理職の国家資格である「公認心理師」を設ける公認心理師法が成立し、平成 30 (2018) 年度から公認心理師法に基づく、公認心理師養成が開始された。公認心理師は国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的として整備された国家資格である。その養成については、既存の心理専門職である臨床心理士とは異なり、大学院等の指定養成機関において専門的な知識と技能を修得する前段階として、大学の学部・学科 4 年間に於いて国家資格に対応した科目の履修を資格要件としている。そこで本学においても、複雑に入り組んだ現代社会の諸問題を「こころ」の側面から探究し解決することに貢献できる人材を養成することで、心理専門職養成に係る法整備の背景にある、高度な心理支援を求める社会的要請に応えるべく、新たに国際コミュニケーション学部、学部段階における公認心理師の資格取得要件を含めた教育課程を整備した心理社会学科の開設を構想するに至った。

心理専門職養成に則した教育プログラムは、心理専門職の養成のみならず、幅広い職業人養成においても有効なものである。この教育プログラムで養われる心理学の知識・技能は、人と人、人と社会をつなぐうえで有効かつ基盤となるものだからである。特に心理社会学科において重視する、現代社会の課題を知ること、人間を総合的に理解することは、一般企業、国際的な諸活動に際しても、より良い人間関係の構築、コミュニケーションの深化に有効である。また、心理学を学ぶうえで修得する実験法、調査法、統計的データ解析法などは、一般企業における新たな戦略・計画の立案に必要となるマーケティングや組織が円滑に機能するための人事マネジメントなどにおいても有効な知識・技能である。これまでと異なる視点からの心理的支援が必要とされる社会へと変化するとともに、これまで以上に人と人、人と社会がつながり、協働することが求められる現代社会の幅広い分野で社会貢献に寄与することができる人材養成は重要な意義があると考えられる。

### (3) 養成する人材像及び卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

心理社会学科では、心理学の知識と技能を修得し、本学の使命・目的である「健康社会の実現」に基づき、さまざまな社会問題や社会現象と人間の心理、行動との関わりを科学的手法で解明し、現代社会に生きる人間を総合的に理解することで、健やかな社会の構築に貢献できる人材を養成することを目的としている。

心理社会学科の「教育理念」、「人材養成の目的」及び「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」は次のとおりである。

#### ・教育理念

人間の心理と行動、社会の諸問題を探究し、健やかな人間社会の構築を目指す。

#### ・人材養成の目的

社会全体を俯瞰できる広い視野、人間の心理を深く理解する力とコミュニケーション力を身につけ、「人と人」「人と社会」をつなぎ、健康社会の実現に貢献できる人材を養成する。

#### ・卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（心理学）の学位を授与する。

（知識・技能）

- (1) 人間の心理、コミュニケーションに関する基本的な知識と技能を身につけている。
- (2) 多文化共生社会への理解を深め、社会全体を俯瞰できる広い視野を身につけている。

（思考力・判断力・表現力）

- (3) 社会と人間に関する事象を、心理学的視点から分析し、複眼的に理解する力を身

につけている。

(4) 社会の諸問題を探究し、心理学的な視点と研究法により、課題解決に取り組む能力を身につけている。

(主体性・多様性・協働性)

(5) 健康社会の実現に積極的に貢献する意欲と行動力を身につけている。

(6) 多様な価値観や立場を持つ他者を思いやり、協働できる力を身につけている。

#### (4) 組織として研究対象とする中心的な学問分野

心理社会学科の中心的な学問分野は、心理学分野とする。

## 2 学科の特色

心理社会学科においては、さまざまな社会問題や社会現象と人間の心理、行動を理解する力とコミュニケーション力を身につけ、「人と人」「人と社会」をつなぐことで、大学の使命・目的である「健康社会の実現」に貢献する人材の養成を目指しており、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像（平成17年1月28日）」において提示された7つの役割・機能のうち、「③幅広い職業人養成」を基盤とし、心理学に加え隣接する教養も幅広く学び人間を総合的に理解する力を身につけるため「④総合的教養教育」を特色として併せて持つものである。

先述のとおり、本学の使命・目的は「健康社会の実現」である。「健康社会」とは、身体のみならず、精神の健康、健全な生活を営むことができる社会の健康を包含するものである。心理社会学科では、本学の使命・目的及び本学科の人材養成の目的を実現するため、次のとおり特色あるカリキュラムを編成する。

### (1) 心理学を幅広く学ぶための教育

心理社会学科では、心理学の基礎や研究法をはじめ、「共通領域」「社会・産業心理学領域」「臨床心理学領域」「教育・発達心理学領域」「認知・神経科学領域」の5領域から心理学に関わる専門知識を幅広く修得するため、年次配当等において順次的・体系的な履修を可能とする。

特に専門教育科目の「共通領域」では、入門科目から4年次における卒業研究に至るまで、心理学における幅広い研究領域の学修が可能となる教育課程編成となっている。また、初年次においては、各領域の基礎となる概論科目（心理学概論Ⅰ・Ⅱ、社会心理学概論、臨床心理学概論、発達心理学）を配置し、上級年次で展開する専門分野の知識・技能の修得へと段階的に学修する。

### (2) 現代社会の課題を多角的な視点で捉える教育

グローバル化した多文化共生社会の現代において、地域、家庭、組織、環境、働き方



など、抱える課題は多様化・複雑化している。本学科では現代社会に生きる人間の心理と行動、その背景にある社会問題や現象を探究するため、国際コミュニケーション学部に設置されていることを生かして、専門教育科目に「現代社会科目」を配置する。「現代社会科目」では、国際社会の現状を理解することを目的として「国際関係学入門」「現代アジア論」「現代アメリカ論」「現代ヨーロッパ論」などが配置されている。また、「宗教学」「異文化間コミュニケーション」「家族社会学」「環境社会学」などの文化、社会に関する科目から多文化共生社会への理解を深めることができる授業を展開する。

### (3) 人間を総合的に理解する教育

現代社会に生きる人間を総合的に理解するため、心理学を中心とした「専門教育科目」に加え、「教養科目」「外国語科目」「キャリア科目」からなる「総合教育科目」を配置する。「教養科目」では、心理学に隣接する「哲学」や「社会学」、「外国語科目」では英語及び中国語、「キャリア科目」では単なる進路支援対策ではなく、大学での学修が自らの人生を豊かにするために必要不可欠であることへの理解を深める「コミュニケーション技法」「現代社会と職業」「職業理解とインターンシップ」などの科目を配置することで幅広く学び、深い人間理解へとつなげる。

### (4) 課題解決能力を身につける教育

多様化・複雑化する現代社会の諸問題を探究し、心理学の研究方法である実験、調査、観察、データ解析などの手法を用いて、自ら課題を発見できる能力を身につけるため、必修科目である「情報処理入門」をはじめ、履修することを指定する科目（単位修得を卒業要件としない）である「情報処理応用」「PBL 入門」「心理学統計法」「心理学実験」などでの学修と併せて、1年次から4年次まで各年次に演習科目を必修科目として配置する。各年次に配置される演習科目は全て少人数で開講することで、その学修過程においてデータ解析力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を培い、社会のさまざまな課題を発見し、解決できる能力を身につける。

## 3 学科の名称及び学位の名称

「国際コミュニケーション学部：Faculty of International Communication」

「心理社会学科：Department of Psychology and Social Studies」

「学士（心理学）：Bachelor of Psychology」

心理社会学科は、心理学の基礎と研究方法をはじめ、「共通領域」「社会・産業心理学領域」「臨床心理学領域」「教育・発達心理学領域」「認知・神経科学領域」の5領域を幅広く段階的に学ぶことで、心理学に関わる専門知識を身につけ、さまざまな社会問題と人間の心理、行動との関わりを科学的手法で解き明かし、現代社会に生きる人間を総合

的に理解できる人材を養成することを目的としており、また多様な文化的社会的背景を持つ人々とのコミュニケーションを図り、協働することなどを含め、社会全体を意識した学科の教育内容を明確に表すものとして、学科名称を「心理社会学科」とする。

心理社会学科での学位に付記する名称については、心理学を修めた者であることを明確に示すものとして、「学士（心理学）」とする。

#### 4 教育課程の編成の考え方及び特色

##### (1) カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

心理社会学科では、大学全体の教育目標及び学科の「人材養成の目的」、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を修得するため、次のとおり「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」を定め、これに基づき、順次性のある体系的な教育課程を編成する。また、学生の履修を支援するため、シラバスとともに、ナンバリング、カリキュラムマップ【資料1】、カリキュラムツリー【資料2】を明示する。

##### ・教育課程編成方針・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

（教育課程編成）

- (1) 多文化共生社会の理解を深め、社会全体を俯瞰する広い視野を修得するため、総合教育科目と現代社会科目を配置する。
- (2) 心理学とコミュニケーションの基本的な知識と技能を修得するために、心理学関係の専門教育科目区分を「共通領域」「社会・産業心理学領域」「臨床心理学領域」「教育・発達心理学領域」「認知・神経科学領域」の5領域で編成する。上級年次で展開する専門分野の知識・技能を学ぶために、初年次に概論科目を配置する。
- (3) 心理学的な視点と研究法に基づいた課題解決能力を養い、生涯を通じて学び続ける姿勢と協働力を身につけるため、「共通領域」を中心とした専門科目から卒業研究に至る体系的な科目を展開する。

（学修方法）

- (1) コミュニケーション能力、課題解決能力、倫理的思考力、他者を尊重し協働できる力と主体的な学びの姿勢を養うため、参加型の少人数教育と能動的学修を促進する。
- (2) 人間の心理と行動を解明し、社会のさまざまな課題を多面的に捉える能力を養うために、実験、調査、観察及びデータ解析などの科学的手法を取り入れた双方向型の教育プログラムを提供する。

（学修成果の評価）

- (1) シラバスに到達目標・評価基準を明示し、成績評価は到達度評価を基本とし、「妥当性」「客観性」「透明性」「公正性」を徹底した厳格な成績評価を行う。
- (2) ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況を確認するために、卒業

研究を必修とし、評価ルーブリックを活用して総括的評価を行う。

## (2) 科目区分の設定とその理由

心理社会学科では、心理学の基礎及び研究法をはじめとし、心理学の専門知識を修得するため、次のとおり教育課程を編成する。

### ① 総合教育科目

#### 1) 教養科目

教養科目では、現代社会で必要不可欠な基本的な知識と技能、幅広い教養を身につけるため、専門科目以外の学問領域である自然科学分野、健康科学分野に加え、心理学との関連性が高い人文科学分野の科目を配置する。また、高度情報化社会で必要となる、コンピュータやネットワーク等の基礎的な知識・技能、プレゼンテーション等に必要なコンピュータ活用スキルを身につけるため、情報リテラシーに関する科目を配置する。

#### 2) 外国語科目

社会人として実用的な語学レベルの習得を目的として、英語を中心に語学科目を配置する。

1年次に開講される「English Communication I・II」は、ネイティブスピーカー教員が担当し、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの要素を取り入れながら、コミュニケーション能力を高め、総合的なプレゼンテーションとディスカッション能力の習得を目的とする。

2年次以降は英語に加え中国語を選択科目として配置する。「総合英語 I～IV」では、これまでの英語学修を文法や語彙を中心に振り返り、自身が理解していない点を明確にすることで実用レベルへと語学力を高めることを目的とする。

#### 3) キャリア科目

キャリア科目は単なる就職活動支援や対策ではなく、大学での学びの充実が自らの人生を豊かにするために必要不可欠であることを学生自身が4年間の学修を通じて理解することを目的とする。その第一歩として、課題解決型授業の導入として1年次後期に「PBL 入門」を配置する。2年次以降については、社会人として必要な能力を身につけることを目的とした「コミュニケーション技法 I・II」、自身の職業観の形成を目的とした「現代社会と職業」を順次的、体系的に配置する。また、先述の科目に加え、職業意識をより高めることを目的とし「職業理解とインターンシップ」及び国際性の向上を期待し「海外インターンシップ」を配置する。

### ② 専門教育科目

#### 1) 共通領域

共通領域の科目は、本学科における学修の根幹をなす科目領域である。そのた

め、心理学全体を概観する「心理学概論Ⅰ・Ⅱ」、実証科学としての心理学の研究方法を身につけることを目的とした「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」「心理学統計法」「心理学研究法」を配置する。さらに、心理学的テーマについて自らが調査し、発表する能力を高めることを目的とした演習科目を1年次の「心理学基礎演習」から4年次の「卒業研究」まで順次的・体系的に配置する。

## 2) 展開応用科目

### ア. 社会・産業心理学領域

社会・産業心理学領域は、社会心理学分野と産業心理学分野を中心に科目を配置する。社会心理学分野では、領域の概論科目である「社会心理学概論」を基礎として、「コミュニケーション心理学」「社会・集団・家族心理学」などの科目から個人の意識や態度、行動がいかにか社会に影響を与えるかに、逆に各個人がどのように社会からの影響を受けているかについて学修する。産業心理学分野では、「産業・組織心理学」「消費者行動論」などの科目から、社会にある多種多様な現象の1つである産業・職業場面に注目し、個人と社会（組織）との関わりについて学修する。

### イ. 臨床心理学領域

臨床心理学領域は、臨床心理学の基礎的知識と心理臨床における2つの実践活動「心理学的なアセスメント」「心理学的な支援法（介入法）」を体系的に学修する領域である。臨床心理学の基礎的知識は「臨床心理学概論」から、アセスメント・支援法は「心理的アセスメント」「心理学的支援法」から学修する。さらに「健康・医療心理学」「福祉心理学」「司法・犯罪心理学」から実践的な領域の基礎知識及び具体的活動を学修する。また、将来、心理職従事者として社会で活躍するために必要となる技能を身につけることを目的として「関係行政論」「公認心理師の職責」を配置する。

### ウ. 教育・発達心理学領域

教育・発達心理学領域は、生涯全体に亘る「発達」と社会にとって重要な営みの1つである「教育」から構成される。「発達」分野では、長い生涯の中でも、特に重要な児童期・青年期に焦点をあて「児童心理学」「青年心理学」を配置する。また「教育」分野では、児童生徒の発達、パーソナリティ、動機づけ、さらに学校で生じるさまざまな問題行動への理解と対処法に関する基礎的知識の修得を目的として「教育・学校心理学」を配置する。

### エ. 認知・神経科学領域

認知・神経科学領域では、人間の心の基本的な機能とそれらを実現する「ハードウェア」としての脳について学修する。

「神経・生理心理学」では、脳における信号伝達の仕組み、その経路や計測手法、脳内における情報表現様式と脳に異常が発生することで生じる病態に

関すること、「知覚・認知心理学」では、外界の情報を取得し「意味」を抽出する処理過程に関する、客観的データに基づく科学的な理論構築とその方法論に関する基礎的知識の修得を目指す。また、経験による行動の変容である学習の特性と仕組み、コミュニケーションに欠かせない言語に関する科目として「学習・言語心理学」を配置し、選択や意思決定に大きな影響を及ぼす一過性の状態である感情と定常的な状態である人格に関する科目として「感情・人格心理学」を配置する。

### 3) 現代社会科目

現代社会科目では、グローバル化、多文化共生、経済、家族、組織、環境など、現代社会が抱える諸問題に対する理解と、多様な文化的背景を持つ人々とのコミュニケーションを図るために必要な多角的な視野を身につけることを目的とした科目を配置する。

### (3) 必修科目及び選択科目の構成

心理社会学科では、次のとおり必修科目を配置する。なお、必修科目の他に、選択科目内において履修することを指定する（単位修得を卒業要件としない）履修指定科目を設けている。

#### ◎総合教育科目

##### ○教養科目

北陸大学の学び（1単位）

情報処理入門（1単位）

##### ○外国語科目

English Communication I・II（各1単位）

#### ◎専門教育科目

##### ○共通領域

心理学概論 I・II（各2単位）

心理学基礎演習 I・II（各2単位）

心理学ゼミナール I・II・III・IV（各2単位）

卒業研究 I・II（各2単位）

##### ○展開応用科目

##### ・社会・産業心理学領域

社会心理学概論（2単位）

##### ・臨床心理学領域

臨床心理学概論（2単位）

上記の科目を必修科目として配置した理由は次のとおりである。

## ① 総合教育科目

「教養科目」では、本学での学修目的を明確にするため「北陸大学の学び」、専門教育科目においても活用する ICT 機器の基礎的な知識・技能を身につけるため「情報処理入門」を必修科目として配置する。

「外国語科目」では英語のコミュニケーション能力を高め、総合的なプレゼンテーションとディスカッションの力の習得を目的として上記2科目を必修とする。

また、「総合教育科目」においては、ICT 機器の知識・技能の更なる向上を図り、現代社会の諸問題を探究し、心理学の研究法である実験、調査、観察、データ解析などの手法を用いて、自ら課題を発見できる能力を身につけるため「情報処理応用」及び「PBL 入門」を履修指定科目として設定する。

## ② 専門教育科目

専門教育科目では、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を培い、社会のさまざまな課題を発見し、解決できる能力を身につけるため、1年次から4年次において開講する各演習科目を必修科目として配置する。また各領域の入門科目となる「心理学概論Ⅰ・Ⅱ」「社会心理学概論」「臨床心理学概論」を必修科目として配置するとともに、「心理学統計法」「発達心理学」及び「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」を履修指定科目として設定することで、専門教育の基盤を固める。その他の科目については、選択科目として配当年次等により順次的に配置する。これにより本学科の学びと関わりが深い各種資格等の取得を目指す学生においては、それぞれの目的に応じた履修を可能とする編成となっている。

## (4) 履修順序（配当年次）の考え方

専門教育科目においては、1年次から学年進行に合わせて専門性を高めるよう履修順序を設定している。各領域においては、先述のとおり、上級年次で展開する専門分野の知識・技能を学ぶために、初年次に概論科目を配置する。また、演習科目においては、心理学を学修するにあたっての基本的なスタディ・スキルを身につけることに主眼を置いた「心理学基礎演習」を配置し、2年次に継続する演習科目へと段階的に専門性を高めていく。

総合教育科目の内、教養科目及び外国語科目については、入学から早い段階で学修するため、1・2年次に科目を配置する。また、キャリア科目については、年次進行とともに深まる専門教育への理解度と並行し、学生自身の社会的・職業的自立への意識の成熟を図ることを目的とした履修順序を配当年次等により編成する。

## 5 教員組織の編成の考え方及び特色

### (1) 教員組織の編成の特色

心理社会学科では、「社会全体を俯瞰できる広い視野、人間の心理を深く理解する力

とコミュニケーション力を身につけ、「人與人」「人と社会」をつなぎ、健康社会の実現に貢献できる人材を養成する」ことを人材養成の目的としている。この人材養成の目的を踏まえ、「共通領域」「社会・産業心理学領域」、「臨床心理学領域」、「教育・発達心理学領域」、「認知・神経科学領域」の5領域から心理学に関わる専門知識を体系的に履修することを可能にする教育課程を編成するために、各領域の授業科目及び単位数に応じて、教育経験、教育研究業績及び実務経験等を豊富に有する教授、准教授、講師、助教の確保に努めた。

展開応用科目などの専門教育科目に配置する主要な科目については、十分な教育研究業績がある教員が担当することとした。さらに専任教員7人のうち、公認心理師・臨床心理士の両資格を有する教員2人、公認心理師・言語聴覚士の資格を有する教員が1人、公認心理師資格を有する教員1人、専門社会調査士資格を有する教員が2人となり教育を支える十分な陣容となっている。

国際コミュニケーション学部併設の国際コミュニケーション学科において、英語教授法の資格（TESOL：Teaching English to Speakers of Other Languages）を有するネイティブスピーカー教員、国際関係を専門分野とする教員などが在籍しており、教育の充実の一端を担うことになる。

## (2) 教員組織の年齢構成

心理社会学科の専任教員組織は、教授3人、准教授2人、講師1人、助教1人の7人で編成し、各領域別には、「社会・産業心理学領域」に2人（教授1人、助教1人）、「臨床心理学領域」に3人（教授1人、准教授1人、講師1人）、「教育・発達心理学領域」に1人（教授1人）、「認知・神経科学領域」に1人（准教授1人）となる。

専任教員の就任時期は、令和3（2021）年度5人、令和4（2022）年度2人となり、完成年度における教員の年齢構成については、70歳台が1人、60歳台が1人、50歳台が2人、40歳台が2人、30歳台が1人となる。

専任教員のうち、既に本学教員の定年年齢である満65歳を超える者が2名含まれるが、本学就業規則【資料3】において、学部等の新設に伴い採用され、設置に係る教員名簿に登載された教員については、採用時の年齢が満60歳以上の者の定年は採用日から6年と規定されており、教育研究に支障を来さないようになっている。このほか、同じ就業規則で大学運営上引き続き勤務させる必要があると認めた定年退職教員については、特任教員として勤務させることができると規定されており、完成年度まで教員組織の維持に特段の問題はない。

完成年度以降については、公募等により学外の人材の採用、教育研究上の実績を重ねた准教授の教授への昇格により、速やかに教授の補充を行い、学科の円滑な運営を維持する予定である。

退職教員の補充にあたっては、大学設置基準に基づく教授、准教授及び講師等の職位

構成、学科内における年齢構成を適切に保つことに留意し、学科の教育研究目的を達成するために開設当初の授業科目を継続して開講し、教育水準が維持できる採用計画を構築する。具体的には、開設年度より学科内で完成年度以降の年齢、職位等を考慮したうえ、補充人事の検討を開始し、開設4年目に公募を開始する予定である。

## 6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

### (1) 授業方法等の設定

心理社会学科の授業は、講義、演習、実験・実習から構成する。各授業形態を適切に組み合わせて行うことで、理論と実践を一体的に学修できる設定となっている。知識の理解を目的とする教育内容については講義形式、態度・志向性及び技能の修得を目的とする教育内容については演習形式、理論的知識や能力を実務に応用する能力の修得を目的とする教育内容については実験・実習形式による授業形態で行うこととする。

受講生数については、授業に応じて異なるが、原則として、講義・演習は50人、ゼミナール・卒業研究及び外国語科目の授業は20人以下、実験・実習形式の授業については、担当教員を複数配置することにより、15～20人で設定する。

幅広い教養や情報リテラシー、科学的・論理的思考の基盤を学修する総合教育科目については、主に1・2年次に配当し、専門教育科目については、順次的かつ体系的に学修が積み上がるよう配置されている。

1年次においては、幅広い教養や情報リテラシー、科学的・論理的思考の基盤を身につけることに加え、本学での学びの目的等を明確にするため、必修科目の「北陸大学の学び」「情報処理入門」を、履修指定科目として設定する「PBL 入門」「情報処理応用」から専門分野以外の社会科学分野等の科目を履修する。さらに、少人数で編成する「心理学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」においては、心理学を学修するにあたっての基本的なスタディ・スキルに加え、コミュニケーション能力、他者と協働できる能力と主体的な学びの姿勢を身につける。

各領域の専門教育を受講するための基礎となる知識と技能を修得する概論科目である「心理学概論Ⅰ・Ⅱ」「社会心理学概論」「臨床心理学概論」を必修科目として履修するとともに、「心理学統計法」「発達心理学」は履修指定科目として設定し、2年次以降に履修する専門科目への接続が円滑となる教育課程を編成する。

2・3年次では領域ごとに順次的・体系的な専門教育科目を配置し、1年次で学んだ基礎知識を活用し、専門性の高い知識と技能を学修する。専門教育科目では、人間の心理と行動を解明し、社会のさまざまな課題を多面的に捉える能力を養うため、実験、調査、観察、データ解析などの科学的な手法を取り入れた双方向型の教育プログラムを提供する。また、2年次に開講する「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」については、履修指定科目として設定する。

4年次では、1年次から4年次までの講義、演習及び実験・実習で得た知識・技能を



基盤として、4年間の学びの集大成となる卒業論文を作成する。

## (2) 履修指導方法

### ① 指導体制

本学では、学生一人ひとりに対して、きめ細かく学修面及び生活面の支援・指導を行うため、担任制度を導入している。

担任教員は学生の履修指導にあたり、カリキュラムマップ【資料1】、カリキュラムツリー【資料2】及び履修モデル【資料4】等を提示しながら、学修目的に沿った履修計画・科目選択のアドバイスを行うほか、学生生活全般に関する個人相談、進路選択に係る相談等について助言を行う。学生との面談等における情報については、必要に応じて学科会議にて報告し、全専任教員が情報を共有し、解決策等の議論を行うことで、きめ細かい学生支援・指導につなげる。また、専任教員は、オフィスアワーを設定し、学生全体に周知したうえ実施する。

本学では、既に教育支援ポータルシステム「manaba (榊朝日ネット)」を導入しており、「manaba」を利用することで、学生が学修状況を自ら管理することが可能となり、また担任教員が閲覧することによって学修状況に関する情報をもとに、適切な助言や指導が行える。

### ② ガイダンス及びシラバス

本学では、入学直後からフレッシュマンセミナーを開催し、学生に配布される「学生便覧」「履修の手引」等に基づいて、4年間の学修に必要な情報を説明し、指導を行っている。4年間のカリキュラム編成と各領域の設定の考え方、学修計画の立て方、履修方法、受講方法、学生生活などの事項について指導をする。履修登録については、学生支援システムからオンラインで行うため、学生支援システムへのアクセス方法、履修登録方法について指導する情報ガイダンスもフレッシュマンセミナーにおいて実施する。なお、後期開始時には、上級年次生と同様にガイダンスを開催し、学生の学修が計画的、体系的になるよう指導する。

シラバスには、カリキュラム編成と教育課程を踏まえて、授業科目の目的と概要、授業の到達目標、ナンバリングコード、準備学習、成績評価の基準・方法、教科書・参考書、他の科目との関連、授業のアドバイス、授業計画等を示し、学生の自律的な学修への取り組み、主体的な不断の努力を促す。

### ③ 履修科目の年間登録上限

心理社会学科では、学生の学修時間を確保し、単位制度の実質化を図るため、履修科目として登録することができる単位数の上限を年間42単位とする。

### ④ 成績評価

本学の成績評価はSからFまでの5段階評価とする。Sは秀(100点換算で90点以上)、Aは優(同80点～89点)、Bは良(同70点～79点)、Cは可(同60点～69

点)、Fは不可(同59点以下)、F1は試験欠席、F2は受験停止である。S～Cの成績評価を得た者は、その科目の単位を修得した者とし、Fは不合格とする。

この5段階評価に加え、本学ではGPA(Grade Point Average)制度を行う。

各成績評価とGrade Pointの対応は、次のとおりである。

成績評価	Grade Point
S(秀)	4.0
A(優)	3.0
B(良)	2.0
C(可)	1.0
F(不可)	0.0
F1(試験欠席)	0.0
F2(受験停止)	0.0

単位を修得したときの取得ポイントは、[授業科目単位数×その科目のGrade Point]とする。GPAは、[取得ポイントの合計÷履修登録の授業科目の単位数の合計]で示される。GPAの評点は、学生自身が学修結果を総合的、客観的に確認する指針となり、学修意欲の向上につなげるとともに、学生自身で学修目標を明確にし、主体的に学修を推進することに資する。また教員等が学生一人ひとりに対して指導する際に、効果的で適切な指導を行うための資料として利用し、教育の質の向上へのフィードバックを図る。さらに各種奨学金の選考資料として利用する。

また、本学科では成績疑義照会制度を設ける。これは科目の成績評価に関して疑義が生じた場合に、学生が照会を求めることができる制度であり、妥当と判断された場合には成績評価を訂正することができる。疑義照会の対象事項は、①定期・再試験等を受験し、あるいはレポート等の課題を提出したにもかかわらず、成績評価が記載されていない場合、②定期・再試験等を受験し、あるいはレポート等の課題を提出し、成績評価で合格基準を満たしている具体的な根拠があるにもかかわらず、「F」評価となった場合、③成績評価で合格基準を満たしていないにもかかわらず、「C」以上の評価が記入されている場合に限定され、成績評価に関しての疑義を照会するものではない。この成績疑義照会制度により、学生が不当に不利益を被ること、あるいは不当な利益を得ることを防止し、成績評価の質を維持することを図る。

### (3) 卒業要件

卒業要件は、本学に4年間以上在学し、各科目区分における必要単位数を満たしたうえで、卒業単位124単位以上を修得したものとする。

総合教育科目から20単位以上(必修4単位含む)、専門教育科目から必修24単位、共通領域及び展開応用科目から58単位以上、現代社会科目から22単位以上を修得し、計124単位以上修得することを卒業要件とする。

## 7 施設、設備等の整備計画

### (1) 校地、運動場の整備計画

本学は、石川県金沢市の東南部の丘陵地に位置する。薬学キャンパスと太陽が丘キャンパスを有し両キャンパス間は車で約7分の距離にあるが、心理社会学科は太陽が丘キャンパスにて教育研究活動を行う。

大学のキャンパスは、学生と教職員が日々教育研究活動を行い、一日において最も多くの時間を過ごす場所であるとも言え、その環境の重要性は非常に大きい。本学は、建学の精神である「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を実現するため、教育研究活動を通じ、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、豊かな人間性を涵養する知の探求のための重要な空間として、緑豊かな自然環境や眺望を活かし、学生・教職員はもちろん卒業生や地域住民が集う活気あふれるキャンパスを目指して整備を行っている。

太陽が丘キャンパスの既存の校地は、75,306.98 m<sup>2</sup>と十分な面積を有しており、ゆとりある空間構成となっている。キャンパス内には、食堂やカフェ、売店を設けているほか、校舎内に学生ホールを整備して学生の休息時のスペースを確保している。また、文化系クラブの部室、野外ステージ、共用の研修室、学生ラウンジなどが入るコミュニティーハウスがあり、学生同士の憩いの場として利用されている。キャンパス緑化の推進により、多種多様な樹木、四季折々に咲く花々が癒しの効果をもたらしている。

運動施設については、太陽が丘キャンパスに柔道場及びトレーニングルームを併設する体育館兼講堂（4529.65 m<sup>2</sup>）、野球・ソフトボール等に使用するグラウンド（16,978.15 m<sup>2</sup>）、フットボールパーク（人工芝サッカーコート2面・22,940.84 m<sup>2</sup>）、人工芝テニスコート3面（3581.79 m<sup>2</sup>）、屋内運動施設（人工芝・1,203.75 m<sup>2</sup>）を整備している。これらの運動施設は、体育授業のほか、課外活動にも利用できる。心理社会学科の教育では、体育授業科目「スポーツⅠ・Ⅱ」において、これらの施設を使用することとする。

このように、本学の校地は今回の心理社会学科設置の計画にも十分対応できる環境を確保している。

### (2) 校舎等施設の整備計画

校舎等施設については、太陽が丘キャンパスの現有施設で設置基準上の校舎面積を充足している。講義室・演習室が入る太陽が丘1号棟、2号棟及び3号棟には、講義室28室、演習室17室、パソコン室4室、国際交流ラウンジ（ラーニングコモンズ）1室、コミュニケーションオアシス MOGUMOGU（グローバルコモンズ）1室、自習室1室が整備されているほか、図書館にもアクティブラーニング教室を3室整備している。各教室には、プロジェクター等のAV機器を整備し、より効果的な授業を行うことができるよう多様な学習環境を整備している。これらの施設は既存学部等が共有で使用しており、

心理社会学科も全ての施設を他学部等と共有する。加えて、本学科の設置に合わせて、太陽が丘1号棟内の一教室を改修して、心理学実験など専門教育学習を充実させる施設を整備し、さらなる教育・研究環境の充実を図る。本学科では学生に対してノートパソコンを必携としており、学内のネットワーク環境についても強化・整備する予定である。

教員研究室は、現在、太陽が丘1号棟に28室、2号棟に49室、3号棟に13室配置されており、心理社会学科設置後の太陽が丘キャンパスにおける専任教員数は79人の予定であり、十分な室数を確保している。

### (3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

#### ① 図書等の資料の整備計画

本学の図書館は、太陽が丘キャンパスに本館、薬学キャンパスに薬学部分館があり、合計約24万3千冊（本館約15万8千冊、別館約8万5千冊）の蔵書がある。また、雑誌約1,200種類、視聴覚資料約2,900点、外国の電子ジャーナル約2,000種類、内外のデータベース8種類を整備している。

心理社会学科が設置される太陽が丘キャンパスの図書館本館では、既設学部学科（国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科、経済経営学部マネジメント学科）に対応した人文科学系及び社会科学系の教育・研究用の図書、雑誌のほか、自然科学、芸術関係等の大学教育のなかで重要となる教養教育に対応する図書についても整備されている。また、視聴覚教材（DVD、CD等）が約1,900点、所蔵雑誌は和雑誌・洋雑誌704種をそろえている。このほか電子書籍が約200タイトル利用できる。電子ジャーナルは、Wiley、Springerのパッケージ等約2,000タイトルが利用可能であり、このほかトランザクション契約でエルゼビア社が発行する全ての電子ジャーナル及び電子ブックが論文単位で利用できる。

データベースの整備については、Nii 学術情報ナビゲータである CiNii 以外にも ELeNT、ヨミダス歴史観、北國・富山新聞、Nexis Uni、ジャパンナレッジ Lib、Westlaw 等をそろえており、学修・研究に必要な学術論文、新聞、雑誌、ニュース、百科事典、辞書、法律、判例等の検索を行うことができる。このほか、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスに参加し、図書館限定資料約150万点も利用できる。

心理社会学科の設置に係る図書等については、前述の本学蔵書の図書、雑誌、電子ジャーナル等の整備状況を十分に考慮し、心理学を学ぶ上で必要とされる内国書1,392点、外国書33点、外国誌3種を整備する。

#### ② 図書館の整備計画

本館は、地上4階建て、延床面積2,494.83㎡で閲覧席434席（内個人学習席36席）配置しており、1階に新聞・雑誌閲覧コーナー、グループワークコーナー、視聴覚及びパソコンコーナーが整備されている。パソコンコーナーには、学内LANに接

続されたパソコンが 10 台設置されており、図書館資料の検索やレポートの作成に利用できる。館内蔵書検索システムは、<Carin>システムが導入されており、自宅のパソコンからでも貸出中の資料の予約、貸出状況の確認、相互利用や購入の申し込み等ができるシステムとなっている。薬学キャンパスにある薬学部分館が所蔵する資料については、両キャンパス間で結ぶメール便を活用する学内相互貸借により、太陽が丘キャンパスで貸し出し・返却手続きを行うことができる。両キャンパスの図書館を 1 日 57 便のシャトル便（約 7 分）で結んでいる。開館時間は、平日は 20 時、土曜・日曜・祝日は 17 時まで開館しており、授業終了後の学修にも対応している。また、平成 26（2014）年は 4 階、平成 31（2019）年に 3 階及び 2 階に、ゼミ等での授業や学生同士のグループ学修に対応できるようアクティブラーニング教室を整備した。

### ③ 他大学図書館等との協力

本学図書館は私立大学図書館協会に加盟するとともに、地域の私立大学図書館との連携を重視して私立大学図書館協会西地区部会京都地区協議会加盟館として相互利用協定を結び、相互協力活動を行っている。さらに本学は、国立情報学研究所の NACSIS-ILL（図書館間相互貸借システム）に加盟し、文献複写・相互貸借により利用者サービスの充実に努めている。

## 8 入学者選抜の概要

### (1) アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

本学の建学の精神は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」である。この建学の精神に基づき、「深く専門の知識と技能とを教授研究し、人格の陶冶を図り、文化の創造発展と公共福祉の増進に貢献し得る人材の育成（学則第 1 条）」を大学の教育目的としている。

これらの使命・目的に基づいて、以下のとおり大学全体としての入学者受入方針を定めている。

#### ・入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

##### 【大学】

本学では、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を総合的に身につけている学生の育成を目指し、以下のような資質・能力・意欲を持った人を広く受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行う。

- (1) 専攻する学位プログラムの教育内容が理解できるように必要な基礎学力を身につけている人
- (2) 自らの考えを順序立てて伝えることができる人
- (3) 多様な文化・価値観を持つ人々に対して理解と共感を示し、他者と協力して何事にも積極的に取り組む意欲のある人

## 【心理社会学科】

本学科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために、以下の能力、目的意識、意欲を持った人を広く受け入れる。入学者選抜は多様な選抜方法により、多面的・総合的に評価する。

- (1) 大学で学ぶために必要な高等学校卒業相当程度の知識を修得し、特に日本語の的確な理解力や表現力、外国語（英語）の基本的な運用能力を身につけている人
- (2) 人間の心理と行動、コミュニケーションについて興味を持ち、健康社会の実現に貢献したいという意欲がある人
- (3) 自己及び他者を尊重し協力して行動できる人

以上の本学及び本学科の入学者受入れの方針については、北陸大学公式ホームページや本学が刊行する大学案内、学生募集要項等に記載する。また、オープンキャンパスや各種進学説明会等において、本学科の入学者受入れの方針について適切な説明を行い、高校生等の受験予定者、その保護者、高等学校教員等への周知に努める。

## (2) 入学者選抜

本学科の卒業認定・学位授与の方針及び入学者受入れの方針に基づき、本学での学修により、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性を進展させることのできる資質・能力を備えた人材を多面的・総合的に評価し、受入れるための入学者選抜試験を実施する。

入学者選抜に係る出願資格

次のいずれかに該当する者とする。

- ① 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者、または当該入学者選抜実施年度の3月卒業見込みの者
- ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者、または当該入学者選抜実施年度の3月修了見込みの者
- ③ 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校卒業者と同等以上の学力があると認められる者、または当該入学者選抜実施年度の3月31日までにこれに該当する見込みの者。

入学者選抜における評価項目

本学科の入学者受入れの方針に基づき、選抜制度毎に次の3項目すべてを評価し、判断することとする。

- ① 各科目試験、大学入学共通テスト、小論文、課題レポート、取得資格・検定試験スコア、提出書類（調査書、推薦書）による、高等学校卒業程度の基礎的な学力・

知識

- ② 国語科目の記述問題、小論文、課題レポートによる、読解力、論理的な思考力、表現力
- ③ 面接や提出書類（調査書、推薦書）による、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ力

本学科の選抜方法は、以下の9類型を設定し、募集定員（45人）の構成比率を総合型選抜 6.7%、学校推薦型選抜 22.2%、一般選抜 71.1%とする。各選抜制度の概要は次のとおりである。

① 総合型選抜（募集人員：3人）

- 1) 21世紀型スキル育成方式：募集人員 3人

学科独自に実施するセミナーにおけるグループワーク、プレゼンテーション、レポート、面談、及び提出書類（調査書、エントリーシート）により評価し、可否を判定する。この選抜方法が目指すのは、本学での学修に強い意志と明確な目的意識を持ち、入学後に学科を牽引する人材として活躍が期待される生徒の入学である。

- 2) 探究型学習評価方式：募集人員 若干名

高等学校での「総合的な学習の時間」における課題設定及びその解決に向けた情報収集、整理・分析、取りまとめ等の活動全般から得られた経験や能力、気づき等について、提出書類（調査書、課題レポート）及び面接により評価し、可否を判定する。

- 3) 専門高校・総合学科生評価方式：募集人員 若干名

専門高校・専門学科・総合学科等に在籍する生徒を対象に、学び培った実践的な知識・技能、及びそれを踏まえた本学におけるさらなる専門的な学びに向けた明確な目標、意欲について、提出書類（調査書、課題レポート）及び面接により評価し、可否を判定する。

② 学校推薦型選抜（募集人員：10人）

- 1) 指定校方式：募集人員 7人 ※公募制方式と合算した人数

本学教育の理念・目的・方針を理解し、高い入学意欲と評定平均値等の所定の条件を備え、本学が指定する高等学校から推薦された生徒を対象に、提出書類（調査書、課題レポート）及び面接により評価し、可否を判定する。この選抜方法が目指すのは、本学を第一志望とする意欲的な入学者の獲得であり、これにより本学の教育方針に合致する生徒層の確保が可能となる。

- 2) 公募制方式：募集人員 7人 ※指定校方式と合算した人数

本学教育の理念・目的・方針を理解し、高い入学意欲を備え、高等学校から推薦された生徒を対象に、提出書類（調査書、課題レポート）及び面接により評価

し、合否を判定する。

③ 一般選抜（募集人員：32人）

1) 本学独自方式（A・B日程）：募集人員19人

A日程（2日間）、B日程（1日）に分けて実施する。以下の試験科目2科目の合計点、提出書類（調査書）による主体性・多様性・協働性に関する総合評価点、及び書類審査により受験生個々の学力を評価し、合否を判定する。

・選抜科目（2科目：計200点満点）

必須 コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 100点

選択 国語、数学Ⅰ・Ⅱ・A・B（数列・ベクトル）から1科目 100点

・主体性・多様性・協働性に関する総合評価（5点満点）

2) 大学入学共通テスト利用方式（A・B・C日程）：募集人員13人

大学入学共通テストの以下の指定科目から高得点2科目の合計点、提出書類（調査書）による主体性・多様性・協働性に関する総合評価点、及び書類審査により受験生個々の学力を評価し、合否を判定する。

・指定科目（2科目選択：計200点満点）

選択 英語\*、国語（近代以降の文章のみ）、世界史B、日本史B、地理B、現代社会、倫理、政治・経済、倫政（倫理、政治・経済）、数学Ⅰ・A、数学Ⅱ・B、数学Ⅰ、数学Ⅱ、簿記・会計、情報関係基礎、中国語

\*英語は200点を100点に換算

・主体性・多様性・協働性に関する総合評価（5点満点）

④ 特別選抜（募集人員：若干名）

1) 帰国子女選抜：募集人員 若干名

日本国籍を有し、外国において最終学年を含め1年以上継続して在学した者、または中学校、高等学校を通じて2年以上継続して外国の学校の教育課程に基づく教育を受けた者のうち、日本の高等学校における在学期間が1年半を超えない者を対象に、提出書類（調査書、卒業見込証明書、成績証明書）、小論文及び面接により総合的に評価し、合否を判定する。なお、入学後については、本学が導入する担任制により、担任教員が入学者の学修目的に沿った履修計画・科目選択のアドバイスを行うなど、きめ細かい履修指導を行うこととする。

2) 社会人選抜：募集人員 若干名

一般企業等で2年以上の実務経験がある者を社会人として定義し、満25歳以上で、高等学校を卒業した者を対象に、提出書類（最終学歴の成績証明書、職務経歴を含む志望理由書）、小論文及び面接により総合的に評価し、合否を判定する。なお、入学後については、本学が導入する担任制により、担任教員が入学者の学修目的に沿った履修計画・科目選択のアドバイスを行うなど、きめ細かい履修指導を行うこととする。



### (3) 入学者選抜実施体制

入学者選抜は、「北陸大学アドミッション委員会規程」に基づき、学長、学務担当理事、事務局長、学部長、留学生別科長、アドミッションセンター長、学長が指名する教職員で構成するアドミッション委員会（以下、委員会）が、入学者に係る募集、受入れ制度の企画・実施、奨学金、追跡調査と学部における学修状況、高等学校教育との接続など、入学者受入れに関する事項全般の審議を行う。委員会の議決事項に従い、アドミッションセンターが入学者選抜の実務を担当している。また、副学長、問題作成責任者、職員で構成する入試ワーキンググループにおいて、出題方針原案の作成や受験生成績等入試結果の検証等を行うことで、アドミッション・ポリシーと整合性のある試験問題の作成に資することとしている。

入学者選抜の実施は、「北陸大学入学者選抜規程」に基づいて行う。選抜問題の取扱いについては、学長の委嘱を受けた各科目の問題作成委員が年度当初から小委員会を定期的に開催して作問し、印刷立会いから封入・封印まで厳重な管理のもとで行っている。選抜の運営は、選抜ごとに定めた実施要領に基づき、アドミッションセンターが中心となって行う。地方会場を開設する場合は、会場ごとに責任者を定めた上で担当者説明会を各選抜前に開催し、選抜室の設営や選抜問題の保管・管理、監督要領並びに責任者委任事項及び入学者選抜統括本部との要協議事項などについて周知徹底している。選抜当日は、副学長を本部長とし、問題作成委員、アドミッションセンターからなる入学者選抜統括本部を設置し、各選抜会場との連絡を密に行いながら、公正、円滑な実施に努めている。合否判定は、採点結果を基に総合的に検討のうえ、委員会で判定案を作成する。委員会は判定案を全学教授会に付議し、全学教授会は判定案に基づき審議し合否を判定する。なお、面接を伴う選抜については事前・事後に面接員会議を開催し、アドミッション・ポリシーとの合致について、各面接員の評価意見を判定に反映させている。

「北陸大学入学者選抜規程」に準拠し、以下の会議・委員会において審議している。

#### ① 全学教授会

本学の入学試験の合格者はアドミッション委員会において審議し、全学教授会の審議を経て学長が決定することになっている。議長である学長の下、副学長、各学部長らにより構成される。

#### ② アドミッション委員会

本学の入学者選抜の実施方法、日程に関する事項や入学者選考に関する事項など、その他入学者選抜に関する事項を審議・決定する。委員長である学長の下、学務担当理事、事務局長、各学部長、留学生別科長、アドミッションセンター長らにより構成される。

### ③ 入学者選抜統括本部

入学者選抜を適正かつ円滑に実施するために入学者選抜統括本部を置き、本部長として副学長を充てる。

### ④ 問題作成委員

入学試験問題の作成及び採点等については、統括本部にこれを取り扱う問題作成委員を置き、委員は学長が委嘱する。

## (4) 入学定員に占める一般選抜区分の募集定員の割合

入学定員に占める一般選抜区分の募集定員の割合は 77.7%である。

## 9 取得可能な資格

心理社会学科において取得可能な資格は、次のとおりである。

### (1) 認定心理士

- ・種 別：民間資格
- ・取得内容：資格取得
- ・取得条件：卒業要件に含まれる科目の履修のみで取得可。なお、資格取得が卒業の必須要件ではない。

### (2) 認定心理士（心理調査）

- ・種 別：民間資格
- ・取得内容：資格取得
- ・取得条件：卒業要件に含まれる科目の履修のみで取得可。なお、資格取得が卒業の必須要件ではない。

### (3) 社会調査士

- ・種 別：民間資格
- ・取得内容：資格取得
- ・取得条件：卒業要件に含まれる科目の履修のみで取得可。なお、資格取得が卒業の必須要件ではない。

## 10 実習の具体的計画

### (1) 実習の目的

心理社会学科では、主として卒業後、心理専門職を志す4年次生を対象とした実習科目として「心理実習」を開講する。「心理実習」では、医療・福祉・教育・司法などの分野の施設において見学を中心とした実習を行う。

本実習科目は、学生自らが、これまで修得した心理学の知識・技能が社会のさまざま

な場面で活用されていることを各施設における体験を通じて確認することで、健康社会の実現に積極的に貢献する意欲と行動力を養う。

なお、実習の詳細については「北陸大学心理社会学科心理実習要項」【資料5】を作成し、実施する。

## (2) 実習先の確保の状況

心理社会学科が位置する石川県金沢市を中心に石川県内の医療・福祉・教育・司法分野に関連する実習施設として11施設から承諾を得ている。【資料6：実習先一覧】

本学科における心理専門職を志す学生は5～10人と想定しており、各学生が複数の分野の施設において実習が可能となる受け入れ先を既に確保している。また、医療分野については、該当学生全員が実習を行うことを想定しているが、5施設（一部福祉分野と共有）から延べ50人の受入承諾を得ており、十分な実習施設を確保している。

## (3) 実習先との契約内容

### ① 心理実習に係る契約

大学と実習施設の間で、実習に関する契約を結ぶ。契約書の内容については、期間、内容、実習費、学生の規則遵守、法人機密情報の保護、保険加入、実習中の負傷及び疾病、事故発生時の対応等である。実習施設に所定の契約書、実習要項等がある場合は、内容を検討のうえ、原則として実習施設の定めに従うこととする。

【資料7：実習生受け入れに関する契約書】

### ② 個人情報の保護に関する取り決め

学生には、実習開始までに個人情報保護や守秘義務、人権尊重の考え方に関して具体例を示して教授し、特にブログやツイッターなどのソーシャルネットワークへの投稿が禁止であることを厳重に注意する。「北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科心理実習における個人情報保護に関する基本方針」【資料8】で示す内容をもとに、実習で知り得た個人情報及び実習記録物の取り扱いについて十分指導する。

## (4) 実習水準の確保の方策

心理実習は、事前指導、心理実習、事後指導の3段階で構成され、実習担当者の役割は次のとおりである。

### ① 実習指導者

実習指導者は、本学科の実習目標に沿って学生の指導を行い、実習記録、出欠や体調などの状況を記録する。実習担当教員は、実習指導者と随時連絡を取り、学生の状況を把握し、実習指導者からの連絡内容に応じて迅速に対応できる学内体制を整備する。

## ② 実習担当教員

実習担当教員は、実習指導者の学生指導に助言し、必要に応じて実習施設を訪問して学生の指導にあたる。実習終了後には、各学生からの実習報告書等を基に心理実習におけるさまざまな課題について検討し、実習水準の確保を図る。

## (5) 実習先との連携体制

実習開始前に、各施設における実習指導者と情報共有を行い、実習の目的、目標、実施計画、指導方法等について確認する。実習中は、実習担当教員による巡回指導を実施し、実習生の状況を把握する。実習終了後には、実習指導者との意見交換を行い、反省点、目標到達度等を確認することで実習先との連携を図る。

### 【実習先との連携内容】

- ① 実習承諾の際に、施設側の実習指導窓口（実習指導者）の選任を依頼する。
- ② 実習に必要な公文書や契約書等、必要書類の有無を確認する。
- ③ 実習先の方針、特徴及び学生が事前に準備しておくべき課題や心構え等、実習全般について確認する。
- ④ 本学科に実習窓口（担当教員）を設置し、必要に応じて実習指導者と相互に連絡を図る。
- ⑤ 実習期間中、実習担当教員が実習施設を訪問し、学生の実習状況について実習指導者と共有する。学生と面談のうえ実習状況を確認し、必要に応じて指導を行う。
- ⑥ 事故防止に関する取り決め（緊急時の連絡体制等）を確認する。

事前指導において、危険を察知した場合の連絡、対処法等を十分に指導し、事故防止に心がける。また、事故発生時から事故処理までの連絡、報告体制を構築し、責任の所在を明確化するとともに、一貫した対応を行う。詳細については、「北陸大学心理社会学科心理実習要項」【資料5】に記載する。

## (6) 実習前の準備状況

心理実習の実施に際して、事前準備として本学において次のとおり体制を整える。学生の健康管理は、本学で全学生対象に年1回実施している定期健康診断を受診させ、学生の健康状況の把握をしている。必要により個別の健康相談などを行う。また、入学時より学生は全員学生教育研究災害傷害保険と賠償責任保険に加入する。その他、感染予防策として、抗原・抗体価検査と必要に応じてワクチン接種を推奨する。また、インフルエンザなど、時期的な流行性感染症については適宜接種を勧めていく。実習中に関するインシデント・アクシデント、感染対策については「北陸大学心理社会学科心理実習要項」【資料5】に従い指導、実施する。

## (7) 事前・事後における指導計画

### ① 事前指導計画

「心理実習」の受講に先立ち、3年次において「心理演習」を開講し、実習で訪問する施設等に関連する基本的な知識・技能の修得を行う。また、「心理実習」及び「心理演習」における重点的な内容は次のとおりである。

- ・心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
- ・多職種連携及び地域連携
- ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

なお、「心理演習」において、これまで修得した知識の復習を行うとともに、上記の修得が求められる事項について理解を深めることから、「心理実習」を履修する前提条件として、「心理演習」の単位を修得済みであることとする。

### ② 事後指導計画

教員は、個別の学生に対して実習の成果や問題点について個別面談などにより状況を把握し、必要な指導を行う。

## (8) 教員の配置並びに巡回指導計画

実習担当教員は、公認心理師の資格を有する専任教員4名とし、実習施設へ訪問して学生の実習状況について実習指導者と面談のうえ、把握する。さらに学生とも面談を行い、実習項目の実施状況を把握するとともに、直面する課題や問題があれば適切な指導を行う。なお、心理実習については、夏季休業期間中に実施することを予定しており、巡回指導に係る時間確保については、支障がないものと考えている。また、各施設等の都合により、通常授業期間中に実施された場合についても、実習先が大学近隣となるため、実習担当者の教育及び研究に支障なく巡回指導が可能であると考えている。【資料9：教員別時間割】

## (9) 実習施設における指導者の配置計画

実習施設の選定においては十分に実習指導経験を持つ指導者が担当可能であることを必須条件として依頼し決定した。各実習施設における指導者の配置計画は、それぞれの実習施設の環境や業務体制に従い実施される。

## (10) 成績評価体制及び単位認定方法

成績評価は、実習担当教員が、出席状況、実習内容、実習記録、実習態度、学生面接及び実習指導者の評価等を踏まえ総合的に評価し、最終的に科目責任者が単位認定を行う。

- ① 成績評価は、100点法により行い、評点が60点以上を合格とし単位が与えられる。
- ② 評点と評価は、100－90点（S）、89－80点（A）、79－70点（B）、69－60点（C）、

59-0点（F）とする。

## 11 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

### (1) 各種海外研修・留学プログラム等の具体的計画

本学では、昭和 63（1988）年より様々な海外研修・留学プログラムを開始し毎年継続して行ってきた。

心理社会学科においても、状況に応じたコミュニケーションの素養を身につけ、国際的視野を広げることを目的として、学生が希望すれば次の各種海外研修・留学プログラムへの参加が可能である。

#### ① 各種海外研修・留学プログラム

##### 1) グローバルプログラム（短期海外研修）

- ・期 間：夏季又は春季休業期間の 10 日間～3 週間
- ・派遣先：アメリカ、韓国、カンボジア、中国など（年度により派遣先変更）

##### 2) 短期海外語学研修

- ・期 間：夏季又は春季休業期間の 3 週間～1 ヶ月間
- ・派遣先：アメリカ（カリフォルニア大学リバーサイド校）  
オーストラリア（フリンダース大学、ウーロンゴン大学）  
中国（北京語言大学）

##### 3) セメスター（半期）・長期（1 年）留学

- ・期 間：半期又は 1 年間
- ・派遣先：アメリカ  
（カリフォルニア大学リバーサイド校、ジョージタウン大学）  
イギリス（リージェンツ大学）  
オーストラリア（ウーロンゴン大学、フリンダース大学）  
ニュージーランド（マッセー大学）  
中国（北京語言大学、天津外国語大学、大連外国語大学、蘇州大学）

#### ② 実習先の確保の状況

留学先については、姉妹校、友好校及び協定校として協定書等を締結している上記大学との協力のもと、各プログラム実施に係る派遣先は十分に確保されている。

#### ③ 実習先との連携体制

各種海外研修・留学プログラムを所管する国際交流センターの専門職員が現地担当者と連携し、留学生活特有の諸問題に対する指導を行う。

#### ④ 成績評価体制及び単位認定方法

各種海外研修・留学プログラムの成績評価については、事前・事後学修及び研修期間中の学修状況（研修先からの成績評価を含む）を単位認定権者が総合的に判断し、

合格と認められた学生に対して単位を認定する。なお、単位認定は申請方式となるため、事前・事後学修への出席は義務付けているが、単位の修得については任意とする。

## (2) 企業実習の具体的計画について

職業意識の育成、主体性などの社会人基礎力を養うことを目的とした1・2年次生対象の「体験学習Ⅰ・Ⅱ」、2・3年次生対象の「海外インターンシップ」「職業理解とインターンシップ」を配置する。

これらの教育プログラムは、事前学修、実習、成果報告（事後学修）によって構成されている。

「体験学習Ⅰ・Ⅱ」では、3回の事前学修、7日以上の実習（企業、NPOなど）を行い、実習終了後に活動成果報告を行う。事前学修では体験学習の意義、社会人としての礼節、実習先での活動研究を行う。実習終了後には活動成果についてレポートを作成することと併せて、プレゼンテーションを実施する。

「職業理解とインターンシップ」では、通常の15回の授業、1～3週間程度の企業実習、事後の学修成果報告を行う。事前学修にあたる通常授業においては、社会人としての意識付け、礼節、コミュニケーションスキル及び業界研究などを行う。企業実習終了後には学修成果についてレポートを作成することと併せて、プレゼンテーションを実施する。

「海外インターンシップ」では、3回の事前学修、海外において1週間程度の企業実習、事後の学修成果報告を行う。事前学修では、社会人としての礼節、実習先の研究及び海外で安全に活動するための学修を行う。企業実習終了後には学修成果についてレポートを作成することと併せて、プレゼンテーションを実施する。

成績評価については、各科目とも事前学修、実習、成果報告を総合的に評価したうえ、単位認定を行う。

実習受入先については、地方公共団体、商社、メーカー、金融、流通、NPOなど学生の職業選択を見据え、幅広く設けている。

受入企業等との連絡・サポートについては、専任教員及び進路支援課員からなる、進路支援委員会が中心となって行う。また、実習期間中に進路支援委員が現場に訪問または電話による状況確認を行う体制とする。

## 12 管理運営

大学の管理運営体制としては、学部の教学面における重要事項を審議するために学部教授会を設置し、大学全体の教学全般を審議する機関として全学教授会を設置している。さらに、学長の下に法人と大学の責任者で構成されている教学運営協議会を設置し、全学的に取り組むべき教育施策について審議を行い、教学と法人間の意思疎通を図っている。また、全学的及び学部運営組織として、教務、学生、入試、就職支援、図書館、国際交流、

自己点検・評価、FD・SDなどの各種委員会を設置している。

#### (1) 全学教授会

全学教授会は「北陸大学学則」第5条に規定されており、教育成果を上げるため教育に関する事項を審議する機関である。この全学教授会は、学長が招集し議長を務める。構成員は学長のほか、副学長、学部長、学生部長、教務部長、図書館長、教務委員長の他、学部長が指名した各学部の教授で、大学全体の意見が反映された審議が行われるように配慮されている。学部を超えた全学的な重要事項を審議するほか、各学部教授会の報告、教授会決議事項の全学的な調整等が行われる。

#### (2) 学部教授会

学部の教学面における重要事項を審議するために教授会を設置する。教授会は、学部長及び教授により構成され、学部長が必要と認めた場合、常勤の職員を陪席させることができる。

#### (3) 教学運営協議会

教育の質的向上の他、特色のある大学として地域を支える大学づくり、国内外の大学や諸機関と連携した教育研究など、本学が組織的・体系的に取り組む教育施策について審議するために北陸大学教学運営協議会を設置している。学長が議長となり、副学長、常任理事会において選任された常任理事、学部長、学生部長、教務部長、留学生別科長、事務局長、総合企画局長、学事本部長、管理本部長、企画本部長、そのほか学長が特に必要と認めた者をもって組織され、次の事項について審議している。

- ① 教育の中長期計画に関する事
- ② 全学的な教育編成方針に関する事
- ③ 教育の質保証・質的向上に関する事
- ④ 教学運営のPDCAサイクル確立に関する事
- ⑤ 教育における地域との連携協力に関する事
- ⑥ 国内外の大学や諸機関との連携協力に関する事
- ⑦ その他全学的な教育に関する事

#### (4) 学部・全学の各種委員会

学部・全学的な運営組織として、教務、就職支援、学生、入試、図書館、国際交流、自己点検・評価、FD・SD活動など、各種委員会を設置している。この各種委員会で企画・協議された重要事項は、教授会に付議し決定される。

○主な全学・学部委員会とその審議事項

委員会名	審議事項
教務委員会	教務に関する事項



進路支援委員会	学生の進路支援に関する事項
学生委員会	学生の福利厚生及び学生の生活補導に関する事項
アドミッション委員会	入学者の受入等に関する事項
図書館委員会	図書等の学術資料の設備及び情報に関する事項
国際交流委員会	国際交流に関する事項
自己点検・評価委員会	自己点検・評価に関する事項
全学教務委員会	全学的な教育編成方針、教育の質保証・質的向上などに関する事項
FD・SD 委員会	教員の教育活動の質的向上と能力開発、教職員の大学行政管理能力等の向上に資する組織的な取組みに関する事項

### 13 自己点検・評価

北陸大学では、平成14(2002)年度、平成25(2013)年度以降の毎年度、大学全体の自己点検・評価を実施し、いずれも「自己点検・評価報告書」としてとりまとめ公表している。学部単位では、薬学部が平成22(2010)年に、一般社団法人薬学教育評価機構が行う薬学教育第三者評価として、同機構が定める評価基準に基づき自己評価を実施した。未来創造学部においては、平成23(2011)年に公益財団法人日本高等教育評価機構の評価基準を参考に評価基準を設定し、自己点検・評価を実施した。

心理社会学科においても、既設学部において実施されている自己点検・評価活動を踏まえ、実施する。

平成16(2004)年度に制度化された第三者評価に関しては、公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を平成19(2007)年度、平成26(2014)年度に受審し、同機構が定める大学評価基準に適合していると認定された。

#### (1) 実施方法

本学では、大学教育における教育の理念、目標に照らして、教育研究等の活動の状況を点検・評価し、現状を把握、分析するとともに、その結果により教育研究等の活動の改善・向上を図ることを目的として、「北陸大学自己点検・評価規程」に基づき自己点検・評価を実施することとしている。

具体的には、学長の下に担当理事、副学長、学部長ほか学内各部局の長により編成される「北陸大学自己点検・評価委員会」を置き、各部局において自己点検・評価を行ったうえで全体的な自己点検・評価を行っている。心理社会学科においても学部長等が委員として本委員会に加わり、本学部に関する自己点検・評価活動の中心的役割を果たすこととなる。

## (2) 実施体制

自己点検・評価の実施にあたって、自己点検・評価規程に定める基本的な評価項目、評価基準に従い、自己点検・評価委員会の統括のもとに、全学構成員の参画により自己点検・評価を行う。学部ごとの自己点検・評価については、学部長を責任者として、点検・評価項目ごとに実施し、その結果を委員会に報告する。

心理社会学科においては、上記の実施体制に基づき、自主性と自立性のもとに、継続性と客観性を確保しつつ、自己点検・評価を実施できる体制を整備する。また、学部としての中長期的な目標設定と具体的な計画策定を行い、その達成状況の評価及び評価結果の活用が可能となるシステムを構築し、教育研究活動の充実と向上を図っていく。

## (3) 結果の活用・公表

自己点検・評価の結果については、その内容を公表して教育研究活動の状況を明らかにし、社会の評価を受けることを通して教育内容や方法の改善を図り、教育研究活動の充実と向上に努めていく。

自己点検・評価報告書は、大学として社会に対する説明責任を果たす観点から、ホームページでの公開や自己点検・評価報告書の作成、関係諸機関等への配布等により公表することとする。また、学内の教職員に配布し、各自が担当した自己点検・評価活動を通して得られた知見と同時に、大学の現況と問題点の共通理解を図ることで、各担当部署での業務改善と大学全体としてのFD・SD活動につなげていく。

## (4) 評価項目

自己点検・評価の項目は、自己点検・評価規程において、本学が加盟する公益財団法人日本高等教育評価機構の認証評価基準に沿いながら、本学の視点も加えて定められており、この基準に従い実施していく方針である。

心理社会学科では、学部の目的に即した教育研究活動の状況を点検・評価する専門分野別の自己点検・評価を促進していくことが重要であることから、本学科の評価項目については、大学全体の自己点検・評価の基本方針を踏まえた上で、以下の評価項目に随時追加しながら点検・評価を行うこととする。

- ① 学部・学科の基本理念及び使命・目的、個性・特色
- ② 教育研究組織と教員組織
- ③ 教育・研究活動
- ④ 教育研究の施設・設備
- ⑤ 学生の受入れ、学生支援
- ⑥ 図書及び学術資料
- ⑦ 学部運営

- ⑧ 社会との連携
- ⑨ 内部質保証
- ⑩ 自己点検・評価

## 14 情報の公表

本学に関する情報については、大学ホームページをはじめ、大学案内等の各種印刷物、各種メディアを通じて広く社会に公表しており、今後もホームページの更なる内容充実を図る等、積極的な情報の公表を行っていく。ホームページでは、学校教育法施行規則第172条の2に基づき、教育・研究に関する情報を以下のとおり公表している。（令和元年3月1日現在）

### (1) 大学の教育研究上の目的に関すること

#### ① 建学の精神、人材養成の目的、3つの方針（大学全体）

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education.html>)

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 教育・研究の情報)

#### ② 薬学部3つの方針

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/pharmacy/policy.html>)

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 教育・研究の情報 > 薬学部)

#### ③ 経済経営学部3つの方針

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/management/policy.html>)

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 教育・研究の情報 > 経済経営学部)

#### ④ 国際コミュニケーション学部3つの方針

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/communication/policy.html>)

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 教育・研究の情報 > 国際コミュニケーション学部)

#### ⑤ 医療保健学部3つの方針

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/medical/policy.html>)

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 教育・研究の情報 > 医療保健学部)

### (2) 教育研究上の基本組織に関すること

#### ① 設置する学部等

([https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education\\_teacher.html#page02](https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education_teacher.html#page02))

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 教育・研究上の基本組織に関する  
こと)

(3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

① 専任教員の年齢構成、男女別／所属別、資格別教員数

([https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/data\\_teacher.html](https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/data_teacher.html))

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 専任教員の年齢構成、男女別／所属別、資格別教員数)

② 教員組織内の役割分担

([https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education\\_teacher.html#page01](https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education_teacher.html#page01))

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 教員組織内の役割分担)

③ 大学組織図

([https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education\\_teacher.html#page02](https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education_teacher.html#page02))

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 大学組織図)

④ 各教員の学位・業績等（教員教育・研究情報ページ）

(<https://www.acoffice.jp/hruhpk/App>)

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 各教員の学位・業績等（教員教育・研究情報ページ）)

⑤ 教員一人当たりの学生数

([https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education\\_teacher.html#page04](https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education_teacher.html#page04))

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 教員一人当たりの学生数)

⑥ 専任教員と非常勤教員の比率

([https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education\\_teacher.html#page04](https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education_teacher.html#page04))

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 教員一人当たりの学生数)

(4) 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

① 入学者数、在籍学生数、収容定員

([https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education\\_student.html#page01](https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education_student.html#page01))

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 入学者数、在籍学生数、収容定員)

② 留学生数

([https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education\\_student.html#](https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education_student.html#))

page02)

([トップ](#) > [大学紹介](#) > [情報の公開](#) > [留学生数](#))

③ 学位授与数

([https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education\\_student.html#page03](https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education_student.html#page03))

([トップ](#) > [大学紹介](#) > [情報の公開](#) > [学位授与数](#))

④ 卒業者数、進学・就職状況

([https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education\\_student.html#page04](https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education_student.html#page04))

([トップ](#) > [大学紹介](#) > [情報の公開](#) > [卒業者数、進学者数、就職者数、進学・就職状況](#))

(5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること

① 薬学部薬学科カリキュラム及び年間授業計画

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/campus/pharmacy/>)

([トップ](#) > [大学紹介](#) > [情報の公開](#) > [薬学部](#))

② 経済経営学部カリキュラム及び年間授業計画

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/campus/management/>)

([トップ](#) > [大学紹介](#) > [情報の公開](#) > [経済経営学部](#))

③ 国際コミュニケーション学部カリキュラム及び年間授業計画

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/campus/communication/>)

([トップ](#) > [大学紹介](#) > [情報の公開](#) > [国際コミュニケーション学部](#))

④ 医療保健学部カリキュラム及び年間授業計画

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/campus/medical/>)

([トップ](#) > [大学紹介](#) > [情報の公開](#) > [医療保健学部](#))

(6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

① 薬学部 卒業・修了必要単位修得数等

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/campus/pharmacy/>)

([トップ](#) > [大学紹介](#) > [情報の公開](#) > [薬学部](#) > [履修の手引](#))

② 経済経営学部 卒業・修了必要単位修得数等

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/campus/management/>)

([トップ](#) > [大学紹介](#) > [情報の公開](#) > [経済経営学部](#) > [履修の手引](#))

③ 国際コミュニケーション学部 卒業・修了必要単位修得数等

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/campus/communication/>)

([トップ](#) > [大学紹介](#) > [情報の公開](#) > [国際コミュニケーション学部](#) >

履修の手引)

④ 医療保健学部 卒業・修了必要単位修得数等

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/campus/medical/>)

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 医療保健学部 > 履修の手引)

(7) 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

① キャンパス紹介

② キャンパスマップ (施設)

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/campus/>)

(トップ > キャンパス紹介)

③ アクセス

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/access/>)

(トップ > 交通アクセス)

(8) 授業料, 入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

① 学費等納入金

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/admission/expense/index.html>)

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 学費等納入金)

② 施設利用料 (学外者)

([https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/facility/facility\\_pricelist.pdf?rel=20170531](https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/facility/facility_pricelist.pdf?rel=20170531))

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 施設使用料)

(9) 大学が行う学生の修学, 進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

① 奨学金

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/admission/scholarship/>)

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 修学に係る支援 > 奨学金)

② アルベス (Real Video Education System)

(<https://lms2.rves.hokuriku-u.ac.jp/ActiveCampus/index.html>)

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 修学に係る支援 > アルベス  
(Real Video Education System: RVES))

③ 国際交流センター

④ 姉妹校・友好校・パートナーシップ校

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/iec/index.html>)

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 国際交流に係る支援 > 国際交流センター)

⑤ 海外派遣学生数

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/iec/number.html>)

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 国際交流に係る支援 > 海外派遣学生数)

⑥ 就職活動支援

- ・薬学部

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/careersupport/pharmacy/>)

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 進路選択に係る支援 > 薬学部)

- ・経済経営学部、国際コミュニケーション学部、医療保健学部

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/careersupport/future/>)

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 進路選択に係る支援 > 経済経営学部、国際コミュニケーション学部、医療保健学部)

⑦ 学生生活支援

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/support.html>)

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 学生生活の支援)

⑧ クラブ&サークル

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/club/>)

(トップ > クラブ&サークル)

⑨ 学生寮

- ・松雲会館 (男子寮)

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/campus/dormitory.html>)

(トップ > 大学紹介 > キャンパス紹介 > 松雲会館)

- ・ドームひまわりの家 (女子寮)

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/campus/himawari.html>)

(トップ > 大学紹介 > キャンパス紹介 > ドームひまわりの家)

(10) その他

① 学則等各種規程

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/regulations.html>)

(トップ > 大学紹介 > 大学の概要 > 学則・規程等)

② 自己点検・評価報告書

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/jabpe.html>)

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 自己点検・評価)

③ 認証評価の結果

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/jihee.html>)

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 大学機関別認証評価)

#### ④ 財務の情報

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/houjin.html>)

(トップ > 大学紹介 > 情報の公開 > 法人の情報 > 財務情報)

#### ⑤ 長期ビジョン・中期計画

(<https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/vision.html>)

(トップ > 大学の概要 > 長期ビジョン・中期計画)

### 15 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学では、教員の教育内容及び教育方法を改善・向上及び教職員の大学運営管理能力向上に関し、具体的な企画立案・実施を目的として「FD・SD委員会」を設置している。

#### (1) FD・SD委員会

学長又は学長が指名する副学長が委員長となり、副学長、学部長、教務部長、事務局長、各学部から選出された教員各1名、学長が必要と認めた教員若干名及び学長が事務局長の意見を聴き必要と認めた職員若干名で構成され、教員の教育活動の質的向上と能力開発、教職員の大学行政管理能力等の向上に資する組織的な取組みが行われるよう次の事項を審議立案し実施している。

- ① 授業内容、授業方法の向上を図ること
- ② 授業評価の実施とその検討
- ③ 大学行政管理能力及び教学マネジメントの育成
- ④ FD及びSDに関する研究会、研修会の立案・実施
- ⑤ FD及びSD活動の点検及び評価
- ⑥ その他FD及びSDに関する事項

学部でのFD活動と全学的な「FD・SD委員会」とが連携しながら授業内容、授業方法の改善を図っている。全学的に実施している活動は、下記のとおりである。

#### (2) FD・SD研修会の実施

教育方法の改善及び教育力の向上を目的として、全教員を対象としてFD・SD研修会を開催している。研修会のテーマは、「FD・SD委員会」で決められている。

#### (3) 学修アンケートの実施

前期・後期毎に、全ての講義科目、演習科目及び実習科目を対象に、「学修アンケート」を実施している。「学修アンケート」の集計結果は、個別に各授業担当教員にフィードバックされ、授業改善に利用されているほか、全ての担当教員に授業改善に関する工夫や改善点を記載させる「授業の自己点検報告書」の提出を求めている。問題がある科目に関しては、担当教員に学部長が注意喚起や指導を行っている。



#### (4) 公開授業と授業参観

前期後期毎に授業公開週間を設け、教職員による授業参観を実施している。教員は自らの授業・教育法の振り返りと改善のヒントを得る良い機会となっている。参観者による感想は教職員全員に公開しており、授業改善に活用している。

### 16 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

本学部では、学生の進路指導に係る業務について、進路支援課を設置し、学部に設置する進路支援委員会と連携して、教育課程内外での学生指導にあたっている。

#### (1) 教育課程内の取り組み

心理社会学科では、学生が自立した社会人となるために必要な意識や能力を身につけるため、教育課程内において順次的・体系的に科目を配置している。

##### ① キャリア科目に設置する社会的・職業的自立に関する教育

本学科のキャリア教育は年次進行とともに社会的・職業的な自立のためのスキルを身につけるように編成している。

1年次では、後期に「PBL 入門」を配置し、社会で求められる意識や能力を理解するとともに、自らが身につけなければならない能力等の涵養を図ることとしている。

2年次には、前期に「コミュニケーション技法Ⅰ」を配置し、社会人として求められるディスカッションやディベートなどの基礎的なコミュニケーション能力を身につける。また後期には「現代社会と職業」を配置し、実際の働き方を学び、自らの職業意識を高める。

3年次では、これまでのキャリア教育で身につけた社会人としての能力をより高めることを目的として「コミュニケーション技法Ⅱ」を配置する。

また、上記科目に加え、職業現場で必要となる実践的な能力を身につけることを目的として、2年次「体験学習Ⅰ・Ⅱ（各1単位）」「海外インターンシップ（1単位）」3年次に「職業理解とインターンシップ」を配置する。

##### ② キャリア科目以外における社会的・職業的自立に関する教育

本学科では、総合教育科目及び専門教育科目においても社会人として活躍できる知識と能力を実践的に学ぶ機会を設けている。

総合教育科目においては、社会人として必要不可欠な情報リテラシーを修得できるよう1年次の前期に「情報処理入門」、後期に「情報処理応用」を開講する。

専門教育科目においては、1年次の前後期に「心理学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を開講する。「心理学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」は少人数によるクラス編成を行い、心理学の専門知識の修得のみならず、コミュニケーション能力、他者と協働する力の養成を図る。

2・3年次では、同じく少人数による演習科目として「心理学ゼミナールⅠ～Ⅳ」を開講する。「心理学ゼミナール」では、4年次の卒業研究に向けた取り組みとして、学生自身が興味を持った課題等について調査し、他の学生とディスカッションによ

り、自らの考えを発信できる能力を養う。また、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」においては、これまでの学修成果を取りまとめることでより深い思考能力を修得し、卒業後、社会での活躍や大学進学につなげていく。

## (2) 教育課程外の取り組み

国際コミュニケーション学部では、学生が自らの進路を意識し、4年間を通じて社会人としての意識と能力を形成できるよう指導や相談を行う。

心理社会学科においても、既設の国際コミュニケーション学科と共同で設置する進路支援委員会と進路支援課が連携して、企画・立案・実施する。

### ① 進路ガイダンス

入学時から、各学期において進路ガイダンスを実施する。本学の就職・進学状況の公開、学生を取り巻く社会環境（就職環境）、本学で実施されている支援体制等について説明し、早期からの取り組みが重要であることを理解させる。

### ② 個別面談

3年次に、学生一人ひとりと面談を実施する。面談では、学生が現時点で思い描く卒業後の進路について確認するとともに、希望の進路に向けた今後必要となる対応等について指導する。なお、個別面談については、進路決定まで定期的を実施する。また、面談時の記録については、学生カルテを作成し、情報を蓄積することで、随時、適切な助言・指導が行える体制とする。

### ③ 就職活動対策講座

3年次の後期に、全学生を対象に基本的な就職活動に関する情報を提供する。学外から講師を招聘し、就職活動時の心構え、就職環境、業界・企業研究の手法及び具体的な準備等について講演し、学生の理解を深め、自主的に活動を促進する。

### ④ 仕事研究

企業の採用担当者、本学のOB・OG等を招聘し、各業界の現状、各職種の特徴などについて小グループで意見交換が行える機会を設定し、将来の職業選択に役立てる。

# 設置の趣旨等を記載した書類

## 資料の目次

- 資料1 国際コミュニケーション学部心理社会学科カリキュラムマップ
- 資料2 国際コミュニケーション学部心理社会学科カリキュラムツリー
- 資料3 学校法人北陸大学就業規則（抜粋）
- 資料4 国際コミュニケーション学部心理社会学科履修モデル
- 資料5 北陸大学心理社会学科心理実習要項（案）
- 資料6 心理実習施設一覧
- 資料7 実習生受入に関する契約書
- 資料8 国際コミュニケーション学部心理社会学科心理実習における個人情報保護に関する基本方針（案）
- 資料9 国際コミュニケーション学部心理社会学科教員別時間割（予定）

国際コミュニケーション学部 心理社会学科カリキュラム・マップ

教育理念	人材養成の目的
<p>【国際コミュニケーション学部】 コミュニケーションをとおして、平和で豊かな多文化共生社会の実現を目指す。</p> <p>【心理社会学科】 人間の心理と行動、社会の諸問題を探究し、健やかな人間社会の構築を目指す。</p>	<p>【国際コミュニケーション学部】 コミュニケーション力をもって、社会の課題解決に取り組み、グローバル化する現代社会に貢献できる人材を養成する。</p> <p>【心理社会学科】 社会全体を俯瞰できる広い視野、人間の心理を深く理解する力とコミュニケーション力をつけ、「人と人」「人と社会」をつなぎ、健康社会の実現に貢献できる人材を養成する。</p>

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー:DP)	科目分類・科目段階												
<p>【大学】 本学は、「自然を愛し、生命を尊び、真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。 (知識・技能) (1)健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。 (2)専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。 (思考力・判断力・表現力) (3)知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。 (4)自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。 (主体性・多様性・協働性) (5)多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。 (6)自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。</p> <p>【国際コミュニケーション学部】 本学部及び各学科の人材養成の目的に沿って、各学科で示されたディプロマ・ポリシーの要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。</p> <p>【心理社会学科】 人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士(心理学)の学位を授与する。 (知識・技能) (1)人間の心理、コミュニケーションに関する基本的な知識と技能を身につけている。 (2)多文化共生社会への理解を深め、社会全体を俯瞰できる広い視野を身につけている。 (思考力・判断力・表現力) (3)社会と人間に関する事象を、心理学的視点から分析し、複眼的に理解する力を身につけている。 (4)社会の諸問題を探究し、心理学的な視点と研究方法により、課題解決に取り組む能力を身につけている。 (主体性・多様性・協働性) (5)健康社会の実現に積極的に貢献する意欲と行動力を身につけている。 (6)多様な価値観や立場を持つ他者を思いやり、協働できる力を身につけている。</p>	<p>◆科目分類</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">総合教育科目</td> <td>基礎科目 Basic Subjects</td> <td>BS</td> </tr> <tr> <td>キャリア科目 Career Education Subjects</td> <td>CES</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">専門教育科目</td> <td>専門教育科目 Specialized Subjects</td> <td>SS</td> </tr> <tr> <td>展開応用科目 Deployment Application Subjects</td> <td>DAS</td> </tr> <tr> <td>現代社会科目 Modern Society Subjects</td> <td>MSS</td> </tr> </table> <p>◆科目の段階</p> <p>100 番台 基礎教養科目(語学科目を含む) 200 番台 キャリア科目 300 番台 専門教育科目【現代社会科目】 400 番台 専門教育科目【共通領域】 500 番台 展開応用科目</p>	総合教育科目	基礎科目 Basic Subjects	BS	キャリア科目 Career Education Subjects	CES	専門教育科目	専門教育科目 Specialized Subjects	SS	展開応用科目 Deployment Application Subjects	DAS	現代社会科目 Modern Society Subjects	MSS
総合教育科目	基礎科目 Basic Subjects		BS										
	キャリア科目 Career Education Subjects	CES											
専門教育科目	専門教育科目 Specialized Subjects	SS											
	展開応用科目 Deployment Application Subjects	DAS											
	現代社会科目 Modern Society Subjects	MSS											

心理社会学科カリキュラム					心理社会学科ディプロマ・ポリシーとの関連 (◎=強く関連、○=関連)					
ナンバリング	科目名	科目区分	単位数	配当年次	〈知識・技能〉		〈思考力・判断力・表現力〉		〈主体性・多様性・協働性〉	
					(1)人間の心理、コミュニケーションに関する基本的な知識と技能を身につけている。	(2)多文化共生社会への理解を深め、社会全体を俯瞰できる広い視野を身につけている。	(3)社会と人間に関する事象を、心理学的視点から分析し、複眼的に理解する力を身につけている。	(4)社会の諸問題を探究し、心理学的な視点と研究方法により、課題解決に取り組む能力を身につけている。	(5)健康社会の実現に積極的に貢献する意欲と行動力を身につけている。	(6)多様な価値観や立場を持つ他者を思いやり、協働できる力を身につけている。
BS101	北陸大学の学び	必修	1	1	○					◎
BS102	自然科学概論	選択	2	1		○				
BS103	哲学	選択	2	1		○				○
BS104	社会学	選択	2	1	○		◎			
BS105	芸術学	選択	2	1		○				
BS106	経済学	選択	2	2		○				
BS107	ジェンダー論	選択	2	2			◎			○
BS108	日本史	選択	2	1		○				
BS109	日本国憲法	選択	2	2		○				
BS110	スポーツ I	選択	1	1		○				○
BS111	スポーツ II	選択	1	1		○				○
BS112	スポーツ科学	選択	2	2		○				○
BS113	情報処理入門	必修	1	1	○					○
BS114	情報処理応用	選択	1	1			○	○	○	
BS115	English Communication I	必修	1	1	○	○				○
BS116	English Communication II	必修	1	1	○	○				○
BS117	総合英語 I	選択	2	2	○	○				○
BS118	総合英語 II	選択	2	2	○	○				○
BS119	総合英語 III	選択	2	3	○	○				○
BS120	総合英語 IV	選択	2	3	○	○				○
BS121	中国語会話	選択	1	2	○	○				○
CES201	PBL 入門	選択	2	1					○	◎
CES202	現代社会と職業	選択	2	2	○	◎				○
CES203	コミュニケーション技法 I	選択	2	2	○	◎				○
CES204	コミュニケーション技法 II	選択	2	3	○	◎				○
CES205	体験学習 I	選択	1	1	○					◎
CES206	体験学習 II	選択	1	2	○					◎

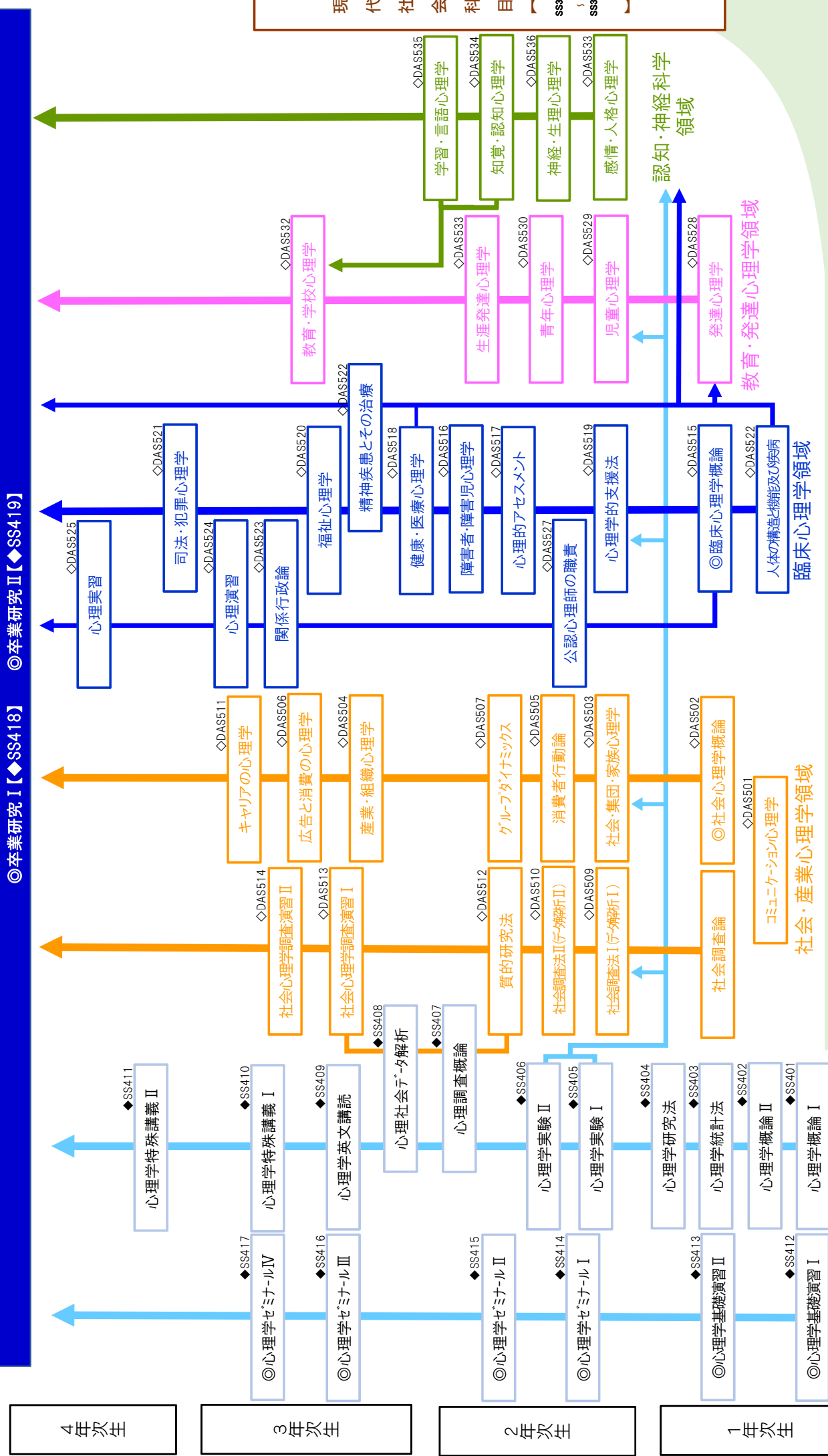
心理社会学科カリキュラム					心理社会学科ディプロマ・ポリシーとの関連 (◎=強く関連、○=関連)					
ナンバリング	科目名	科目区分	単位数	配当年次	〈知識・技能〉		〈思考力・判断力・表現力〉		〈主体性・多様性・協働性〉	
					(1)人間の心理、コミュニケーションに関する基本的な知識と技能を身につけている。	(2)多文化共生社会への理解を深め、社会全体を俯瞰できる広い視野を身につけている。	(3)社会と人間に関する事象を、心理学的視点から分析し、複眼的に理解する力を身につけている。	(4)社会の諸問題を探求し、心理学的な視点と研究方法により、課題解決に取り組む能力を身につけている。	(5)健康社会の実現に積極的に貢献する意欲と行動力を身につけている。	(6)多様な価値観や立場を持つ他者を思いやり、協働できる力を身につけている。
CES207	職業理解とインターンシップ	選択	2	3	○	◎				◎
CES208	海外インターンシップ	選択	1	2	○	◎				◎
SS401	心理学概論Ⅰ	必修	2	1	◎	◎	◎	○		
SS402	心理学概論Ⅱ	必修	2	1	◎	◎	◎	○		
SS403	心理学統計法	選択	2	1			○	○		
SS404	心理学研究法	選択	2	1	○		◎	◎	◎	
SS405	心理学実験Ⅰ	選択	2	2	○		◎	◎		
SS406	心理学実験Ⅱ	選択	2	2	○		◎	◎		
SS407	心理調査概論	選択	2	2			○	◎		
SS408	心理社会データ解析	選択	2	3			○	○		
SS409	心理学英文講読	選択	2	3	○		○	○		
SS410	心理学特殊講義Ⅰ	選択	2	3		◎	○	◎		
SS411	心理学特殊講義Ⅱ	選択	2	4		◎	◎	○		
SS412	心理学基礎演習Ⅰ	必修	2	1	◎				○	○
SS413	心理学基礎演習Ⅱ	必修	2	1	◎				○	○
SS414	心理学ゼミナールⅠ	必修	2	2	◎				○	○
SS415	心理学ゼミナールⅡ	必修	2	2	◎				○	○
SS416	心理学ゼミナールⅢ	必修	2	3	◎		○	◎		○
SS417	心理学ゼミナールⅣ	必修	2	3	◎		○	◎		○
SS418	卒業研究Ⅰ	必修	2	4			◎	◎		○
SS419	卒業研究Ⅱ	必修	2	4			◎	◎		○
DAS501	コミュニケーション心理学	選択	2	1	◎	○			◎	
DAS502	社会心理学概論	必修	2	1	◎	○				○
DAS503	社会・集団・家族心理学	選択	2	2	◎	○			○	○
DAS504	産業・組織心理学	選択	2	3	◎	○			○	
DAS505	消費者行動論	選択	2	2	◎		○			
DAS506	広告と消費の心理学	選択	2	3	◎	○	○			
DAS507	グループダイナミクス	選択	2	2	◎	○	○			
DAS508	社会調査論	選択	2	1	◎	○		○		
DAS509	社会調査法Ⅰ(データ解析Ⅰ)	選択	2	2	○		○	◎		
DAS510	社会調査法Ⅱ(データ解析Ⅱ)	選択	2	2	○		○	◎		
DAS511	キャリアの心理学	選択	2	3	◎	○			○	○
DAS512	質的研究法	選択	2	2	○		○	◎		
DAS513	社会心理学調査演習Ⅰ	選択	2	3	○		○	◎		
DAS514	社会心理学調査演習Ⅱ	選択	2	3	○		○	◎		
DAS515	臨床心理学概論	必修	2	1	◎		○	○		
DAS516	障害者・障害児心理学	選択	2	2		○			◎	◎
DAS517	心理的アセスメント	選択	2	2		○	◎		○	◎
DAS518	健康・医療心理学	選択	2	3	◎		○	○		
DAS519	心理学的支援法	選択	2	2	○	◎	◎		○	○
DAS520	福祉心理学	選択	2	3		◎	◎	◎	○	○
DAS521	司法・犯罪心理学	選択	2	3	◎	○			○	○
DAS522	人体の構造と機能及び疾病	選択	2	1			◎		○	
DAS523	精神疾患とその治療	選択	2	3		◎	◎		○	

心理社会学科カリキュラム					心理社会学科ディプロマ・ポリシーとの関連 (◎=強く関連、○=関連)					
ナンバリング	科目名	科目区分	単位数	配当年次	〈知識・技能〉		〈思考力・判断力・表現力〉		〈主体性・多様性・協働性〉	
					(1)人間の心理、コミュニケーションに関する基本的な知識と技能を身につけている。	(2)多文化共生社会への理解を深め、社会全体を俯瞰できる広い視野を身につけている。	(3)社会と人間に関する事象を、心理学的視点から分析し、複眼的に理解する力を身につけている。	(4)社会の諸問題を探究し、心理学的な視点と研究方法により、課題解決に取り組む能力を身につけている。	(5)健康社会の実現に積極的に貢献する意欲と行動力を身につけている。	(6)多様な価値観や立場を持つ他者を思いやり、協働できる力を身につけている。
DAS524	関係行政論	選択	2	3		◎	○	○		
DAS525	心理演習	選択	2	3	○	○	○	○	◎	○
DAS526	心理実習	選択	2	4	○	○	○	○	◎	○
DAS527	公認心理師の職責	選択	2	2	◎	○	○	○	◎	○
DAS528	発達心理学	選択	2	1	◎		○		○	
DAS529	児童心理学	選択	2	2	◎		○		○	
DAS530	青年心理学	選択	2	2	◎		○		○	
DAS531	教育・学校心理学	選択	2	3	◎		○		○	
DAS532	生涯発達心理学	選択	2	2	◎		○		○	
DAS533	感情・人格心理学	選択	2	2	◎		○	○		
DAS534	知覚・認知心理学	選択	2	2	◎		◎	○		
DAS535	学習・言語心理学	選択	2	2	◎		○	◎		○
DAS536	神経・生理心理学	選択	2	2	◎				○	○
SS301	北陸の文化と社会	選択	2	1		◎				○
SS302	国際関係学入門	選択	2	1		◎				◎
SS303	異文化間コミュニケーション	選択	2	1	◎	◎				○
SS304	文化資源学入門	選択	2	1		◎				○
SS305	ことばと文化	選択	2	1		◎				○
SS306	宗教学	選択	2	1		◎				○
SS307	言語学入門	選択	2	2	○	◎				○
SS308	国際史関係史	選択	2	2		◎				○
SS309	現代日本論	選択	2	2		◎				○
SS310	経営組織論	選択	2	2	○	◎				○
SS311	教育社会学	選択	2	2	○	◎				○
SS312	家族社会学	選択	2	2	○			○		◎
SS313	環境社会学	選択	2	2	○	◎				
SS314	国際社会論	選択	2	2	○	◎				○
SS315	中国の文化と社会	選択	2	2	○	◎				○
SS316	文化資源学（歴史・民俗）	選択	2	2		◎				○
SS317	文化資源学（美術・工芸）	選択	2	2		◎				○
SS318	文化資源学（史跡・名勝地）	選択	2	3		◎				○
SS319	文化資源学（世界遺産）	選択	2	3		◎				○
SS320	観光ビジネス論	選択	2	3		◎				○
SS321	現代アジア論Ⅰ	選択	2	3		◎				○
SS322	現代アジア論Ⅱ	選択	2	3		◎				○
SS323	現代アメリカ論	選択	2	3		◎				○
SS324	現代ヨーロッパ論	選択	2	3		◎				○
SS325	国際協力論	選択	2	3		◎				○
SS326	英語圏の文化と社会	選択	2	3	○	◎				○
SS327	マーケティング論	選択	2	3		◎				○
SS328	マーケットリサーチ論	選択	2	4		◎				○
SS329	英米文学史	選択	2	4	○	◎				
SS330	海外研修A	選択	1	2	○	◎				◎
SS331	海外研修B	選択	1	2	○	◎				◎

心理社会学科カリキュラム					心理社会学科ディプロマ・ポリシーとの関連 (◎=強く関連、○=関連)					
ナンバリング	科目名	科目区分	単位数	配当年次	〈知識・技能〉		〈思考力・判断力・表現力〉		〈主体性・多様性・協働性〉	
					(1)人間の心理、コミュニケーションに関する基本的な知識と技能を身につけている。	(2)多文化共生社会への理解を深め、社会全体を俯瞰できる広い視野を身につけている。	(3)社会と人間に関する事象を、心理学的視点から分析し、複眼的に理解する力を身につけている。	(4)社会の諸問題を探究し、心理学的視点と研究方法により、課題解決に取り組む能力を身につけている。	(5)健康社会の実現に積極的に貢献する意欲と行動力を身につけている。	(6)多様な価値観や立場を持つ他者を思いやり、協働できる力を身につけている。
SS332	短期海外研修	選択	1	1~3	○	◎				◎
SS333	海外語学研修A	選択	2	1~3	○	◎				◎
SS334	海外語学研修B	選択	2	1~3	○	◎				◎
SS335	海外留学A	選択	6	1~3		◎			◎	◎
SS336	海外留学B	選択	6	1~3		◎			◎	◎
SS337	海外留学C	選択	6	1~3		◎			◎	◎
SS338	海外留学D	選択	6	1~3		◎			◎	◎

国際コミュニケーション学部 心理社会学科カリキュラムツリー

DP1:人間の心理、コミュニケーションに関する基本的な知識と技能を身につけている。	DP2:多文化共生社会への理解を深め、社会全体を俯瞰できる広い視野を身につけている。	DP3:社会と人間に関する事象を、心理学的視点から分析し、複眼的に理解する力を身につけている。	DP4:社会の諸問題を探究し、心理学的な視点と研究方法により、課題解決に取り組み能力を身につけている。	DP5:健やかな社会の実現に積極的に貢献する意欲と行動力を身につけている。	DP6:多様な価値観や立場を持つ他者を思いやり、協働できる力を身につけている。
---	--	---	---	---------------------------------------	---



共通領域(専門)

社会・産業心理学領域

臨床心理学領域

教育・発達心理学領域

認知・神経科学領域

総合教育科目【BS101~BS121, CES201~208】

◆...専門教育科目

◇...展開応用科目



学校法人北陸大学就業規則（抜粋）

第 2 章 人 事

第 5 節 定年制

（定年年齢）

第 24 条 教育の定年は満 65 歳、職員の定年は満 60 歳とし、定年に達した日の属する学年度の末日に退職するものとする。

（設置認可申請等教員名簿登載教員の定年年齢）

第 25 条 大学院・学部・学科の新增設及び改組転換等のため採用され、設置認可申請教員名簿に登載された教員の定年については、次の区分により、定年に達した日の属する学年度の末日に退職するものとする。

（1）採用時の年齢が満 60 歳未満の者の定年は、満 65 歳。

（2）採用時の年齢が満 60 歳以上の者の定年は、採用日より 6 年とする。ただし、採用時の年齢が満 60 歳以上の者で「学校法人北陸大学教育職員の任期制に関する規程」第 3 条に基づき雇用契約した者は、その任期満了時に雇用契約は終了する。

（特任教員）

第 26 条 理事長は、学長の意見を聴き、大学運営上引き続き勤務させる必要があると認めた教員の定年退職者を、特任教員として新たに採用することができる。

2 特任教員の採用は、別に定める規則により、1 年以内の期間の定めのある雇用契約による。

3 特任教員の職務は、原則として授業時間担当のみとする。

国際コミュニケーション学部心理学科 履修モデル【公認心理師モデル】

科目区分	1年次				2年次				3年次				4年次				卒業要件
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		
	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
総合教育科目	◎北陸大学の学び	1	社会学	2	ジェンダー論	2											必修24単位 選択16単位以上
	哲学	2	情報処理応用	1													
	スポーツI	1															
外国語科目	◎情報処理入門	1															必修24単位 選択16単位以上
	◎English Communication I	1	◎English Communication II	1	総合英語 I	2											
	PBL入門	2			コミュニケーション技法 I	2											
共通領域	◎心理学基礎演習 I	2	◎心理学基礎演習 II	2	◎心理学ゼミナール I	2	◎心理学ゼミナール II	2	◎心理学ゼミナール III	2	◎心理学ゼミナール IV	2	◎卒業研究 I	2	◎卒業研究 II	2	必修24単位 選択16単位以上
	◎心理学概論 I	2	◎心理学概論 II	2	心理学実験 I	2	心理学実験 II	2			心理学英文講読	2	心理学特殊講義 II	2			
		2	心理学統計法	2		2		2			心理学特殊講義 I	2		2			
専門教育科目	◎コミュニケーション心理学	2	◎社会心理学概論	2	◎社会・集団・家族心理学	2											必修24単位 選択16単位以上
		2	◎臨床心理学概論	2	公認心理師の職責	2	障害者・障害児心理学	2	健康・医療心理学	2	福祉心理学	2	心理実習	2			
		2	◎発達心理学概論	2	心理学的支援法	2	心理的アセスメント	2	精神疾患とその治療	2	司法・犯罪心理学	2		2			
展開応用科目		2	発達心理学	2	児童心理学	2	生涯発達心理学	2	教育・学校心理学	2							必修24単位 選択16単位以上
		2														必修24単位 選択16単位以上	
		2															
現代社会科目		2	北陸の文化と社会	2	教育社会学	2	環境社会学	2	マーケティング論	2							必修24単位 選択16単位以上
		2	異文化間コミュニケーション	2	経営組織論	2	家族社会学	2								必修24単位 選択16単位以上	
		2	宗教学	2	現代日本論	2											

海外研修(2単位)



北陸大学 心理社会学科  
心理実習要項(案)

## I. はじめに : 「心理実習」の位置づけ

### 1. 公認心理師法等の法令にある位置づけと目的

公認心理師法（平成 27 年法律第 68 号）は同資格試験の受験資格として「学校教育法に基づく大学において心理学その他の公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定めるものを修めて卒業」することを条件としており、公認心理師法施行規則第 1 条において、その科目の中に「心理実習（実習の時間が 80 時間以上のものに限る。）」が定められている。

心理実習の開講に当たっては、以下の事項に留意することが示されている。

#### 心理実習

心理実習の時間は、80 時間以上とすること

その際、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の 5 分野（以下「主要 5 分野」という。）に関する施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者又は実習担当教員による指導を受けるべきこと。ただし、当分の間、医療機関での実習を必須とし、医療機関以外の施設における実習については適宜行うこととしても差し支えないこと。

（「公認心理師法第 7 条第 1 号及び第 2 号に規定する公認心理師になるために必要な科目の確認について」（29 文科初第 879 号 障発 0915 第 8 号 平成 29 年 9 月 15 日）

実習の内容（「必要な科目に含まれる事項」）については、以下のように示されている。

#### 心理実習

① 実習生が、次の（ア）から（ウ）までに掲げる事項について、主要 5 分野の施設（具体的な施設については「公認心理師法施行規則第三条第三項の規定に基づき、文部科学大臣及び厚生労働大臣が別に定める施設」（平成 29 年文部科学省・厚生労働省告示第 5 条）のとおりに）において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者又は実習担当教員による指導を受けるべきこと。ただし、当分の間、医療機関での実習を必須とし、医療機関以外の施設における実習については適宜行うこととしても差し支えないこと。

② 実習担当教員が、実習生の実習状況について把握し、次の（ア）から（ウ）までに掲げる事項について基本的な水準の修得ができるように、実習生及び実習指導者との連絡調整を密に行う。

（ア） 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ

（イ） 多職種連携及び地域連携

（ウ） 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

（「公認心理師法第 7 条第 1 号及び第 2 号に規定する公認心理師になるために必要な科目の確認について」（29 文科初第 879 号 障発 0915 第 8 号 平成 29 年 9 月 15 日）

具体的な実習施設としては、以下のように定められている。

1. 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に規定する学校

2. 地域保健法（昭和22年法律第101号）に規定する保健所又は市町村保健センター
3. 児童福祉法（昭和22年法律第164号）に規定する障害児通所支援事業若しくは障害児相談支援事業を行う施設、児童福祉施設又は児童相談所
4. 医療法（昭和23年法律第205号）に規定する病院又は診療所
5. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）に規定する精神保健福祉センター
6. 生活保護法（昭和25年法律第144号）に規定する救護施設又は厚生施設
7. 社会福祉法（昭和26年法律第45号）に規定する福祉に関する事務所又は市町村社会福祉協議会
8. 売春防止法（昭和31年法律第118号）に規定する婦人相談所又は婦人保護施設
9. 知的障害者福祉法（昭和35年法律第37号）に規定する知的障害者更生相談所
10. 障害者の雇用の促進等に関する法律（昭和35年法律第123号）に規定する広域障害者職業センター、地域障害者職業センター又は障害者就業・生活支援センター
11. 老人福祉法（昭和38年法律第133号）に規定する老人福祉施設
12. 労働安全衛生法（昭和47年法律第57号）に規定する労働者に対する健康教育及び健康相談その他労働者の健康の保持増進を図るため必要な措置を講ずる施設
13. 厚生保護事業法（平成7年法律第86号）に規定する更生保護施設
14. 健康保険法等の一部を改正する法律（平成18年法律第83号）附則第130条の2第1項の規定によりなおその効力を有するものとされた同法第26条の規定による改正前の介護保険法（平成9年法律第123号）に規定する介護療養型医療施設又は介護保険法に規定する介護老人保健施設若しくは地域包括支援センター
15. 法務省設置法（平成11年法律第93号）に規定する刑務所、少年刑務所、拘置所、少年院、少年鑑別所、婦人補導院若しくは入国者収容所又は地方更生保護委員会若しくは保護観察所
16. 厚生労働省組織令（平成12年政令第252号）に規定する国立児童自立支援施設
17. ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法（平成14年法律第105号）に規定するホームレス自立支援事業を行う施設
18. 独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園法（平成14年法律第167号）に規定する独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園
19. 発達障害者支援法（平成16年法律第167号）に規定する発達障害者支援センター
20. 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号）に規定する障害福祉サービス事業、一般相談支援事業若しくは特定相談支援事業を行う施設、基幹相談支援センター、障害者支援施設、地域活動支援センター又は福祉ホーム
21. 就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律（平成18年法律第77号）に規定する認定こども園
22. 子ども・若者育成支援推進法（平成21年法律第71号）に規定する子ども・若者総合相

談センター

23. 子ども・子育て支援法（平成24年法律第65号）に規定する地域型保育事業を行う施設
24. 前各号に掲げる施設に準ずる施設として文部科学大臣及び厚生労働大臣が認める施設（公認心理師法施行規則第三条第三項の規定に基づき、文部科学大臣及び厚生労働大臣が別に定める施設（平成29年文部科学省・厚生労働省告示第5条））

## 2. 「心理演習」、その他の科目との関連

「心理演習」では、次の(ア)から(オ)までに掲げる事項について具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）や事例検討を行う。

- (ア) 心理に関する支援を要する者などに関する以下の知識及び技能の修得
  - (1) コミュニケーション
  - (2) 心理検査
  - (3) 心理面接
  - (4) 地域支援 等
- (イ) 心理に関する支援を要する者等のニーズの把握及び支援計画の作成
- (ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ
- (エ) 多職種連携及び地域連携
- (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

「心理演習」で学ぶ内容は、知識を知的に理解するだけでなく、「心理実習」における各分野での施設で利用者や関係者とふれあうための基本的な技能を身につける体験学習が大切である。各分野の施設における実践を見学する際の意欲や関心を深めるために必要な情動を含む学習といえる。両科目を連携させて計画的に体験学習を深めることが求められる。

また、座学を中心としたその他の科目の内容は「心理実習」で各分野の施設に赴くための不可欠な知識であり、将来公認心理師としての活動を支える大切な知的財産となる。こうした知識の裏付けが、実習や実践の質を保証することとなる。その重要性を理解し、全ての科目にしっかりと取り組み、生きた知識として身につけておくことが望ましい。

## 3. 大学院での「心理実践実習」、その他の科目との関連

大学院での「心理実践実習」においては、学部の「心理演習」で掲げた(ア)から(オ)について、主要5分野の施設で支援を実践しながら、実習指導者又は実習担当教員による指導（スーパービジョン、ケースカンファランス等）を受けることが求められる。

学部での「心理実習」はその前提となる実習であり、各分野の施設に実際に赴き、主に見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者又は実習担当教員による指導を受けることを通して、心理支援を要する者と必要な支援の現状に触れるとともに、現場でのチーム支援や他職種・他機関との連携、協働について学ぶこととなる。学部の「心理演習」と「心理実習」において、心理職としての基本的な姿勢や態度、心構えの体験的な学習を身につけることは、大学院における「心理実践実習」ならびにその他の科目の学習の基盤となるものといえる。

## II. 学修目標

### 1. 学修目標

公認心理師に求められる知識と技術を習得し、国民の心の健康の保持増進に寄与するための実践力を身につけることを目標とする。そのための到達目標についての方針が次のように示されている。

公認心理師の資格を得たときの姿を踏まえた上で、考えていくことが重要である。(Outcome based education; 卒業時到達目標から、それを達成するようにカリキュラムを含む教育全体をデザイン、作成、文書化する教育法)

(「公認心理師カリキュラム等検討会報告書[2]「公認心理師のカリキュラム等に関する基本的な考え方」を踏まえたカリキュラムの到達目標」(平成 29 年 5 月 31 日))

また、実習に関連する具体的な到達目標としては次の事項が該当すると考えられる。

#### 1. 公認心理師としての職責の自覚

- 1-1. 公認心理師の役割について理解する。
- 1-2. 公認心理師の法的義務を理解し、必要な倫理を身につける。
- 1-3. 心理に関する支援を要する者等の安全を最優先し、常にその者中心の立場に立つことができる。
- 1-4. 守秘義務及び情報共有の重要性を理解し、情報を適切に取扱うことができる。
- 1-5. 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務の内容について説明できる。

#### 2. 問題解決能力と生涯学習

- 2-1. 自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を身につける。
- 2-2. 社会の変化を捉えながら、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲及び態度を身につける。

#### 3. 多職種連携・地域連携

- 3-1. 多職種連携・地域連携による支援の意義について理解し、チームにおける公認心理師の役割について説明できる。
- 3-2. 実習において、支援を行う関係者の役割分担について理解し、チームの一員として参加できる。
- 3-3. 医療機関において「チーム医療」を体験する。

#### 14. 心理状態の観察及び結果の分析

- 14-1. 心理的アセスメントに有用な情報(生育歴や家族の状況等)及びその把握の手法等について概説できる。
- 14-2. 心理に関する支援を要する者等に対して、関与しながらの観察について、その内容を概説することができ、行うことができる。
- 14-3. 心理検査の種類、成り立ち、特徴、意義及び限界について概説できる。
- 14-4. 心理検査の適応及び実施方法について説明でき、正しく実施し、検査結果を解釈することができる。



- 14-5. 生育歴等の情報、行動観察及び心理検査の結果等を統合させ、包括的に解釈を行うことができる。
- 14-6. 適切に記録、報告、振り返り等を行うことができる。
- 15. 心理に関する支援(相談、助言、指導その他の援助)
  - 15-1. 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できる。
  - 15-2. 訪問による支援や地域支援の意義について概説できる。
  - 15-3. 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる。
  - 15-4. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につける。
  - 15-5. 心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できる。
  - 15-6. 心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できる。
- 24. その他
  - 24-1. 具体的な体験や支援活動を、心理に関する専門的知識及び技術として概念化・理論化し、体系立てることができる。
  - 24-2. 実習を通して心理に関する支援を要する者等についての情報を収集し、課題を抽出・整理できる。
  - 24-3. 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供ができる。

なお、学部の「心理実習」に含まれる事項としては、「14. 心理状態の観察及び結果の分析」と「15. 心理に関する支援(相談、助言、指導その他の援助)」は入っていない。しかしながら、「(ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ」について実習を行うためには、チームアプローチの中で心理アセスメントや心理支援の実務がどのように行われて活用されているのか実習を通して体験的に理解することが重要である。

## 2. 実習機関一覧

	実習施設名	所在地
保健医療	社会医療法人財団松原愛育会 松原病院	石川県金沢市石引 4-3-5
	特定医療法人十全会 十全病院	石川県金沢市田上本町カ 45-1
	医療法人財団医王会 医王ヶ丘病院	石川県金沢市田上本町ヨ 24-5
	医療法人社団澄鈴会 栗津神経サナトリウム	石川県小松市矢田野町 88
福祉	社会福祉法人児童養護施設 享誠塾	石川県金沢市平和町 3-23-5
	こども総合相談センター(金沢市児童相談所)	石川県金沢市富樫 3-10-1
	社会福祉法人松原愛育会 重症心身障害時(者)施設 石川療育センター	石川県金沢市上中イ 67-2
教育	石川県立いしかわ特別支援学校	石川県金沢市森本町リ1-1
	石川県立明和特別支援学校	石川県野々市市中林 4-70
司法・犯罪	金沢少年鑑別所	石川県金沢市小立野 5-2-14
	金沢刑務所	石川県金沢市田上町公 1

## 3. 実習分野別・機関別の学習課題

### (1) 保健医療分野の学習課題

#### ① 医療機関(病院又は診療所など)

##### ①-1 実習の目的

医療現場で実施される心理に関する支援・相談(いわゆるカウンセリングや個人心理療法、グループアプローチ)、心理アセスメント、地域援助活動、チーム医療(他職種連携)など、医療現場における支援の基礎を学ぶ。

##### ①-2 実習の内容と展開

「公認心理師法第7条第1号及び第2号に規定する公認心理師となるために必要な科目の確認について(文部科学省・厚生労働省通知)」に規定された以下の心理実習の「含まれる事項」に沿って見学等の実習を行う。

(ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ

医療の現場では患者に対して“生物－心理－社会モデル”の視点を持ち、包括的に対応する必要性から、チームアプローチが基本となる。

- ・ 心理に関する支援、相談、予防教育
- ・ 心理アセスメント
- ・ デイケア
- ・ 社会生活技能訓練
- ・ 就労支援
- ・ 各々の医療スタッフの業務や役割の理解
- ・ 治療方針や治療目的の共有のためのコミュニケーション
- ・ ケースカンファレンス等の会議への参加

(イ) 多職種連携及び地域連携

多職種連携・地域連携による支援は、要支援者に多角的、多面的にかかわることができ、様々な支援の相乗効果が期待できる。

- ・ 医師、看護師、理学療法士、臨床検査技師、福祉職、管理栄養士、薬剤師などの専門性の理解
- ・ 業務分担、連携・補完についての理解
- ・ 様々な支援施設の専門職との連携

(ウ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

- ・ 医療・保健に関する法令がどのように実践されているかを理解すること
- ・ 医療現場における守秘義務と情報共有等の倫理
- ・ インフォームドコンセントの重要性
- ・ 患者中心の医療
- ・ 医療現場における主治の医師からの指示について

(2) 福祉分野の学習課題

① 児童相談所

①-1 実習の目的

児童相談所で実施される心理に関する支援・相談(いわゆるカウンセリングや個人心理療法、グループアプローチ)、判定、一時保護、措置など、児童相談所における支援の基礎を学ぶ。

①-2 実習の内容と展開

(ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ

- ・ 児童のカウンセリング、グループセラピー、予防教育
- ・ 児童の心理アセスメント、判定
- ・ 虐待への対応、一時保護
- ・ ケースカンファレンス等の会議への参加

- (イ) 多職種連携及び地域連携
  - ・ 児童福祉司、精神科医、保育士等の専門性の理解と連携
  - ・ 児童福祉施設、心身障害児施設との連携
  - ・ 保育所・幼稚園、学校、教育委員会等の教育機関の理解と連携
  - ・ 地域の青少年の健全育成に携わる関係機関・団体の理解と連携
- (ウ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
  - ・ 福祉に関する法令がどのように実践されているかを理解すること
  - ・ 福祉現場における守秘義務と情報共有等の倫理

## ② 児童養護施設

### ②-1 実習の目的

児童養護施設で実施される心理に関する支援・相談(いわゆるカウンセリングや個人心理療法)、児童のグループセラピー、心理アセスメントなど、児童養護施設における支援の基礎を学ぶ。

### ②-2 実習の内容と展開

- (ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
  - ・ 児童のカウンセリング、グループセラピー、予防教育
  - ・ 児童の心理アセスメント
  - ・ 虐待への対応、心理的ケア
  - ・ 施設職員とのケースカンファランス等の会議への参加
- (イ) 多職種連携及び地域連携
  - ・ 指導員、保育士、調理師、里親専門相談員、ファミリーソーシャルワーカー等の専門性の理解と連携
  - ・ 児童の通う保育・教育機関の理解と連携
  - ・ 児童相談所や家庭裁判所などの措置機関との連携
  - ・ 地域の青少年の健全育成に携わる関係機関・団体の理解と連携
- (ウ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
  - ・ 福祉に関する法令がどのように実践されているかを理解すること
  - ・ 福祉現場における守秘義務と情報共有等の倫理

## ③ 療育施設

### ③-1 実習の目的

療育施設で実施される心理に関する支援・相談(いわゆるカウンセリングや個人心理療法)、児童のグループセラピー、心理アセスメントなど、療育施設における支援の基礎を学ぶ。

### ③-2 実習の内容と展開

- (ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
  - ・ 児童のカウンセリング、グループセラピー、予防教育

- ・ 児童の心理アセスメント
- ・ 施設職員とのケースカンファレンス等の会議への参加
- (イ) 多職種連携及び地域連携
  - ・ 指導員、保育士等の専門性の理解と連携
  - ・ 児童の通う保育・教育機関の理解と連携
  - ・ 地域の青少年の健全育成に携わる関係機関・団体の理解と連携
- (ウ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
  - ・ 福祉に関する法令がどのように実践されているかを理解すること
  - ・ 福祉現場における守秘義務と情報共有等の倫理

### (3) 福祉分野の学習課題

#### ① 学校(現場)

##### ①-1 実習の目的

学校現場で実施される幼児・児童・生徒への相談・助言、教職員へのコンサルテーション、教育相談や児童生徒理解に関する研修、相談者への心理的見立てと対応、保護者や関係機関との連携、ストレスマネジメント等の予防的対応、学校危機対応における心のケアなど、学校現場における支援の基礎を学ぶ。

##### ①-2 実習の内容と展開

#### (ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ

- ・ 幼児・児童・生徒への相談・助言、予防教育
- ・ 教職員へのコンサルテーション
- ・ 教育相談や児童生徒理解に関する研修
- ・ 教育相談委員会や特別支援教育委員会等の会議への参加
- ・ チーム学校についての理解

#### (イ) 多職種連携及び地域連携

- ・ 教員、養護教諭、学校医、スクールソーシャルワーカーなどの専門性の理解と連携
- ・ 保育所や幼稚園、教育委員会や児童相談所、医療機関等の関連機関の理解と連携
- ・ 地域の青少年の健全育成に携わる関係機関・団体の理解と連携

#### (ウ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

- ・ 教育に関する法令がどのように実践されているかを理解すること
- ・ 学校現場における守秘義務等の倫理
- ・ 学校現場における労働環境の理解
- ・ 学校現場における主治の医師からの指示について

#### ② 教育相談機関(教育センター、教育相談所、適応指導教室等)

##### ②-1 実習の目的

教育相談機関で実施される児童・生徒への相談・助言（来所相談、電話相談、メール相談など）、教職員へのコンサルテーション、地域住民や関係機関への研修事業、緊急支援など、教育相談機関の種類とその役割、支援の基礎を学ぶ。

## ②-2 実習の内容と展開

### (ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ

- ・ 幼児・児童・生徒への相談・助言、予防教育
- ・ 教職員へのコンサルテーション
- ・ 教育相談や児童生徒理解に関する研修

### (イ) 多職種連携及び地域連携

- ・ 支援を要する幼児・児童・生徒の在籍校と連携
- ・ 教育委員会や児童相談所、医療機関等の理解と連携
- ・ 地域の青少年の健全育成に携わる関係機関・団体の理解と連携

### (ウ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

- ・ 教育相談機関に関する法令がどのように実践されているかを理解すること
- ・ 教育相談現場における守秘義務等の倫理
- ・ 教育相談現場における主治の医師からの指示について

## (4) 司法・犯罪分野の学習課題

### ① 少年鑑別所

#### ①-1 実習の目的

心理検査や面接を行い、収容された非行少年の資質を鑑別し、犯罪・非行の動機の解明や行動分析、生活上の問題点の把握、処遇についての意見の提供、地域社会における非行及び犯罪の防止に関する援助など、少年鑑別所における支援の基礎を学ぶ。

#### ①-2 実習の内容と展開

### (ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ

- ・ 心理検査、面接による少年の心理・行動面の理解
- ・ 家庭裁判所への処遇意見の提供についての理解
- ・ 法務少年支援センターにおける相談
- ・ 事例検討会等の会議への参加
- ・ 研修・講演、法教育授業等への参加

### (イ) 多職種連携及び地域連携

- ・ 学校、福祉施設、医療機関、更生保護施設等の地域の青少年の健全育成に携わる関係機関・団体の理解と連携
- ・ 地域社会における非行及び犯罪の防止活動への参加

### (ウ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

- ・ 非行少年に関する法令がどのように実践されているかを理解すること

- ・ 非行少年への支援業務における守秘義務等の倫理

## ② 少年院

### ②-1 実習の目的

家庭裁判所から保護処分として送致された少年の健全育成のための矯正教育、社会復帰支援など、少年院における支援の基礎を学ぶ。

### ②-2 実習の内容と展開

#### (ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ

- ・ 個人別矯正教育計画の作成
- ・ 問題改善への指導
- ・ 社会生活への移行をはかる指導
- ・ 個別面談、集団討議、各種教育プログラム、被害者理解
- ・ 職業指導・教科指導
- ・ 事例検討会・研修等への参加

#### (イ) 多職種連携及び地域連携

- ・ 家庭裁判所調査官、法務教官、法務技官、保護観察官、保護司等の専門性の理解と連携
- ・ 家庭裁判所、保護所、医療機関等の地域の青少年の健全育成に携わる関係機関・団体の理解と連携

#### (ウ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

- ・ 非行少年に関する法令がどのように実践されているかを理解すること
- ・ 非行少年への支援業務における守秘義務等の倫理

※当分の間は、以上の4分野での見学実習を行う。以下の産業・労働分野での実習は適宜実習施設を確保していく予定である。以下はその分野での実習における学習課題を掲載しているので参考にする

こと。

## (5) 産業・労働分野の学習課題

### ① 精神的不調による休職や復職に対する支援機関

#### ①-1 実習の目的

産業・労働に関する法規や制度を理解し、精神的不調による休職や復職支援、ならびにその関係者に対する相談及び助言、指導など、産業・労働分野での支援の基礎を学ぶ。

#### ①-2 実習の内容と展開

労働者をめぐるメンタルヘルスの現状、企業に求められるメンタルヘルス対策、実習施設におけるメンタルヘルスの取り組みについて学ぶ。また心理職だけでなく、産業医、衛生管理者、安全管理者等の産業保健スタッフを含む多職種との連携や医療機関をはじめとする他機関との連携についても学ぶ。

- (ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
  - ・ 職場ストレスの自己認識と対処の確認
  - ・ 従業員支援プログラム(EAP)と予防教育
  - ・ ハラスメントの理解と対応
  - ・ 心理的不調者に対するケアとリスクマネジメント
  - ・ 休職者の復職支援の実際
  - ・ 労働安全衛生管理体制の理解
- (イ) 多職種連携及び地域連携
  - ・ 産業医、衛生管理者、安全管理者等の専門性の理解と連携
  - ・ 医療機関との連携
- (ウ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
  - ・ 産業・労働分野に関する法令がどのように実践されているか
  - ・ 産業・労働分野における守秘義務や安全衛生管理等の倫理



### Ⅲ. 授業の概要

#### 1. 実習スケジュール(オリエンテーション、希望聞き取り、実習先日程の決定など)

##### (1) 入学時オリエンテーション

- ・ 公認心理師養成カリキュラムの全体像について
- ・ 履修モデルの説明
- ・ 心理実習の概要の説明
- ・ 心理実習計画の説明
- ・ 心理実習を履修するための要件について
- ・ 心理実習で求められる知識と態度について

##### (2) 心理実習までの他の授業における情報提供等

- ・ 心理実習における指導(実習で求められる姿勢、態度、コミュニケーションの在り方など、具体的な行動について)
- ・ 心理実習(4年次開講)前、3年次前期末におけるオリエンテーション(履修要件などの再確認)

##### (3) 心理実習オリエンテーション(3年次2月)

- ・ 実習の目的と位置づけ
- ・ 各実習先の情報提示と希望調査
- ・ 個別面談にて実習の適性を判断

##### (4) 実習事前指導

- ・ 実習先についての調べ学習(実習施設の名称(種類)、所在地、実習施設の概要、事業内容、地域との関係、利用者等の状況、職員構成と心理職の役割、多職種連携及び地域連携、チームアプローチ、公認心理師の法的義務、職業倫理など)
- ・ 実習に関するレポート及び事前学習会での発表(実習先の選択理由、実習目的と実習課題、実習で体験したいことなど)
- ・ 実習生プロフィールの作成
- ・ 誓約書の提出

##### (5) 実習事中共導

- ・ 実習施設における実習が終わるたびに、実習先での体験を振り返って共有化し、次の実習先における実習の準備をする。

#### (6) 実習事後指導

- ・ 実習での体験をまとめ、実習報告に向けての準備をする。
- ・ 実習報告

### 2. 担当教員

林 洋一

河野俊寛

後藤和史

仲嶺実甫子

### 3. 実習に関する作成書類

- ① 実習施設・機関の概要(名称・所在地・関連法令・理念・事業内容・地域との関係・利用者の状況・職員構成)
- ② 実習計画書(実習先選択理由・実習目的と実習課題・事前学習状況・目的と課題達成のために体験したいこと)
- ③ プロフィール(連絡先・実習への抱負・これまでの実習やボランティア歴・健康状態など)
- ④ 学生事前訪問記録(オリエンテーション内容、持ち物など)
- ⑤ 実習出席票
- ⑥ 実習日誌(毎日作成。実習内容を記載)
- ⑦ 実習振り返り(全体の振り返り)
- ⑧ 誓約書(大学用)
- ⑨ 誓約書(実習先用)
- ⑩ 緊急時連絡先

## IV. 実習記録について

### 1. 実習記録の意義

実習記録の意義として、①教育的機能 ②指導改善機能 ③社会的機能 の3点が挙げられる。

#### (1) 教育的機能

実習生が、事前・実習期間中・事後という時間の中で、実習体験を振り返るために記録は用いられる。実習場面を記録することによって、実習生は実習内容や自身の言動を振り返ることが可能になる。さらに、記録を読み返すことで、新たな事実の見方、自身の思考や感情に関する視点等、考察を深めることができる。

#### (2) 指導改善機能

実習指導者及び担当教員が実習生を適切に指導するためにも記録は用いられる。実習内容が適切に記録されることで、実習指導者及び担当教員は、実習内容を把握することができる。実習指導者及び担当教員は、実習で起きたこと、その際に実習生が感じたことや考えたことを把握することで、より正確に実習指導を行うことができるようになる。特に、巡回指導を通じて限定的に現場の様子を把握する担当教員にとって、実習生をスーパービジョンするためには、実習の様子、実習者の考察、実習指導者のコメント等が記録を通じて過不足なく伝えられることが重要となる。

#### (3) 社会的機能

実習記録は、実習時間数や内容の適切さの根拠となる機能も有する。

公認心理師法施行規則第1条において心理実習は80時間以上と定められており、「公認心理師法第7条第1号及び第2号に規定する公認心理師になるために必要な科目の確認について」において、5分野の実習(当分の間、医療機関必須)を通じて、(ア)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ (イ)多職種連携及び地域連携 (ウ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を基本的な水準まで修得することが求められている。これらが達成されていることあるいは達成されていないこと、ひいては公認心理師の養成が適切に行われているか否かを、社会的に示すためにも、実習記録が必要となる。

### 2. 実習記録の書き方

実習記録は実習時間と内容を証明する「公的記録」であり、心理実習を適切に受けた根拠の1つとなる(「③社会的機能」)。実習記録は以下の点に留意して、決められた日時までに作成し、実習指導者及び担当教員等に提出して指導を受ける。実習記録の書き方は今後現場に就いて記録を書く際にも通ずるものであり、記録の取り方を学ぶという面でも、実習の意義は大きい。

- ・実習中に記録を取るのは実習体験を損ねる可能性があるためメモ程度に留めること。一方、実習後に時間が経ってから記録を取るのは、記憶が事実から離れる危険性があるので、実習後できるだけ早い時間に記録を書くこと。
- ・記録の評価をする他人が読んでわかる正確な誤字脱字のない公的記載をすること。

- 実習記録は大学に持ち帰って提出するので、実習施設において知った個人情報や固有名詞等は記載しないこと。（「佐藤さんを」を「Sさん」、「児童養護施設享誠塾」を「児童養護施設K」と書くのではなく「Aさん」「児童養護施設B」など個人や施設名が特定できない記載をする。）
- 記録は、黒色ボールペンを用いるか（鉛筆、消えるボールペンは不可）、パソコンからの黒字印刷によること。
- 記入間違いの修正は、修正液を使用しないで二重線を引き訂正印を押して修正すること。
- 「事実」と「理解や解釈・学んだこと」と「要望」は分けて記載すること。
  - 「事実」：見学や観察に関する記録は、何時、どこで、誰の、どのような行動や活動があったか、第三者がイメージできるように具体的に記述する。
  - 「理解や解釈・学んだこと」：見学や観察の事実に対する実習生の理解や解釈、学んだことや疑問点は、事実に基づくとともに事実とは区別して書く。
  - 「要望」：実習指導者に伝えたいこと、指導を受けたい事柄等を記載する。
- 記録やメモの管理には十分に気をつけること。

## V. 実習にあたっての留意点

### 1. 実習責任者の指示に従う

- (1) 実習中は、原則的に実習施設の指示に従わなければなりません。よかれと思って自分の判断で行動した結果、思わぬ事態を招くことがあるため、まず実習指導者(実習責任者)や職員に確認しましょう。わからないこと、迷ったことが生じた場合、ささいなことだと思っても、実習指導者、実習担当教員に報告、相談しましょう。
- (2) 実習施設における設備、備品、器具、カルテ、書類等を使用する必要がある場合は、必ず許可を取りましょう。

### 2. 健康診断の受診

実習が始まる前に、健康診断を受診する必要があります。学年最初の健康診断は必ず受診してください。実習施設によっては、健康診断書、ウィルス抗体検査書・ワクチン接種自己申告書等が必要な施設もあります。

### 3. 賠償責任保険

万一の事故に巻き込まれた際の補償に備えるために、実習に行く前に学研災付帯賠償責任保険に加入します。保険加入の申請は、実習事前指導内で指示をしますので、期限を守って漏れのないように申請してください。

### 4. 秘密保持

- (1) 実習先で知り得た事柄について決して口外してはいけません。「実習先で知り得た事柄」のなかには、利用者や患者、その家族だけではなく職員や施設そのものも含まれます。職員や施設に関する事柄についても外部に漏らしてはいけません。もちろんSNS(ソーシャルネットワーキングシステム)に実習で知り得た事柄を投稿してはいけません。
- (2) 実習中は実習ノートを作成しますが、その際にも個人について書く場合は、個人が特定できないアルファベット(「Aさん」、「B君」や、「ある利用者さん」など)のように書き、個人名で記述してはいけません。実習施設名に関しても同様です。大学で発表したり、実習生同士で意見交換する場合でも個人名などは絶対に出してはいけません。
- (3) 実習先の利用者等に関する記載資料の取り扱いには十分に注意し、原則的に実習施設から持ち出してはいけません。

### 5. 欠席・遅刻等の対応

- (1) 無断欠席や遅刻は厳禁です。それでも万が一遅れるような場合は、実習が始まる時間よりも前、もしくは気付いたときすぐに実習施設に連絡してください。また、実習施設に連絡後、大学にも必ず報

告しましょう。

- (2) 体調を崩した場合は、実習施設の利用者に病気を感染させないためにも、実習が始まる時間よりも前にきちんと実習担当教員に相談しましょう。

## 6. 実習施設までの交通手段

実習施設までは、原則として公共交通機関を使用します。公共交通機関以外(自家用車、バイク、自転車等)の交通手段を用いたい場合には、実習担当教員と相談した上で、許可を得てから使用してください。しかしながら、その場合には万一事故に遭遇してもその責任を一切大学側では負えませんので、十分に注意するよう気をつけるとともに各自で保険に加入するなどの対策を取ってください。

## 7. 実習報告書の提出

実習において、その成果をまとめ、報告することは非常に重要です。また、「実習報告書」はお世話になった実習施設への報告でもあるため、決められた書式で必ず期限を守って提出しましょう。

## 8. 実習に際しての服装・持ち物・昼食等

### (1) 服装等の身だしなみ

- ① 実習施設によって、ふさわしい服装が異なります。服装(スーツか、動きやすい服装かなど)、履き物(内履き持参か、外履きの指定の有無)、名札(有無や、必要な場合の書くべき内容、大学名/フルネームか苗字のみか/ふりがなの有無等)など、予め指示しますので、それに従ってください。
- ② 基本的に、Tシャツやポロシャツ等も、派手な色、プリント入り、ボーダー柄は避けてください。黒・白・グレー・紺等の落ち着いた色で、無地やワンポイントのみ等シンプルなものを着てください。胸元が開きすぎていないか、丈が短すぎないか、下着が透けて見えないかどうかにも気をつけてください。ジーンズで良いと言われている場合でも、破れているものや、奇抜なもの、ローライズは避けましょう。
- ③ 実習先で着替える場合でも、通勤中の服装には気をつけてください。実習中の服装として指定されたものに近い服装もしくは、カジュアルでも清潔感のある服装を心がけてください。
- ④ 髪型は清潔感のある髪型にしましょう。髪染めも実習施設での印象を考慮することが必要です。職員や利用者に好印象をもたれやすいように華やかな化粧にならないように注意しましょう。けがを負わせてしまうことがあるため、アクセサリーは身につけない方が無難です。また、爪はきれいに切っておき、付け爪は避けましょう。

### (2) 持ち物

実習記録簿、メモ用ノート、筆記用具、学生証、印鑑、辞書等、その他実習施設から指示があるものを持って行きます。事前指導にて伝えますので、忘れないように準備してください。

### (3) 昼食等

昼食の取り方も実習施設によって異なります。事前指導にて、時間や場所、持参の有無などを伝えます。

## 9. 実習中の言葉づかいと態度

- ① 自分から学ぶ姿勢を持つことが大切です。学生であるとともに、心理的支援の専門家を目指す者である自覚を持ち、誠実、真剣かつ謙虚な態度で臨みましょう。
- ② 事前に実習施設についてわかる範囲で調べ、実習記録簿に記載すること。また、事前に自分でたてた「実習目的と課題」を意識して実習に臨むこと。
- ③ 実習開始時、終了時及び毎日の開始時、終了時の挨拶を徹底しましょう。
- ④ 利用者から聞かれても、実習生自身の住所、メールアドレス、電話番号等を知らせてはいけません。
- ⑤ 私用の外部との連絡などは、緊急の場合以外は避けましょう。
- ⑥ 実習施設の利用者及び職員(児童生徒、保護者、教職員、患者、家族等)に対して、関りにある人物のことを評価して、例えば「ADHD だと思う」や「発達障害の可能性はある」といった判断・意見を軽率に述べないように気をつけてください。

## 10. 実習中のトラブルへの相談先と対応について

実習先の利用者や職員からの何らかのハラスメントを受けたり、対応に困ったりした場合は、すぐに大学に相談してください。

# 誓 約 書

北陸大学 国際コミュニケーション学部  
心理社会学科長 殿

年 月 日

学籍番号

氏 名 印

私は、心理実習にあたり、次のことを誓約いたします。

1. 実習先の規則や規律を守り、実習生としてふさわしい言動をとること
2. 実習上知り得た個人の情報に関する事項について、他人にもらさないこと
3. 諸規定を遵守し、不品行その他信用失墜行為などを行わないこと
4. 健康管理に留意し、体調不良にならないように実習を継続すること
5. 実習先での問題、トラブルが起きたときには、ただちに大学に連絡すること



# 誓 約 書

施設長

殿

貴法人において実習するにあたり、以下の事項を遵守することを誓います。

1. 貴法人における規則および指示に従い、誠実に実習すること
2. 実習で知り得た業務上の秘密事項（利用者の個人情報など）については、実習期間中はもちろんのこと、その後も許可なく他にもらさないこと
3. 実習中の事故防止に十分注意すること
4. 万が一、不測の事態が生じた場合、管理者または実習担当者に、遅滞なく報告すること
5. 実習先での問題、トラブルが起きたときには、ただちに大学に連絡すること

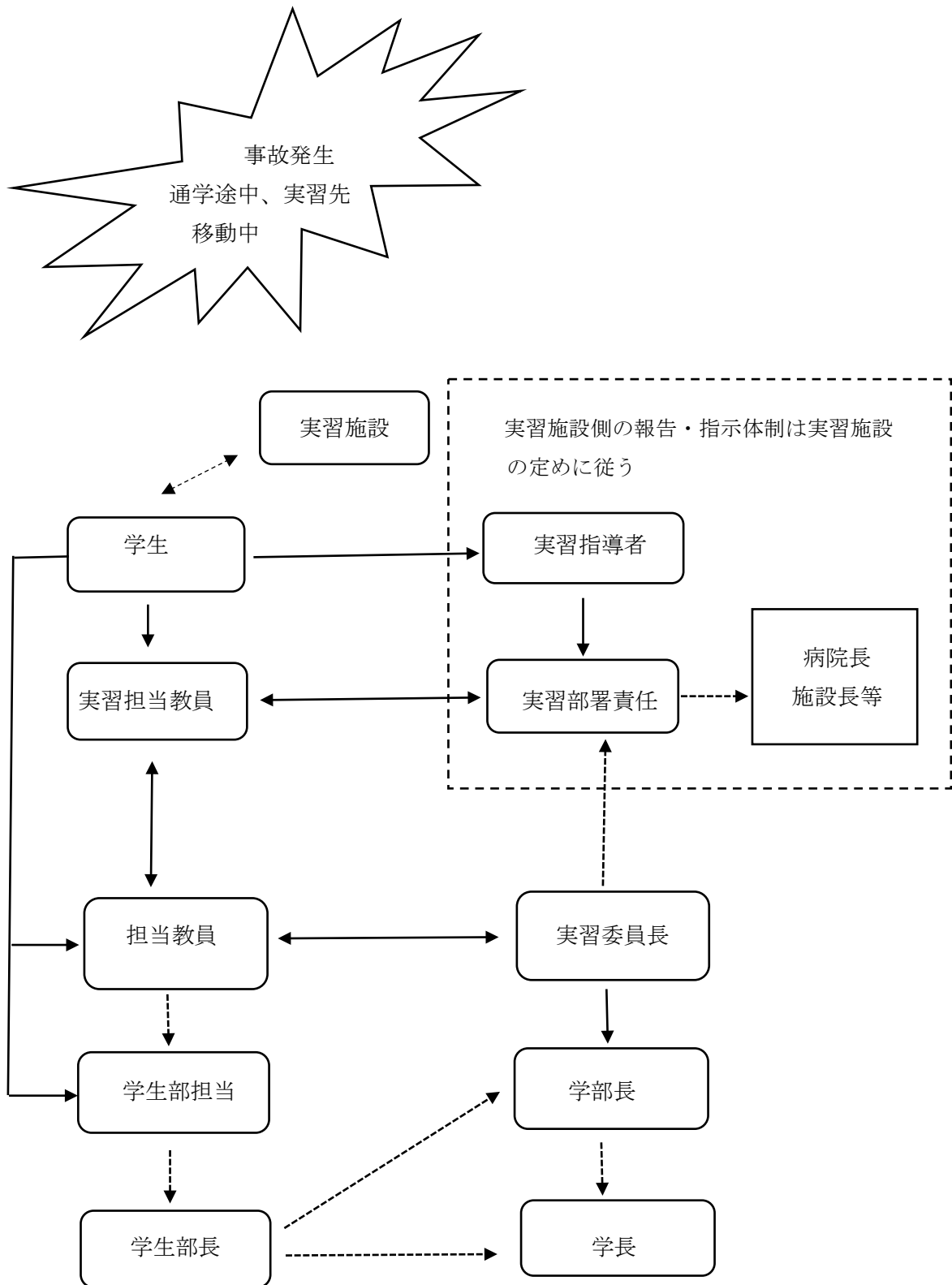
年 月 日

北陸大学 国際コミュニケーション学部  
心理社会学科 4年

氏 名

印

心理社会学科 インシデント・アクシデント発生時の報告・指示体制（案）



学部長、学生部長、学長への報告は必要に応じて行う。

北陸大学

国際コミュニケーション学部 心理社会学科

心理実習 実習記録簿

学籍番号 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_

〇〇年度 心理実習 実習先一覧

学籍番号  
氏 名

施設種類	
施設名	
住所	
電話番号	
実習期間	年 月 日～ 年 月 日

施設種類	
施設名	
住所	
電話番号	
実習期間	年 月 日～ 年 月 日

施設種類	
施設名	
住所	
電話番号	
実習期間	年 月 日～ 年 月 日

プロフィール		
北陸大学国際コミュニケーション学部 心理社会学科 4年		ふりがな 氏 名  男・女
実習先		生年月日
実習期間	年 月 日～ 年 月 日	年 月 日生( )歳
住所 電話 携帯		写真 (横 3.5×縦 4.0)cm
(緊急連絡先)急用の際、連絡の取れるところ *自宅・親戚宅・その他( )		
住所 電話		
1. 公認心理師を目指す動機・当該施設での実習への抱負		
2. これまでの実習やボランティア等の経験、取得資格、特技、趣味等		
3. 健康状態、予防接種・各種抗体反応の結果、事故等への保険の状況		
◎大学連絡先 北陸大学 国際コミュニケーション学部 心理社会学科 〒920-1180 金沢市太陽が丘1-1 TEL/FAX 076-229-1161(代)／076-229-1348 実習担当教員 林洋一 河野俊寛 後藤和史 仲嶺実甫子		

実習施設・機関の概要			
実習施設の名称(種類)			
所在地			
実習期間	年	月	日～
	年	月	日
管理者名		実習指導者名	
概要(関連法令・運営方針・理念など)			
事業内容			
地域との関係			
利用者の状況			
職員構成と心理職の役割			

実習計画書	
北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科 4年 学籍番号( )	ふりがな 氏名 <span style="float: right;">男・女</span>
実習先名称・種類 :	
期間 年 月 日～ 年 月 日	担当教員
1. 実習先を選択した理由	
2. 実習目的と実習課題	
3. 実習目的と実習課題のための事前学習状況	
4. 実習目的と実習課題を達成するために実習で体験したいこと	

## 学生事前訪問記録

施設・病院名(施設種別・法人名も記入)

事前訪問学生名(グループの場合、全員の氏名を記入)

学籍番号

氏名

欠席者

訪問日時

年      月      日(    )      時      分～      時      分

対応者

職名(役職)

氏名

オリエンテーション内容(・実習指導者・必要書類・用品・名札・機関・時間・注意、連絡事項など)

感想



## 実習出席票

実習施設名	
学籍番号	
実習者氏名	

回数	日付	実習開始時刻	実習終了時刻	本人印	指導者印
1	月 日	時 分	時 分		
2	月 日	時 分	時 分		
3	月 日	時 分	時 分		
4	月 日	時 分	時 分		
5	月 日	時 分	時 分		
6	月 日	時 分	時 分		
	月 日	時 分	時 分		
	月 日	時 分	時 分		

実習日数〔        〕日        実習総時間〔        〕時間

実習指導者 \_\_\_\_\_ 印

<b>実 習 日 誌</b> （実習期間中毎日作成）	
北陸大学 国際コミュニケーション学部 心理社会学科 実習生氏名	
年    月    日                      曜日(実習第                      日目)	
今日のねらい	
時間	実 習 内 容
所感(今日気付いたこと、学んだこと、疑問など)	
実習指導者    署名	
印	

実習先名( )における全体のふり返り  
学籍番号( )氏名( )

実習所感(気付いたこと、学んだこと疑問に思ったことなど)

今後取り組んでみたいと考えること(課題他)

実習指導者からの助言

実習指導担当者

印

## 緊急時連絡先

実習集合時間に何らかの事情で遅れるときや、体調が悪く実習を欠席するときなどは、必ず**大学と実習先**に連絡を入れること。

実習施設名：

住所：

電話

担当者名(実習指導者)：

実習先の連絡先 1      × × × × - × × - × × × ×

実習先の連絡先 2      × × × × - × × - × × × ×

実習先の連絡先 3      × × × × - × × - × × × ×

大学連絡先      金沢市太陽が丘1-1      076 - 229 - 1161(代表)

実習担当教員：

## 心理実習施設一覧

	実習施設名	所在地	受入人数 (年間)
保健医療施設	1 社会医療法人財団松原愛育会 松原病院	920-8654 石川県金沢市石引4-3-5	10
	2 特定医療法人十全会 十全病院	920-1185 石川県金沢市田上本町力45-1	10
	3 医療法人財団医王会 医王ヶ丘病院	920-1185 石川県金沢市田上本町ヨ24-5	10
	4 医療法人社団澄鈴会 粟津神経サナトリウム	923-0342 石川県小松市矢田野町88	10
福祉施設	5 社会福祉法人児童養護施設 享誠塾	921-8105 石川県金沢市平和町3-23-5	15
	6 こども総合相談センター(金沢市児童相談所)	921-8171 石川県金沢市富樫3-10-1	10
	7 社会福祉法人松原愛育会 重症心身障害時(者)施設 石川療育センター	920-1146 石川県金沢市上中イ67-2	10
教育施設	8 石川県立いしかわ特別支援学校	920-3116 石川県金沢市森本町リ1-1	10
	9 石川県立明和特別支援学校	921-8834 石川県野々市市林中林4-70	10
司法・犯罪施設	10 金沢少年鑑別所	920-0942 石川県金沢市小立野5-2-14	10
	11 金沢刑務所	920-1182 石川県金沢市田上町公1	5
合計 11 施設			110

## 実習受入れに関する契約書

\_\_\_\_\_（以下「甲」という）と、北陸大学（以下「乙」という）は、甲が乙の委託を受けて甲の施設において乙の学生（以下「実習生」という）の実習を実施するにあたり、次のとおり契約を締結する。

（実習生の受入れ）

第 1 条 甲は実習生の受入れに関して、乙から依頼を受け承諾する。

2 実習生受入れ施設については以下のとおりとする。

\_\_\_\_\_

3 甲において実習する者は別紙一覧のとおりとする。

4 実習生の配置については、甲乙協議の上、調整することとする。

（実習内容）

第 2 条 乙が甲に依頼する実習生の受入れ内容は、以下のとおりとする。

（1）実習名及び内容

\_\_\_\_\_

（2）実習期間 令和\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日～令和\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日

2 実習の具体的方法等については、甲乙協議の上、調整することとする。

3 乙は実習生に対し、事前にオリエンテーションを実施し、適切な事前指導を終えて後に送り出すこととする。

4 乙は、甲に対し、実習生が実習を行うにあたり、甲の定める諸規則・心得等を遵守し、実習指導者の指示に従うように実習生を指導する責任を負う。

5 甲は実習指導者を施設に配置し、適切な指導を行うものとする。

（契約期間）

第 3 条 本契約期間は、令和\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日～令和\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日までとする。ただし、期間満了の3カ月前までに甲乙いずれからも別段の書面による意思表示が無い場合は、本契約を自動的に1年間延長するものとし、その後も同様とする。

（委託料）

第 4 条 実習生受入れの委託料として、乙は甲に以下のとおり支払いを行う。

（実習生一人当たり） \_\_\_\_\_円×（人数） \_\_\_\_\_名＝ \_\_\_\_\_円

(支払方法)

第 5 条 前条による乙の甲に対する委託料の支払いは、甲の指定した期日までに、甲の指定銀行口座に支払う。

(期間中の解約)

第 6 条 乙がこの契約条項に違反し、または虚偽の申告その他信頼に背反する行為があった場合は、契約期間中といえども、甲は直ちにこの契約を解除することができる。

(個人情報、秘密及びプライバシー（以下、「個人情報等」という）の保護)

第 7 条 甲乙双方は、実習の実施にあたって、甲の保有する個人情報等の漏えいなどが生じないように、個人情報等の適正な管理について万全を期すものとする

2 乙は、実習生に対し、個人情報等の保護義務を履行するために、個人情報等の取扱いについて説明文書をもって周知徹底するものとする。

3 乙は、乙の責任のもと、実習生から個人情報等の保護に関する誓約書を取得するものとする。

4 乙は、実習生に対し、実習終了後も個人情報等の保護義務を遵守するよう指導監督する責任を負う。

(実習の中止)

第 8 条 実習生は、実習中は甲の諸規則を厳守し、かつ実習指導者の指示に従わなければならない。

2 甲は、実習生が以下に示す事項に該当すると判断した場合は、乙と協議の上、該当実習生の実習を中止させることができる。

- (1) 甲の定める諸規則、心得等に違反した場合
- (2) 甲の施設内の秩序あるいは規律を乱す事由があると認めた場合
- (3) 個人情報の保護に関して問題があった場合
- (4) 実習生の実習態度の不良などにより実習の目的を果たし得ないと判断した場合

(実習生の疾病及び傷害)

第 9 条 実習生の実習期間中における疾病及び傷害、ならびに実習後に生じた実習を原因とする疾病及び傷害については、甲の故意または重大な過失による場合を除き、乙の責任において対処するものとする。

(危険負担)

第 10 条 実習生の故意または過失により、甲に事故、器物破損、機密情報の漏えいその他の損害を与えた場合は、乙は、甲に対して、実習生と連帯して損害の一部または全てを賠償する

責任を負わなければならない。

(第三者損害賠償)

第 11 条 実習生の故意または過失により、甲以外の第三者に心身的または物的損害を与え、当該第三者と甲との間で損害賠償責任を問われる紛争が発生した場合は、乙は、その当事者として誠意をもってその対応にあたりるとともに、甲乙は、実習生と連帯して当該第三者に対する賠償責任を負うものとする。

2 前項の賠償負担の割合及び求償については甲乙協議の上、決定するものとする。

(合意管轄裁判所)

第 12 条 甲及び乙は、本契約に関して裁判上の紛争が生じた場合は、金沢地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所とすることに合意する。

(契約の遵守)

第 13 条 甲及び乙は、本契約各条項を遵守するものとし、本契約に定めなき事項が生じた場合、本契約の内容に追加、変更が生じた場合、あるいは疑義が生じた場合は、甲乙協議の上、決定するものとする。

本契約の締結を証すために、本契約書を 2 通作成し、甲乙記名押印の上、各自その 1 通を保有するものとする。

令和 年 月 日

甲 住 所  
施設名  
施設長

乙 石川県金沢市太陽が丘 1 丁目 1 番地  
北陸大学  
学長 小倉 勤



## 北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科 心理実習における 個人情報保護に関する基本方針（案）

### I. 基本的な考え方

平成17年4月に全面的に施行された個人情報の保護に則り、本学科の心理実習においては、人権尊重の理念と個人情報の保護の徹底を図ることを目的に、以下について取り組む。ここで言う個人情報とは、個人を識別できる情報であり、具体的には名前、生年月日、住所、電話番号、勤務先、職業、家族背景などを取り扱うことをいう。

### II. 個人情報保護の取り扱い

#### 1. 守秘義務

実習中の助言、教員から指導を受ける場合以外に、実習中に知り得た個人の情報はいかなる場合においても口外しない。ブログやツイッター等のソーシャルネットワークへの投稿も厳禁とする。例えば、通学途中に、実習で知り得た個人情報を話したり、実習記録簿を開いたりしてはならない。守秘義務に反するものは、北陸大学学則第51条（懲戒）に則り対処する。

#### 2. 実習記録

##### (1) 個人情報の匿名化

- ① 名前：個人が特定できないように（例、「Aさん」、「B君」、「ある利用者さん」など）する。
- ② 生年月日：記載しない
- ③ 年齢：原則として年代のみとする
- ④ 住所：必要な場合は、市町村まで記号化して記載し、番地は記載しない。
- ⑤ 職業：職種のみ(例、高校生、医療職、事務職など)を記載し、施設名、勤務先・役職は記載しない。
- ⑥ 家族構成：性別、必要であれば同居人、重要な人のみ記載する。
- ⑦ その他：実習施設の施設名は記載しない（例、A施設、B施設など）
- ⑧ 診断名：原則として略語を用いる。略語から診断名が特定されないように記載する。

##### (2) 実習期間中の実習記録の保管方法

- ① 実習記録簿（メモ用紙を含む）は、実習場所の指定の位置に置く。
- ② 実習に必要な記録類（実習記録簿など）を持ち出す時は、実習指導者の了承を得てから持ち出す。
- ③ 学生が実習記録簿を自宅に持ち出す場合は、十分に注意し、紛失しないようにする。

- ④ 実習記録簿を持ち運ぶ時は、必ずファイルに閉じた上でバッグなどに入れ、第三者の目に触れないよう細心の注意を払う。
  - ⑤ 実習記録簿の作成に学内のパソコンなどの媒体を使用した場合は、ハードディスクや機体にデータを残さず、フロッピー、フラッシュメモリーなどの記憶媒体に保存し、各自の責任のもとで保管する。また、パソコンを使用して実習記録簿を作成する場合は、インターネットに接続した環境で行ってはならない。
- (3) 実習終了後の保管方法及び期間について
- ① 実習記録簿の教員による保管期間は、実習終了時までとする。ただし、記録類を保管するときは、他者の目に触れない場所とし、細心の注意を払う。
  - ② 実習目的以外に使用しない。
  - ③ 実習終了後、不必要となった記録物やメモ類はシュレッダーで処理する。電子媒体は内容を消去するなど処理を行う。
  - ④ 実習担当教員から返却された実習記録簿の中で個人が特定できる記録類は、実習終了後直ちにシュレッダーで処理する。

### 3. 個人情報へのアクセス

#### (1) 紙媒体

- ・個人情報の記載された書類（面談記録・カルテなど）等を閲覧するときは、必ず実習指導者に了承を得る。また、個人情報に関する書類の閲覧は施設内のみとし、施設外には一切持ち出さない。

#### (2) 電子媒体

- ・アクセス権のある実習指導者の監督の下で閲覧する。
- ・個人情報の転記の制限（複写禁止）
- ・実習記録簿は複写しない。また、個人を特定できる内容については転記しない。

### 4. 心理実習開始時の手続き

- (1) 学生は「誓約書」を提出する。





心理社会学科 授業時間割(予定)

【後期】	1		2		3		4		5	
	9:15-10:45	11:00-12:30	13:20-14:50	15:05-16:35	16:50-18:20	授業科目	授業科目	授業科目	授業科目	授業科目
月	1年	自然科学概論 202 高守恒雄	English Communication I A 322F 小島弥生 B 323F 相野まゆり	心理学概論II 302F 林洋一	心理学概論II 302F 林洋一	芸術学 202 廣田いづみ				
	2年	心理学実験II 300F・307 小島弥生 308 後藤和史 309 仲瀬美苗子 310 西浦真喜子	心理学実験II 300F・307 小島弥生 308 後藤和史 309 仲瀬美苗子 310 西浦真喜子	文化資源学(美術・工芸) 302 廣田いづみ	文化資源学(美術・工芸) 302 廣田いづみ	家族社会学 301 林洋一				
	3年	心理学特殊講義I 302F 林洋一	観光ビジネス論 302 廣田いづみ		司法・犯罪心理学 205F 後藤和史					
	4年									
火	1年	心理学統計法 205F 小島弥生	異文化間コミュニケーション 302 横山真美	心理学基礎演習II 202F 専任教員 212F 林洋一 322F 後藤和史	発達心理学 302F 林洋一					
	2年	現代社会と職業 301 松森隆一	社会調査法II(データ解析II) 303F 西浦真喜子	国際社会学論 205F 相原征代						
	3年	心理演習 207F 林洋一 後藤和史 仲瀬美苗子	心理演習 207F 林洋一 後藤和史 仲瀬美苗子	英語圏の文化と社会 305F 吉田剛代	コミュニケーション技法II 302 後藤和史 田中麻友 福山悠介					
	4年									
水	1年	情報処理応用 302F・308 松森隆一 西浦真喜子	ことばと文化 202 村田和弘 吉田剛代 降戸陽太 島田博行	臨床心理学概論 302F 後藤和史						
	2年	職業社会学 401 小島弥生	質的研究法 303F 西浦真喜子	生涯発達心理学 305F 林洋一	青年心理学 305F 林洋一					
	3年	現代アジア論II 301 福山悠介	心理学英文講読 322F 松森隆一	社会心理学調査演習II 402F 小島弥生 西浦真喜子	文化資源学(世界遺産) 402 廣田いづみ					
	4年	心理実習 207F 林洋一 河野俊寛 後藤和史 仲瀬美苗子	心理実習 207F 林洋一 河野俊寛 後藤和史 仲瀬美苗子	心理実習 207F 河野俊寛 仲瀬美苗子	心理実習 207F 河野俊寛 仲瀬美苗子	心理実習 207F 河野俊寛 仲瀬美苗子				207F 河野俊寛 仲瀬美苗子
木	1年	宗教学 201 福江充	社会心理学概論 303F 小島弥生	スポーツII 体育実習 相谷直利	PEL入門 301・302 仲瀬美苗子 西浦真喜子 福山悠介					
	2年	心理学ゼミナールII 202F 専任教員 212F 林洋一 322F 後藤和史 323F 仲瀬美苗子	障害者・障害児心理学 402F 河野俊寛	神経・生心理心理学 302F ニノ倉成久	心理的アセスメント 305F 後藤和史					
	3年	卒業研究II 202F 専任教員 207F 後藤和史	心理学ゼミナールIV 202F 専任教員 207F 林洋一 322F 後藤和史 323F 仲瀬美苗子	心理学ゼミナールIV 202F 専任教員 207F 林洋一 322F 後藤和史 323F 仲瀬美苗子	広告と消費の心理学 304F 小島弥生					
	4年									
金	1年		文化資源学入門 302 福江充	心理学研究法 303F 仲瀬美苗子						
	2年	総合英語II 402F 轟圭香	中国の文化と社会 205F 樽明世	グループダイナミクス 302F 小島弥生	学習・言語心理学 305F 河野俊寛					
	3年		総合英語IV 402F 轟圭香	福祉心理学 305F 河野俊寛	現代ヨーロッパ論 205F 相原征代					
	4年	卒業研究II 202F 専任教員 207F 後藤和史	卒業研究II 202F 専任教員 207F 後藤和史	心理実習 207F 林洋一 後藤和史	心理実習 207F 林洋一 後藤和史	心理実習 207F 林洋一 後藤和史				207F 林洋一 後藤和史

## 【学生確保の見通し等を記載した書類】

### 1 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

#### (1) 学生確保の見通し

##### ア 定員充足の見込

##### ① 入学定員設定の考え方及び定員を充足する見込みについて

国際コミュニケーション学部心理社会学科の入学定員を45人とした。入学定員の設定にあたっては、北陸3県及び近隣県の類似した学部学科の定員設定（金沢工業大学心理科学科60人、仁愛大学心理学科95人、新潟青陵大学臨床心理学科50人）を参考にするとともに、本学が位置する地域の18歳人口動向及び本学科が責任をもって教育研究が行える適切な定員を検討し設定した。

定員充足の見通しとして、まず1点目は、全国的な動向として、心理学分野の志願・進学ニーズが高いことである。日本私立学校振興・共済事業団の集計【資料：1】によると、平成27（2015）年度時点における心理学分野の入学定員が2,165人に対して志願者は14,924人となっており、志願倍率は6.89倍となっている。また、入学者が2,199人、入学定員充足率は101.6%であったが、平成31（2019）年度においては、入学定員2,713人に対して志願者は28,076人、志願倍率は10.35倍、入学者が2,832人、入学定員充足率は104.4%となっている。志願者レベルではほぼ倍増、入学者も増加傾向にあり、入学定員充足率も安定していることから、高校生の進学先として心理学分野への関心が高いことが分かる。次に北陸3県を中心に本学独自に実施した受験生のニーズ調査の結果からも、本学が本学科を設置した場合、長期的かつ安定的に学生確保できる見通しを得ることができた。受験者のニーズ調査結果については、「イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要」にて詳述する。

##### ② 定員超過率が0.7倍未満の学部学科（薬学部薬学科）の状況について

薬学部薬学科は過去6年間の定員超過率は0.53である。本学科は平成18（2006）年度の6年制移行時から入学定員306名、収容定員1,836名として学生募集を行ってきた。6年制移行直後の2年間は志願者数も多く、定員を充足していたが、それ以降の3年間（平成20～22）は減少した。その後、社会的に薬剤師の需要が高まったこともあり、一時は志願者数の回復が見られたが、私立大学薬学部が急激に増加（平成14（2002）年度：29大学→平成20（2008）年度：57大学《令和2（2020）年度には新たに2大学が開設予定》）したことなどによる影響等により、平成27（2015）年度を境に再び志願者数が減少することとなった。こうした状況に鑑み、平成29（2017）年度より入学定員を220名に減員した。その後、更なる18歳人口の減少及び本学が位置する地域の特性等を総合的に判断し、令和元（2019）年度に

200名、令和2（2020）年度に160名へと入学定員の減員を行っており、心理社会学科が開設する令和3（2021）年度には125名へと段階的に入学定員を減員することで定員充足の改善を図る計画としている。

薬学科の入学定員を125名と設定する理由として、平成29（2017）年度から令和元（2019）年度の3年間の各志願者が419名、446名、532名と増加傾向にあるが、薬剤師を養成するにあたり一定の学力水準を求めた結果、各年度の入学者は平成29（2017）年度が116名、平成30（2018）年度が112名、令和元（2019）年度が127名であったことから、これまでの入学者選抜状況及び地域における需要等に鑑み、入学定員を設定した。

薬学科の定員充足に向けた取組としては、先述のとおり入学者数が改善傾向にあることは、これまで実施してきた高校現場及び受験生に対して、本学科における医療人としての薬剤師養成に向けた人材養成プログラムを明確にし、丁寧な説明を行ってきた結果であると考えられることから、本学の教育プログラムに加え、地域における薬剤師の重要性について周知徹底を図る。また、これまでも継続的に行ってきた教育改革を更に推し進めるため、令和元（2019）年度から運用を開始した新教育課程についても、より一層の理解を促すため、更なる広報活動の強化を図り、定員充足に努める。

## イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

### ① アンケート調査について

心理社会学科設置にあたり、客観的データに基づいて学生募集の見通しを検討するため、学生募集の中心となる北陸3県の高校生を対象に心理社会学科に関するニーズ調査を行った。調査の概要と結果は以下のとおりである。【資料：2】

#### 1) アンケート調査項目

令和3（2021）年4月に開設を予定している「国際コミュニケーション学部心理社会学科（仮称）」に関して、高校生の進学意向等を把握することを目的とする。

#### 2) 調査対象

これまで本学に進学実績がある高等学校及び志願実績がある高等学校を踏まえ、石川県、富山県、福井県所在の高等学校109校を選定し、各高等学校に在籍する高校2年生を対象にアンケート調査を実施した。

#### 3) 実施時期

令和元（2019）年11月から令和2（2020）年1月にかけて調査を実施した。

#### 4) 調査方法

本学よりアンケート調査票及びパンフレット【資料：3】を配布し、調査票の回収にあたっては、一般財団法人日本開発構想研究所が行った。

## 5) 回収状況

回収率 80.5% (回答高校数 87 校 ÷ 実施高校数 108 校 × 100)

有効回答数 9,512 票

## 6) 調査結果の概要

### ・ 国際コミュニケーション学部心理社会学科への興味・関心 (問 8)

国際コミュニケーション学部心理社会学科への興味・関心について尋ねたところ「とても興味・関心を持った」は 4.1% (352 人)、「ある程度興味・関心を持った」は 13.6% (1,156 人)、「少し興味・関心を持った」は 38.4% (3,267 人) であり、これらを合計すると回答者の 56.3% (4,784 人) が国際コミュニケーション学部心理社会学科に対して興味・関心を持っているといえる。

### ・ 国際コミュニケーション学部心理社会学科へ進学動向 (問 10)

国際コミュニケーション学部心理社会学科への進学について尋ねたところ「ぜひ進学したいと思う」は 1.4% (117 人) であり、国際コミュニケーション学部心理社会学科の入学定員 45 人を超えている。また、「進学先の 1 つとして検討すると思う」は 12.1% (1,031 人) であり、これらを合計した値を潜在的な進学希望者と考えると、今回のアンケート調査において国際コミュニケーション学部心理社会学科への潜在的な進学希望者は回答者の 13.5% (1,148 人) いるといえる。

これらの結果から、高校生の国際コミュニケーション学部心理社会学科に対する興味は高く、本学部への進学希望者は 117 人であり、入学定員 45 人に対して、2.6 倍に該当する進学希望者がいることから、定員充足の見通しは良好であると考えられる。

## ② 近隣同系学部学科 (競合校) における志願者等の状況について

国際コミュニケーション学部心理社会学科は、石川県金沢市に開設する予定としており、地域及び学部学科が同系であることから、金沢学院大学文学部文学科 (石川県金沢市)、金沢工業大学情報フロンティア学部心理科学科 (石川県野々市市)、仁愛大学人間学部心理学科 (福井県越前市)、新潟青陵大学 (新潟県新潟市) を競合校として、各大学のホームページ等の公開情報をもとに、志願者状況等について検討した。

競合校と選定した各大学の入学定員、志願状況については【資料：4】のとおりである。

金沢学院大学文学部文学科は平成 30 (2018) 年度より入学定員を 130 人から 150 人に増員しており、増員後、専攻別の志願者状況等が未公開となっているが学科全体としての学生確保の状況は良好といえる。また、同じく石川県内に位置する金沢



工業大学情報フロンティア学部心理科学科については、平成 29（2017）年度まで心理情報学科として学生募集を行っていた時点での募集状況が良好ではなかったが、平成 30（2018）年度の改組により新たに募集を開始した心理科学科については、入学定員を満たしていない状況ではあるが、入学者数については明らかな改善が見られた。

石川県外の状況として、仁愛大学心理学科については、過去 3 年間、入学定員を充足していないが、志願者数では金沢工業大学、新潟青陵大学と大きな差がないことから、入学定員未充足の要因としては【資料：4】にあるとおり、本学科（入学定員 45 人）を含めたこの地域に設置する同系学部学科の入学定員としては規模が大きいことが考えられる。次に、新潟青陵大学臨床心理学科については、新潟県内唯一の心理学系学科であることから、学生募集及び入学定員充足率が良好なこともあり、平成 30（2018）年度より入学定員を 35 人から 50 人に増員している。増員後の学生募集状況及び入学定員充足率ともに良好な状況を継続している。

これらの観点から、本学が位置する地域における競合校の現状については、一部の大学においては入学定員未充足の状況ではあるが、改善も見られる。学生募集状況が良好な学部学科に至っては、入学定員を増員する学科もある。また、【資料：5】のとおり、本学への志願者数が石川県内に次いで多い、富山県内の私立大学において競合する同系学部学科がないことなどを総合的に判断し、近隣県から長期的かつ安定的に学生が確保可能であると考ええる。

## ウ 学生納付金の設定の考え方

国際コミュニケーション学部心理社会学科の学生納付金の設定にあたり、入学定員 45 人、収容定員 180 人として、完成年度における収支均衡を基本として、競合すると考えられる北陸 3 県及び近隣県（新潟県）の私立大学における、令和元（2019 年度）の学生納付金【資料：6】を参考に設定した。その結果、入学金 20 万円（初年度のみ）、授業料 75 万円、教育充実費 35 万円と設定した。

## (2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

国際コミュニケーション学部心理社会学科の学生確保に向けた具体的な取組みとしては、設置届出書の提出に合わせて広報活動を展開する。届出書提出後は学生募集活動に切り替え、明確に志願者、高等学校関係者等に心理社会学科に関する内容を説明できるよう努める。心理社会学科を含めたPR活動については、高等学校関係者を対象にした企画と、受験生とその保護者を対象とした企画を展開し、いずれの場合にもメディア等を通じた広報によって、企画の内容を十分に周知したうえで実施するように配慮している。

### ① 高校訪問（高等学校進路指導部）

本学では例年約 1,300 校への高校訪問を実施しており、今年度は例年以上に高校数を増やし既存学部学科の高校訪問と併せて、国際コミュニケーション学部心理社会学科の PR を実施する。北陸 3 県及び近隣県（新潟県、長野県、岐阜県）を中心に行い、各高校を 2～3 回以上訪問するほか、予備校・塾等についても訪問する。北陸 3 県については石川県内の高校長経験者を中心とした専従担当者を配置し、継続的にネットワークを構築できる体制を整えている。

## ② 高校教諭対象進学説明会（高等学校進路指導部）

北陸 3 県の高校教諭を対象に本学独自の説明会を行い、既存学部学科と併せて国際コミュニケーション学部心理社会学科の教育内容及び進路等を紹介することにより、理解促進の機会とする。

## ③ オープンキャンパス（受験生、保護者）

既存学部学科のオープンキャンパスに併せて国際コミュニケーション学部心理社会学科に関する紹介を行う。校舎見学会など展開するとともに募集要項の配布・説明を行う。受験生・保護者にとって大学全体の雰囲気や学部学科・学生生活等をより身近に感じ取ることができ、在学生とも直接対話ができる機会として、効果的な学生確保のための取組の一つと位置付けている。令和元（2019）年度は11回のオープンキャンパスを実施し、令和 2（2020）年度は10回の開催を予定しており、国際コミュニケーション学部心理社会学科に関する説明機会を多く設け、広く周知を図る予定である。

## ④ 学外進学相談会（受験生、保護者）

進学支援業者主催の進学相談会へ参画し、募集要項などの配布・説明を行う。北陸 3 県で開催される相談会を中心に参加するが、新潟県、長野県、岐阜県などで開催される相談会にも参加し、各地域からの進学希望者の要望に応じて、受験生の確保に努める。

## ⑤ 紙媒体パンフレット等の作成、配布

令和元（2019）年11月より、アンケート調査実施時に「構想中」と明記したリーフレットを配布した。令和 2 年 3 月下旬からは、同じく「構想中」と明記した大学案内ダイジェスト版を作成し配布する。これらの印刷物は高校訪問・ガイダンス、進学相談会及びオープンキャンパスにおいて配布、さらに本学の資料請求者へも送付する。令和 2（2020）年 5 月からは、更に内容を深めた大学案内を作成、活用する。

## ⑥ 資料請求者・高等学校・合格者への情報発信

資料請求者やイベント参加者等、本学保有リストに対し、通年で計6回、本学資料やイベント案内等のDMを送付する。紙媒体パンフレット等の発行時期に合わせ、高等学校・予備校・塾等にも随時送付する。また、入試合格者に対しても継続的にDMを製作・送付し情報発信する。

## ⑦ 進学情報誌等

ベネッセコーポレーション、リクルート他の進学情報誌・サイトに出稿する。大学の情報として本学の国際コミュニケーション学部心理社会学科の内容について明確に伝わるよう受験者に告知を行う。

## ⑧ 電子媒体 (Web)

既存の本学ホームページに加えて、令和元(2019)年7月から国際コミュニケーション学部心理社会学科の構想内容を記載した特設ページを設け情報発信を行うとともに、その他、Web広告やソーシャルネットワーキングサービス、メールマガジン等を活用し適宜情報発信する。

## ⑨ マスメディア・交通広告

北陸3県の地元新聞(北國新聞、北日本新聞、福井新聞)に国際コミュニケーション学部心理社会学科設置に関する紹介の広告をイベント及び入試時期と合わせて掲載する。内容としては国際コミュニケーション学部心理社会学科の教育の特色やオープンキャンパス等に関連するイベント情報、入試概要の告知とし、本学個々の企画に関する情報も同時に発信する。このほか、テレビCMを新たに制作し、新聞広告と出稿時期・エリアを合わせ重点的に展開する。また、報道機関に向け積極的に情報提供・告知・発表を行い、本学の教育に関する事項を記事として取り扱ってもらうように努める。

## 2 人材需要の動向等社会の要請

### (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)

国際コミュニケーション学部心理社会学科では、心理学の知識と技能を修得し、本学の使命・目的である「健康社会の実現」に基づき、学科の人材養成の目的を「社会全体を俯瞰できる広い視野、人間の心理を深く理解する力とコミュニケーション力を身につけ、「人と人」「人と社会を」をつなぎ、健康社会の実現に貢献できる人材を養成する。」とし、さまざまな社会問題や社会現象と人間の心理、行動との関わりを科学的手法で解明し、現代社会に生きる人間を総合的に理解することで、健やかな社会の構築に貢献できる人材を養成する。

(2) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

① アンケート調査について

国際コミュニケーション学部心理社会学科設置計画を実行するにあたり、本学科卒業予定者に対する事業所の実際の採用ニーズについて客観的データに基づいて認識するため、第三者機関によるアンケート調査を実施した。調査結果の概要は以下のとおりである。【資料：7】

1) アンケート調査項目

多様化・グローバル化する現代社会に対応した「国際コミュニケーション学部心理社会学科（仮称）」に関して、企業における採用意向等を把握するために事業所等を対象にアンケート調査を実施した。

2) 調査対象

石川県、富山県、福井県所在の1,189事業所

3) 実施時期

令和元（2019）年11月から令和2（2020）年1月にかけて調査を実施した。

4) 調査方法

本学よりアンケート調査票及びパンフレット【資料：3】を配布し、調査票の回収にあたっては、一般財団法人日本開発構想研究所が行った。

5) 回収状況

回収率31.4%（有効回答票373件÷1,189件×100）

有効回答数373票

4) 調査結果の概要

・ 国際コミュニケーション学部心理社会学科卒業生に対する採用意向（問7）

国際コミュニケーション学部心理社会学科卒業生の採用について尋ねたところ「採用したい」は21.7%（81事業所）、「採用を検討したい」は39.7%（148事業所）であり、これらを合計すると、採用に関心があるのは 61.4 %（229事業所）である。

・ 国際コミュニケーション学部心理社会学科卒業生の採用人数（問8）

国際コミュニケーション学部心理社会学科卒業生の採用に関心がある事業所（「採用したい」もしくは「採用を検討したい」と回答した事業所）において、毎年度何人程度採用したいか尋ねたところ、「1人」は72.1%（165事業所）、「2人」は13.5%（31事業所）、「3人」は0.9%（2事業所）、「4人以上」は6.1%（14事業所）となっている。採用人数を合計（4人以上は4人とする）すると289人となっている。

これらの結果から、国際コミュニケーション学部心理社会学科入学定員45人に対して229事業所が採用に関心があり、289人以上の採用予定が見込めることがわかった。

# 学生確保の見通し等を記載した書類

## 資料の目次

- 資料 1 私立大学心理学分野における志願者・入学者動向
- 資料 2 北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科設置に関する高校生アンケート調査結果
- 資料 3 近隣県における競合大学同系学部学科の志願者数、入学者数等の経年推移
- 資料 4 北陸大学志願者数上位 5 県の経年推移
- 資料 5 近隣県における競合大学同系学部学科学生納付金の状況
- 資料 6 北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科設置に関する事業所アンケート調査結果
- 資料 7 アンケート調査用パンフレット

## 私立大学 心理学分野における志願者・入学者動向

	平成27年度 (2015)	平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	平成31年度 (2019)
学 部 数	14	14	14	18	18
入 学 定 員	2,165	2,195	2,185	2,723	2,713
志 願 者 数	14,924	15,051	17,324	23,026	28,076
入 学 者	2,199	2,198	2,405	2,935	2,832
志 願 倍 率	6.89	6.86	7.93	8.46	10.35
入学定員充足率	101.6%	100.1%	110.1%	107.8%	104.4%

※日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向(平成27(2015)年度～平成31(2019)年度)」を元に作成

北陸大学「国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)」  
設置に関するアンケート調査

集 計 結 果  
(高 校 生)

令和2年3月

一般財団法人 日本開発構想研究所



## 目 次

<アンケート調査概要> .....	1
<心理社会学科進学意向> .....	2
<アンケート集計結果概要> .....	3
<アンケート回収表・集計表> .....	9
<アンケート調査票> .....	29

## <アンケート調査概要>

### 1. アンケート調査の目的

北陸大学では、「国際コミュニケーション学部心理社会学科（仮称）」の令和3年4月の開設に向けて設置の準備を進めており、新学科への進学意向を把握するために、高校生を対象にアンケート調査を実施した。

### 2. 実施アンケート

北陸大学「国際コミュニケーション学部心理社会学科（仮称）」設置に関するアンケート調査

### 3. 調査対象

石川県、富山県、福井県に所在する高等学校を選定し、高校2年生を対象に、アンケート調査を実施した。（回収表はP.5～P.7を参照）

### 4. 調査実施

令和元年11月～令和2年1月に調査を実施した。

### 5. 調査方法

郵送によるアンケート調査票の配布を大学が行い、回収及び集計を一般財団法人日本開発構想研究所が行った。

### 6. 回収状況

回収票数 9,512 票 回収率 80.6%（回収高校 87 校÷依頼高校 108 校×100）（回収表は P.11～P.13 を参照）

## <心理社会学科進学意向>

高校生アンケートによる北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科（仮称）への進学意向について、実数での回答は以下の通りである。

問 10 あなたは、北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科（仮称）に進学したいと思いますか。	実 数
1 ぜひ進学したいと思う	117 人
2 進学先の1つとして検討すると思う	1,031 人
計	1,148 人

（詳細な集計結果は P. 14 以降を参照、高校毎の実数は P. 26 を参照）

## <アンケート集計結果概要>

北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科（仮称）設置に関する高校生アンケート調査の集計結果の概要については以下の通りである。

## （１）属性

### ① 性別 【問１】

回答者の性別内訳は、「女性」が 56.2%（5,343 人）、「男性」が 42.6%（4,054 人）、「その他の性自認」0.9%（84 人）であり、女性の方が多い。

### ② 居住地 【問２】

回答者の居住地は、「石川県」が 47.1%（4,476 人）で最も多く、「富山県」が 32.0%（3,048 人）、「福井県」が 20.4%（1,939 人）となっている。

### ③ 在籍コース【問３】

回答者が高等学校において学習しているコースの内訳は、「文系クラス」が 59.8%（5,686 人）で最も多く、「理系クラス」は 22.9%（2,182 人）、「コース選択はない」は 7.0%（669 人）となっている。

## （２）高校卒業後の進路（複数回答）【問４】

高校卒業後に希望する進路について複数回答により尋ねたところ、「大学」が 72.8%（6,924 人）で最も多く、次いで「専門学校・専修学校」19.8%（1,881 人）、「就職」12.8%（1,213 人）、「短期大学」10.1%（957 人）などとなっている。

以下は、高校卒業後の希望進路において、「大学」、「短期大学」又は「専門学校・専修学校」のいずれかを回答した回答者（8,499 人）による回答である。

## （３）進学希望分野（複数回答）【問５】

進学希望分野について複数回答により尋ねたところ、「経済学・経営学・商学」が 22.1%（1,877 人）で最も多く、次いで「心理学」17.3%（1,468 人）、「語学・国際関係学」16.3%（1,382 人）、「教育学」16.0%（1,360 人）などの回答が多い。

男女別にみると、男性では「経済学・経営学・商学」が30.5%（1,094人）で最も多く、次いで「工学・理学」が25.4%（911人）が続いている。

女性では「語学・国際関係学」が21.3%（1,032人）で最も多く、次いで「心理学」が19.8%（957人）が続いている。

#### （４）北陸大学の認知度【問６】

北陸大学の認知度については、「よく知っている」は4.5%（385人）、「知っている」は30.4%（2,581人）であり、これらを合計する、回答者の3人に1人（34.9%）は北陸大学を知っていると回答している。「聞いたことはある」は47.0%（3,992人）、「知らない」は17.5%（1,489人）である。

#### （５）進学先を決定する際に重視すること（複数回答）【問７】

進学先を決定する際に重視することは、「学部・学科の分野」が74.3%（6,317人）で最も多く、男女別に見ても、男女とも70%以上を占めている。次いで多いのは「取得可能資格・免許」43.6%（3,705人）であり、特に男性の34.1%（1,222人）に対して女性は50.7%（2,452人）と回答者の半数を占めており、男女の差が大きい。そのほかでは、「入試難易度・入試科目」38.9%（3,305人）、「学費等のコスト」38.2%（3,244人）、「教育内容」36.5%（3,099人）などが比較的多い。

#### （６）心理社会学科への興味・関心【問８】

北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科への興味・関心については、「とても興味・関心をもった」は4.1%（352人）、「ある程度興味・関心をもった」は13.6%（1,156人）、「少し興味・関心をもった」は38.4%（3,267人）であり、これらを合計すると、程度の差はあるが56.1%（4,775人）が心理社会学科に対して興味・関心があると回答している。

#### （７）心理社会学科で取得可能な資格のうち興味・関心がある資格（複数回答）【問９】

心理社会学科で取得可能な資格（公認心理師、認定心理士、社会調査士）の中で、興味・関心がある資格について尋ねたところ、「公認心理師」が17.7%（1,508人）で最も多く、「認定心理士」も17.4%（1,483人）とほぼ同じ回答結果となっている。また、男女別にみ

ると、女性では「公認心理師」は20.3%（984人）（男性は13.4%（482人））、「認定心理士」は20.5%（991人）（男性は14.3%（512人））となっている。

#### （8）心理社会学科への進学意向【問10】

北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科への進学意向についてみると、「ぜひ進学したいと思う」と回答したのは117人であり、全体の1.4%である。また、「進学先の1つとして検討したいと思う」と回答したのは1,031人であり、全体の12.1%である。

また、高校卒業後の進路（問4）で「大学」を選択した回答者についてみると、「ぜひ進学したいと思う」は106人（1.5%）であり、「進学先の1つとして検討すると思う」は902人（13.0%）となっている。

上段：件数、下段：%

	1 ぜひ進学したいと思う	2 進学先の1つとして検討すると思う	3 あまり進学したいと思わない	4 進学したいと思わない	不明	合計
全 体	117	1031	3177	3269	905	8499
	1.4	12.1	37.4	38.5	10.6	100.0
大学進学	106	902	2658	2565	693	6924
	1.5	13.0	38.4	37.0	10.0	100.0

注）「大学進学」は高校卒業後の進路（問4）で「1 大学」を選択した回答者（6924人）

#### （9）心理社会学科に進学したい理由（複数回答）【問11】

北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科への進学について、「ぜひ進学したいと思う」または「進学先の1つとして検討すると思う」と回答した回答者について、その回答理由を尋ねたところ、「希望の資格・免許（認定心理士、社会調査士、公認心理師受験資格）取得」が48.5%（557人）で最も多い。次いで、「他校にはない特色」27.0%（310人）、「立地（地元にある、自宅通学圏内）」25.8%（296人）などとなっている。

高校卒業後の進路で「大学」を選択した回答者についてみると、心理社会学科に「ぜひ進学したいと思う」と回答した回答者については、70.8%（75人）が「希望の資格・免許（認定心理士、社会調査士、公認心理師受験資格）取得」を回答しており、資格取得が最大の理由となっている。

	1 希望の資格・ 免許(認定心 理士、社会 調査士、公 認心理師受 験資格)取得	2 立地(地元 にある、自宅 通学圏内)	3 他校にはな い特色	4 これまでの 実績や評判	5 先輩が進学 している	6 その他	不明	合計
全 体	557	296	310	78	34	55	34	1148
	48.5	25.8	27.0	6.8	3.0	4.8	3.0	100.0
ぜひ進学したいと 思う	81	20	20	10	4	5	5	117
	69.2	17.1	17.1	8.5	3.4	4.3	4.3	100.0
進学先の1つとし て検討すると思う	476	276	290	68	30	50	29	1031
	46.2	26.8	28.1	6.6	2.9	4.8	2.8	100.0
大学進学	500	267	269	65	27	47	29	1008
	49.6	26.5	26.7	6.4	2.7	4.7	2.9	100.0
ぜひ進学したいと 思う	75	18	20	10	4	4	3	106
	70.8	17.0	18.9	9.4	3.8	3.8	2.8	100.0
進学先の1つとし て検討すると思う	425	249	249	55	23	43	26	902
	47.1	27.6	27.6	6.1	2.5	4.8	2.9	100.0



<アンケート回収表・集計表>

北陸大学「国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)」設置に関するアンケート調査

回収表

回収日	所在地	No.	高校名	ナンバリング		回収数
	石川県	1		2266	2292	27
	石川県	2		2659	2700	42
	石川県	3		146	172	27
	石川県	4		2108	2265	158
	石川県	5				
	石川県	6		6170	6281	112
	石川県	7				
	石川県	8		9173	9196	24
	石川県	9		6282	6399	118
	石川県	10		3438	3469	32
	石川県	11		8394	8502	109
	石川県	12		1535	1609	75
	石川県	13		363	434	72
	石川県	14		6898	7275	378
	石川県	15		8858	9112	255
	石川県	16		5883	5956	74
	石川県	17		2943	3214	272
	石川県	18		9197	9236	40
	石川県	19		7276	7574	299
	石川県	20		7575	7652	78
	石川県	21		8833	8857	25
	石川県	22		7790	7858	69
	石川県	23		7859	7977	119
	石川県	24		435	527	93
	石川県	25		528	542	15
	石川県	26		1610	1626	17
	石川県	27				
	石川県	28		3470	3698	229
	石川県	29		2071	2107	37
	石川県	30		173	209	37
	石川県	31				
	石川県	32		3699	3732	34
	石川県	33		1320	1413	94
	石川県	34				
	石川県	35		543	726	184
	石川県	36		1627	1793	167

回収日	所在地	No.	高校名	ナンバリング		回収数
	石川県	37		6563	6728	166
	石川県	38		727	1019	293
	石川県	39		4971	5331	361
	石川県	40				
	石川県	41		7978	8217	240
	石川県	42				
	石川県	43		1994	2070	77
	石川県	44		9237	9274	38
	富山県	45		6400	6487	88
	富山県	46		4586	4689	104
	富山県	47		4817	4893	77
	富山県	48		6488	6562	75
	富山県	49		3215	3293	79
	富山県	50				
	富山県	51		5560	5697	138
	富山県	52				
	富山県	53				
	富山県	54		4690	4729	40
	富山県	55		9420	9512	93
	富山県	56				
	富山県	57		3294	3437	144
	富山県	58		8503	8715	213
	富山県	59		5332	5443	112
	富山県	60		6823	6897	75
	富山県	61		5957	6035	79
	富山県	62		4894	4970	77
	富山県	63		2293	2331	39
	富山県	64		1926	1993	68
	富山県	65		5698	5732	35
	富山県	66		1	111	111
	富山県	67				
	富山県	68		1020	1127	108
	富山県	69				
	富山県	70		5444	5559	116
	富山県	71		4730	4767	38
	富山県	72		210	268	59
	富山県	73		269	362	94
	富山県	74		3733	3842	110
	富山県	75		3978	4447	470

回収日	所在地	No.	高校名	ナンバリング		回収数
	富山県	76				
	富山県	77		4768	4816	49
	富山県	78		6729	6822	94
	富山県	79		112	145	34
	富山県	80				
	富山県	81		1414	1534	121
	富山県	82		6036	6131	96
	富山県	83		4448	4475	28
	福井県	84				
	福井県	85		2701	2800	100
	福井県	86		2332	2658	327
	福井県	87		1794	1828	35
	福井県	88		7653	7789	137
	福井県	89		5733	5814	82
	福井県	90		4476	4585	110
	福井県	91				
	福井県	92				
	福井県	93		2835	2942	108
	福井県	94		1128	1199	72
	福井県	95		1829	1925	97
	福井県	96		9275	9304	30
	福井県	97		8716	8832	117
	福井県	98		1200	1319	120
	福井県	99		2801	2834	34
	福井県	100				
	福井県	101		9113	9172	60
	福井県	102		9305	9419	115
	福井県	103		5815	5882	68
	福井県	104		3843	3977	135
	福井県	105				
	福井県	106				
	福井県	107		6132	6169	38
	福井県	108		8218	8393	176
校					計	9512

北陸大学「国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)」設置に関するアンケート調査

集 計 表

[有効回答票 : 9,512 票]

問 1 あなたの性別を教えてください。

	人数	%
1 男性	4054	42.6
2 女性	5343	56.2
3 その他の性自認	84	0.9
不明	31	0.3
合 計	9512	100.0

問 2 あなたの通っている高校の所在地（都道府県）について教えてください。

上段:人 下段:%	合計	1 石川県	2 富山県	3 福井県	4 その他	不明
全体	9512 100.0	4476 47.1	3048 32.0	1939 20.4	24 0.3	25 0.3
男性	4054 100.0	1862 45.9	1297 32.0	883 21.8	12 0.3	- -
女性	5343 100.0	2584 48.4	1729 32.4	1027 19.2	2 -	1 -
その他の 性自認	84 100.0	28 33.3	21 25.0	25 29.8	10 11.9	- -
不明	31 100.0	2 6.5	1 3.2	4 12.9	- -	24 77.4

(「4 その他」の回答)

0.1%未満はーで表示

愛知県	1	京都府	2	滋賀県	1	大阪	1	東京都	1	福岡県	1
沖縄	1	埼玉県	1	新潟県	2	大阪府	4	徳島県	1		

問3 あなたが所属しているコースについて教えてください。

上段:人 下段:%	合計	1 文系 クラス	2 理系 クラス	3 コース選 択はない	4 その他	不明
全体	9512	5686	2182	669	903	72
	100.0	59.8	22.9	7.0	9.5	0.8
男性	4054	2108	1256	324	343	23
	100.0	52.0	31.0	8.0	8.5	0.6
女性	5343	3537	904	326	551	25
	100.0	66.2	16.9	6.1	10.3	0.5
その他の 性自認	84	35	21	19	8	1
	100.0	41.7	25.0	22.6	9.5	1.2
不明	31	6	1	-	1	23
	100.0	19.4	3.2	-	3.2	74.2

〔4 その他〕の回答)

商業科	68	クリエイト	5	園芸福祉	1
普通	49	地域文化系列	5	普通科コース	1
商業	46	英語系	5	進学系列	1
情報ビジネス	42	情報デザイン	5	ITメディア	1
スポーツ健康科学科	34	スポーツ科	4	人間科学	1
キャリアアップコース	33	普通科 クリエイトコース ITメディア系	4	ビジネス、デザイン	1
総合学科	30	福祉系列	4	花と緑系列	1
一般	30	観光サービスコース	4	農科	1
キャリア	27	キャリアアップ	4	人間創造フードファッション	1
福祉	25	英語コース	3	ビジネス系	1
ビジネスコース	25	総合ビジネス	3	人間創造系列	1
電子機械	23	電子機械科	3	カレッジ	1
農業系	23	美術系クラス	3	人文科学	1
生活文化科	22	情報ビジネスコース	3	普通科 クリエイトコース	1
芸術コース	18	総合	2	花緑系列(農業系列)	1
農業科	16	情報デザイン科	2	普通科芸術	1
普通科	16	福祉クラス	2	スポ科	1
情報科学	15	総合情報ビジネス科	2	福祉学科	1
ビジネス	15	特別進学コース	2	人文国際コース	1
芸術	14	人間創造	2	国際	1
観光サービス	13	情報	2	人文国際系列	1
美術コース	13	人文科学系列	2	調理コース	1
クリエイトコース	12	スポーツ健康科	2	生活福祉	1
進学	11	情報ビジネス系列	2	国際科クラス	1
農業	11	情報ビジネス系	2	生活福祉科	1
普通コース	10	国際コース	1	国際系	1
人文国際	9	普通のコース	1	アート	1
美術	8	スポーツ	1	就職	1
ビジネス系列	8	カレッジコース	1	専門	1
デザイン	8	英系	1	商業(観光)	1
国際科	7	ITメディアコース	1	デザイン・ビジネス系	1
キャリアコース	7	特別進学クラス	1	商業系列	1
進学コース	6	英語系クラス	1	芸術クラス	1
地域文化	5	美術系	1	情デ	1

クリエイティブ系 IT デザイン系	1	総合学科（国際専門）	1	総合学科（福祉）	1
フードデザイン	1	スポーツ系	1	情報デザインデザインコース	1
総合情報ビジネス	1	体育	1	情報ビジネス学科	1
普通科コース IT デザイン系	1	英語	1	短大クラス	1
工業	1	普通科特別進学コース	1		1

問4 あなたは卒業後の進路についてどのように考えていますか？（複数回答：該当全て）

上段：人 下段：%	合計	1 大学	2 短期大学	3 専門学校 ・専修学校	4 就職	5 その他	不明
全体	9512 100.0	6924 72.8	957 10.1	1881 19.8	1213 12.8	83 0.9	52 0.5
男性	4054 100.0	3227 79.6	171 4.2	547 13.5	576 14.2	36 0.9	24 0.6
女性	5343 100.0	3635 68.0	780 14.6	1316 24.6	617 11.5	44 0.8	7 0.1
その他の 性自認	84 100.0	52 61.9	5 6.0	17 20.2	19 22.6	3 3.6	1 1.2
不明	31 100.0	10 32.3	1 3.2	1 3.2	1 3.2	-	20 64.5

※複数回答のため合計は100%にならない

（「5 その他」の回答）

未定	10	公務員	1
留学	6	海外大学	1
分からない。	3	国に帰って農業をする。	1
悩んでいる	2	まだ決まっていない	1
決まっていない	2	海外へ行く。	1
フリーター	2	まだ決めてない	1
まだ決まっていない。	2	特に	1
決まっていない。	2	ピザ職人	1
考えていない	1	不明	1
分からない	1	有名になる道を探す。	1
大学進学か就職かを迷っている。	1	わからない	1
わからない。	1	フランス外人部隊	1
語学留学	1	迷っている	1
何も考えていない。	1	決まってない。	1
今は考えていない。	1	予備校	1
家業手伝い	1	養成所	1
まだ考えている	1	決めていない。	1
海外	1	決めていない	1
決めてない。	1		
就職してから自分でお金貯めて専門学校にいきたいと考えています	1	バイトをやりながら、英会話教室に通いたい	1

(問5以降は、問4で高校卒業後に進学を希望する学生数は、複数回答のため、「4 就職」「5 その他」「4 就職あるいは5 その他」を回答した961人及び無回答52人の計1,013人を除いた8,499人による設問となる)

問5 あなたが高校卒業後、学びたいと考えている、興味・関心がある学問分野すべてに○をつけてください。(複数回答：該当全て)

	上段:人 下段:%	合計	男性	女性	その他の 性自認	不明
全 体		8499	3584	4839	66	10
		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 心理学		1468	490	957	17	4
		17.3	13.7	19.8	25.8	40.0
2 社会学		852	423	414	13	2
		10.0	11.8	8.6	19.7	20.0
3 文化・文学		1147	408	724	15	-
		13.5	11.4	15.0	22.7	-
4 語学・国際関係学		1382	337	1032	12	1
		16.3	9.4	21.3	18.2	10.0
5 法律・政治		624	356	256	10	2
		7.3	9.9	5.3	15.2	20.0
6 経済学・経営学・商学		1877	1094	768	14	1
		22.1	30.5	15.9	21.2	10.0
7 教育学		1360	461	885	11	3
		16.0	12.9	18.3	16.7	30.0
8 体育・健康科学		734	461	259	10	4
		8.6	12.9	5.4	15.2	40.0
9 医学・歯学		403	145	248	9	1
		4.7	4.0	5.1	13.6	10.0
10 薬学		310	148	154	8	-
		3.6	4.1	3.2	12.1	-
11 臨床検査学		172	50	117	4	1
		2.0	1.4	2.4	6.1	10.0
12 臨床工学		120	61	53	5	1
		1.4	1.7	1.1	7.6	10.0
13 保健・看護学		1069	143	915	10	1
		12.6	4.0	18.9	15.2	10.0
14 理学療法学(リハビリ)		567	251	303	9	4
		6.7	7.0	6.3	13.6	40.0
15 化学・生物・生命・環境		437	255	177	5	-
		5.1	7.1	3.7	7.6	-
16 栄養学		585	101	480	4	-
		6.9	2.8	9.9	6.1	-
17 情報科学		530	404	119	7	-
		6.2	11.3	2.5	10.6	-
18 工学・理学		1069	911	149	9	-
		12.6	25.4	3.1	13.6	-
19 農学・水産学		195	112	79	4	-
		2.3	3.1	1.6	6.1	-
20 その他		878	205	669	4	-
		10.3	5.7	13.8	6.1	-
不明		165	79	84	2	-
		1.9	2.2	1.7	3.0	-

※複数回答のため合計は100%にならない



(「20 その他」の回答)

美容	92	被服	2	ペット関係	1
芸術	60	メディア学	2	絵、美術	1
美術	36	被服学	2	美容、エステ、脱毛	1
デザイン	35	音響	2	外国語学、英語学	1
音楽	29	芸能	2	美容ブライダル	1
観光学	18	イラストレーション	2	環境デザイン、都市デザイン	1
ブライダル	15	美術、アート	2	服、美容	1
製菓	14	観光	2	環境学	1
保育	14	映像、音響	2	福祉系、保育系	1
芸術学	14	住居学	2	看護、美容	1
美容系	11	映像学	2	放射線技術学	1
服飾	10	情報ビジネス	2	コンサートスタッフ	1
建築	9	ウェディング	2	ウェディングプランナー	1
理容・美容	8	幼児教育学	2	コンピューター、芸術	1
調理	8	公務	2	生活科学、デザイン	1
理容、美容	7	わからない。	2	救命救急	1
福祉	6	美容、ブライダル	2	声優、タレント	1
イラスト	6	調理師	2	経済学	1
決まっていない	6	航空	2	造形学	1
美容、理容	5	歴史学	2	コンピュータグラフィックス	1
芸術系	5	動物系	1	地域創造岳	1
医療事務	5	ウェディング、ブライダル	1	芸術（美術）	1
理美容	5	美容、保育	1	ファッション、美術	1
事務	4	音楽、技術	1	サイクル	1
建築学	4	地域創造	1	IT、プログラム	1
ペット	4	音楽、芸術学、舞台芸術学	1	芸術、演劇	1
芸術、デザイン	4	美術、芸術、アート	1	ブライダル、ヘアメイク、美容	1
幼児教育	4	音楽、声楽	1	芸術、音楽	1
動物	4	イラスト美術	1	比較宗教学	1
スポーツ	4	音楽学	1	芸術、哲学	1
料理	4	生産技術	1	ブライダル、服飾	1
福祉学	3	音楽学科	1	芸術、美容	1
美術、デザイン	3	哲学	1	美術（デザイン）	1
未定	3	音楽関係	1	芸術、文芸	1
社会福祉	3	被服学、家政	1	イラストレーター	1
美術学	3	エアライン	1	芸術デザイン学	1
社会福祉学	3	美術系	1	美術、特殊メイク	1
家政学	3	音響、芸術	1	サッカー	1
美容学	3	まんが、イラスト	1	美術学、デザイン学	1
映像	3	音響、照明	1	芸術学（音楽）	1
スポーツ学	3	保育、音楽	1	美術史	1
美術、芸術	3	音響、照明、イベント関係	1	芸術学関係	1
史学	3	ウェディング系	1	マスコミ	1
調理、製菓	3	ゲーム制作	1	芸術学部	1
児童学	3	ビジネス	1	美容・理容、服飾	1
美容関係	2	コミュニケーション	1	LIVE関係	1
食物学	2	ビジネス学	1	まだ決まっています	1
メディア	2	介護福祉士	1	芸術工学	1
土木	2	動画、映像系	1	美容室	1
デザイン、イラスト	2	会計学	1	芸術分野、歴史	1
ファッション	2	被服、服飾系	1	服飾、家政	1
介護	2	解剖学など	1	スポーツビジネス学	1
動物看護	2	美術、イラスト	1	福祉学 介護	1
保育学	2	海事	1	PC	1

分からない。	1	動物飼育	1	マネジメント	1
決めていない。	1	歴史系	1	住民学	1
インテリアデザイン	1	ブライダル、美容	1	美容系	1
決めてない	1	CG デザイン	1	柔道整復学	1
民俗学、哲学	1	被服・服飾学、生活科学	1	舞台芸術	1
健康スポーツ	1	作業療法学	1	獣医学	1
理容	1	被服学、音楽	1	イラスト系	1
健康福祉学、観光学	1	デザイン、芸術、建築	1	獣医学、服飾、美容	1
演劇	1	ブライダル学	1	服飾系	1
IT、ゲーム	1	史学、地理学	1	照明	1
生活科学	1	ブライダル関係	1	わからない	1
イラスト、マンガ	1	史学、文化財学	1	照明や音響について。	1
生活科学、家政学	1	美術、ゲーム	1	福祉系	1
建築学科	1	子ども	1	バレエ科	1
声優	1	ペットトリミング	1	分からない	1
建築関係	1	デザインとか美術系	1	情報メディア	1
声優、声優アーティストについて	1	美術、生物資源学	1	いろいろ	1
古生物	1	事務系	1	植物、デザイン	1
製菓、製パン	1	美術・芸術・デザイン	1	保育、幼児	1
交通系、観光学	1	デザイン学	1	食品	1
大工、建築	1	美術学（芸術学）	1	放射線技術	1
デザイン、グラフィック	1	自	1	食品関係	1
地域創造学	1	美術学、デザイン学、イラストレーション	1	一般事務	1
公務員	1	自衛隊	1	ピアノ調律	1
地学	1	美術芸術	1	IT系	1
公務員（消防）	1	自動車メーカー、小売業、フィルム製造	1	神学	1
イラスト、美術	1	ホテルブライダル	1	映像カメラ	1
工芸	1	自動車工学	1	辛子明太子学	1
通訳	1	美容、トリマー	1	映像クリエイター（音響）	1
考え中	1	自動車整備	1	人間福祉	1
都市デザイン、環境社会基盤	1	美容、建築	1	理容・美容	1
航海	1	デザイン系	1	整備（車）	1
土木科	1	まだ何も	1	歴史	1
デザイン、芸術	1	テレビ	1	生き物	1
ブライダル、ウェディング	1	美容 or 服飾	1	生活（製菓）	1
航空学	1	宗教	1	航空整備学	1
動物関係	1	美容科（メイク）	1	航空操縦学	1
歴史（日本史）	1	トリミング	1	国際学部	1

問6 あなたは北陸大学をご存じですか？

上段:人 下段:%	合計	1 よく知って いる	2 知っている	3 聞いたこと はある	4 知らない	不明
全体	8499	385	2581	3992	1489	52
	100.0	4.5	30.4	47.0	17.5	0.6
男性	3584	190	1045	1643	683	23
	100.0	5.3	29.2	45.8	19.1	0.6
女性	4839	189	1521	2320	780	29
	100.0	3.9	31.4	47.9	16.1	0.6
その他の 性自認	66	6	12	24	24	-
	100.0	9.1	18.2	36.4	36.4	-
不明	10	-	3	5	2	-
	100.0	-	30.0	50.0	20.0	-

問7 あなたが進学先を決定する際に重視することを教えてください。(複数回答：該当全て)

	上段:人 下段:%	合計	男性	女性	その他の 性自認	不明
全 体		8499	3584	4839	66	10
		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 学部・学科の分野		6317	2529	3734	46	8
		74.3	70.6	77.2	69.7	80.0
2 取得可能資格・免許		3705	1222	2452	27	4
		43.6	34.1	50.7	40.9	40.0
3 教育内容		3099	1176	1895	23	5
		36.5	32.8	39.2	34.8	50.0
4 教員の充実度		840	335	495	10	-
		9.9	9.3	10.2	15.2	-
5 就職指導及び就職実績		2318	804	1491	20	3
		27.3	22.4	30.8	30.3	30.0
6 入試難易度・入試科目		3305	1309	1970	23	3
		38.9	36.5	40.7	34.8	30.0
7 国立・公立・私立の別		2665	1087	1566	10	2
		31.4	30.3	32.4	15.2	20.0
8 学費等のコスト		3244	1263	1955	24	2
		38.2	35.2	40.4	36.4	20.0
9 校舎・施設の充実度		2348	789	1534	21	4
		27.6	22.0	31.7	31.8	40.0
10 寮の有無		394	150	238	6	-
		4.6	4.2	4.9	9.1	-
11 所在地		2860	1105	1734	19	2
		33.7	30.8	35.8	28.8	20.0
12 学校の先生の意見		520	222	292	5	1
		6.1	6.2	6.0	7.6	10.0
13 家族の意見		2047	691	1339	14	3
		24.1	19.3	27.7	21.2	30.0
14 友人の意見		322	166	151	5	-
		3.8	4.6	3.1	7.6	-
15 大学生や卒業生の意見		756	240	508	8	-
		8.9	6.7	10.5	12.1	-
16 伝統・世間での評判		888	377	501	9	1
		10.4	10.5	10.4	13.6	10.0
17 その他		126	69	53	4	-
		1.5	1.9	1.1	6.1	-
不明		88	41	46	1	-
		1.0	1.1	1.0	1.5	-

※複数回答のため合計は100%にならない

(「17 その他」の回答)

部活動	11	楽しそうか否か。	1
部活	10	周辺環境	1
留学制度	7	規則	1
卒業後の就職先	2	将来の夢	1
部活の充実度	2	サークルや留学制度	1
学校の雰囲気	2	将来の目標に重要であるかいなか。	1
卒業後の進路	2	大学が自分に合っているか。	1
将来のためになるか。	1	スポーツの実績	1
陸上部の強さ	1	通わなきやいけない期間	1
スポーツ	1	距離	1
そのキャンパスが単学部か、復学部か。	1	大学の先生の印象	1
自分の持ち味を生かせるかどうか。	1	県内	1
ダンス部があるか。	1	特に考えていない。	1
制度やサポートの充実度	1	県内にあるかどうか。	1
なんとなく。	1	クラブ活動	1
部活動の実績について	1	認知度	1
やりたいことに添っているか	1	校則	1
留学制度があるかどうか。	1	部活の充実度、強さ	1
やりたいことをやる	1	資格の合格率	1
家からの距離	1	部活動の強さ	1
将来の夢にたどりつけるか	1	自分がこの先のしめるかどうか	1
家から近い。	1	部活動の有無	1
入りたい部活があるかどうか。	1	自分が楽しいかどうか。	1
課外実習	1	名前、ブランド	1
部活動など	1	自分が興味関心をもっているかいないか	1
学校システム	1	自分が本当に行きたいのか。	1
夢がない人でも夢をみつけれる所	1	自分のやりたいこと	1
サークルの強さ	1	寮の場所	1
スポーツ、部活	1	自分の意志	1
学食の上手さ	1	自分の興味	1
インターネット掲示板	1	自分の夢にそっている所	1
楽しければ。	1		
実務、社会に出る前に実践的な教育を受け、資格などを生かし、コミュニケーションを高めることができる場			1
留学が可能か、一定の家庭 学費免除対象の学校であるか			1
留学制度（協定校の所在地、奨学金の有無、留学時に単位を取得できるか）			1
インターンシップの制度、留学制度が整っている。			1

問8 あなたは、北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)に興味・関心を持ちましたか？

上段:人 下段:%	合計	1 とても 興味・関心 をもった	2 ある程度 興味・関心 をもった	3 少し 興味・関心 をもった	4 興味・関心 をもたなか った	不明
全体	8499 100.0	352 4.1	1156 13.6	3267 38.4	2844 33.5	880 10.4
男性	3584 100.0	144 4.0	442 12.3	1232 34.4	1394 38.9	372 10.4
女性	4839 100.0	201 4.2	709 14.7	2009 41.5	1423 29.4	497 10.3
その他の 性自認	66 100.0	6 9.1	4 6.1	21 31.8	26 39.4	9 13.6
不明	10 100.0	1 10.0	1 10.0	5 50.0	1 10.0	2 20.0

問9 あなたは、国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)で取得可能な資格(公認心理師、認定心理士、社会調査士)の中で、興味・関心がある資格すべてに○をつけてください。  
(複数回答：該当全て)

上段:人 下段:%	合計	1 公認心理師	2 認定心理士	3 社会調査士	4 どの資格も 興味・関心 をもたなか った	不明
全体	8499 100.0	1508 17.7	1483 17.4	727 8.6	4597 54.1	959 11.3
男性	3584 100.0	512 14.3	482 13.4	352 9.8	2088 58.3	408 11.4
女性	4839 100.0	984 20.3	991 20.5	364 7.5	2470 51.0	538 11.1
その他の 性自認	66 100.0	12 18.2	7 10.6	10 15.2	35 53.0	11 16.7
不明	10 100.0	- -	3 30.0	1 10.0	4 40.0	2 20.0

※複数回答のため合計は100%にならない

問 10 あなたは、北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)に進学したいと思  
いますか？

上段:人 下段:%	合計	1 ぜひ進学し たいと思う	2 進学先の1つ として検討す ると思う	3 あまり進学 したいと思 わない	4 進学したい と思わない	不明
全体	8499 100.0	117 1.4	1031 12.1	3177 37.4	3269 38.5	905 10.6
男性	3584 100.0	78 2.2	434 12.1	1189 33.2	1499 41.8	384 10.7
女性	4839 100.0	35 0.7	585 12.1	1970 40.7	1739 35.9	510 10.5
その他の 性自認	66 100.0	4 6.1	10 15.2	14 21.2	29 43.9	9 13.6
不明	10 100.0	- -	2 20.0	4 40.0	2 20.0	2 20.0

問11 問10で1, 2を選んだ方に質問します。あなたが北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)へ「ぜひ進学したいと思う」、「進学先の1つとして検討する」理由は何ですか。(複数回答：該当全て)

	上段:人 下段:%	合計	男性	女性	その他の 性自認	不明
全 体		1148	512	620	14	2
		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 希望の資格・免許(認定心理士、社会調査士、公認心理師受験資格)取得		557	221	330	5	1
		48.5	43.2	53.2	35.7	50.0
2 立地(地元にある、自宅通学圏内)		296	127	164	4	1
		25.8	24.8	26.5	28.6	50.0
3 他校にはない特色		310	176	130	4	-
		27.0	34.4	21.0	28.6	-
4 これまでの実績や評判		78	46	31	1	-
		6.8	9.0	5.0	7.1	-
5 先輩が進学している		34	19	14	1	-
		3.0	3.7	2.3	7.1	-
6 その他		55	14	38	3	-
		4.8	2.7	6.1	21.4	-
不明		34	11	22	1	-
		3.0	2.1	3.5	7.1	-

※複数回答のため合計は100%にならない

(「6 その他」の回答)

面白そう。	2	心理学に興味を涌いた	1
心理学を学びたいと思っているから。	2	心理学へ行きたいから	1
心理学に興味がある。	2	興味がわいた	1
心理学に興味があるから	2	心理学はなかなかないから。	1
親からの案。	1	興味をもった。	1
心理学を学びたいから。	1	心理学を学びたい	1
お母さんがすすめてきた	1	興味を持ったから	1
違う学科に興味がある	1	心理学を学びたいと思っているから	1
心理学を学んでみたいから	1	興味深い内容	1
医療保健学部がある。	1	心理学を学べるのもいいなと思ったから	1
北陸大学の他の学部を受けるから。	1	具体的にはよく分からない	1
学びたい学問だから。	1	心理学を勉強したいから	1
まだ迷っているから。	1	兄が進学している	1
学習内容に興味があるから。	1	心理学系統の学部に興味があるから。	1
コミュニケーション心理学を学べるから。	1	社会学が学べる。	1
学費や、学費の免除について。	1	進路	1
心理学科への進学を希望しているから。	1	施設が充実してそう。	1
楽しそう	1	幅広い学び。	1
卒業後の進路	1	国際交流プログラム。	1
興味がある。	1	面白そう	1
パンフレットを見て学部が面白そうだと思ったから。	1	就職先にマスコミ(編集)があったこと。	1
心理学に興味があり、もともと北陸大学国際コミュニケーション学部は候補にあった。	1	現代に必要なコミュニケーション能力が身に付きそうだから	1
アメリカの心理学の授業を体験する国際交流プログラムがあるから	1	県内にあり、金沢学院よりいい所があると思ったから。	1



〔参考〕北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)への高校ごとの進学希望者(問10)

	ぜひ進学したい と思う	進学先の1つとし て検討すると思う	計
全体	117	1031	1148
	-	1	1
	1	4	5
	-	1	1
	-	9	9
	1	17	18
	-	-	-
	-	1	1
	1	10	11
	-	4	4
	1	21	22
	-	10	10
	-	3	3
	-	28	28
	7	44	51
	4	15	19
	2	21	23
	1	1	2
	6	37	43
	1	11	12
	-	7	7
	-	6	6
	2	3	5
	-	11	11
	-	3	3
	-	3	3
	4	21	25
	-	3	3
	1	19	20
	-	4	4
	-	14	14
	1	19	20
	3	24	27
	3	35	38
	4	20	24
	4	52	56
	1	14	15
	2	11	13
	1	3	4
	-	4	4
	3	12	15
	2	9	11
	-	10	10
	-	16	16

	ぜひ進学したい と思う	進学先の1つとし て検討すると思う	計
	-	11	11
	1	9	10
	1	7	8
	-	21	21
	1	15	16
	2	10	12
	1	12	13
	1	10	11
	-	10	10
	-	10	10
	3	15	18
	-	2	2
	3	20	23
	-	15	15
	3	19	22
	-	8	8
	1	6	7
	1	11	12
	-	18	18
	11	39	50
	-	12	12
	1	8	9
	-	-	-
	1	14	15
	-	6	6
	1	3	4
	1	5	6
	6	27	33
	1	2	3
	1	15	16
	3	14	17
	4	14	18
	-	7	7
	1	6	7
	1	2	3
	-	1	1
	2	12	14
	3	7	10
	-	1	1
	-	5	5
	2	12	14
	1	3	4
	2	14	16
	-	5	5
	1	7	8

※回答のあった高校のみ



<アンケート調査票>



# 北陸大学「国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)」設置に関する アンケート調査票 (令和元年度高校2年生対象)

北陸大学では、2021(令和3)年4月の開設に向けて、「国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)」の設置準備を進めています。  
このアンケート調査は、高校生の皆様の卒業後の進路等に関する意向や本学が設置する「国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)」への興味・関心等についておたずねし、新学科設置のための基礎資料とするものです。皆様のご協力をお願いいたします。なお、本調査は客観性を担保するため、大学等の各種調査に関して多くの実績を持つ一般財団法人日本開発構想研究所に集計・分析等を委託します。この調査票は無記名方式です。また、アンケート結果は統計資料としてのみ用い、個票を外部に公表したり他の目的のために使用することはありません。

## I. あなた自身についてお聞きします。あてはまるものに○をつけてください。

問1 | あなたの性別を教えてください。

1. 男性                                      2. 女性                                      3. その他の性自認

問2 | あなたの通っている高校の所在地(都道府県)について教えてください。

1. 石川県                                      2. 富山県                                      3. 福井県                                      4. その他(                                      )

問3 | あなたが所属しているコースについて教えてください。

1. 文系クラス                                      2. 理系クラス                                      3. コース選択はない                                      4. その他(                                      )

## II. 高校卒業後の進路や興味・関心がある学びについてお聞きします。

問4 | あなたは卒業後の進路についてどのように考えていますか？以下の項目からあてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 大学                                      2. 短期大学                                      3. 専門学校・専修学校                                      4. 就職  
5. その他(                                      )

※問5以降は、問4で「大学」、「短期大学」、「専門学校・専修学校」答えた方への質問です。  
※問4で「就職」、「その他」と答えた方はこれでアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

問5 | あなたが高校卒業後、学びたいと考えている、興味・関心がある学問分野すべてに○をつけてください。

1. 心理学                                      2. 社会学                                      3. 文化・文学                                      4. 語学・国際関係学                                      5. 法律・政治  
6. 経済学・経営学・商学                                      7. 教育学                                      8. 体育・健康科学                                      9. 医学・歯学                                      10. 薬学  
11. 臨床検査学                                      12. 臨床工学                                      13. 保健・看護学                                      14. 理学療法(リハビリ)                                      15. 化学・生物・生命・環境  
16. 栄養学                                      17. 情報科学                                      18. 工学・理学                                      19. 農学・水産学  
20. その他(                                      )

問6 | あなたは北陸大学をご存じですか？1つに○をつけてください。

1. よく知っている                                      2. 知っている                                      3. 聞いたことはある                                      4. 知らない

問7 | あなたが進学先を決定する際に重視することを教えてください。以下の項目から該当するものすべてに○をつけてください。

1. 学部・学科の分野                                      2. 取得可能資格・免許                                      3. 教育内容                                      4. 教員の充実度  
5. 就職指導及び就職実績                                      6. 入試難易度・入試科目                                      7. 国立・公立・私立の別                                      8. 学費等のコスト  
9. 校舎・施設の充実度                                      10. 寮の有無                                      11. 所在地                                      12. 学校の先生の意見  
13. 家族の意見                                      14. 友人の意見                                      15. 大学生や卒業生の意見                                      16. 伝統・世間での評判  
17. その他(具体的に                                      )

### Ⅲ. 北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)についてお聞きします。

※アンケートに同封している資料を見ながらお答えください。

**問 8** あなたは、北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)に興味・関心をもちましたか？

1つに○をつけてください。

1. とても興味・関心をもった    2. ある程度興味・関心をもった    3. 少し興味・関心をもった    4. 興味・関心をもたなかった

**問 9** あなたは、国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)で取得可能な資格

(公認心理師<sup>※1</sup>、認定心理士<sup>※2</sup>、社会調査士<sup>※3</sup>)の中で、興味・関心がある資格すべてに○をつけてください。

1. 公認心理師                      2. 認定心理士                      3. 社会調査士                      4. どの資格も興味・関心をもたなかった

※1 公認心理師の受験資格取得には大学院での履修または実務経験が必要です。(リーフレットをご参照ください)

※2 認定心理士は、「公益社団法人日本心理会」が認定する心理の基礎資格です。大学において、心理学に関する標準的な基礎知識と技術を修得していることが認められた資格です。

※3 社会調査士は、「一般社団法人社会調査協会」が認定する資格です。調査企画から報告書作成までの社会調査の全過程を学習することにより、基本的な調査方法や分析手法の妥当性、またその問題点を指摘することができる基礎的技術を修得していることが認められた資格です。

**問 10** あなたは、北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)に進学したいと思いますか？

一番近いもの1つに○をつけてください。

1. ぜひ進学したいと思う    2. 進学先の1つとして検討すると思う    3. あまり進学したいと思わない    4. 進学したいと思わない

**問 11** 問 10 で 1, 2 を選んだ方に質問します。あなたが北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)へ

「ぜひ進学したいと思う」、「進学先の1つとして検討する」理由は何ですか。

以下の項目から該当するものすべてに○をつけてください。

1. 希望の資格・免許(認定心理士、社会調査士、公認心理師受験資格)取得  
 2. 立地(地元にある、自宅通学圏内)                      3. 他校にはない特色                      4. これまでの実績や評判                      5. 先輩が進学している  
 6. その他(具体的に)

----- 質問は以上です、ご協力ありがとうございました。 -----

### 【参考：北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)および同分野大学の初年度学費】

※心理社会学科(仮称)は計画中であり、学科名称や授業料等は正式に決まったものではなく、変更される可能性があります。

※他大学の学納金は各大学のホームページ掲載情報に基づきます(2019年9月)。

大学名	学科等	入学金	授業料	教育充実費 施設設備費	実習費	初年度合計
北陸大学	心理社会学科	200,000 円	750,000 円	350,000 円	-	1,300,000 円
金沢工業大学	心理科学科	200,000 円	1,515,000 円	-	-	1,715,000 円
金沢学院大学	文学科 心理学専攻	200,000 円	730,000 円	280,000 円	-	1,210,000 円
北陸学院大学	社会学科	200,000 円	640,000 円	320,000 円	24,000 円	1,184,000 円
仁愛大学	心理学科	250,000 円	700,000 円	160,000 円	-	1,110,000 円
新潟青陵大学	臨床心理学科	300,000 円	700,000 円	300,000 円	30,000 円	1,330,000 円





## 近隣県心理学系学部学科志願者状況一覧

大学名	学部名	学科名		平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	平成31年度 (2019)	備考
金沢学院大学	文学部	文学科	入学定員	—	—	150	150	平成28,29年度は「文 学科 心理学専攻」の 志願者・入学者(*募 集は学科一括) 平成30年度以降は専 攻別の状況が未公開
			志願者数	127	145	562	736	
			入学者数	41	43	170	189	
			充足率	—	—	1.13	1.26	
金沢工業大学	情報フロンティア学部	心理科学科	入学定員	60	60	60	60	平成28,29年度は「心 理情報学科」
			志願者数	234	225	289	279	
			入学者数	39	34	55	49	
			充足率	0.65	0.57	0.92	0.82	
仁愛大学	人間学部	心理学科	入学定員	/	95	95	95	平成28年度は未公開
			志願者数		228	216	247	
			入学者数		78	90	85	
			充足率		0.82	0.95	0.89	
新潟青陵大学	福祉心理学部	臨床心理学科	入学定員	35	35	50	50	
			志願者数	210	284	219	302	
			入学者数	40	43	54	55	
			充足率	1.14	1.23	1.08	1.10	

## 北陸大学志願者数上位5県(平成28(2016)～平成31(2019)年度)

	平成28年度 (2016)		平成29年度 (2017)		平成30年度 (2018)		平成31年度 (2019)	
	県名	志願者数	県名	志願者数	県名	志願者数	県名	志願者数
1	石川県	394	石川県	701	石川県	740	石川県	961
2	富山県	107	富山県	251	富山県	299	富山県	321
3	愛知県	46	福井県	69	福井県	78	福井県	118
4	福井県	34	長野県	60	新潟県	42	長野県	74
5	岐阜県	33	新潟県	56	長野県	42	岐阜県	67

## 近隣県心理学系学部学科学生納付金一覧

大学名	金沢工業大学	金沢学院大学	仁愛大学	新潟青陵大学
学部名	情報フロンティア学部	文学部	人間学部	福祉心理学部
学科名	心理学科	文学科 (心理学専攻)	心理学科	臨床心理学科
入学金	200,000	200,000	250,000	300,000
授業料	1,515,000	730,000	700,000	700,000
教育充実費 施設設備費	—	280,000	160,000	300,000
実習費	—	—	—	30,000
初年度合計	1,715,000	1,210,000	1,110,000	1,330,000

\* 各大学ホームページより(2019年9月)

北陸大学「国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)」  
設置に関するアンケート調査

集 計 結 果  
(事業所)

令和2年3月

一般財団法人 日本開発構想研究所

## 目 次

<アンケート調査概要> .....	1
<心理社会学科採用意向> .....	2
<アンケート集計結果概要> .....	3
<アンケート集計表> .....	7
<アンケート調査票> .....	17

## <アンケート調査概要>

### 1. アンケート調査の目的

北陸大学では、「国際コミュニケーション学部心理社会学科（仮称）」の令和3年4月の開設に向けて設置の準備を進めており、新学科卒業生の採用意向を把握するために、事業所を対象にアンケート調査を実施した。

### 2. 実施アンケート

北陸大学「国際コミュニケーション学部心理社会学科（仮称）」設置に関するアンケート調査

### 3. 調査対象

主に北陸地域（石川県、富山県、福井県）に所在する事業所を選定し、アンケート調査を実施した。

### 4. 調査実施

令和元年11月～令和2年1月に調査を実施した。

### 5. 調査方法

郵送によるアンケート調査票の配布を大学が行い、回収及び集計を一般財団法人日本開発構想研究所が行った。

### 6. 回収状況

回収票数 373 票

回収日	回収数	回収日	回収数	回収日	回収数	回収日	回収数
11.12	66	11.25	4	12.10	1	12.27	1
11.13	34	11.26	7	12.12	1	1.06	4
11.14	85	11.28	3	12.13	1	1.07	1
11.15	49	11.29	3	12.16	1	1.08	1
11.18	17	12.02	2	12.17	5	1.09	2
11.19	48	12.03	1	12.23	2	1.10	1
11.20	4	12.04	3	12.24	1	1.15	3
11.21	12	12.05	2	12.25	2		
11.22	3	12.06	1	12.26	2	計	373

## <心理社会学科採用意向>

事業所アンケートによる北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科（仮称）卒業者の採用意向について、実数での回答は以下の通りである。

問7 貴事業所では北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科（仮称）を卒業した人材を採用したいと思われませんか。	実数
1 採用したい	81人
2 採用を検討したい	148人
計	229人

（詳細な集計結果はP.9以降を参照）

## ＜アンケート集計結果概要＞





北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科（仮称）設置に関する事業所アンケート調査の集計結果の概要については以下の通りである。

## （１）属性

### ① 所在地 【問１】

回答事業所の所在地別内訳は、「石川県」が41.6%（155件）、「富山県」が34.6%（129件）、「福井県」が16.6%（62件）などとなっている。

### ② 種別（複数回答） 【問２】

回答事業所の種別は、「製造業」が23.6%（88件）で最も多く、次いで「卸売・小売業」22.8%（85件）、「建設・不動産業」14.2%（53件）、「サービス業」13.4%（50件）などとなっている。

## （２）求める能力・経験等

### ① 大学新卒者に求める能力・経験等（複数回答）【問３】

大学新卒者を採用する際に求める能力や経験について複数回答により尋ねたところ、「コミュニケーション能力」が91.2%（340件）で最も多く、ほとんどの事業所が「コミュニケーション能力」を重視していることがうかがえる。次いで「適応力」70.8%（264件）、「考え抜く力」56.6%（211件）、「目的達成志向」54.2%（202件）、「理解力」52.0%（194件）、「基礎的な学力」49.9%（186件）などの回答が続いている。

### ② 心理系学部出身の大学新卒者に求める能力・経験等（複数回答）【問４】

心理系学部出身の大学新卒者を採用する際に求める能力や経験について複数回答により尋ねたところ、「コミュニケーション能力」が90.6%（338件）で最も多く、同じくほとんどの事業所が「コミュニケーション能力」を重視している。次いで「適応力」66.2%（247件）、「理解力」50.4%（188件）、「考え抜く力」49.6%（185件）などの回答が続いている。

## （３）心理専門職または心理系学部出身者の勤務状況（複数回答）【問５】

心理専門職または心理系学部出身者の勤務状況について複数回答により尋ねたところ、「専任の心理専門職が勤務している」は4.8%（18件）、「非常勤または派遣の心理専門職者が勤

務している」は2.7% (10件)、「大学の心理系学部・学科出身者がおり、専門知識をいかした業務に従事している」は5.1% (19件)、「大学の心理系学部・学科出身者がおり、心理関連以外の業務に従事している」は19.8% (74件) となっている。

**(4) 心理専門職または心理系学部・学科出身者の今後の採用見通し【問6】**

心理専門職または心理系学部・学科出身者の今後の採用見通しについては、「不足しており採用を増やしたい」は4.6% (16件)、「現行並みの採用数を維持したい」は9.4% (35件) であり、これらを合計すると、51の事業所では心理専門職または心理系学部・学科卒業生を対象とした採用を今後していくと回答している。

**(5) 心理社会学科卒業生の採用意向【問7】**

心理社会学科卒業生の採用意向についてみると、「採用したい」と回答した事業所は81件 (21.7%) となっている。また、「採用を検討したい」と回答した事業所は148件 (39.7%) であり、「採用したい」と合わせると、229事業所 (61.4%) が心理社会学科卒業生の採用に関心を示していると考えられる。

**(6) 採用人数【問8】**

心理社会学科卒業生の採用意向に係る設問 (問7) において、「1 採用したい」もしくは「2 採用を検討したい」のいずれかを回答した事業所に対して、毎年採用したい人数を尋ねたところ、「1人」が165件 (72.1%) で最も多い。次いで、「2人」31件 (13.5%)、「4人以上」14件 (6.1%)、「3人」2件 (0.9%) となっている。

また、心理社会学科卒業生を「採用したい」と回答した事業所に限ってみると、「1人」は44件、「2人」は22件、「3人」は1件、「4人以上」は11件である。「4人以上」を4人としてこれらの採用人数を合計すると、毎年採用したい人数は135人にのぼっている。

採用意向別の毎年採用したい人数

	毎年採用したい人数 (件)					計
	1人	2人	3人	4人以上	不明	
採用したい	44 (44人)	22 (44人)	1 (3人)	11 (44人)	3 (-)	81 (135人)
採用を検討したい	121 (121人)	9 (18人)	1 (3人)	3 (12人)	14 (-)	148 (154人)
合計	165 (165人)	31 (62人)	2 (6人)	14 (56人)	17 (-)	229 (289人)

注) 下段の ( ) は毎年採用したい人数に回答事業所数を掛けた人数。「4人以上」は4人として計算。

<アンケート集計表>



北陸大学「国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)」設置に関するアンケート調査

集 計 表

[有効回答票：373 票]

問 1 貴事業所の所在地についてお答えください。

	件数	%
1 石川県	155	41.6
2 富山県	129	34.6
3 福井県	62	16.6
4 その他	27	7.2
合 計	373	100.0

(「4 その他」の回答)

石川県・富山県・福井県 7 件	石川県・富山県・福井県・全国
石川県・富山県 6 件	全国 47 都道府県
石川県・福井県 2 件	兵庫県
東京都 2 件	石川県・富山県・福井県・新潟・神戸
岐阜県 以下 1 件	石川県・愛知県
石川県・富山県・福井県・新潟県・長野県	石川県・富山県・福井県・愛知県・岐阜県
石川県・富山県・福井県・青森、他	・三重県・静岡県

問2 貴事業所の種別についてお答えください。(複数回答：該当するものすべて)

	件数	%
1 地方自治体	10	2.7
2 司法・矯正・警察	2	0.5
3 NPO 法人	1	0.3
4 学校法人	1	0.3
5 病院・診療所	34	9.1
6 児童福祉	7	1.9
7 高齢者福祉	18	4.8
8 障害者福祉	10	2.7
9 サービス業	50	13.4
10 卸売・小売業	85	22.8
11 製造業	88	23.6
12 情報通信業	20	5.4
13 飲食・宿泊業	14	3.8
14 金融・保険業	19	5.1
15 建設・不動産業	53	14.2
16 運輸・郵便業	5	1.3
17 その他	25	6.7
合計	373	100.0

※複数回答のため合計は100%にならない

(「17 その他」の回答)

建設業 2件	税理士法人
システム開発 以下1件	技術サービス業
総合ビルメンテナンス業	総合事業
人材派遣・人材紹介業、海外事業	医療
総合農協	物品賃貸業
音響、映像サービス等イベント業	民間放送業
エネルギー	造園業、指定管理施設の運営
冠婚葬祭業	産業廃棄物処理業
技術サービス業（建設コンサルタント業、測量業、補償コンサルタント業）	建築物の環境衛生管理や清掃、美観復元など総合ビルメンテナンスの仕事です

問3 大学新卒者を採用する際に、求める能力・経験等をお選びください。(複数回答：該当するものすべて)

	件数	%
1 コミュニケーション能力	340	91.2
2 基礎的な学力	186	49.9
3 専門的な知識	74	19.8
4 語学力	26	7.0
5 考え抜く力	211	56.6
6 目的達成志向	202	54.2
7 インターンシップ経験	8	2.1
8 適応力	264	70.8
9 ボランティア経験	9	2.4
10 資格・免許取得	43	11.5
11 忍耐力	156	41.8
12 理解力	194	52.0
13 その他	15	4.0
不明	5	1.3
合計	373	100.0

※複数回答のため合計は100%にならない

(「13 その他」の回答)

協調性 以下1件	好奇心の強さ
健全な価値観	主体性、自立心
向上心	接客適性
表現力、共感力	明るさ、笑顔
明るさ	失敗を怖れない自主性
スキルは不要、人生の中でなにをしたいか明確な人	
採用職種により資格・免許取得を要するものあり	
情報処理スキル(パソコン操作)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代の変化に柔軟に対応し、斬新な発想ができる。</li> <li>・社会性に富み、周囲と協力しながら目標を達成できる。</li> <li>・チャレンジ精神や自発的向上心を持ち、困難な課題にも主体的に取り組める。</li> </ul>	



問4 心理系学部出身の大学新卒者を採用する際に、求める能力・経験等をお選びください。(複

数回答：該当するものすべて)

	件数	%
1 コミュニケーション能力	338	90.6
2 基礎的な学力	155	41.6
3 専門的な知識	87	23.3
4 語学力	14	3.8
5 考え抜く力	185	49.6
6 目的達成志向	159	42.6
7 インターンシップ経験	7	1.9
8 適応力	247	66.2
9 ボランティア経験	12	3.2
10 資格・免許取得	42	11.3
11 忍耐力	137	36.7
12 理解力	188	50.4
13 その他	21	5.6
不明	6	1.6
合計	373	100.0

※複数回答のため合計は100%にならない

(「13 その他」の回答)

向上心 2件	実行力
ストレス耐性、処理能力 以下1件	社会性
健全な価値観	主体性、自立心
好奇心の強さ	出身学部不問
採用予定なし	対人関係構築への適応の高さ
接客適性	当事者及び家族への共感力
情報処理スキル(パソコン操作)	特別なものではありません
表現力、共感力	明るさ、笑顔、協調性
心理系学部出身者に限って採用する予定はない	
説明できる力(相手に合わせた方法で説明できる力)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代の変化に柔軟に対応し、斬新な発想ができる。</li> <li>・社会性に富み、周囲と協力しながら目標を達成できる。</li> <li>・チャレンジ精神や自発的向上心を持ち、困難な課題にも主体的に取り組める。</li> </ul>	

問5 貴事業所における心理専門職または大学の心理系学部出身者の勤務状況についてお答えください。(複数回答：該当するものすべて)

	件数	%
1 専任の心理専門職者が勤務している	18	4.8
2 非常勤または派遣の心理専門職者が勤務している	10	2.7
3 大学の心理系学部・学科出身者がおり、専門知識をいかした業務に従事している	19	5.1
4 大学の心理系学部・学科出身者がおり、心理関連以外の業務に従事している	74	19.8
5 上記1~4に該当する人材はいない	248	66.5
6 わからない	25	6.7
不明	4	1.1
合計	373	100.0

※複数回答のため合計は100%にならない

問6 貴事業所における心理専門職または大学の心理系学部・学科出身者の今後の採用見通しについてお答えください。

	件数	%
1 不足しており、採用を増やしたい	17	4.6
2 現行並みの採用数を維持したい	35	9.4
3 過剰であり、採用数を減らしたい	1	0.3
4 採用にあたっては、学部・学科は不問としている	302	81.0
不明	18	4.8
合計	373	100.0

問7 貴事業所では北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)を卒業した人材を  
採用したいと思われませんか。

	件数	%
1 採用したい	81	21.7
2 採用を検討したい	148	39.7
3 採用は考えない	27	7.2
4 わからない	115	30.8
不明	2	0.5
合計	373	100.0

問8 上記問7で1または2を選択された場合のみ、お答えください。

貴事業所では北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)を卒業した人材を  
毎年何人程度採用したいと思われませんか。

	件数	%
1 1人	165	72.1
2 2人	31	13.5
3 3人	2	0.9
4 4人以上	14	6.1
不明	17	7.4
合計	229	100.0

問9 北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)について、ご意見・ご要望等がございましたら、ご自由にご記入ください。

自由回答意見
パンフレットに記載のある「あなたに身につく8つの力」の全ての能力は我々社会人においても常に求められるスキルと認識しています。貴校の御考えに大いに共感、感銘いたします。
心理系大学卒業者の大学院へのステップアップを考え、社会人教育（通信も可）も早い段階で実現して頂きたい。
会社に心理を学んだ社員がいないので新しい風として興味がある。
これからの時代必要な学科と思われる。本件について、問8については、問6で答えている通り、当社は学部・学科は不問で何人採用したいとの問いには答えられない。5人採用試験を受付、5人とも良かったら5人採用します。
心理専門職である公認心理師や臨床心理士など、心理社会学科として学んだ内容を活かせる職種の他、一般企業に採用となる場合、どのような職に就きたいと学生が思っているのかを把握できているのでしょうか？学生が望む職種は学びの途中経過で都度変わるのであると思いますが、大学側として主に進める道の選択肢が案内パンフレットの表記だと心理学は関係なくてもいいと思える印象を受けました。
これからの社会には必要な学科だと思います。
実用的な学びになるよう、アウトプットも重視して頂けると良いと思います。
接客が主な仕事となり、相手を思いやる心を大切にしています。傾聴力、コミュニケーション能力、人と関わることを重要として学生を育てて行って欲しいです。
留学を通じて専門的な知識や語学力だけでなく多様な文化や考え方を学んでもらいたい。
“あなたに身につく8つの力”は、どの業界であっても必要な力であると思います。
あらゆる分野で活用できる学問だとも思います。しかし「心理学」を前面に出してくると、人は警戒するものです。柔軟な対応、適応力を身につけた学生を育成してください。
該当学部ということに限っては特になにもありません。
新学科設置おめでとうございます。毎年、学校訪問をさせていただいております。今後ともよろしく願いいたします
問7につきましては、現時点では明確にお答えできないため「わからない」としております。ただし、採用にあたって、学部学科は不問としており、貴学そして新設される心理社会学科での学習や経験を通して成長した学生にも是非興味を持ってもらえればと考えています。
小売の場では、今後、行動心理に基づいた接客サービスの提供が大切になると考えております。その知識を持った学生の採用が、お客様満足の向上につながると思うので、学生の育成に全力で取り組んで頂ければと思います。
新設学科のご発展を祈念いたします。
人材不足のこの頃、どのような学校、学科を出ようと、社会に出てからの個人の対応力が必要と思います。幅広く活躍できる学生さんの育成を希望します。
専門的な知識に加え、ディスカッション・プレゼンテーション能力が身につくのは良いと思いました。
相手の立場になって考えられる人材を育てて下さい。地元に戻るようにながして欲しい。
採用は数年に1度、募集人数は1名である。心理学領域に限った募集は行われない見込み。
学部、学科は不問ですので、明るく、前向きな学生さんをぜひご紹介ください。
目まぐるしく変化する世の中に柔軟に対応していく会社を目指しています。貴大学学部で学んだ優秀な人材を我々の会社で生かして頂ける人材を求めています。
元は国際コミュニケーション学部なので英語力も TOEIC800 点以上採れるほど鍛えてほしい。
自分や他の人を一歩引いて客観的に見ることのできる若い人は大いに増えて欲しいと思います。
経済活動、企業活動の極限は人への関心と考えています。相手を見抜く力、相手を想う力があってこそ、あらゆる意思疎通は可能となるはずで、「人」について考える、「人の心理」について考えることはビジネスの現場においてきっと役立つものと思います。
資格ありきではなく、その人がどんな人生を歩みたいかが大切。資格はその夢に向かうための有効な手段であって目的ではない。資格を学生に売りにするのであれば、その点もあわせてつたえる必要があると思います。資格はころばぬ先のつえにはならないのですから。国家資格登録者の経営者より。
企業はチームですから、人と人のコミュニケーションなくしてまともには生まれないと考えます。これから AI 化が進む中で人の心理とがバランス良く共存する事が最も大切だと思います。
精神科、小児科、心療内科等においてご活躍の場があると思われれます。専門クリニック、基幹病院での就労の場があると思います。
私自身が心理系の学科出身（学部自体は教育学部です）なのですが、この学問は、専門性をつきつめてこそ仕事に生きる学問だと思います。普通に一般企業、民間企業に就職してもほぼ有用性はないので。（私は就職氷

自由回答意見
河期のころなので、かなり苦労しました。) 逆に、大学院まで進んで教員免許とって教員になった方、スクールカウンセラーになった方、公務員になった方もいます。
今後、企業カウンセラーやハラスメント相談室の常任の必要性があるので、民間企業において心理学を学んだ方の需要はある程度高まると思います。専門に特化するより、現状の企業の社員の悩み等にこたえるような実務も学ぶ学科となればうれしいです。
社会人にも開かれた講座等の設置を期待します。
当社は営業職を主として、ルート営業して頂いています。ルート営業ですのでいろんなお客様がいますが、長く取引しているお客ばかりなので、最初はどうしてもお客様の性格を理解してからとなります。世の中に慣れている方(コミュニケーション能力のある方)は早く仕事に慣れていく傾向があります。それは心理学に通じるのではないかと考えます。
何の知識を得て、何の役に立つかわかりづらい。どのような場面で、どのようなビジネスで役に立つかわかりづらい。
社内外の人々と円滑なコミュニケーションができる人材に期待します。
論理的思考が非常に大事な事だと最近考えさせられる。
学生数が少なくなる中、求人含め、必要学生数が集められるのか?
期待しています。
接客業であり、人とのコミュニケーションを大切にしております。将来的にぜひ採用させて頂ければと思います。宜しくお願い致します。
問題解決出来る能力があれば、採用したいと考えます。
これからも宜しくお願い致します。
今後、専門性を持った、備えた、人材というのが必要となるのではないかと考えます(これからの社会)。
心を病む、パワハラ、ひきこもりなど、私たちの年代では(60代)すんなり理解できないことが社会現象となっています。身近な職場でも起きていて目をそむけられないことばかりです。貴大学での取組みは大いに期待のできる事だと思います。前述したようなことが原因で退職せざるを得ないというような不幸な若者、働き盛りの中堅社員が一人でも少なくなる社会にする為に活躍いただきたいです。
どこの会社に入っても人間関係が一番の問題であり離職の理由です。様々な人の中で対応できる人間力のある方の採用を心掛けております。是非そのような人材が育つことを期待します。
さまざまな業界で活躍できる人材を期待しています。
日頃より大変お世話になっておりまし。今後とも何卒よろしくお願い致します。
現代社会の課題を理解し、ディスカッション及びコミュニケーション能力を高めようとする意識を持った人材は、今後貴重と考えております。
弊社では「心理指導」という特殊支援を児童に行っています(放課後等デイサービス)。それに必要なスキルが傾聴とアセスメント力です。実践的な学びを経験された学生様を弊社として採用したく存じます。今後ともよろしく申し上げます。
当社は採用にあたり学部・学科は不問としていますので本人の能力次第となっています。なお、卸売業を生業といたしておりますので、学生のコミュニケーション能力などが大切だと考えております。
私たちサンケイグループは石川県、富山県にて医療、介護、障害福祉を中心に事業運営をしています。また、今後の生産人口減少に伴い、スタッフ不足を補う為に海外の人材育成、人材登用を積極的に行っています。御校の卒業生も来年4月に2名入社されます。私たちの会社で介護職や生活相談員、総務人事、人材開発、海外事業等にご興味のある学生さんがいましたらぜひご紹介いただきたくお願い致します。
多様性が進む現代で社会の問題を「心」の面から考えることはすばらしいことだと思います。良い人材が社会で活躍されることを期待しています。
今後院内で同職種の採用が必要となった場合、地元出身者の採用を考慮したいと思います。
様々なフィールドで可能性のある分野だと思われます(特にこれからの社会では)。視野を広げて頂ければ、今後採用を考えたいと考えます。
心理学の知識をもとに、相手の事を思いやれる、相手の心情によりそえる人材が育つとよいと考えます。創造力豊かな方が育っていかれます様願います。
チームワーク作りに力となる人材が生まれること。人と人、人と社会をつなげる「心」の学びは今後企業にとって大切と考えます。
人と人をつなぐために意義のある学科だと思います。ご期待申し上げます。
情報通信業(IT系)はメンタルも重視したい点です。当社の文理不問にて教育していきますので、8つの力を発揮してくださる学生を求めます。現代社会の中でシステム無しでは何もできない状況であり、又身近な物となっていますので、社会で役立つ所を目指すところは一緒と考えています。

<アンケート調査票>



# 北陸大学「国際コミュニケーション学部心理社会学科（仮称）」 設置に関するアンケート調査

北陸大学では、2021（令和3）年4月の開設に向けて、「国際コミュニケーション学部心理社会学科（仮称）」の設置準備を進めております。本学部では、多様化・グローバル化する現代社会において、人間の心理や行動が社会にどのような影響を与えているのかを理解する能力を修得する教育を行うことを計画しております。つきましては、貴事業所の採用意向等をお伺いしご協力をお願い申し上げます。なお、本調査は客観性を担保するため、大学等の各種調査に関して多くの実績を持つ一般財団法人日本開発構想研究所に集計・分析等を委託します。調査は無記名で行われ、結果は統計的に処理され調査目的以外に使用することはありません。

**問1** 貴事業所の所在地についてお答えください。

1. 石川県                      2. 富山県                      3. 福井県                      4. その他（                      ）

**問2** 貴事業所の種別についてお答えください。次の中から該当するものすべてに○をつけてください。

1. 地方自治体                      2. 司法・矯正・警察                      3. NPO法人                      4. 学校法人  
5. 病院・診療所                      6. 児童福祉                      7. 高齢者福祉                      8. 障害者福祉  
9. サービス業                      10. 卸売・小売業                      11. 製造業                      12. 情報通信業  
13. 飲食・宿泊業                      14. 金融・保険業                      15. 建設・不動産業                      16. 運輸・郵便業  
17. その他（                      ）

**問3** 大学新卒者を採用する際に、求める能力・経験等をお選びください。

次の中から該当するものすべてに○をつけてください。

1. コミュニケーション能力                      2. 基礎的な学力                      3. 専門的な知識                      4. 語学力  
5. 考え抜く力                      6. 目的達成志向                      7. インターンシップ経験                      8. 適応力  
9. ボランティア経験                      10. 資格・免許取得                      11. 忍耐力                      12. 理解力  
13. その他（                      ）

**問4** 心理系学部出身の大学新卒者を採用する際に、求める能力・経験等をお選びください。

次の中から該当するものすべてに○をつけてください。

1. コミュニケーション能力                      2. 基礎的な学力                      3. 専門的な知識                      4. 語学力  
5. 考え抜く力                      6. 目的達成志向                      7. インターンシップ経験                      8. 適応力  
9. ボランティア経験                      10. 資格・免許取得                      11. 忍耐力                      12. 理解力  
13. その他（                      ）

**問5** 貴事業所における心理専門職または大学の心理系学部出身者の勤務状況についてお答えください。

次の中から該当するものすべてに○をつけてください。

1. 専任の心理専門職者が勤務している  
2. 非常勤または派遣の心理専門職者が勤務している  
3. 大学の心理系学部・学科出身者がおり、専門知識をいかした業務に従事している  
4. 大学の心理系学部・学科出身者がおり、心理関連以外の業務に従事している  
5. 上記1～4に該当する人材はいない  
6. わからない



問6 貴事業所における心理専門職または大学の心理系学部・学科出身者の今後の採用見通しについてお答えください。次の中から該当するもの1つに○をつけてください。

1. 不足しており、採用を増やしたい
2. 現行並みの採用数を維持したい
3. 過剰であり、採用数を減らしたい
4. 採用にあたっては、学部・学科は不問としている

問7以降は、同封の「国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)」パンフレットをご覧のうえ、お答えください。

※パンフレットに記載されている内容はあくまで予定であり、内容が変更になる場合があります。

問7 貴事業所では北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)を卒業した人材を採用したいと思われませんか。次の中から該当するもの1つに○をつけてください。

1. 採用したい
2. 採用を検討したい
3. 採用は考えない
4. わからない

問8 上記問7で1または2を選択された場合のみ、お答えください。

貴事業所では北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)を卒業した人材を毎年何人程度採用したいと思われませんか。次の中から該当するもの1つに○をつけてください。

1. 1人
2. 2人
3. 3人
4. 4人以上

問9 北陸大学国際コミュニケーション学部心理社会学科(仮称)について、ご意見・ご要望等がございましたら、ご自由にご記入ください。

質問は以上です、ご協力ありがとうございました。

## 教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
8	学長	オハラ ツム 小倉 勤 ＜平成24年1月＞		医学博士		北陸大学 学長 (平24.1)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等													
(国際コミュニケーション学部 心理社会学科)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の 職務に 従事する 週当たり 平均日数	
1	専	教授	ハヤシ ヨウイチ 林 洋一 <令和3年4月>		文学修 士 ※		心理学基礎演習 I 心理学基礎演習 II 心理学ゼミナール I 心理学ゼミナール II 心理学ゼミナール III 心理学ゼミナール IV 卒業研究 I 卒業研究 II コミュニケーション心理学 心理学概論 II 発達心理学 児童心理学 生涯発達心理学 青年心理学 家族社会学 教育・学校心理学 心理学特殊講義 I 心理演習 心理実習	1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 1前 1後 1後 2前 2後 2後 3前 3後 3後 4通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	北陸大学 国際コミュニケーション学部 教授 (令2.4)	5日	
2	専	教授	カノ トシロ 河野 俊寛 <令和4年4月>		博士 (学術)		心理学基礎演習 I 心理学基礎演習 II 心理学ゼミナール I 心理学ゼミナール II 心理学ゼミナール III 心理学ゼミナール IV 卒業研究 I 卒業研究 II 心理学概論 II 公認心理師の職責 障害者・障害児心理学 学習・言語心理学 関係行政論 福祉心理学 心理学特殊講義 II 心理実習	1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 1後 2前 2後 2後 3前 3後 4前 4通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢星稜大学 人間科学部 教授 (平26.4)	5日	
3	専	教授	コジマ ヤオイ 小島 弥生 <令和3年4月>		修士 (心理 学) ※		心理学基礎演習 I 心理学基礎演習 II 心理学ゼミナール I 心理学ゼミナール II 心理学ゼミナール III 心理学ゼミナール IV 卒業研究 I 卒業研究 II 社会心理学概論 心理学統計法 社会・集団・家族心理学 心理調査概論 心理学実験 I 心理学実験 II 環境社会学 グループダイナミックス 産業・組織心理学 広告と消費の心理学 キャリアの心理学 社会心理学調査演習 I 社会心理学調査演習 II	1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 1後 1後 2前 2前 2後 2後 2後 2後 3前 3後 3前 3前 3後	2 2	1 1	埼玉学園大学 人間学部 准教授 (平20.4)	5日	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
4	専	准教授	ゴトウ カズミ 後藤 和史 (令和3年4月)		修士 (心理学) ※		心理学基礎演習Ⅰ 心理学基礎演習Ⅱ 心理学ゼミナールⅠ 心理学ゼミナールⅡ 心理学ゼミナールⅢ 心理学ゼミナールⅣ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 心理学概論Ⅰ 臨床心理学概論 心理学的支援法 感情・人格心理学 心理的アセスメント 健康・医療心理学 司法・犯罪心理学 心理演習 心理実習 コミュニケーション技法Ⅱ	1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 1前 1後 2前 2後 2前 2後 3前 3後 3後 4通 3後	2 2	1 1	北陸大学 国際コミュニケーション学部 准教授 (令2.4)	5日
5	専	准教授	タニ ユウキ 谷 雄祐 (令和4年4月)		博士 (心理学)		心理学基礎演習Ⅰ 心理学基礎演習Ⅱ 心理学ゼミナールⅠ 心理学ゼミナールⅡ 心理学ゼミナールⅢ 心理学ゼミナールⅣ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 情報処理入門 情報処理応用 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 知覚・認知心理学 心理学英文講読	1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 1前 1後 2前 2後 2前 2後 3後	2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	金沢大学 先端科学・ 社会共創推進機構 博士研究員 (令2.4)	5日
6	専	講師	カミネ ミホ 仲嶺 実甫子 (令和3年4月)		博士 (心理学)		心理学基礎演習Ⅰ 心理学基礎演習Ⅱ 心理学ゼミナールⅠ 心理学ゼミナールⅡ 心理学ゼミナールⅢ 心理学ゼミナールⅣ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 心理学研究法 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 心理社会データ解析 心理演習 心理実習 PBL入門 コミュニケーション技法Ⅰ	1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 1後 2前 2後 3前 3後 4通 1後 2前	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	立正大学 心理学部 特任講師 (令元.4)	5日
7	専	助教	ニシウラ マキコ 西浦 真喜子 (令和3年4月)		修士 (人間 科学) ※		心理学基礎演習Ⅰ 心理学基礎演習Ⅱ 心理学ゼミナールⅠ 心理学ゼミナールⅡ 心理学ゼミナールⅢ 心理学ゼミナールⅣ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 情報処理入門 情報処理応用 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 社会調査論 社会調査法Ⅰ(データ解析Ⅰ) 社会調査法Ⅱ(データ解析Ⅱ) 質的研究法 社会心理学調査演習Ⅰ 社会心理学調査演習Ⅱ PBL入門 社会学	1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 1前 1後 2前 2後 1前 2前 2後 2後 3前 3後 1後 1前	2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1	神戸学院大学 心理学部 実習助手 (平29.4)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学の職務に 従事する 週当たり 平均日数
8	兼担	教授	オガラ ツトム 小倉 勤 (令和3年4月)		医学博 士		北陸大学の学び※	1前	0.1	1	北陸大学 学長 (平24.1)	
9	兼担	教授	ヒモリ リョウイチ 桧森 隆一 (令和3年4月)		修士 (政治 学)		現代社会と職業 現代日本論 職業理解とインターンシップ 体験学習Ⅰ 体験学習Ⅱ 海外インターンシップ 海外研修A 海外研修B 短期海外研修 海外留学A 海外留学B 海外留学C 海外留学D	2後 2前 3前 1後 2前 2前 2前・後 2前・後 1・2・3前・後 1・2・3前・後 1・2・3前・後 1・2・3前・後	2 2 2 1 1 1 1 1 1 6 6 6 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	北陸大学 国際コミュニケーション学部 教授 (平29.4)	
10	兼担	教授	タカ ヤストモ 田中 康友 (令和3年4月)		博士 (国際 政治 学)		国際関係学入門 国際関係史 現代アメリカ論 国際協力論 コミュニケーション技法Ⅱ	1前 2前 3前 3前 3後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	北陸大学 国際コミュニケーション学部 教授 (平29.4)	
11	兼担	教授	ムラタ カズヒロ 村田 和弘 (令和3年4月)		文学 修士 ※		海外語学研修B ことばと文化	1・2・3 前・後 1後	2 2	1 1	北陸大学 国際コミュニケーション学部 教授 (平29.4)	
12	兼担	教授	フケ ミツル 福江 充 (令和3年4月)		博士 (文学)		日本史 宗教学 北陸の文化と社会 文化資源学入門 文化資源学(歴史・民俗) 文化資源学(史跡・名勝地)	1前 1後 1前 1後 2前 3前	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	北陸大学 国際コミュニケーション学部 教授 (平31.4)	
13	兼担	教授	ミツモト ヤスヒデ 光本 泰秀 (令和3年4月)		薬学博 士		北陸大学の学び※	1前	1	1	北陸大学 薬学部 教授 (平17.4)	
14	兼担	教授	ゴミ カズナリ 五味 一成 (令和4年4月)		経営管 理修士 (専門 職)		経営組織論	2前	2	1	北陸大学 経済経営学部 教授 (令元.4)	
15	兼担	教授	ミナタ ナオシ 南谷 直利 (令和3年4月)		教育学 修士		スポーツⅠ スポーツⅡ	1前 1後	1 1	1 1	北陸大学 経済経営学部 教授 (平29.4)	
16	兼担	講師	ニノクラ ヨシヒサ 二ノ倉 欣久 (令和3年4月)		博士 (医 学)		人体の構造と機能及び疾病 神経・生理心理学 精神疾患とその治療	1前 2後 3前	2 2 2	1 1 1	東海学院大学 人間関係学部 准教授 (平26.4)	
17	兼担	准教授	フクヤマ ユウスケ 福山 悠介 (令和3年4月)		修士 (政 策・メ ディア)		PBL入門 現代アジア論Ⅰ 現代アジア論Ⅱ 国際協力論 職業理解とインターンシップ コミュニケーション技法Ⅰ コミュニケーション技法Ⅱ	1後 3前 3後 3前 3前 2前 3後	2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	国際コミュニケーション学部 准教授 (平29.4)	
18	兼担	准教授	トノキ リカ 轟 里香 (令和3年4月)		修士 (文 学) ※		総合英語Ⅰ 総合英語Ⅱ 総合英語Ⅲ 総合英語Ⅳ 言語学入門	2前 2後 3前 3後 2前	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	北陸大学 国際コミュニケーション学部 准教授 (平29.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
19	兼任	准教授	シマ ヨシヒロ 島 義博 (令和4年4月)		修士 (経済学) ※		経済学	2前	2	1	北陸大学 経済経営学部 准教授 (平30.4)	
20	兼任	講師	ツカガ ケイコ 佃 貴弘 (令和4年4月)		博士 (法学)		日本国憲法	2前	2	1	北陸大学 経済経営学部 講師 (平30.4)	
21	兼任	講師	シノト ヨウタ 階戸 陽太 (令和3年4月)		博士 (教育学)		ことばと文化 海外語学研修A	1後 1・2・3 前・後	2 2	1 1	北陸大学 国際コミュニケーション学部 講師 (平29.4)	
22	兼任	講師	ヨシタ アキヨ 吉田 明代 (令和3年4月)		修士 (学術)※		ことばと文化 言語学入門 英語圏の文化と社会 英米文学史	1後 2前 3後 4前	2 2 2 2	1 1 1 1	北陸大学 国際コミュニケーション学部 講師 (平30.4)	
23	兼任	講師	シマダ ヒロユキ 島田 博行 (令和3年4月)		修士(言語学)※		ことばと文化 言語学入門	1後 2前	2 2	1 1	北陸大学 国際コミュニケーション学部 講師 (平30.4)	
24	兼任	講師	アンドリュウ ガーガリ Andrew Gergely (令和3年4月)		Master of Arts(Teachin g English to Speakers of Other Languages) (米国)		English Communication I English Communication II	1前 1後	1 1	1 1	北陸大学 国際コミュニケーション学部 講師 (平29.4)	
25	兼任	講師	アヲ モリー 雨野 モリー (令和3年4月)		Master of Arts(Teachin g English to Speakers of Other Languages) (米国)		English Communication I English Communication II	1前 1後	1 1	1 1	北陸大学 国際コミュニケーション学部 講師 (令和元.9)	
26	兼任	講師	カハタ ケンジ 川端 健司 (令和4年4月)		修士 (教育学)		スポーツ科学	2前	2	1	北陸大学 経済経営学部 講師 (平29.4)	
27	兼任	助教	カカ キョウスケ 日下 恭輔 (令和5年4月)		修士 (経営学)		マーケティング論 マーケットリサーチ論	3前 4前	2 2	1 1	北陸大学 経済経営学部 助教 (平30.4)	
28	兼任	講師	ホリミ ヒロシ 細見 博志 (令和3年4月)		文学修 士		哲学	1前	2	1	北陸大学 非常勤講師 (令和2.4)	
29	兼任	講師	カゲラ ツネ 高寺 恒雄 (令和3年4月)		薬学博 士		自然科学概論	1後	2	1	北陸大学 非常勤講師 (平30.4)	
30	兼任	講師	アハラ マヨ 相原 征代 (令和4年4月)		博士 (社会学)		ジェンダー論 国際社会論 現代ヨーロッパ論	2前 2後 3後	2 2 2	1 1 1	北陸大学 非常勤講師 (令和元.4)	
31	兼任	講師	ヒロタ イズミ 廣田 いずみ (令和3年4月)		芸術学 士		芸術学 文化資源学(美術・工芸) 観光ビジネス論 文化資源学(世界遺産)	1後 2後 3後 3後	2 2 2 2	1 1 1 1	北陸大学 非常勤講師 (平28.4)	
32	兼任	講師	ミナミ アキヨ 南 明世 (令和4年4月)		修士 (学術)		中国語会話 中国の文化と社会	2前 2後	2 2	1 1	北陸大学 非常勤講師 (令和2.4)	
33	兼任	講師	ニカタ ケオ 荷方 邦夫 (令和4年4月)		博士 (心理学)		消費者行動論	2前	2	1	金沢美術工芸大学 准教授 (平19.4)	
34	兼任	講師	ヨコヤマ マミ 横山 真美 (令和3年4月)		修士 (教育学)		異文化間コミュニケーション	1後	2	1	金沢大学 教育開発・支援セン ター特任助教 (平27.4)	
35	兼任	講師	イクラ シズエ 石倉 瑞恵 (令和4年4月)		修士 (教育学)		教育社会学	2前	2	1	石川県立大学 教養教育センター 准教授 (平25.4)	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	人	人	1人	人	1人	
	修 士	人	人	人	1人	人	人	1人	2人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	1人	1人	人	人	1人	人	3人	
	修 士	人	人	1人	2人	人	人	1人	4人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。